



北海道博物館要覧 2015

北海道博物館要覧

2015



ごあいさつ

平成27(2015)年4月に「北海道博物館」が開館しました。この博物館は、北海道開拓記念館(1971年開館)と道立アイヌ民族文化研究センター(1994年開所)という2つの道立施設を統合して新たに開設されました。北海道博物館は、2つの道立施設がそれぞれなりに築き上げてきた伝統や優れた業績を受け継ぎ、名実共に北海道を代表する「総合博物館」をめざしています。

北海道博物館は、博物館をとりまく社会状況の変化、北海道の地域的特性、北海道の中核的博物館としての役割などを総合的に見極め、つぎの4つの社会的使命を果たそうとしています。

第1に、北海道のすべての人、生き物、大地と海が生み出し、残し託してくれた、北海道ならではの自然・歴史・文化に関わる遺産を、わたしたちの大切な宝ものとして未来へとつなぎ、語り伝えることをとおして、道民が北海道を知り、誇りを確認する場であり続けます。

第2に、野幌森林公園という豊かな自然環境のなか、訪れた方々に北海道の自然・歴史・文化を総合的に体感していただくとともに、知的発見、癒しとくつろぎ、世代を超えた語り合いや出会いを、おもてなしの心で提供し、道民に愛される博物館であり続けます。

第3に、北海道の中核的博物館として、道内の博物館などとの連携により、北海道再発見のための知のネットワークを築き上げるとともに、北海道の自然・歴史・文化に関する身近な相談窓口として、道民の「知りたい」という気持ちに応えます。

第4に、北海道の自然・歴史・文化に関する総合的な研究機関として、北海道の国際化・文化力の向上や、持続可能な調和社会の構築をめざして、積極的なビジョンの立案・提言に努め、道民の豊かな暮らしづくりと北海道の未来づくりに貢献します。

このように北海道博物館は、道民と共に歩み、愛される博物館として「道民参画型博物館」をめざすとともに、北海道の「中核的博物館」として地域の博物館などとの連携を図り、地域活性化に貢献します。また北海道博物館は、約30名の学芸員・研究職員を擁する「研究博物館」でもあり、多様な専門的・総合的研究の成果を活かして北海道の未来に貢献します。さらに北海道博物館は、アイヌの歴史や有形・無形の文化に関する専門的研究組織を有する世界に誇るべき総合博物館として、アイヌ文化の振興に寄与するとともに、多文化共生社会の実現に貢献します。

総合展示のコンセプトは「北東アジアのなかの北海道」と「自然と人とのかかわり」で、北海道の自然・歴史・文化を物語る5つのテーマを用意しています。プロローグ「北と南の出会い」に始まり、「北海道120万年物語」、「アイヌ文化の世界」、「北海道らしさの秘密」、「わたしたちの時代へ」、「生き物たちの北海道」へと続きます。北海道の自然・歴史・文化について共に考え、語り合える場として、数多くの皆様方にご利用いただいております。幸い、旧北海道開拓記念館の末期には年間入館者数が5万人程度でしたが、北海道博物館の初年度には15万人を超える入館者をお迎えすることができました。また北海道博物館としての第1回目の特別展として「夷酋列像：蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界」展を開催しましたが、5万人を超える数多くの方々にご観覧いただき、大成功をおさめることができました。

北海道博物館は数多くの課題を抱えておりますが、館員一同が力を合わせて一つ一つの課題と取り組んで参りますので、今後とも何卒宜しくご指導、ご鞭撻、ご支援を賜りますように、心よりお願い申し上げます。



北海道博物館 館長

石 森 秀 三

目 次

ごあいさつ	1
目次	2
I 北海道博物館の役割と施設概要	
1 館の沿革	6
統合した2つの施設	
2 北海道博物館の使命	9
3 北海道博物館の愛称「森のちやれんが」とロゴマーク	9
愛称	
ロゴマーク	
4 施設概要	10
館の位置と環境	
建物の基本構想と設計	
施設の概要	
5 総合展示室	14
プロローグ 北と南の出会い	
第1テーマ 北海道120万年物語	
第2テーマ アイヌ文化の世界	
第3テーマ 北海道らしさの秘密	
第4テーマ わたしたちの時代へ	
第5テーマ 生き物たちの北海道	
6 特別展示室	21
7 館内の施設	22
8 周辺の施設	24
II 北海道博物館の活動（平成27年度）	
1 調査研究	25
道費による研究プロジェクト(海外交流を含む)	
科研費ほか外部資金	
研究成果の発信と公開	
2 資料の収集・保存・活用	37
当館の資料	
資料の収集	
資料の収集と保存管理	
資料情報の管理	
資料の活用	
3 展示	42
総合展示室	
特別展示室	
赤れんがサテライト	
4 教育普及・来館者サービス	48
総合展示室	
グループプレクチャー	
はっけん広場	
イベント	

5	学習・活動支援	56
	学校教育との連携	
	博物館実習・インターンシップの受入	
	レファレンス対応	
	図書室	
6	博物館ネットワーク	59
	博物館ネットワーク(北海道博物館協会など外部組織との連携)	
	北のミュージアム活性化実行委員会	
	周辺施設とのネットワーク	
	外部イベントへの参画	
7	地域交流・社会貢献	63
	道民参加型組織	
	道民協働・発信事業の展開	
	他機関等との協力・連携	
	職員への委嘱	
8	広報	67
	報道機関等への対応	
	学術的な情報や知見の提供	
	広報誌の発行(ちやれんがニュース)	
	ホームページ	
	ソーシャルメディア	
	出版活動	
	開館ポスター	
9	アイヌ民族文化研究センターの活動	74
	アイヌ文化巡回展	
	資料の公開	
	ホームページによる情報提供	
	アイヌ文化紹介小冊子の発行	
	学習・伝承活動の支援	
10	北海道開拓の村整備事業	76
11	館長、学芸・研究職員の紹介	77

III 北海道博物館の運営

1	施設及び周辺環境の整備	91
	関係機関との連携	
	施設管理	
	博物館資源の活用	
2	北海道立総合博物館協議会	94
	北海道立総合博物館協議会	
	北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会	
	北海道立総合博物館協議会評価作業部会	
3	評価制度	96
	概要	
	内部評価	
	外部評価	
4	利用者調査	98
5	職員の資質向上	100
6	組織・職員名簿	101
7	利用者数	103

IV 資料	
統合した2つの組織の主な実績	105
北海道博物館基本的運営方針	109
北海道博物館中期目標・計画(第1期)	111
条例・規則など	115
利用案内	125

別添資料 「北海道博物館の開館準備に関わる事業」

I 北海道博物館の役割と施設概要

1 館の沿革

平成4(1992)年の常設展示の改訂から数十年以上が過ぎた開拓記念館では、研究の進展や、昭和46(1971)年の開館から経年による施設の老朽化、博物館をとりまく社会情勢の変化や多様化社会への対応など、博物館機能の充実が大きな課題となっていました。平成19(2007)年4月には、知事公約に掲げられた開拓記念館のリニューアルを含んだ「北海道ミュージアム」の設置構想の検討が道庁内で始まりました。平成20(2008)年5月に道は、「北海道における博物館のあり方と北海道開拓記念館の役割について」北海道文化審議会に諮問しました。

一方、国会では、平成20(2008)年6月に「アイヌ民族を先住民とすることを求める決議」が採択され、その後政府が設置した「アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会」の報告書において、アイヌ文化に係る政策の提言がなされました。これらのことから、アイヌ文化をはじめとする北海道固有の歴史や文化に対する関心が高まり、開拓記念館はさらなる研究の推進や、最新の研究成果に基づく展示や学習の機会、情報発信の充実などの具体的な取組が求められました。

平成22(2010)年9月に道は北海道文化審議会の答申を受けて、「北海道博物館基本計画」(以下、「基本計画」という。)を策定しました。「基本計画」には、「博物館としての基本的な機能の充実」、「北海道における総合的な博物館」、「道内博物館の中核となる施設」の3つ基本方針を柱とする北海道博物館を設置することが明記され、さらに「アイヌ文化を保存・伝承し未来に活かす博物館」として、アイヌ民族文化研究センターとの統合により、アイヌ文化に関する調査研究などの機能の充実を図ることが示されました。

平成23(2011)年には、「北海道博物館」の開設に向けた取組が道の特定重点事業として予算化されて、「北海道博物館リニューアルプラン」策定など開設に向けた各事業が実施されました。

平成27(2015)年4月1日には、開拓記念館とアイヌ民族文化研究センターの2つの道立施設を統合し、新たに北海道の自然・歴史・文化を広く扱う総合博物館として『北海道博物館』が開設されました。開館に先立ち、愛称「森のちやれんが」(道民公募)と、ロゴマーク(民間企業等からの公募)が決められました。

平成20(2008)年	5月	知事が北海道文化審議会に対し「北海道における博物館のあり方と開拓記念館の役割」について諮問
平成21(2009)年	8月	北海道文化審議会が「北海道における博物館のあり方と開拓記念館の役割について」答申
	11月	環境生活部生活局道民活動文化振興課に「北海道ミュージアム(仮称)基本計画検討委員会」設置
平成22(2010)年	5月	「北海道博物館基本計画(仮称)」素案に対するパブリックコメント募集(5月18日～6月17日)
	9月	パブリックコメントの意見の概要及び道の考え方を公表後、「北海道博物館基本計画」策定
平成23(2011)年	4月	「北海道博物館」設置に向けた取組を推進するため、「北海道博物館設置推進事業」を北海道の特定重点事業として予算化
	7月	外部の専門的立場の方々から指導・助言を受けることを目的とした「北海道博物館設置プラン検討委員会」を開拓記念館が設置
平成24(2012)年	3月	北海道博物館設置プラン検討委員会の「北海道博物館リニューアル検討報告書」を北海道環境生活部長へ提出
	6月	リニューアルプランを踏まえた、バリアフリー化や消火設備の改良など、来館者の安全性・利便性を図るため、展示改修基本計画を含んだ施設改修実施設計を実施(～平成25年3月)
平成25(2013)年	7月	常設展示場展示改修実施設計を実施(～平成26年3月)
	12月	施設改修工事修正実施設計を実施(～平成26年3月)
平成26(2014)年	7月	常設展示室等展示改修工事施工(～平成27年3月)
	9月	「北海道博物館」のロゴマークを作成するにあたり「北海道と民間企業等との協働に関する期間限定型事業提案」募集(～10月)
	10月	「北海道立総合博物館条例」公布 「北海道博物館基本的運営方針―北海道博物館の目指す方向―」を決定
	11月	「北海道博物館」の愛称募集(～12月12日)
	12月	札幌市立大学デザイン学部からの提案を受け、同大学との協働により「北海道博物館」のロゴマークを作成(～1月)
平成27(2015)年	1月	「北海道博物館」の愛称「森のちやれんが」決定
	2月	ロゴマーク決定
	3月	「北海道博物館」のホームページ開設

平成 28(2016)年	4月	北海道博物館が発足し(条例・規則施行)、総務部に総括、企画の2グループ、学芸部に博物館基盤、道民サービス、社会貢献の3グループ、研究部に自然研究、歴史研究、生活文化研究、博物館研究の4グループ、アイヌ民族文化研究センター内にアイヌ文化研究グループを置く 開館記念式典挙行(17日)、開館(18日)
	7月	「北海道博物館赤れんがサテライト」リニューアルオープン
	8月	第1回北海道立総合博物館協議会開催(記念ホール)
	9月	開館記念特別展「夷酋列像 蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界」開催(～11月) 累計来館者数が10万人を達成(20日)
	11月	第1回北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会開催(記念ホール) 北海道・アルバータ州姉妹提携35周年記念事業「Across Borders: 石川直樹写真展」開催
	2月	「北東アジアの中の北海道」研究プロジェクト」ロシア・サハリン州と調印
	3月	「北方文化共同研究事業」カナダ・アルバータ州と調印 第2回北海道立総合博物館協議会開催(本庁別館)

統合した2つの施設

(1)北海道開拓記念館

北海道開拓記念館は、北海道百年記念事業の1つとして、「北海道の生い立ち、開拓の足跡を示す資料を収集、保存し、展示して北海道の歴史と未来への課題や可能性の認識に役立てるとともに、今後、道内におけるこの種の施設のセンターとしての役割を果たし、北海道の開発に寄与せしめる」（「北海道開拓記念館構想」（昭和42年））ことを目的に、昭和46（1971）年に総合的な歴史博物館として設置されました。

昭和37(1962)年		百年記念事業について知事と民間有識者との懇談会において、総合博物館の設置が話題になる
昭和39(1964)年	9月	百年記念事業のうち「開拓遺物や文化財などを永久に保存するため、郷土館（博物館、記念館）の設置に賛成する道政モニター96%に達する
昭和41(1966)年	2月	記念建造物等設置検討会を開催し、記念地域・記念塔・記念館について有識者の意見を聴取する
	3月	「北海道百年記念事業実施方針」と事業実施の「準備計画」が決定され、北海道開拓記念館の建設が明文化される
	4月	北海道企画部に北海道百年記念事業準備室を設置する
昭和42(1967)年	5月	北海道百年記念事業事務局設置、業務課に記念館係を置く
	9月	「北海道開拓記念館開設協議会」を設置する（以下、開設協議会と略す）
	11月	第1回開設協議会を開催し、「開拓記念館構想試案」の検討を行い「構想」の決定をみる
昭和43(1968)年	11月	百年事務局を廃止し、道総務部に北海道百年記念施設建設事務所を設置する 第2回開設協議会を開催する
昭和44(1969)年	11月	学芸職員を中心に「北海道開拓記念館業務計画案」を作成する
	12月	開設協議会を開催し、建設の設計変更、企画運営専門部会設置、業務計画案、展示計画試案等について協議を行う
昭和45(1970)年	4月	北海道開拓記念館開設準備事務所が設置され、百年事務所から独立する。展示係、資料収集係、資料管理係が置かれ、学芸研究職員が増員される
	7月	開設協議会を開催し、昭和45年度事務所機構、館の英名、展示計画について協議を行う
	9月	開拓記念館第1期建築工事竣工及び展示工事開始する
	11月	開拓記念館第2期建築工事が竣工
昭和46(1971)年	3月	「北海道開拓記念館条例」公布 開設協議会最終会議を開催する（現地視察）
	4月	北海道開拓記念館が開設（4月1日） 北海道開拓記念館開館式を挙行（4月14日）

(2)北海道立アイヌ民族文化研究センター

1990年代のはじめ、アイヌ語やアイヌの習俗・技術等の生活文化を知る古老が高齢化し、伝承が難しくなる一方で、国内にアイヌ文化を専門的に研究する機関がない状況でした。また研究に必要な資料（音声テープ、文献等）が散在し、資料の散逸やテープの劣化等も懸念されていました。こうした状況の中、平成3（1991）年4月、知事公約の「アイヌ民族文化研究センター設置構想」により、具体的な検討に着手しました。

その後、庁内の検討及び関係者からの意見聴取等を経て、道は「アイヌ文化はアイヌ民族が北海道で育んできた貴重な文化であり、今日の北海道の文化に多くの影響を与えてきた重要な資産であることから、アイヌ文化の研究を振興し、アイヌ文化の継承、発展を図る」ことを目的に、平成6（1994）年6月にアイヌ文化の総合的・体系的な研究を推進する専門的研究機関として、アイヌ民族文化研究センターを設置しました。

平成3(1991)年	3月	現職の横路孝弘知事が公約「新しい北海道の創造—素晴らしき人と大地とともに—」の中で「アイヌ民族文化研究センターの設置」を掲げて、再選
	7月	「アイヌ民族文化研究センター構想検討会議」を設置する（～平成4（1992）年9月）
	10月	「アイヌ文化の保存・研究」についての知事懇談会を開催する（2回）（～平成5（1993）年9月）
	12月	アイヌ文化研究者等からアイヌ語に関する要望書が知事に提出される
平成4(1992)年	4月	道内外のアイヌ文化研究者等から意見聴取を行う（～8月）
平成5(1993)年	1月	「アイヌ民族文化の研究方策懇話会」を開催する（2回）（～2月）
	5月	「アイヌ民族文化研究センター検討会議」を設置する（～10月）
平成6(1994)年	3月	「北海道立アイヌ民族文化研究センター条例」公布（～3月）
	6月	北海道立アイヌ民族文化研究センター開所

2 北海道博物館の使命

平成22(2010)年9月に北海道が策定した「北海道博物館基本計画」を踏まえ、博物館をとりまく社会情勢の変化、北海道の地域的特性、北海道の中核的博物館としての役割などを総合的に見極め、北海道博物館が果たすべき社会的使命を定めました。

- 北海道のすべての人、生き物、大地と海が生み出し、残し託してくれた、北海道ならではの自然・歴史・文化に関わる遺産を、わたしたちの大切な宝ものとして未来へとつなぎ、語り伝えることをとおして、道民が北海道を知り、誇りを確認する場であり続けます。
- 野幌森林公園という豊かな自然環境のなか、訪れた方々に北海道の自然・歴史・文化を総合的に体感していただくとともに、知的発見、癒やしとくつろぎ、世代を超えた語り合いや出会いを、おもてなしの心で提供し、道民に愛される博物館であり続けます。
- 北海道の中核的博物館として、道内の博物館等との連携により、北海道再発見のための知のネットワークを築き上げるとともに、北海道の自然・歴史・文化に関する身近な相談窓口として、道民の「知りたい」という気持ちに応えます。
- 北海道の自然・歴史・文化に関する総合的な研究機関として、北海道の国際化・文化力の向上や、持続可能な調和社会の構築をめざして、積極的なビジョンの立案・提言に努め、道民の豊かな暮らしづくりと北海道の未来づくりに貢献します。

3 北海道博物館の愛称「森のちゃれんが」とロゴマーク

愛称

北海道博物館がより道民の身近な存在として親しみをもっていただけるよう、同館の愛称を道民からの公募により定めることにしました。短期間でしたが、小さなお子さまからお年寄りまで、多くの方がたから応募がありました。

応募作品のなかから、有識者や利用者代表による選考を経て、札幌市の高校生の作品「森のちゃれんが」が、北海道博物館の愛称に選ばれました。

この愛称には、野幌の森の緑に囲まれた美しいれんが造りの博物館を、道庁の赤れんが庁舎とともに世界に発信したいとの思いがこめられています。また、新しく生まれ変わりチャレンジしていく博物館というイメージをも、感じ取ることができます。

ロゴマーク

北海道博物館のロゴマークは、北海道と民間企業などとのタイアップ事業として、札幌市立大学のご協力を得て、作成いたしました。

札幌市立大学デザイン学部武田ゼミの学生たち9名がチームを組み、まずは北海道博物館の視察を行い、新しく生まれ変わる博物館のイメージを膨らませました。そして、ロゴマーク案を20案作成し、そのなかから11案を学生自らが厳選し、有識者や利用者代表による選考委員会に提出しました。

選考の結果、愛称として決まった「森のちゃれんが」にちなみ博物館の建物をモチーフとし、配色はれんが色に統一したこのデザインが、北海道博物館のロゴマークとして選ばれました。



4 施設概要

館の位置と環境

北海道博物館は、札幌市の中心部から東方約 15 km の地点にある道立自然公園野幌森林公園の中にあります。この公園は、昭和 43 (1968) 年 5 月に北海道百年を記念して、自然公園法に基づく自然公園として指定されたものです。札幌市、江別市及び北広島市の 3 市にまたがる公園の区域は、標高 20~90m のなだらかな丘陵地に広がる森林を主とし、2,053ha の面積を有し、大都市の近郊にある自然性の高い平地林としては世界的にも例が少ない貴重なものです。

公園の主体をなす国有林約 1,600ha は、昭和の森・野幌自然休養林として石狩森林管理署が遊歩道を整備し、管理しています。公園内の遊歩道の総延長は 30 km 以上に及び、散策、自然観察や冬の歩くスキーなどに利用されています。国有林の西側に接する道有地の一部は記念施設地区となっており、北海道博物館のほか、野外博物館としての北海道開拓の村や北海道百年記念塔などを集中的に設置しています。また、平成 13 (2001) 年 4 月には大沢口に、公園利用者の中核施設として、自然ふれあい交流館が設置されました。

公園に接する付近一帯には、道立図書館、道立教育研究所、道立埋蔵文化財センターや大学、高等学校などがあり、札幌市と江別市の文教地区ともなっています。

野幌森林公園は、一般には野幌原始林として知られていますが、公園区域内の天然林には、風害の処理のための伐採や補植など、何らかの人手が加えられており、実際に人手の加わっていない「原始林」はありません（国指定特別天然記念物「野幌原始林」は、公園区域から離れた北広島市内の国有林内にある）。それでも公園区域内の天然林には、温帯林から亜寒帯林への移行帯に位置する森林の様子が比較的に残されていて、ミズナラ、カツラ、シナノキなどの温帯性の広葉樹林、トドマツを主体とする亜寒帯性の針葉樹林、これらの樹種が入り交じった針広混交林からなる、多様な林相が見られます。人工林も全体の 40% ほどを占めるようになっていて、明治の末から林業試験場によって試験植栽されたストロブマツやトウヒなど、60 種を超える外来樹種が見られ、大径木も多くあります。

公園内には、キツネ、タヌキ、ユキウサギ、エゾリス、エゾモモンガ、ヒメネズミなどの小・中哺乳動物が生息しています。また、天然記念物のクマゲラを始め、ウグイス、オオルリ、キビタキ、シマエナガ、シジュウカラ、アカゲラなど、およそ 140 種の野鳥が記録されています。



建物の基本構想と設計

本館の建物は、昭和 45 (1970) 年 11 月に北海道開拓記念館として建設された建物です。北海道開拓記念館の建物の設計は、この建物自体が永く後世に残る記念建造物となるようにこの当時の町村金吾北海道知事の要望により、その建設計画を北海道とは縁の深い佐藤武夫博士の主宰されていた佐藤武夫設計事務所に委託し、野幌産出の赤れんが（約 75 万本）を豪壮に用いた芸術性の高い建物が完成しました。

また、開拓記念館の開館当初の博物館としての性格、機能、展示構想などは、当時北海道史編纂を行っていた大飼哲夫（開拓記念館初代館長）、高倉新一郎（同第 2 代館長）が中心となり、展示室の空間計画を飯田勝幸（当時北海道大学工学部建築工学科助教授）、展示ディスプレイ・デザインを北海道出身のデザイナー栗谷川健一の「北海道デザイン研究所（当時）」（その後、北海道造形デザイン専門学校となり平成 27 年 3 月閉校）が担当しました。この建築家・学者・展示の三者連携による博物館づくりの思想は、メキシコの国立人類学博物館をモデルにしたものでした。なお、昭和 48 (1973) 年に本館は日本建築学会賞を受賞しました。

施設の概要

北海道博物館は、地下2階、地上2階一部中2階建で、その延面積は12,947㎡です。これを部門別にみると、管理部門14.6%、展示部門28.8%、教育普及部門8.3%、研究部門3.2%、資料管理部門20.8%、共用部門24.3%となります。構造は、鉄筋コンクリート、一部鉄骨鉄筋コンクリート造であり、外装は、主として江別市の野幌産のレンガ積みにアルミ電解発色材の柱を配しており、内部も、グランドホール、ホール、講堂、記念ホール、休憩ラウンジなどの主要な室の壁はれんが積みとなっています。

主要室の配置は、1階には玄関、グランドホール、記念ホール、館長室、事務室等の管理諸室と総合展示室を配し、2階には総合展示室、特別展示室、中2階は休憩ラウンジを配しています。中地下1階には、200人収容の講堂、はっけん広場等の教育普及の諸室のほか、書庫、図書室、第4・5収蔵庫、研究室を配しています。地下1階には、第1・2・3収蔵庫と資料搬入搬出のための作業諸室を設け、特に第1収蔵庫は恒温恒湿の管理ができ、重要資料の収蔵にあてています。そのほか冷暖房機械室、給排水ポンプ室、受変電室などを配しています。

- 1 敷地面積……………16,258㎡
- 2 建築面積……………4,018㎡
- 3 建築延床面積……………12,947㎡
- 4 主要室の床面積(端数整理)

事務室……………	314㎡
館長室……………	37㎡
副館長室……………	28㎡
応接室……………	24㎡
会議室……………	37㎡
機械室……………	1,446㎡
展示室 総合展示室……………	3,011㎡
特別展示室……………	665㎡
準備室1……………	20㎡
準備室2……………	36㎡
講堂……………	363㎡
記念ホール……………	270㎡
はっけん広場……………	140㎡
はっけん準備室……………	44㎡
第1書庫……………	148㎡
第2書庫……………	75㎡
図書室……………	86㎡
研究室1……………	56㎡
(アイヌ民族文化研究センター)	
研究室2……………	39㎡
研究室3……………	42㎡
研究室4……………	42㎡
研究室5……………	39㎡
研究室6……………	18㎡
研究室7……………	40㎡
研究室8,9……………	124㎡
外来研究室……………	30㎡
電子顕微鏡室……………	16㎡
収蔵庫 第1収蔵庫……………	415㎡
第2収蔵庫……………	475㎡
第3収蔵庫……………	1,096㎡
第4・5収蔵庫……………	406㎡
書庫……………	74㎡
資料受入整理室……………	65㎡
保存処理室……………	44㎡
資料情報室……………	44㎡
休憩ラウンジ……………	391㎡
グランドホール……………	264㎡
廊下・階段等……………	2,490㎡

5 外部仕上げ

屋 根	アスファルト防水層、コンクリート金こて仕上げ
庇	軒先アルミ板折曲加工、電解発色仕上げ
壁	煉瓦フランス積貼、紋様入
独立柱	キャストアルミ、電解発色仕上げ
南面デッキ	袖壁花崗岩(小叩き)ばり、上部床花崗岩(円盤摺)敷き

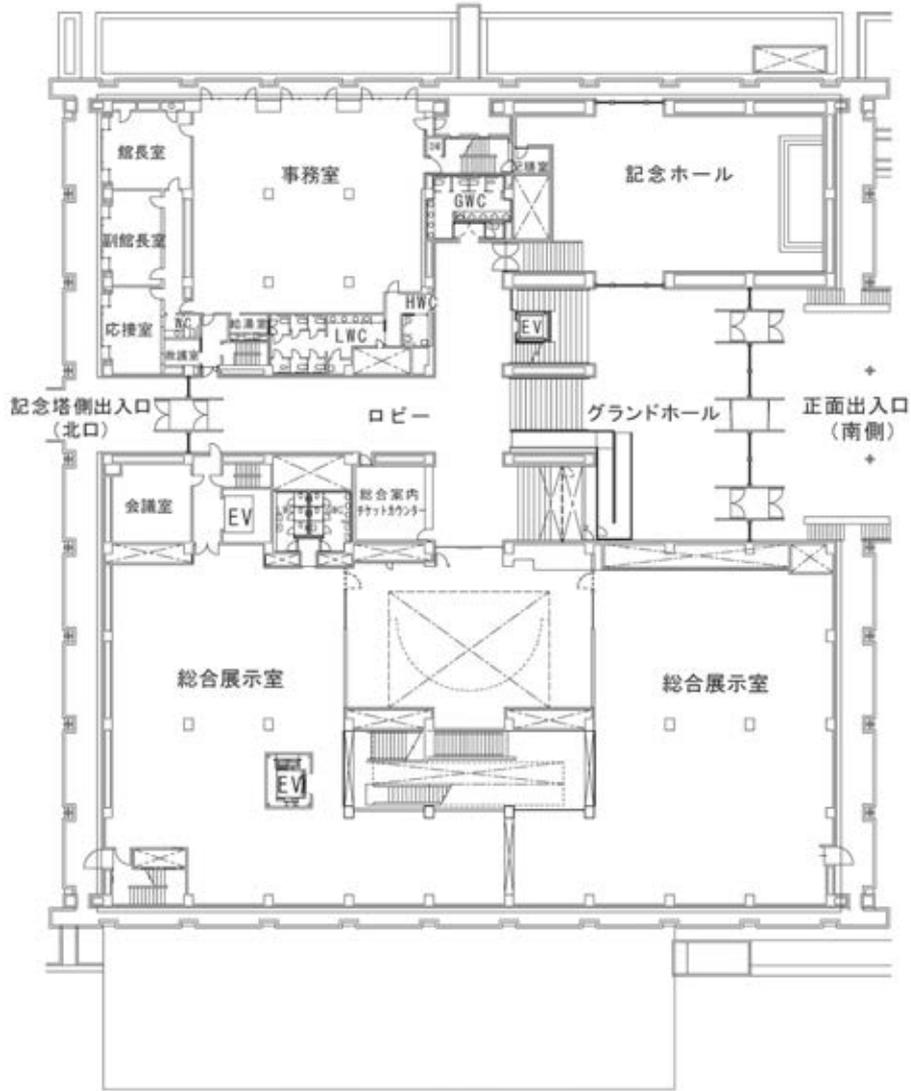
6 内装仕上げ

室名	床	腰壁	天井
グランドホール	花崗岩(円盤すり)敷き、ボーダー水みがき仕上げ、一部大理石モザイク紋様ばり	れんがフランス積み(一部紋様入り)	エポキシ系マット塗料仕上げ、梁型アルルクリヤ仕上げ
記念ホール	カーペット敷	同上	エポキシ系マット塗料仕上げ、梁型アルルクリヤ仕上げ
講堂	モザイクパーケットブロック張	れんが長手積(黄色)、一部透積、裏面グラスウールφ20mm張	岩綿吸音板張
館長室	カーペット敷	合板練付C.L	同上
副館長室	同上	同上	同上
応接室	同上	同上	特別織り布張
研究室	ビニール系アスベストタイル	同上	岩綿吸音板
総合展示室	モザイクパーケットブロック、ワックスみがき	発泡合成樹脂板打込モルタル塗	同上
はっけん広場	モザイクパーケットブロック	モルタル金こて仕上げ目地切、キャンパス張	同上
収蔵庫	リノウム張	モルタル金こて仕上げEP(A)およびフレキシブルボード目透張V.P	コンクリート打ち止め、白セメント吹き付けおよびフレキシブルボード目透V.P
休憩ラウンジ	モザイクパーケットブロック、ワックスみがき	れんがフランス積み(黄色)	合板練付C.L
休憩ラウンジ前ロビー	同上	同上	ひる石ブラスター吹付

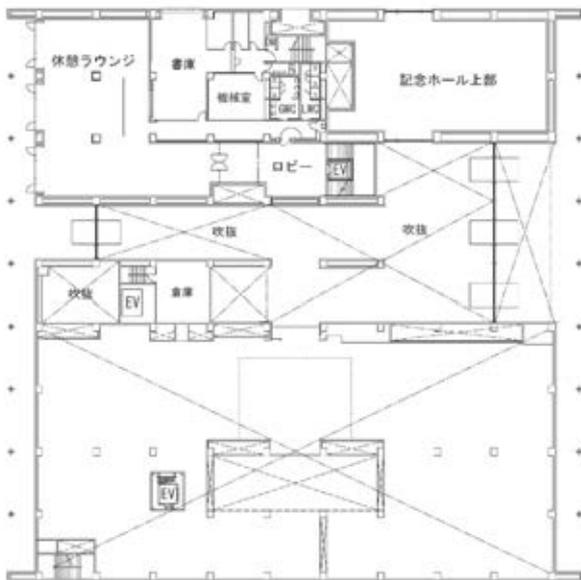
7 付帯設備

空気調節設備	室内条件 収蔵庫・展示室＝室温夏季25度・相対湿度55±5%、冬季22度・55±5% 冷熱源 吸収式冷凍機1基、冷房能力108万8,760kcal/時 空調系統 単一ダクト方式＝総合展示室・特別展示室・講堂・事務室・ホール・記念ホール・収蔵庫・休憩スペース
電気設備	変電・自家発電・舞台照明・動力・昇降機・放送・音響・その他
衛生設備	給水＝全館水道水使用、給湯・排水・プロパンガス
消化設備	ハロンガス消化・炭酸ガス消化・スプリンクラー・屋内消火栓

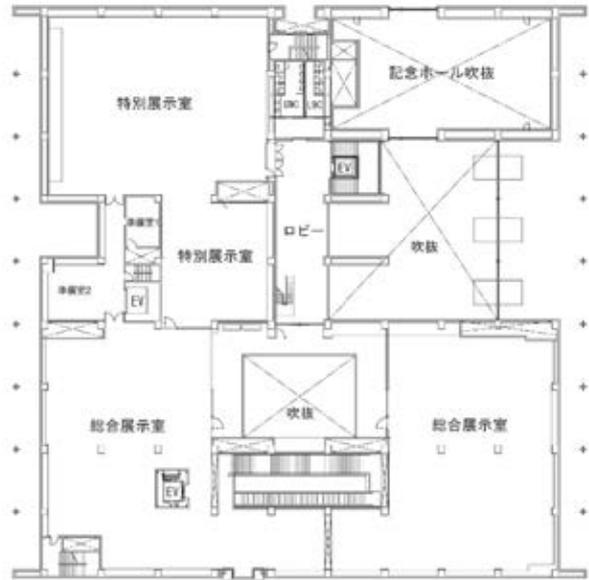
1 階 平 面 図



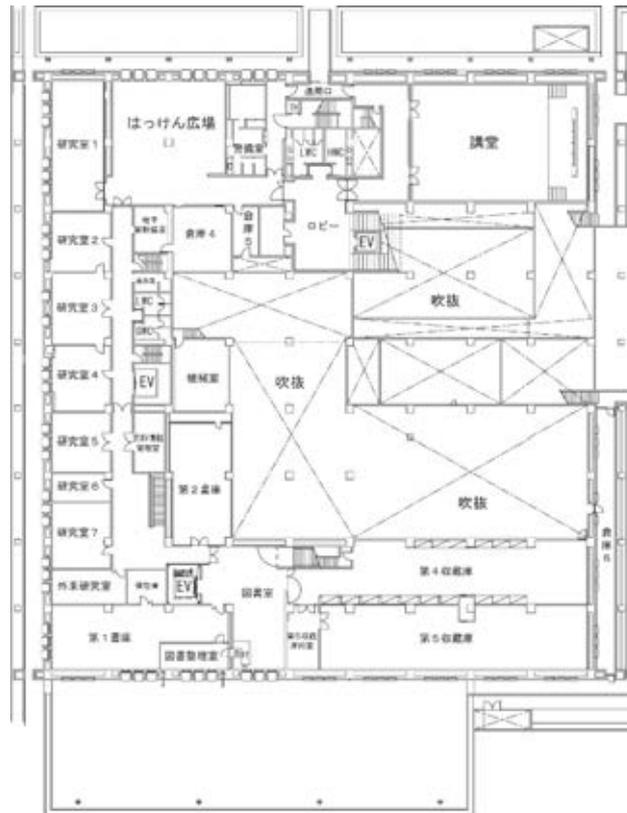
中 2 階 平 面 図



2 階 平 面 図



中地下1階平面図



地下1階平面図

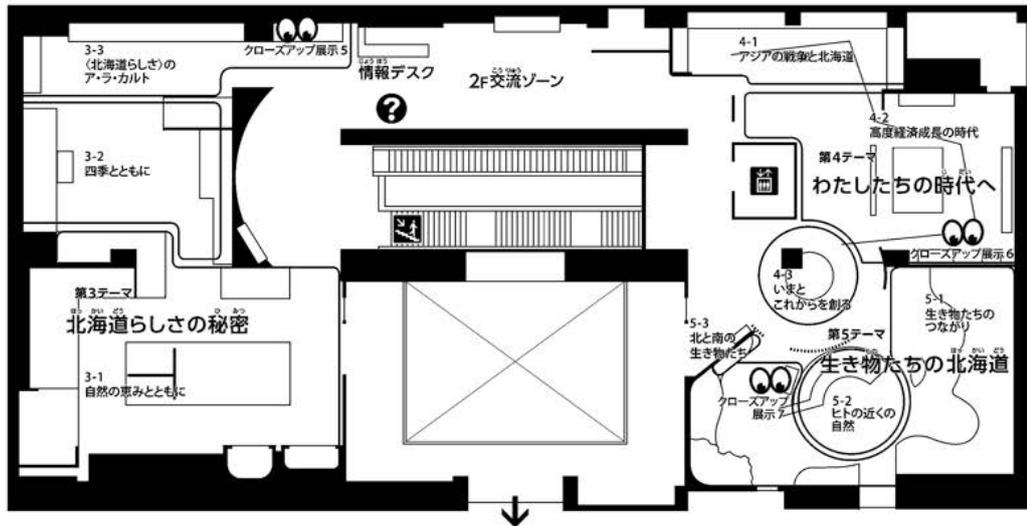


5 総合展示室

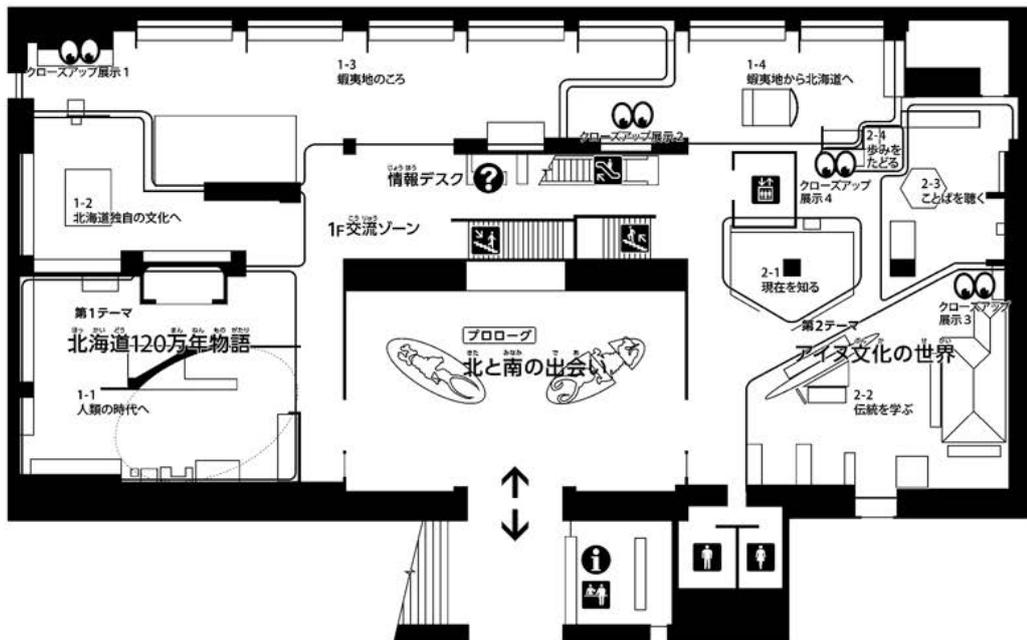
総合展示は、1・2階の3,011㎡の面積で展開され、「北東アジアのなかの北海道」、「自然と人とのかかわり」をコンセプトに、幅広い世代が楽しめる展示を設けるとともに、来館者の関心で自由にテーマを選んで観覧できるように、北海道の自然・歴史・文化を5つのテーマにわけて展示しています。1階は歴史と文化を主題とした第1テーマ「北海道120万年物語」と第2テーマ「アイヌ文化の世界」で構成しています。2階は文化、歴史、自然を主題とした第3テーマ「北海道らしさの秘密」、第4テーマ「わたしたちの時代へ」、第5テーマ「生き物たちの北海道」で構成しています。その他に、五感を刺激する展示や、時期によって展示内容を変える「クローズアップ展示」などもあります。

総合展示室内の各階にある交流ゾーン内には、博物館のスタッフが常駐する情報デスクを設け、来館者の質問等にお答えしています。またこの交流ゾーンで学芸員が総合展示の見どころなどを紹介するミュージアムトーク（祝日限定）を開催しています。

2F



1F



プロローグ 北と南の出会い

北海道は日本の北端というイメージの転換を図り、さまざまな方向から多様な生き物や人・モノ・文化が往来した地であることを語る展示にしています。



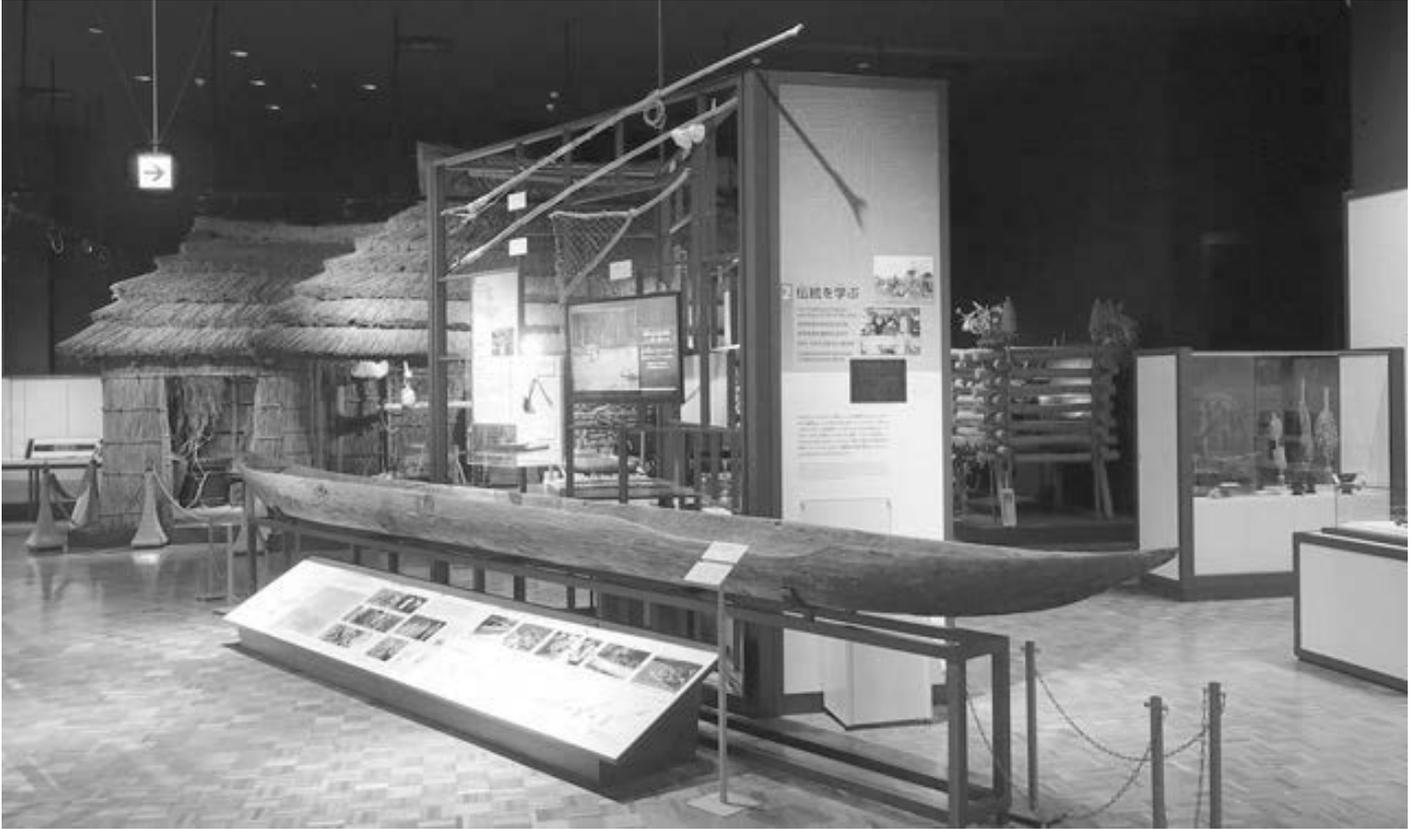
第1テーマ 北海道 120 万年物語

北海道という大地の始まり（約 120 万年前）から、さまざまな文化とその担い手の時代をへて、多くの移民がやってくるまで（明治中頃まで）の歴史を展示しています。



第2テーマ アイヌ文化の世界

北海道の先住民族であるアイヌ民族の、伝統的な生活文化、伝承されてきたくことばの世界、近現代の歴史および現在の姿を展示しています。



第3テーマ 北海道らしさの秘密

多様な人びとが築いてきた近現代の北海道。そこにあらわれる〈北海道らしさ〉のわけを、「産業」と「暮らし」の視点から展示しています。



第4テーマ わたしたちの時代へ

北海道が、戦争と開発・高度経済成長という大きな変化を経験する時代を、さまざまな立場や考え方を視野に入れ、社会の動きと人びとの意識・時代との関わりから展示しています。



第5テーマ 生き物たちの北海道

北海道の多様な生き物たち。ヒトとの関わりもおりまぜながら、それを支える「つながり」を生き物の視点から展示しています。



6 特別展示室

特別展示室は、総合展示室の2階出口を進んだ左側に位置しています。面積665㎡、固定ケースや移動・組立て可能なケース、パネルなどが設備されています。この展示室では、特別展や企画テーマ展などを開催します。

特 別 展	総合展示で扱っている北海道の自然・歴史・文化の内容をさらに深めた展示を企画し、公開することを目的としています。年に1~2回開催し、観覧料は有料です。
企 画 テ ー マ 展	特別展示に比較して小規模な展示で、年に1~2回開催します。この展示は、研究テーマや研究成果を踏まえて、当館が所蔵資料を中心に公開することを目的としています。観覧料は無料です。
蔵 出 し 展	当館が所蔵しているコレクションや資料などを公開することを目的とした展示会です。年に1~2回開催し、観覧料は無料です。



7 館内の施設

はっけん広場

北海道の自然・歴史・文化を楽しく学ぶことができる部屋です。「毛皮にさわろう」「なつかしのオモチャで遊ぼう」などの「はっけんキット」から好きなものを選び、自然の不思議や昔の人の知恵など、それまで知らなかった何かを「発見」することができます。土曜・日曜日や祝日には、「はっけんイベント」を開催しています。



図書室

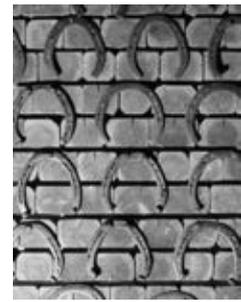
図書室には当館の出版物のほか、一般図書や雑誌、他の博物館の展示図録などがあり、来館者が閲覧できるようになっています。

職員が常駐しており、来館者のさまざまな質問、より専門的な調査や当館資料の利用についての相談に応じるレファレンスサービスも行っています。



記念ホール

記念ホールは当館の象徴として計画され、各種の式典に使用されています。床には赤いカーペットが敷かれ、正面には、北海道の風物を織り込んだタペストリー（壁掛）が掛けられています。入口の左側、正面と向き合った壁の一面には、北海道の産業や生活に重要な役割を果たしてきた馬の功績を称え、その供養をする意味で、大小約1,600個の蹄鉄が壁面に打ちつけられています。



講堂

講堂は、グランドホールから階段を降りた地下1階に位置しています。約200人の収容が可能で、当館主催の講座・講演会など、各種の行事に利用されています。また、学校団体などのグループレクチャーや昼食会場などとしても活用されています。



休憩ラウンジ

休憩ラウンジは中2階に位置し、休憩ラウンジの入口には自動販売機を設置しています。約100名の利用が可能で、来館中の休憩や飲食などに利用いただいています。なお、休憩ラウンジで食事は提供していません。



ミュージアム・カフェ

ミュージアム・カフェは、グランドホール内に設けられ、コーヒーなどの飲み物や、パン・ドーナツなどの軽食を楽しむことができます（約20席）。また、オリジナルグッズやお土産、当館の出版物などを販売し、ミュージアムショップの役割も担っています。



8 周辺の施設

北海道開拓の村

北海道開拓の村は、明治から昭和初期にかけて建築された北海道各地の歴史的建造物を移築復元・再現した野外博物館です。貴重な文化遺産を保存し、後世に伝えるとともに、開拓当時の人びとのくらしを体験的に理解してもらうことを目的として、昭和58（1983）年に開村しました。市街地群、漁村群、農村群、山村群の4つのエリアに52棟の歴史的建造物が建ち、街並や景観が再現され、全体が展示空間になっています。

夏には、「馬車鉄道」が市街のメインストリートを走り、冬には「馬そり」が村内を回ります。季節の移り変わりを知らせる村祭りや年中行事、農作業などの生活体験イベントを行っています。体験学習棟では、伝統遊具づくり、お手玉やおはじき、コマなどの昔の遊びを体験することができます。また、ボランティアによる手フート印刷の操作実演やわら細工の実演、建造物の解説・ガイドツアーなども行っています。



自然ふれあい交流館

平成13（2001）年にオープンした「自然ふれあい交流館」は、道立自然公園野幌森林公園のビジターセンターです。館内では、公園内の自然のつながりをジオラマやイラスト・写真などでわかりやすく紹介しており、野幌森林公園のなりたちや植生、森にすむ生き物のことを知ることができます。

館内では、絵本や図鑑、専門図書など約2,500冊を自由に読むことができ、専門のスタッフに質問することもできます。公園を散策する前に立ち寄れば、樹木の見分け方や花・昆虫の種類などが分かるようになります。

また、月に1回自然観察会を開催しているほか、子どもからお年寄りの方まで楽しく体験できる「もりの工作コーナー」、親子自然教室・講演会など、自然をテーマにした各種イベントを開催しています。このほか、顕微鏡コーナーや鳥の声が聴けるスキャントーク、タッチパネル式のクイズ、積み木などの木製遊具などもあり、館内でも公園内の自然を学習できます。



II 北海道博物館の活動

1 調査研究

当館では、日本列島の北辺にあって、北東アジアとの係わりが深い北海道の自然・歴史・文化の地域性や歴史的特徴を明らかにするため、専門研究の推進及び諸分野との共同研究を図りながら、4つの研究プロジェクトを行っています。その成果は館の各種刊行物、展示、教育普及などの諸活動に生かされ、館活動の基礎となっています。

道費による研究プロジェクト(海外交流を含む)

(1) 道民・地域との協働・連携による地域情報集積プロジェクト

一般道民と協働・連携し、北海道の自然・歴史・文化に関わる基礎的な調査研究を行うプロジェクトです(5課題)。

研究課題	期間	研究グループ	
野幌森林公園の生物インベントリー調査	27～30年度(4年間)	自然研究グループ 博物館研究グループ	◎水島未記、表溪太 堀繁久
北海道における漂着鯨類についての基礎的情報の集積と活用	27～29年度(3年間)	自然研究グループ 博物館研究グループ	◎水島未記、表溪太、圓谷昂史 堀繁久、
地域に埋もれている古文書・写真・映像記録の掘り起こしと活用	27～30年度(4年間)	歴史研究グループ	山田伸一、◎三浦泰之、東俊佑、春木晶子 寺林伸明
戦前・戦中・戦後における道民生活の変遷に関する聞き書き調査	27～31年度(5年間)	学芸部長 生活文化研究グループ	舟山直治 池田貴夫、山際秀紀、◎会田理人、青柳かつら 尾曲香織
北海道ののぞましい博物館のあり方に関する市民意識調査	27～29年度(3年間)	博物館研究グループ	◎堀 繁久、杉山智昭、櫻井万里子、栗原憲一 小林孝二、村上孝一

※「◎」は代表者

(2) 「北海道の自然・歴史・文化」総合研究プロジェクト

道内の地域博物館等と連携し、北海道の自然・歴史・文化に関して、特定の事項を明らかにしたり、未解決の学問的課題を明らかにするなど、より深く探求するための総合的な調査研究を行うプロジェクトです(4課題)。

研究課題	期間	研究グループ	
モノをめぐる価値観の変遷とその多様性に関する近現代史	24～27年度(4年間)	学芸部長 生活文化研究グループ 博物館研究グループ アイヌ文化研究グループ	舟山直治 ◎池田貴夫、山際秀紀、会田理人、青柳かつら 小林孝二、村上孝一 出利葉浩司
石狩低地帯北部地域を中心とした新生代の古環境復元	27～31年度(5年間)	自然研究グループ	添田雄二、◎圓谷昂史、栗原憲一
北方四島の考古学的研究	27～30年度(4年間)	歴史研究グループ	◎右代啓視、鈴木琢也
北海道におけるツルの自然史と文化史	27～30年度(4年間)	自然研究グループ 歴史研究グループ	水島未記、表溪太 ◎山田伸一

※「◎」は代表者

(3) 「北東アジアのなかの北海道」研究プロジェクト

総合的な視野、具体的な課題を持ったグループ横断的に「北東アジアのなかの北海道」という視野で進め、道との友好協定地域との研究交流事業を含んだ国際共同研究を行うプロジェクトです（2 課題）。

研究課題	提携先	期間	研究グループ
北海道とサハリン 共通性と特性(北東アジアの中の北海道)研究プロジェクト)	ロシア・サハリン州	27～31 年度(5 年間)	自然研究グループ 表溪太、圓谷昂史
	サハリン州郷土博物館		歴史研究グループ 山田伸一、三浦泰之、東俊佑
			生活文化研究グループ 山際秀紀、会田理人
			博物館研究グループ 堀繁久、栗原憲一
			アイヌ文化研究グループ ◎小川正人、大谷洋一、遠藤志保、大坂拓
寒冷地の自然と適応(北方文化共同研究事業)	カナダ・アルバータ州	27～31 年度(5 年間)	自然研究グループ 表溪太、圓谷昂史
	ロイヤル・アルバータ博物館		生活文化研究グループ ◎池田貴夫、青柳かつら
			博物館研究グループ 栗原憲一
			アイヌ文化研究グループ 甲地利恵、田村雅史

※「◎」は代表者



サハリン州郷土博物館との共同研究に関する覚書の調印(2月18日)



ロイヤル・アルバータ博物館との共同研究に関する覚書の調印(3月9日)

(4) 「アイヌ民族文化に関する調査研究」プロジェクト

アイヌ文化に関する基礎的・専門的・総合的な調査研究を行うプロジェクトです（6 課題）。

研究課題	期間	研究グループ
アイヌ史関係新聞記事資料に関する調査研究(渡島・檜山地方)と「北海道内地域発行新聞アイヌ史関係記事データベース」の構築	21～27 年度(7 年間)	アイヌ文化研究グループ 小川正人
道内各地に伝承されるアイヌ音楽のレパートリー及び伝承状況に関する調査研究	22～28 年度(7 年間)	アイヌ文化研究グループ 甲地利恵
アイヌ口承文芸「和人の散文説話」資料に関する調査研究	24～28 年度(5 年間)	アイヌ文化研究グループ 大谷洋一
カムイとアイヌの相互交渉に関する調査研究	16～27 年度(12 年間)	アイヌ文化研究グループ 大谷洋一
北海道東部地域のアイヌ語資料に関する基礎的調査	26～29 年度(4 年間)	アイヌ文化研究グループ 田村雅史
アイヌ文化資料の内容分析(寄贈資料等)	26～31 年度(6 年間)	アイヌ文化研究グループ アイヌ文化研究グループ全員

公開研究会

当館の研究プロジェクトにかかる成果報告や共同調査などの場として、さまざまな形で公開研究会を開催しています。

プロジェクト課題	事業名	交流・連携先	日時	場所
野幌森林公園の生物インベントリー調査	クマガラー斉調査&クマガラフォーラム	野幌森林公園を守る会(主催)	3月12日	北海道博物館
地域に埋もれている古文書・写真・映像記録の掘り起こしと活用	北海道博物館平成27年度公開研究会「寿都町の古文書とその魅力」	寿都町教育委員会(共催)	3月22日	寿都町総合文化センターウィズコム

館内定例研究会

日時	発表者	研究グループ	タイトル
10月28日	表溪太	自然研究グループ	DNA分析によるシマフクロウの研究
	東俊佑	歴史研究グループ	幕末期の場所経営帳簿にみる漆器:ウシヨロ場所経営帳簿『北蝦夷地用』を素材として
12月2日	遠藤志保	アイヌ文化研究グループ	アイヌ口承文学のこぼれ
	山際秀紀	生活文化研究グループ	北海道博物館のIPM体制について
12月10日	大坂拓	アイヌ文化研究グループ	噴火湾アイヌの物質文化研究に向けて
	杉山智昭	博物館研究グループ	被災現場における緊急避難措置としての脱酸素処理法の評価ー糸状菌の活動抑制に関する効果および課題ー
1月28日	栗原憲一	博物館研究グループ	これまでの研究とこれから
	圓谷昂史	自然研究グループ	石狩低地帯北部地域を中心とした新生代の古環境復元
3月9日	山田伸一	歴史研究グループ	近現代の新開歌壇に見られるアイヌイメージ
	会田理人	生活文化研究グループ	コンプ利用の実態とその歴史的背景

科研費ほか外部資金

平成27年度の科学研究費補助金による調査研究(14課題)

学芸部長

継続	基盤研究(C)一般	平成25～29年度	西廻り航路を介して北海道に伝播した大祓の祭祀と伝承をめぐる諸問題の民族学的研究	舟山直治
----	-----------	-----------	---	------

自然研究グループ

継続	基盤研究(C)一般	平成26～28年度	シュミット線とサハリン先住民の植物資源:環境の多様性から見た文化の地域的多様性	水島未記
新規	基盤研究(B)一般	平成27～30年度	小氷河期最寒冷期と巨大噴火・津波がアイヌ民族へ与えた影響	添田雄二
継続	若手研究(B)	平成26～28年度	海岸漂着物を用いた環境教育と博物館でのアウトリーチ活動	圓谷昂史

歴史研究グループ

継続	基盤研究(C)一般	平成24～27年度	明治期北海道におけるアイヌ民族の土地所有と利用に関する研究	山田伸一
継続	基盤研究(C)一般	平成25～28年度	北海道内に所在する北海道外関係の近世武家文書に関する基礎的研究	三浦泰之
継続	基盤研究(C)一般	平成25～28年度	古代日本列島北部地域における文化集団の移動に関する基礎的研究	鈴木琢也
継続	基盤研究(C)一般	平成25～27年度	アムール川下流域で生産された装飾品及び外来交易品の周辺諸民族への波及に関する研究	東俊佑
新規	若手研究(B)	平成27～29年度	「アイヌ絵」の成立展開についての基礎的研究	春木晶子

生活文化研究グループ

新規	基盤研究(C)一般	平成27～29年度	高齢者と協働するナレッジ活用型地域資源学習プログラムの開発	青柳かづら
----	-----------	-----------	-------------------------------	-------

博物館研究グループ

継続	基盤研究(C)一般	平成26～28年度	アイヌ民族資料のX線CTによる現況調査及び長期保存方針の策定に関する基礎的研究	杉山智昭
継続	基盤研究(C)一般	平成24～28年度	北海道におけるアイヌ文化成立期以前の建築活動に関する基礎的研究	小林孝二

アイヌ文化研究グループ

新規	スタート支援	平成27～28年度	北海道各地におけるアイヌ音楽の伝承曲目及び伝承状況に関する調査研究	甲地利恵
新規	スタート支援	平成27～28年度	アイヌ英雄叙事詩における伝承の流動性に関する研究	遠藤志保

研究成果の発信と公開

学芸・研究職員の個別研究課題、分野別研究、科学研究費補助金などによる調査研究の成果を広く社会に公開するため、当館では研究紀要や報告書を作成し、北海道の自然・歴史・文化および博物館学に関する論文、研究ノート、資料紹介を掲載することで、研究成果の発信と公開に努めています。また、専門書や学術雑誌への論文等の寄稿や、他機関主催の講座・講演会などへの職員の講師派遣、研究会や学会での発表も行っています。

(1) 館出版物への執筆

平成 27 年度の館出版物への執筆(18 件)

『北海道博物館研究紀要 1』

種別	著者名	タイトル	ページ
論文	鈴木琢也	擦文文化の成立過程と秋田城交易	1~18
論文	杉山智昭	津波による水損文化財の緊急避難措置としての低酸素濃度処理法の評価 —糸状菌の活動抑制に対する効果的運用について—	19~24
調査報告	圓谷昂史、栗原憲一、島誠、加瀬善洋、大津直、林圭一、廣瀬亘、鈴木明彦、添田雄二、能條歩	北広島市西の里から産出した貝化石(速報)	25~38
調査報告	堀繁久、水島未記	野幌森林公園における国内外来種のツチガエルとトノサマガエルの侵入および分布拡大経過について	39~52
調査報告	右代啓視、鈴木琢也、竹原弘展、スコヴァティツィーナ、V. M.	千島列島における人類活動史の考古学的研究(I) —特に北方四島の先史文化研究を中心に—	53~72
調査報告	舟山直治、村上孝一	加古川水系と由良川水系にみる川下、川裾、川濯信仰の伝承	73~86
調査報告	青柳かつら	高齢者と協働するナレッジ活用型地域資源学習プログラムの開発—2015年北海道と2003年全国の博物館園対象高齢者プログラムアンケート調査結果の比較から—	87~102
調査報告	池田貴夫、会田理人、青柳かつら、山際秀紀、舟山直治、村上孝一、出利葉浩司、小林孝二	世代間対話の場としての博物館づくり—総合研究プロジェクト「モノをめぐる価値観の変遷とその多様性に関する近現代史」研究報告—	103~110
調査報告	杉山智昭、今津節生、鳥越俊行、赤田昌倫、小林幸雄、長田佳宏、佐々木利和	アイヌ民族文化財のX線CTによる現況調査(II)	111~118
調査報告	添田雄二、青野友哉、永谷幸人、渡邊剛、渋谷綾子、甲能直樹	小氷期最寒冷期と巨大噴火・津波がアイヌ民族へ与えた影響 I	119~126
博物館活動報告	田村雅史、出利葉浩司	北海道博物館における言語展示への試み(報告)—総合展示第2テーマに設置した「アイヌ語ブロック」を中心に—	127~148
資料紹介	会田理人	『樺太日日新聞』掲載コンブ関係記事—目録と紹介(1923-1929年)—	149~160

『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要 1』

種別	著者名	タイトル	ページ
論文	直川礼緒(依頼執筆)	日本の博物館収蔵の樺太(サハリン)アイヌの金属製口琴	1~22
論文	大坂拓	アイヌの儀礼用冠について—北海道大学植物園・博物館所蔵資料の検討—	23~42
論文	遠藤志保	アイヌ口承文学に見られる表現 omommomo に関する—考察—沙流地方の英雄叙事詩を中心に—	43~56
調査報告	大谷洋一	アイヌ口承文芸「散文説話」—河童に助けられた男の物語—	57~78
資料紹介	大坂拓	北海道乙部町伝世の木綿衣ほまか—平成 27 年度新収蔵資料の紹介—	79~84
資料紹介	アイヌ文献目録編集会(小川正人、黒井茂)	アイヌ文献目録 2000~2009(その2)〈雑誌・逐次刊行物編〉	85~228

(2) 学会誌等、館出版物以外の出版物への執筆

平成 27 年度の学会誌等、館外出版物以外の出版物への執筆(32 件)

【自然研究グループ(9 件)】

執筆者	タイトル	出典	出版社・発行者	ページ
添田雄二	アイヌ民族は大規模自然災害にどのように対応していたのか?	伊達市噴火湾文化研究所 News Letter	伊達市噴火湾文化研究所	12~13
Keita Omote, Chizuko Nishida, Takeshi Takenaka, Keisuke Saito, Ryohji Shimura, Satoshi Fujimoto, Takao Sato, Ryuichi Masuda	Recent fragmentation of the endangered Blakiston's fish owl (<i>Bubo blakistoni</i>) population on Hokkaido Island, northern Japan, revealed by mitochondrial DNA and microsatellite analyses	Zoological Letters	The Zoological Society of Japan	1~16
表溪太	Fragmentation of the endangered Blakiston's fish owl (<i>Bubo blakistoni</i>) population on Hokkaido revealed by genetic analyses on museum samples	第 5 回国際野生動物管理学 術会議(IWMC 2015) 要旨集	The International Wildlife Management Consortium	
表溪太	シマフクロウの集団史—DNA 分析による研究—	北海道自然史研究会 2015 年度大会要旨集	北海道自然史研究会	15
圓谷昂史・鈴木明彦	西南北海道上ノ国町におけるカズラガイ(腹足 綱: トウカムリ科)の発見	Molluscan Diversity, 4(1-2)	軟体動物多様性学会	1~4
圓谷昂史・藤村祐輔・鈴木明彦	北海道焼尻島東浜海岸へ打ち上げられた火山 岩穿孔礫	漂着物学会誌 13	漂着物学会	64~64
鈴木明彦・圓谷昂史	2014 年秋における北海道余市湾沿岸へのアオ イガイの漂着	Chiribotan Vol. 45, No.4	日本貝類学	296~301
鈴木明彦・圓谷昂史	奄美群島喜界島の打ち上げ貝類	漂着物学会誌 13	漂着物学会	9~14
鈴木明彦・圓谷昂史	奄美群島沖永良部島の打ち上げ貝類	漂着物学会誌 13	漂着物学会	27-33

【歴史研究グループ(4 件)】

執筆者	タイトル	出典	出版社・発行者	ページ
右代啓視	「夷酋列像」への多角的視点からのアプローチ	月刊みんぱく 第 40 巻 第 2 号	国立民族学博物館	7
三浦泰之	地域に残る北海道移住の「記憶」: 空知郡南幌町 の事例から	コラムリレー「地域の遺産」 第 14 回	北海道学芸職員部会 HP	
鈴木琢也	擦文へアイヌ文化期の物流	遺跡が語るアイヌ文化の成立	厚真シンポジウム実行委員会	47~62
春木晶子	ヒーローの(諸)条件—「奇異」なる「英雄」である 夷酋列像—	北海道立北方民族博物館友 の会・季刊誌「Arctic Circle」 第 95 号	一般財団法人北方文化振 興協会	14~17

【生活文化研究グループ(2 件)】

執筆者	タイトル	出典	出版社・発行者	ページ
青柳かづら	地域博物館を核とした高齢者と協働する地域学習 活動の効果と課題: 土別市朝日町の事例	第 54 回北海道博物館協会 研究大会資料(発表要旨集)	北海道博物館協会	11
青柳かづら	地域学習の拠点としての博物館の現状と課題: 道内博物館対象高齢者プログラム アンケート 調査結果から	第 127 回日本森林学会大会 学術講演集	日本森林学会	192

【博物館研究グループ(8件)】

執筆者	タイトル	出典	出版社・発行者	ページ
堀繁久	北海道の蝶と蛾	昆虫図鑑	北海道新聞社	422
堀繁久	北海道博物館の新しい自然展示「生き物たちの北海道」	博物館研究	公益財団法人 日本博物館協会	18~21
杉山智昭	虫害を受けたイコタニ(杵)の劣化診断および生物劣化に関する現況調査	文化財保存修復学会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	132~133
杉山智昭	新設展示ケースにおけるアルデヒド類の放散挙動およびそのコントロール	日本文化財科学会研究発表要旨集	日本文化財科学会	362~363
杉山智昭	寒冷地における歴史的木造建築の保存修復にむけた現況調査	2015 東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in 奈良 研究発表要旨集	2015 東アジア文化遺産保存国際シンポジウム 実行委員会	130~131
杉山智昭	寒冷地における歴史的木造建築物の保存にむけてー旧開拓使工業局庁舎を例にー	東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター 紀要	東北芸術工科大学	10~13
栗原憲一	三笠ジオパーク	シリーズ大地の公園 北海道・東北のジオパーク	古今書院	
栗原憲一	「ジオパークと地域資源」創刊の趣旨	ジオパークと地域資源 第1巻	日本ジオパークネットワーク	1~3

【アイヌ文化研究グループ(9件)】

執筆者	タイトル	出典	出版社・発行者	ページ
小川正人	[書評]照屋信治『近代沖縄教育と「沖縄人」意識の行方ー沖縄県教育会機関誌『琉球教育』『沖縄教育』の研究ー』を読んで	日本教育史研究 34	日本教育史研究会	169~177
甲地利恵	演奏される拍節構造ーアイヌ音楽における音頭一同形式の歌を対象にー	北海道民族学会 第12号 (第2回研究会発表要旨)	北海道民族学会	116~118
田村雅史	[コレクション]北海道博物館	博物館研究 第50巻 第9号	公益財団法人 日本博物館協会	29~29
中川裕・遠藤志保(共編)	国立民族学博物館調査報告 134 国立民族学博物館所蔵鍋沢元蔵ノートの研究		国立民族学博物館	41~66, 67~374
遠藤志保	アイヌ口承文学における言語的特徴とジャンルによる差異	「日本列島と周辺諸言語の類型論的・比較歴史的研究」研究発表会(発表概要)	国立国語研究所 HP	
大坂拓	VI, 各地の弥生土器及び並行期土器群の研究/8 北海道(南部・中央部)	弥生土器(考古調査ハンドブック)	ニューサイエンス社	447~473
大坂拓	弥生時代(東北)	考古学ジャーナル 2015年5月臨時増刊号 2014年の考古学界の動向	ニューサイエンス社	44~45
大坂拓	先住民族と博物館展示 北海道博物館の事例	第30回北方民族文化シンポジウム報告書	北方民族博物館	
出利薬浩司	アイヌ物質文化はどのような視点から研究されてきたのだろうかー民族学研究と考古学研究のはざまー	国立民族学博物館調査報告 N0.132	国立民族学博物館	235~258

(3) 学会、研究会での発表

平成 27 年度の学会、研究会で発表 (32 件)

【自然研究グループ(7 件)】

発表者	タイトル	研究会・学会名	期日	会場
表溪太	Fragmentation of the endangered Blakiston's fish owl (Bubo blakistonii) population on Hokkaido revealed by genetic analyses on museum samples	第 5 回国際野生動物管理学会 術会議 (IWMC 2015)	7 月 28 日	札幌市
表溪太	Study on molecular evolution and population genetic features on Blakiston's fish owl	北海道大学大学院理学院自然史科学専攻博士課程論文発表会	1 月 27 日	札幌市
表溪太	シマフクロウの集団史—DNA 分析による研究—	北海道自然史研究会 2015 年度大会	2 月 28 日	札幌市
TAKAFUMI ENYA and AKIHIKO SUZUKI	Long-term changes and northward expansion of modern warm-water mollusks in the northern Japan Sea	International Union for Quaternary Research, XIX Congress	7 月 26 日 ～ 8 月 2 日	名古屋国際会議場
AKIHIKO SUZUKI・TAKAFUMI ENYA	Relationship between mass strandings of the common paper nautilus, Argonauta argo, and heavy snowfalls on the Japan Sea-side of Hokkaido, Japan	International Union for Quaternary Research, XIX Congress	7 月 26 日 ～ 8 月 2 日	名古屋国際会議場
圓谷昂史、添田雄二、廣瀬亘、林圭一、加瀬善洋、大津直、五十嵐八枝子、島誠	トレンチ調査から見た北広島市音江別川流域音江別川層の堆積相と古環境	平成 27 年度日本地質学会 北海道支部例会	6 月 13 日	北海道大学理学部 5 号館大講堂 (5-203)
鈴木明彦、圓谷昂史	北海道余市湾沿岸における 2014 年秋のアオイガイの漂着記録	平成 27 年度日本貝類学会 大会	5 月 23 日 ～24 日	北海道蘭越町 山村開発センター

【歴史研究グループ(9 件)】

発表者	タイトル	研究会・学会名	期日	会場
右代啓視	北方四島の考古学—色丹島の遺跡—	北方島文化研究会	6 月 20 日	北海道博物館
右代啓視	研究会「北の土偶」	国際ノブチミスト札幌	11 月 28 日	ホテルオークラ札幌
右代啓視	北方四島の考古学的文化遺産について	北方島文化研究会	12 月 19 日	北海道開拓記念館
山田伸一	札幌・小樽刊行の新聞に掲載されたアイヌを詠んだ短歌について—大正～昭和初期を中心に—	北フォーラム	11 月 25 日	札幌市
三浦泰之	北海道博物館と特別展「夷酋列像」の見どころ紹介	北海道史研究協議会地域史研究会	10 月 17 日	北海道博物館
三浦泰之	北海道の自然・歴史・文化	環境生活部若手職員勉強会	10 月 28 日	北海道庁本庁舎
鈴木琢也	古代北海道と秋田城との物流・交易	北方島文化研究会第 53 回研究会	12 月 19 日	札幌市
東俊佑	幕末期の場所経営帳簿にみる漆器	漆器とアイヌの社会・文化	10 月 11 日	札幌市
春木晶子	夷酋列像の「異容」と「威容」	芸術学研究室研究会	12 月 7 日	北海道大学芸術学研究室

【生活文化研究グループ(4件)】

発表者	タイトル	研究会・学会名	期日	会場
会田理人	札幌器械場の水車動力機械とその由来	日本機械学会	9月14日	札幌市
会田理人	展示リニューアルでやってはいけない10のこと	北海道博物館協会学芸職員部会	9月25日	士別市
青柳かづら	事例報告「土別市朝日町知恵の蔵おすすめマップ」づくり	旭川兵村記念館友の会運営委員会	3月6日	旭川市
青柳かづら	地域学習の拠点としての博物館の現状と課題:道内博物館対象高齢者プログラムアンケート調査結果から	日本森林学会	3月29日	神奈川県藤沢市

【博物館研究グループ(7件)】

発表者	タイトル	研究会・学会名	期日	会場
堀繁久	野幌森林公園の両生爬虫類と外来種について	北海道爬虫両棲類研究会	1月23日	円山動物園
堀繁久	野幌森林公園の両生類と外来種	北海道自然史研究会	2月28日	北海道博物館
杉山智昭	虫害を受けたイヌタニ(杵)の劣化診断および生物劣化に関する現況調査	文化財保存修復学会	6月27日	京都市
杉山智昭	新設展示ケースにおけるアルデヒド類の放散挙動およびそのコントロール	日本文化財科学会	7月11日	東京都
杉山智昭	寒冷地における歴史的木造建築の保存修復にむけた現況調査	2015 東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in 奈良	8月26日	奈良市
杉山智昭	寒冷地における歴史的木造建築物の保存にむけてー旧開拓使工業局庁舎を例にー	東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター専門家会議	9月1日	札幌市
杉山智昭	アイヌ民族資料の保存修復に向けた現況調査	平成27年度九州国立博物館10周年記念シンポジウム	12月19日	太宰府市

【アイヌ文化研究グループ(4件)】

発表者	タイトル	研究会・学会名	期日	会場
小川正人	学校を建てる、教員を招くー近代北海道におけるアイヌ民族による学校の設置:その再調査ー	教育史学会第59回大会	9月27日	東北大学
甲地利恵	演奏される拍節構造ーアイヌ音楽における音頭ー同形式の歌を対象にー	北海道民族学会 2015年度 第2回研究会	12月12日	酪農学園大学
遠藤志保	アイヌ口承文学における言語的特徴とジャンルによる差異	日本列島と周辺諸言語の類型論的・比較歴史的研究」アイヌ語班 平成27年度 第2回研究発表会	12月6日	国立国語研究所
出利葉浩司	開拓に尽くした薩摩の志士たち 北海道と鹿児島との絆 パネルディスカッション	カウントダウンシンポジウム in 札幌 開拓に尽くした薩摩の志士たち 北海道と鹿児島との絆	11月20日	道新ホール

(4) 招待講演(講座・講演会)等への職員派遣

平成27年度の招待講演(講座・講演会)等への職員派遣(63件)

【学芸部長(3件)】

氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	主催または依頼先	期間
舟山直治	講師	北海道博物館について	文化財講演会	北海道文化財保護協会	6月6日
舟山直治	講師	基調講演「北海道の民俗芸能」	峰延獅子舞シンポジウム	美唄市教育委員会	11月22日
舟山直治	講師	日向神代神楽について	特別企画展「日向神代神楽」関連事業の講演会	士別市立博物館	1月24日

【自然研究グループ(6件)】

氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	主催または依頼先	期間
水島未記	講師	白樺樹皮とその利用	蝦夷和紙プロジェクト	蝦夷和紙プロジェクト実行委員会 2015	8月2日
添田雄二	案内・指導	「地球科学巡検 I」における現地での案内・指導	地球科学巡検 I	茨城大学理学部	8月31日 ～9月1日
圓谷昂史	講師	北海道の火山や有珠山の噴火史、ほか	第6学年の修学旅行に向けた「火山の学習」	札幌市立札幌小学校	7月6日
圓谷昂史	案内・指導	ビーチコーミング	とかちの環境学習ツアー	十勝総合振興局	9月5日
圓谷昂史	案内・指導	「地球科学巡検 I」における現地での案内・指導	地球科学巡検 I	茨城大学理学部	8月31日 ～9月1日
圓谷昂史	講師	話題のビーチコーミングについて学び、海岸で実践	えべつ市民環境講座	江別市	10月10日

【歴史研究グループ(23件)】

氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	主催または依頼先	期間
右代啓視	講師	平常陳列の活性化と調査・研究:歴史系	第9回指定文化財(美術工芸品)企画・展示セミナー	文化庁文化財部美術学芸課	7月8日
右代啓視	講師	NHK 政策映像の解説および児童との質疑応答	NHK 出前授業「絵が語るふるさと北海道の歴史」	NHK 札幌放送局	9月24日
三浦泰之	講師	北海道の歴史	平成27年度新採用職員 I (前期)研修(第2回～第4回)	北海道総務部人事局	5月14日～28日
三浦泰之	指導・助言	専門的見地からの指導・助言	「旧佐藤家魚場」史跡指定に向けた協議・調査に係る会議	寿都町教育委員会	5月15日～25日
三浦泰之	講師	歴史講座 幕末・維新物語～松浦武四郎の生涯～(全3回)	平成27年度秋季生活講座	小樽市勤労女性センター	10月15日～29日
三浦泰之	講師	夷酋列像とその歴史的背景	第384回歴史博講演会	国立歴史民俗博物館	12月12日
三浦泰之	講師	武四郎の歩み～その生涯～	渡道170年記念 松浦武四郎展～十勝毎日新聞社コレクションから～	十勝毎日新聞社	12月13日
三浦泰之	講師	北海道開拓の担い手と札幌農学校	第29回時計台サロン	北海道大学大学院農学研究院	12月15日
三浦泰之	調査協力	歴史的建造物橋本家所蔵の古文書他収蔵物の調査	歴史的建造物橋本家収蔵物調査	寿都町教育委員会	12月26日～28日
三浦泰之	展示監修等	展示監修・指導・資料調査等	サッポロビール博物館リニューアル	サッポロビール株式会社	1月20日 ～4月30日
三浦泰之	調査報告	北海道指定有形文化財「漁場建築佐藤家」収蔵の古文書他収蔵物調査の報告	歴史を活かしたまちづくりシンポジウム	寿都町教育委員会	1月30日～31日

氏名種別	内容・タイトルなど	行事名など	主催または依頼先	期間
三浦泰之 調査協力	様似町所蔵の古文書等の内容調査	「様似山道」における歴史的資料調査	NPO 法人歴史的地域資産研究機構	2月 5日～ 6日
三浦泰之 講師	道内に残る古文書で主に登別市にかかるものについての講義	平成 27 年度 古文書教室	登別市教育委員会	2月 27日
三浦泰之 講師	北海道の名づけ親 松浦武四郎の生涯	平成 27 年度えりも町郷土資料館講演会	えりも町教育委員会	3月 27日～28日
鈴木琢也 ナビゲーター	訪問先での縄文文化に関する解説等	縄文遺跡群ツアー	北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録をめざす道民会議	8月 22日
鈴木琢也 発表	擦文～アイヌ文化期の物流	シンポジウム 遺跡が語るアイヌ文化の成立－11～14 世紀の北海道と本州島－	公益財団法人元興寺文化財研究所	10月 9日～11日
東 俊佑 講師	クナシリ・メナシの戦いと「夷酋列像」	道新ぶんぶんクラブ特別鑑賞会	北海道新聞社事業センター	9月 11日
春木晶子 講師	日本文化の特色	留学生向け講座「日本文化の特色」	北海道教育大学	6月 11日～25日
春木晶子 講師	夷酋列像～幻想のエトランゼ	第 34 回サイエンス・フォーラム in さっぽろ	サイエンス・コンソーシアム 札幌	7月 25日
春木晶子 講師	「夷酋列像」集結～変奏する蝦夷イメージに、ひとびとは何を見たのか、われわれには何が見えるのか～	アート・トーク vol.34	北海道芸術学会	9月 19日
春木晶子 講師	異人、あるいは、偉人～「夷酋列像」はだれを描くか～	道新ぶんぶんクラブ特別鑑賞会	北海道新聞社事業センター	9月 30日
春木晶子 講師	夷酋列像～12 人の奇妙な英雄～	美術講座プレミアム	一般社団法人北海道美術館協力会	10月 29日
春木晶子 講師	日本文化の特色(全 3 回)	留学生向け講座	北海道教育大学札幌校	1月 14日～28日

【生活文化研究グループ(6 件)】

氏名種別	内容・タイトルなど	行事名など	主催または依頼先	期間
池田貴夫 講師	積雪寒冷地の生活と諸問題	第 3 学年対象科目『積雪寒冷地の生活と諸問題』	北海道医療大学リハビリテーション科学部	7月 2日
池田貴夫 講師	北海道博物館の開設とタイアップ事業によるロゴマーク制作	北海道民間協働週間セミナー	北海道総合政策部知事室	10月 13日
池田貴夫 講師	誕生！北海道博物館	北翔大学エクステンションセンター 教養講座「11 月度 人が集えば文殊の知恵袋講座」	北翔大学短期大学部	11月 10日
会田理人 講師	北海道漁業史	アクアバイオ学特別講義	東京農業大学生物産業学部アクアバイオ学科	12月 2日～ 3日
青柳かつら 講師	事例報告 地域博物館を核とした高齢者と協働する地域学習活動の効果と課題～土別市旭町の事例～	第 54 回北海道博物館大会	北海道博物館協会	7月 10日
青柳かつら 司会・講師	旭川電気軌道東川線とは？	旭川電気軌道東川線：沿線風景から公有地の開拓を語る	旭川兵村記念館	9月 6日

【博物館研究グループ(11件)】

氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	主催または依頼先	期間
杉山智昭	講師	北海道博物館の展示と学校利用	教員のための博物館の日	一般財団法人北海道歴史文化財団	8月4日
栗原憲一	発表	さあ、行こう！一億年時間旅行へ～三笠ジオパークで“見る・学ぶ・食べる”	2015 日本地球惑星科学連合大会 (JpGU2015)	三笠ジオパーク推進協議会	5月22日～25日
栗原憲一	講師	地域学習講座	夏季講座研修会	三笠市教育研究所	8月3日
栗原憲一	案内・指導	「地球科学巡検 I」における現地での案内・指導	地球科学巡検 I	茨城大学理学部	8月31日 ～9月1日
栗原憲一	講師	「石・鉱物・化石のお宝鑑定会 2015」	石・鉱物・化石のお宝鑑定会 2015	日高町教育委員会	11月14日
栗原憲一	講師	北海道と様似の蝦夷層群、アンモナイトについての町民向けの講演	町民向け講演会	様似町	12月2日～4日
栗原憲一	講師	ジオパークについて理解を深める講演	ジオパークについての講演会	ユースラップジオパーク構想準備会	2月27日
小林孝二	講師	積雪寒冷地北海道の住まいの変化	展示会「北海道の住宅の歩み」関連講座	一般財団法人北海道開拓の村	5月10日
小林孝二	講師	道内における歴史的建造物の現状と課題、ほか	歴史的建造物を考える学習会	新得町教育委員会	6月12日
小林孝二	調査	歴史的建造物の保存と修復についての教示等	屯田兵屋における調査	滝川市美術自然史館	8月6日
小林孝二	調査・指導	老朽化調査と修復のための現地指導	博物館網走監獄展示建造物の老朽化調査	公益財団法人網走監獄保存財団	8月31日 ～9月1日

【アイヌ文化研究グループ(14件)】

氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	主催または依頼先	期間
小川正人	講師	北海道博物館の概要、総合展示のみどころほか	2015 年北海道地域学習会	自治体退職者会北海道本部	6月26日
小川正人	講師	北海道博物館のアイヌ文化展示について	アイヌ文化普及啓発セミナー(札幌会場)	公益財団法人アイヌ文化振興研究推進機構	7月29日
小川正人	講師	北海道博物館の新しいアイヌ文化展示について	アイヌ文化情報発信ネットワーク会議	北海道環境生活部アイヌ政策推進室	8月6日
小川正人	講師	北海道博物館のアイヌ文化展示について	アイヌ文化普及啓発セミナー(東京会場)	公益財団法人アイヌ文化振興研究推進機構	8月26日
小川正人	講師	北海道博物館のアイヌ文化展示ー展示リニューアルの考え方と今後の課題ー	平成27年度アイヌ文化財専門職員等研修会	北海道教育委員会	2月26日
甲地利恵	コメンテーター	ー	第15回北海道歴史文化研究会	北海道歴史文化研究会	5月16日
甲地利恵	講師	アイヌ音楽と出会う	アイヌ民族文化祭 2015	公益社団法人北海道アイヌ協会	11月28日
甲地利恵	講師	アイヌ音楽の中の多様性	第2回アイヌ文化発信検討会議	公益社団法人北海道アイヌ協会	12月17日
田村雅史	解説指導員	アイヌ語、アイヌ口承文芸の指導	平成27年度実践上級講座口承文芸伝承者(語り部)育成事業(白糠地区)	公益財団法人アイヌ文化振興研究推進機構	6月19日 ～11月13日
遠藤志保	講師	アイヌの散文説話と周辺諸民族の説話	第23回環オホーツク海文化のつどい	北のシンポジウム実行委員会、紋別市教育委員会	8月22日

氏名種別	派遣内容・講義タイトルなど	行事名など	主催または依頼先	期間
遠藤志保 講師	アイヌ口承文芸の中での水生植物、水辺空間の表現、認識、扱い等について	平取町のアイヌ文化調査	平取町立二風谷アイヌ文化博物館	11月17日～18日
遠藤志保 発表	アイヌ英雄叙事詩における登場人物の感情表現	シンポジウム ひろがる北方研究の地平線	札幌学院大学総合研究所	12月19日
大坂拓 発表	先住民族と博物館 北海道博物館における展示事例	第30回北方民族文化シンポジウム・網走	一般財団法人北方文化振興協会、北海道立北方民族博物館	10月24日～25日
出利葉浩司 講師	第4回～6回「公共空間における文化の展示」「モノで文化を表すということ」「博物館における異文化展示の現在」	公開講座「人間論特殊講義」 (年度テーマ:文化の変容と時代の変化ー人間と文化の歴史をどうとらえるかー)	札幌学院大学人文学部	8月18日

2 資料の収集・保存・活用

当館では、北海道ならではの自然・歴史・文化に関する遺産を永く保存し、活用するため、資料の収集から受入・登録、保存管理から利活用までを、各研究グループと連携して学芸部博物館基盤グループを中心に行っています。また、資料を良好な状態で未来につなぎ伝えるため、収蔵庫の環境整備に努めています。

当館の資料

平成 27 (2015) 年の北海道博物館の発足に伴い、北海道開拓記念館と北海道立アイヌ民族文化研究センターが所蔵していた資料は当館資料へと管理換が行われ、開館時に 180,418 件の資料を有する博物館として開館しました。そのうち約 3,000 件が、総合展示に供されています。当館の資料収集は、道民からの日常的な電話連絡等による寄贈が大部分を占めています。

北海道開拓記念館資料	北海道立アイヌ民族文化研究センター資料
北海道開拓記念館の資料収集は、昭和 41 (1966) 年からスタートした北海道百年記念事業のなかで、昭和 43 (1968) 年～昭和 45 (1970) 年の 3 ヶ年、開設準備のひとつとして着手されました。この時期の資料収集は、道内各地に委嘱した開拓記念館資料調査協力員 166 名から提供された情報と協力のもとに、嘱託の調査収集委員と準備事務所職員が当たりました。この時期に収集された資料のうち、昭和 46 (1971) 年 4 月の開館までに整理・受入された資料は約 15,000 件でした。開館後の資料収集は開拓記念館の学芸員によって進められ、そうした資料は管理換、購入、寄贈、製作、採集、寄託資料として収集されました。閉館時 (平成 26 年度末) の資料数は 166,146 件でした。	北海道立アイヌ民族文化研究センターの資料収集は、購入、複写、寄贈を受けること及び伝承者・体験者等からの採録等により進められました。開所当初の平成 6 (1994) 年には、アイヌ語地名の研究者であった故・山田秀三氏の研究資料を「山田秀三文庫」として受贈し、平成 9 (1997) 年には、アイヌ語・アイヌ口承文芸の研究者であった故・久保寺逸彦氏の研究資料を「久保寺逸彦文庫」として受贈しました。これらのコレクションが道立アイヌ民族文化研究センターの資料の基礎となり、閉所時 (平成 26 年度末) の資料数は 33,319 件でした。

資料収集方針

当館の資料収集は、北海道の生成、自然、歴史、文化に意義を持つものを対象としています。具体的には以下のような性格を持つ資料を収集の対象としています。

- 1) 北海道の地学に関する資料 (岩石、鉱物、化石、土壌など)
- 2) 北海道の生物に関する資料 (動物、昆虫、植物、菌類及び生物と人間の関わりに関する資料など)
- 3) 北海道の先史文化および人類史に関する資料 (土器、石器、骨角器、金属器、木製品など)
- 4) アイヌを中心とする北方諸民族の文化の特徴、地域差、時代差、歴史等に関する資料 (民具、言語、口承文芸、芸能、信仰、伝統的生活様式、歴史等に関する有形・無形の資料)
- 5) 北海道に住んだ人びとの生活に関する資料 (衣・食・住など日常生活、儀礼、信仰、芸能など)
- 6) 北海道の産業に関する資料 (農業、漁業、林業、鉱業、工業など)
- 7) 北海道の歴史に関する資料 (文書、絵画、地図、写真、記録映画など)
- 8) 上記のものに関連する無形文化資料 (伝承、技術など)

資料審査会

館資料の適切な収集、保存、活用について協議するため、館内の内部組織として館長を会長とする資料審査会を設置しています。資料審査会は、資料収集方針に関することや資料の受入の選定など、協議を要する案件が生じた時点で、案件に関係する館内のグループからの要請にもとづき開催しています。審査会にかかわる庶務は学芸部博物館基盤グループが当たっています。平成 27 年度は 5 回開催されました。

平成 27 年度資料審査会の構成 (平成 27 年度 8 月時点)

会 長	石 森 秀 三	館 長
	中 村 亘	アイヌ文化担当副館長
	吉 田 公 伸	副館長
	北 敏 文	総務部長 兼総務部総括グループ主幹

舟山 直治	学芸部長
小川 正人	アイヌ民族文化研究センター長 兼研究部長 兼アイヌ文化研究グループ研究主幹
右代 啓視	総務部企画グループ学芸主幹 兼研究部歴史研究グループ学芸主幹
堀 繁久	学芸部博物館基盤グループ学芸主幹 兼研究部博物館研究グループ学芸主幹
池田 貴夫	学芸部道民サービスグループ学芸主幹 兼研究部生活文化研究グループ学芸主幹
水島 未記	学芸部社会貢献グループ学芸主幹 兼研究部自然研究グループ学芸主幹
山際 秀紀	学芸部博物館基盤グループ学芸主査 兼研究部生活文化研究グループ学芸主査
村上 孝一	学芸部博物館基盤グループ学芸員 兼研究部博物館研究グループ学芸員

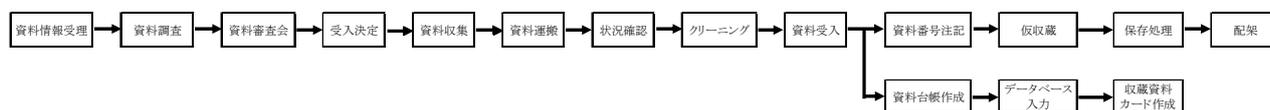
資料の収集

資料の受入・登録

資料の収集は、受入手順に従って収蔵庫に収納し保存します。

資料情報は、「資料記録票」に記載され、当館の収蔵資料には登録番号が付され、「北海道博物館資料分類表」にもとづき、総集、記録、地学、生物、考古、民族、生活、産業、文書、美術に10分類されます。受入後は、全分野共通の資料台帳に登録するとともに資料データベースを入力して管理されます。

資料受入の手順



平成 27(2014)年度の資料収集

資料情報件数	66 件	調査収集件数	15 件
--------	------	--------	------

平成 27 年度分類別・受入区分別件数

分類	管理換		購入	寄贈	製作	採集	寄託	登録抹消	累計(件)
	開拓記念館	アイヌ民族文化研究センター							
0 総集	3,047								3,047
1 記録	7,665	3,259		2					10,926
2 地学	7,071			4					7,075
3 生物	6,863								6,863
4 考古	1,701								1,701
5 民族	5,637	88		2					5,727
6 生活	35,923			103					36,026
7 産業	20,908							-3	20,905
8 文書	76,589	10,925		86				-12	87,588
9 美術	742								742
合計	166,146	14,272	0	197	0	0	0	-15	180,600

平成 27 年度地域別寄贈収集資料件数(197 件)

地域	札幌市	釧路市	長沼町	東京都	計
資料件数	164	1	28	4	197

【管理換前後の両機関の資料状況(参考)】

(1) 北海道開拓記念館の資料状況

資料情報件数	36件	調査収集件数	14件
--------	-----	--------	-----

分類	平成25年度末	平成26年度末								計(件)	累計(件)
		管理換	購入	寄贈	製作	採集	寄託	登録抹消			
0 総集	3,177								-130	-130	3,047
1 記録	7,580			89		1			-5	85	7,665
2 地学	7,071										7,071
3 生物	6,863										6,863
4 考古	1,701										1,701
5 民族	5,638								-1	-1	5,637
6 生活	35,983					2			-62	-60	35,923
7 産業	20,933								-25	-25	20,908
8 文書	76,303			345		163			-222	286	76,589
9 美術	739					1	2			3	742
計	165,988			434		167	2		-445	158	166,146

(2) 北海道立アイヌ民族文化研究センター資料の管理換内訳

博物館 資料分類	旧アイヌ民族文化研究センター		北海道博物館		
	資料区分		払出	受入	備考(点数が異なる理由)
文書	図書資料	山田秀三文庫	5,513	5,513	
		久保寺逸彦文庫	2,773	2,646	枝番扱い資料の受入単位の変更
	文書資料	山田秀三文庫	1,238	1,344	枝番扱い資料の受入単位の変更
		久保寺逸彦文庫	858	1,422	枝番扱い資料の受入単位の変更
記録	音声・映像資料	山田秀三文庫	531	531	
		久保寺逸彦文庫	779	238	
		久保寺逸彦文庫(レコード)		541	
	写真資料	山田秀三文庫	616	578	枝番扱い資料の受入単位の変更及び一部を登録抹消
		久保寺逸彦文庫	643	660	枝番扱い資料の受入単位の変更
	音声・映像資料 職員採録	研究センター収集	719	711	一部を登録抹消
民族	器物資料	山田秀三文庫	48	48	
		久保寺逸彦文庫	40	40	
合計			13,758	14,272	

※ 旧アイヌ民族文化研究センターの閉所時の資料数は33,319件ですが、その中には購入した図書、他機関所蔵の複写、保存・公開用複製等の資料が含まれています。そうした資料は博物館資料ではなく、図書として管理換が行われました(19,561件)。

資料の収蔵と保存管理

受入・登録された資料は清掃され、分野別・形態別に割当てた 5 室の収蔵庫に収蔵します。大型資料は木製棚に、小型資料は木・紙・プラスチック製の整理箱等に納め、木製棚又はスチール棚に配架しています。収納棚等は資料の性質、形態に合わせて出納が容易に行なわれるように配慮しています。

資料保存の環境を維持するため、当館では温湿度管理、定期清掃などといった、薬剤だけに頼らない方法による総合的有害生物防除管理 (IPM) に取り組んでいます。具体的には、収蔵庫内の温度を夏期 25℃・冬季 22℃、湿度を 55±5% に保持するほか、CO2 バッグによる資料の殺虫処理 (年 4~6 回程度実施)、捕虫トラップの回収・設置・調査、落下菌による環境調査などを実施しています。なお、当館の前身である開拓記念館では、情報の一元化を図り、総合的な温湿度管理を実施していくため、無線タイプのデータロガーシステムを平成 25 (2013) 年度に導入しています。

そのほか、当館の施設管理を行う指定管理者と収蔵環境等に関する連絡会議を毎月行ない、情報の共有を図っています。

資料収蔵環境管理等に関する連絡会議の開催数 10 回

IPM に関わる作業の実施回数 ※下記の⑥を除く 296 回

IPM の実施内容	回数
① 捕虫トラップ (展示場と収蔵庫における設置・回収と調査)	約 100 カ所×年 12 回の調査を実施
② 収蔵庫内の微生物汚染を確認するため落下菌調査	1 回実施
③ 特別展示室と収蔵庫の空気質調査	3 回実施
④ 学芸部基盤グループと保存担当者による収蔵庫清掃	10 回実施
⑤ 全職員による展示室、収蔵庫の資料チェックとクリーニングを兼ねた大掃除	1 回実施
⑥ 新展示ケースなどのからし作業	恒常的に実施
⑦ 収蔵庫搬入前の資料について二酸化炭素殺虫処理 (殺虫バッグ)	11 回実施
⑧ 収蔵庫内巡回 (ロガー目視と害虫の除去)	258 回



大型資料が配架されている第 1 収蔵庫



収蔵庫の環境を確認する当館職員

資料情報の管理

収蔵された資料は、1点ごとに写真を撮影し、資料の年代、地域、形状、由来などの基礎情報を北海道博物館収蔵資料カード（以下、収蔵資料カード）を作成し、データベースに入力します。このデータベースと収蔵資料カードは、個々の資料の第一次情報となり、企画展示の計画作りや利用者からのレファレンス対応など、当館の博物館活動の原点となるものです。

作成された収蔵資料カードは収蔵番号順に資料情報室に収められ、資料のデータベースは北海道博物館情報システムとして資料管理や利活用を図るため、随時データの追加入力を行なっています。

また、他機関や研究者の利用の便宜を図るとともに、利用者の知的興味に応じていくため、収蔵資料目録などを作成するとともに、資料情報の一部を当館のホームページで公開しています。

資料の活用

館の収蔵資料は総合展示や特別展などに展示されるほか、博物館関係者、一般利用者や研究者等の調査・研究を目的とした利用（特別観覧）にも供されます。また、博物館や学校等の他機関への資料の貸し出しや、館資料の写真や複写等の印刷物やホームページ等への利用の受け付け（模写品等使用）も行っています。

平成 27 年度利用件数

	資料の貸出		特別観覧		模写品等使用(開拓記念館)		模写品等使用(開拓の村)	
	利用件数	資料点数	利用件数	資料点数	利用件数	資料点数	利用件数	資料点数
博物館関係*	20	21	14	218	11	52	1	1
報道機関	2	376	13	107	16	33	10	19
官公庁	1	7	3	10	5	6	2	3
出版社	0	0	2	12	32	75	3	3
その他	2	49	57	734	38	120	111	431
計	25	453	89	1,081	102	286	127	457

*教育委員会・学校含む

3 展示

当館の展示活動は、総合展示室、特別展示室、旧北海道庁舎（通称「赤れんが庁舎」札幌市中央区）で行なわれています。各展示は、それぞれの機能を果たしながらも互いに有機的に結びついており、さまざまな人びとが繰り返し訪れ、親しまれる博物館をめざし、北海道ならではの自然・歴史・文化に関わる資料を最大限に活かす展示を展開しています。また、期間を限って、特別展や企画テーマ展、蔵出し展などの企画展示を年に数回開催しています。

展示場や展示資料の保守点検・管理は日常的に実施しており、年に1回、2日間にわたって大掃除を行なっています。

総合展示室

総合展示は、1階と2階を合わせて約3,000㎡の広さがあります。北海道博物館の収蔵資料の中から実物資料を厳選し、さらに模型、ジオラマ、映像装置など、さまざまなメディアを使った展示を行っています。また、来るたびに違う、飽きない展示を演出するため、展示の定期的な入替を行っています。

平成27年度の総合展示の入替件数(42件)

テーマの場所	小テーマ名	入替日	資料番号	資料名
プロローグ(3件)	ナウマンゾウ	7月1日	61783	ナウマンゾウ臼歯
			61807	ナウマンゾウ恥骨
		10月8日	61805	ナウマンゾウ右上腕骨
1テーマ(16件)	大地のなりたち	7月1日	125798	セイウチ類下顎骨化石
			131758	キタオットセイ類橈骨
		10月8日	125795	ヒゲクジラ類下顎骨化石
			125797	ヒゲクジラ類椎骨化石
	蝦夷地の産物コレクション	12月18日	150402	ワシの尾羽
			同上	同上
	-	エイの皮(鮫皮)		
シャクシャインの戦い	12月18日	31402	蝦夷蜂起物語	
ロシアの進出とアイヌ民族	12月18日	71924	蝦夷草紙	
		54396	蝦夷語箋	
		44496	蝦夷記録(蝦夷ロシア渡来記録)	
		30628	蝦夷図	
アイヌ民族と場所請負制	12月18日	152996	爪印のある詫び状	
2テーマ(19件)	食べる	8月21日	126738	木椀
			27038	木盆
	着る	8月21日	124649	木綿衣
			124653	前掛け
			124654	鉢巻き
			124655	脚絆
			124649	首飾り
			124667	耳飾り
			124669	耳飾り
			11244	幣冠
いのる	8月21日	8107	木幣	
		8061	木幣	

テーマの場所	小テーマ名	入替日	資料番号	資料名
2テーマ	いのる	8月21日	8119	木幣
			8196	棒酒箸
			8197	棒酒箸
			8198	棒酒箸
	着る	2月19日	8257	木綿衣
			11238	脚絆
11473			前掛け	
4テーマ(3件)	日本敗戦からの東西冷戦へ	10月2日	180577	長沼ナイキ基地建設促進チラシ
			180867	自衛官募集パンフ
			-	自衛隊の活動写真
学芸員紹介コーナー(1件)		2月10日	3770	鱈口

クローズアップ展示

ふだんの総合展示だけでは十分に紹介しきれない話題や、北海道博物館が所蔵する資料などを、テーマを決めて定期的に入れ替えて紹介する展示コーナーです。

平成27年度のクローズアップ展示(22件)

第1テーマ(11件)

場所	タイトル	展示期間	担当者
クローズアップ展示1	松前・江差湊のにぎわいー『松前江差屏風』を読むー	4月18日(土)～6月28日(日)	東 俊 佑
	江差・松山の人びとー『江差松山屏風』を読むー	6月30日(火)～9月27日(日)	東 俊 佑
	アイヌ民族の一年ー《蝦夷風俗十二ヶ月屏風》を読むー	9月29日(火)～2016年1月8日(金)	東 俊 佑
	北のシルクロードーサンタン交易をさぐるー	2016年1月9日(土)～4月22日(金)	東 俊 佑
クローズアップ展示2	新撰組の元幹部隊士ー永倉新八ゆかりの資料ー	4月18日(土)～5月31日(日)	三浦 泰之
	所蔵資料でふりかえる「札幌まつり」	6月2日(火)～6月28日(日)	三浦 泰之
	北海道の双六あれこれ	6月30日(火)～8月30日(日)	三浦 泰之
	アイヌを描いた絵師／早坂文嶺	9月1日(火)～11月1日(日)	三浦 泰之
	北海道の雑誌あれこれ	11月3日(火)～11月29日(日)	三浦 泰之
	北海道のお酒とジュースのラベルあれこれ	12月1日(火)～2016年1月29日(金)	三浦 泰之
	北海道へ移住した武士が伝えた古文書	2016年1月30日(土)～4月3日(日)	三浦 泰之

第2テーマ(4件)

場所	タイトル	展示期間	担当者
クローズアップ展示3	アイヌ文化 イナウ	4月18日(土)～10月18日(日)	田村 雅史
	サハリン(樺太)の衣文化	10月20日(火)～2016年4月17日(日)	大坂 拓
クローズアップ展示4	アイヌ史 1920～30年代の札幌	4月18日(土)～2016年1月31日(日)	小川 正人
	サハリン(樺太)アイヌの近現代史	2016年2月2日(火)～7月15日(金)	小川 正人

第3テーマ(2件)

場所	タイトル	展示期間	担当者
クローズアップ展示5	岩手県から北海道へ渡った神楽	4月18日(土)～2016年3月13日(日)	舟山 直治
	北海道の(やきもの)	2016年3月15日(火)～7月15日(金)	池田 貴夫

第4テーマ(3件)

場所	タイトル	展示期間	担当者
クローズアップ展示6	札幌オリンピック	4月18日(土)～7月26日(日)	会田 理人
	たくぎん(北海道拓殖銀行)のいろいろ	7月28日(火)～11月29日(日)	会田 理人
	懐かしのおもちや	12月1日(火)～2016年3月27日(日)	会田 理人

第5テーマ(2件)

場 所	タイトル	展 示 期 間	担 当 者
クローズアップ展示7	北海道の生物多様性	4月18日(土)～10月18日(日)	堀 繁 久
	海からの〈おくりもの〉	10月20日(火)～2016年3月27日(日)	圓谷 昂史

平成27年度の展示のようす



アイヌ民族の一年ー《蝦夷風俗十二ヶ月屏風》を読むー
19世紀中ごろのアイヌ民族の一年間の生活のうつりかわりや、場所請負制というしくみのもとで変わりつつあるアイヌ民族を描いた屏風を紹介しました。



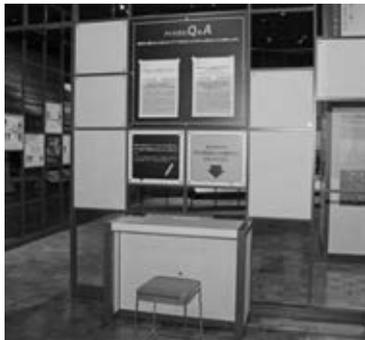
たくぎん(北海道拓殖銀行)のいろいろ
平成10(1998)年に看板を下ろした北海道拓殖銀行。当館収蔵庫のなかから、北海道に暮らした人たちにとって懐かしい、いろいろなものを選んで紹介しました。

来館者参加型展示

さまざまな北海道の自然・歴史・文化を楽しみながら学び、さらに考えるきっかけにいただける展示を目指して、総合展示室内に来館者が展示物に触れたり、展示に加わるなどして、能動的な体験ができるスペースを設けています。

アイヌ文化Q&A(第2テーマ)

展示をご覧になったあとに、「アイヌ文化の、ここがもっと知りたい」という来館者の質問などにお答えするコーナーです。



総合展示2階出口付近の参加型展示

北海道をめぐる話題について、お互いの声を聞き、一緒に考え、より深く知るきっかけにして頂けるように、ある話題についての来館者の声を掲示しているコーナーです。



ハンズオン展示



さわってみよう、本物の化石(第1テーマ)



600型電話機(黒電話)(第4テーマ)

特別展示室

特別展

総合展示で扱っている北海道の自然・歴史・文化についてさらに内容を深めた展示、あるいは総合展示では望めない特定の分野や主題で企画する展示を、資料借用などをおして外部との連携も図りながら、年に数回一定期間開催します。観覧料は有料です。

平成 27 年度の特別展

名 称	夷酋列像 蝦夷地イメージをめぐる 人・物・世界		
会期(開催日数)	2015年9月5日(土)～11月8日(日) (休館日を除く56日間)		
観 覧 者 数	51,046人	展 示 構 成	右代啓視(チーフ)、春木晶子、小川正人、三浦泰之、東俊佑
観 覧 料	一般1,000円(800円)、大学生・高校生500円(400円)、中学生300円(200円) ※()の中は前売りと10人以上の団体料金		
内 容	<p>フランスのプザンソン美術考古博物館に所蔵される蠣崎波響筆《夷酋列像》と、国内に複数現存する諸本や模写を一堂に集め、その実像と伝播の様相を明らかにし、さらに、「夷酋列像」から見えてくる、18～19世紀にかけての蝦夷地を中心とする中国やロシアを含めた北東アジアのつながりや、「夷酋列像」を見た本州以南の人々が蝦夷地や「異国」に抱いていたまなざしを紹介しました。</p> <p>なお、この企画展は北海道博物館の開館を記念した特別展として開催し、国立歴史民俗博物館では特集展示(平成27年12月15日～平成28年2月7日)、国立民族学博物館では特別展(平成28年2月25日～5月10日)として巡回しました。</p>		
関 連 普 及 行 事	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会「解像の創造力ー夷酋列像を結ぶ二重焦点ー」 ・講演会「夷酋列像とアイヌ文化」 ・講演会「武士・画人・詩人 波響」 ・シンポジウム「酋列像は何をうつすか」 		
主 催	「夷酋列像」展実行委員会(北海道博物館、一般財団法人北海道開拓の村、北海道新聞社) 大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立民族学博物館 大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館		
共 催	NHK 札幌放送局		

Ishuretsuzo,
the Image of Ezo
Tracing Persons, Things and the World

北海道博物館開館記念特別展
夷酋列像 蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界
フランスプザンソン美術考古博物館の「Ishuretsuzo」から、日本各地の「夷酋列像」まで
2015年9月5日[土]～11月8日[日]

北海道博物館 札幌市中央区南一条西五丁目1番1号
TEL: 011-223-3111 FAX: 011-223-3112
受付時間: 9時～17時(入館は16時30分まで) 休館日: 11月11日(火)12月31日(木)1月1日(金)
観覧料: 一般1,000円(前売り800円)、大学生・高校生500円(前売り400円)、中学生300円(前売り200円)
※10人以上の団体料金(前売り)は別途要
主催: 北海道博物館、一般財団法人北海道開拓の村、北海道新聞社
共催: 大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立民族学博物館、大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館
協賛: NHK札幌放送局
お問い合わせ: <http://www.hokkaidomuseum.jp/ishuretsuzo/> 北海道博物館 企画課 展示係



企画テーマ展

特別展示に比較して小規模な展示で、年に数回開催します。この展示は、総合展示の各テーマとは別に、各研究グループの研究成果や北海道博物館が所蔵している資料をより多く公開することを目的としています。企画テーマ展は、道民が展示に参加できる企画を随時検討しながら開催しています。観覧料は無料です。

平成27年度の企画テーマ展(4回)

名 称	第1回企画テーマ展 学芸員 おすすめの1点 ようこそ北海道博物館へ		
会期(開催日数)	2015年4月18日(土)～6月7日(日) (休館日を除く44日間)		
観 覧 者 数	23,889人	展示構成	出利葉浩司(チーフ)、ほか当館学芸員・研究職員
内 容	北海道博物館が誕生するにあたり、学芸員がこれまで熟成させてきたおすすめの収蔵資料を通して自己紹介をし、また、北海道博物館の新たな役割やひごころは表に出ない仕事なども紹介しました。		
関連普及行事	—		



名 称	第2回企画テーマ展 鶴		
会期(開催日数)	2015年6月27日(土)～8月16日(日) (休館日を除く44日間)		
観 覧 者 数	15,091人	展示構成	山田伸一(チーフ)、水島未記、表溪太、甲地利恵
内 容	北海道を代表する生物の一つであるタンチョウ。直接見かける機会はまれでも、鶴の姿や文字には、日々の暮らしのあちこちで出あいます。風呂敷や衣類、酒の銘柄、地名、木彫りのお土産品、アイヌ民族の踊り、等々。当館収蔵庫での「鶴探し」の成果を中心に、鶴と人との深い関わりをたどりました。		
関連普及行事	<ul style="list-style-type: none"> ・ちゃれんがワークショップ「マイヅルソウとツル植物の観察会」 ・講演会「人と鶴の関わり」の歴史」 ・赤れんが講座「館長×学芸員トーク「鶴」展みどころ紹介」 ・ちゃれんが講座「明治初期の人と鳥ーカラスとキジと白鳥とー」 ・ちゃれんが子どもクラブ「重いモノを動かす道具」 		
協 力	久井貴世氏(北海道大学大学院)		



名 称	第3回企画テーマ展 北海道のアンモナイトとその魅力		
会期(開催日数)	2015年11月28日(土)～2016年1月17日(日) (休館日を除く36日間)		
観 覧 者 数	6,071人	展示構成	圓谷昂史(チーフ)、栗原憲一、添田雄二
内 容	長年に渡り人々の心を魅了し続け、その知名度や愛好家の数からも、北海道を代表する化石と言えるアンモナイト。この展示会では、北海道博物館が収蔵するアンモナイトから選りすぐりの化石をはじめ、アンモナイト愛好家のさまざまな秘蔵品等、約300点を一同に展示し、アンモナイトが持つ魅力を紹介しました。		
関連普及行事	<ul style="list-style-type: none"> ・ちゃれんが子どもクラブ「アンモナイトを解剖しよう！」 ・ちゃれんがワークショップ「アンモナイト折り紙で学ぶ生物の「かたち」の不思議」 ・ちゃれんが講座「アンモナイトとアオイガイ」 ・赤れんが講座「館長×学芸員トーク「北海道のアンモナイトとその魅力展のみどころ」 		
協 力	北海道化石会、千歳化石会、浦幌町立博物館、三笠市立博物館、鳥羽水族館、福岡幸一氏、棚部一成氏		



名 称	第4回企画テーマ展 神様おねがい！—地域と人をむすぶ祈りのかたち—		
会期(開催日数)	2016年2月27日(土)～4月10日(日) (休館日を除く38日間)		
観 覧 者 数	5,324人	展示構成	舟山直治(チーフ)、池田貴夫、村上孝一、三浦泰之
内 容	北海道におけるさまざまな信仰のかたちについて、近世の松前からつづく伊勢とのむすびつきやその移り変わり、日本海を介した信仰と旅のようす、神へ願いを伝える儀式や道具といった項目から明らかにしました。あわせて、くらしの場面でみられるいろいろな祈りのかたちの特徴を、神楽道具、奉納物、お札、お守り、棟札、日記、備忘録など館蔵資料をもとに紹介しました。		
関連普及行事	・ちゃれんが講座「北海道の川下信仰について」		



蔵出し展

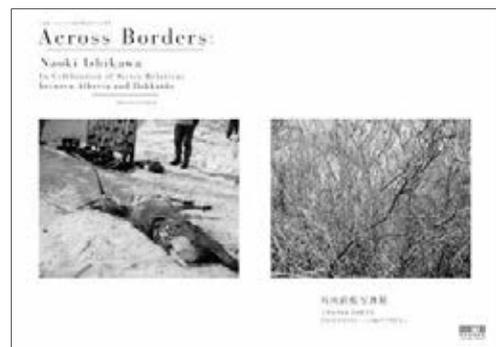
平成27年度は実施しませんでした。

その他の展示会

・「北海道・アルバータ州姉妹提携35周年記念事業」

平成27年は北海道とカナダ・アルバータ州の姉妹提携35周年にあたり、姉妹提携記念事業として「Across Borders: 石川直樹写真展」が実施されました。この写真展は、ロイヤル・アルバータ・ミュージアム、北海道博物館を巡回し、平成28(2016)年4月5日までカナダ大使館高円宮記念ギャラリー(東京都港区)で開催されました。

名 称	Across Borders: 石川直樹写真展		
会期(開催日数)	2015年11月28日(土)～2016年1月17日(日) (休館日を除く36日間)		
観 覧 者 数	4,390人	展示構成	—
場 所	当館特別展示室(第3回企画テーマ展と同時開催)		
内 容	北海道とアルバータ州の姉妹州提携35周年の記念事業として、日本人カメラマン石川直樹氏が北海道とアルバータ州の両方で撮影した、風景や人びとの暮らし、先住民の文化などの写真を展示し、両地域のつながりを探りました。		
関連普及行事	石川直樹氏アーティストトーク		



赤れんがサテライト

北海道博物館赤れんがサテライトは、北海道庁旧本庁舎(赤れんが庁舎)にある北海道博物館のサテライトスペースです。北海道博物館の見どころを、選りすぐりの資料で紹介するほか、道内のさまざまな博物館の活動を紹介しています。

観覧者数:610,219人(2015年4月～2016年3月累計)



北海道博物館を紹介するブース(平成27年7月撮影)



道内の博物館を紹介するブース(平成27年7月撮影)

4 教育普及・来館者サービス

当館の来館者サービスは、さまざまな人びとが繰り返し訪れ、親しまれる「わかりやすく、おもしろく、ためになる」博物館をめざし、調査研究の成果を活用しながら北海道の自然・歴史・文化をより深く知ることができる事業を利用者の視点に立って展開しています。そうしたサービスは総合展示室、講堂、はっけん広場で実施しており、展示見学のオプションとして講堂で行う「グループレクチャー」やはっけん広場で行う「はっけんプログラム」など、小・中学生などの団体利用向けの事業（事前申込）も実施しています。

総合展示室

総合展示室内では来館者がわかりやすく、おもしろく観覧することができるよう、当館職員と交流ができる学芸員ハローデスクの設置や気軽に参加できるイベントなどを行っています。

情報デスク

総合展示や展示資料の詳しい内容を知りたいという来館者の質問に速やかに回答するための情報窓口を総合展示室内の1階と2階の交流ゾーンに設置しています。



ハイライトツアー

総合展示第1～5テーマの展示のみどころを1時間程度で説明する展示解説を行っています。（毎日 14:00～15:00）



学芸員ハローデスク

1階と2階の交流ゾーンにある情報デスクに学芸員が座り、研究活動などの通常業務を行いながら、北海道の歴史、文化、自然に関して、より専門的に知りたいという来館者の質問・疑問に対応しています。（祝日のみ）



ミュージアムトーク

学芸員が総合展示のみどころや最新の研究などについて解説を行うイベントです。（祝日 13:00～13:30）



ちゃれんがラリー

子どもが総合展示の内容を楽しく学ぶことができるよう、展示室内に関する簡単な問題に答えながら、スタンプを集めるクイズラリーを実施しています。



ハンズオン

普段は触ることのできない資料に特別に触ることが出来るコーナーを開設したり、学芸員が道具の使い方などを実演するイベントを実施しています。



総合展示室におけるサービス・イベント参加者数(13,060名)

	質問・レファレンス等			音声ガイド 貸出件数	行事・イベント					合計
	1F	2F	合計		ハンズオン	ミュージアム トーク	ハイライト ツアー	ちゃれんが ラリー	合計	
4月	490	438	928	48	0	41	60	0	101	1,077
5月	538	828	1,366	114	0	231	185	0	416	1,896
6月	483	615	1,098	72	0	0	68	0	68	1,238
7月	547	586	1,133	109	0	0	194	0	194	1,436
8月	417	492	909	92	0	0	185	0	185	1,186
9月	613	673	1,286	53	0	0	253	0	253	1,592
10月	595	548	1,143	70	0	0	303	0	303	1,516
11月	422	380	802	59	52	0	187	142	381	1,242
12月	112	110	222	20	0	0	60	50	110	352
1月	137	187	324	25	0	0	86	75	161	510
2月	126	134	260	45	0	0	59	34	93	398
3月	166	232	398	21	0	0	66	132	198	617
合計	4,646	5,223	9,869	728	52	272	1,706	433	2,463	13,060

ミュージアムトーク、ハンズオン内訳(6件)

種類	開催日	行事名	担当・講師	場所	参加者数
ミュージアムトーク	4月29日	第3テーマ「北海道らしさの秘密」のみどころ	池田貴夫	総合展示室1F交流ゾーン	41名
ミュージアムトーク	5月3日	第2テーマ「アイヌ文化の世界」のみどころ	小川正人	総合展示室1F交流ゾーン	51名
ミュージアムトーク	5月4日	第4テーマ「わたしたちの時代へ」のみどころ	会田理人	総合展示室1F交流ゾーン	65名
ミュージアムトーク	5月5日	第1テーマ「北海道120万年物語」のみどころ	三浦泰之	総合展示室1F交流ゾーン	62名
ミュージアムトーク	5月6日	第5テーマ「生き物たちの北海道」のみどころ	水島未記	総合展示室1F交流ゾーン	53名
ハンズオン	11月3日	アイヌ民族の昔の家屋に入ってみよう	出利薬浩司	総合展示室1F第2テーマ	52名

グループレクチャー

総合展示の見どころや、北海道の自然・歴史・文化に関する話題について、当館の学芸員が映像などを使いながら、20～25分程度で解説を行っています（事前申込）。

出来るだけ多くの来館者の目的や要望に応じるため、グループレクチャーは社会科見学や現地学習、修学旅行などの利用に対応した「総合展示の見どころ紹介」と、特定のテーマにもとづく授業の一環としても利用できるような「北海道の自然・歴史・文化に関する専門的な話題」を設定して、実施しています。

平成27年度グループレクチャー利用者数(254件、9,365名)

	件数	人数	メニュー別実施回数						
			総合展示みどころ	第1テーマ	第2テーマ	第3テーマ	第4テーマ	第5テーマ	その他
4月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	15	692	12	0	1	0	0	0	2
6月	32	1,293	29	0	1	0	0	0	2
7月	39	1,101	31	0	0	1	1	1	5
8月	34	1,238	26	0	5	0	0	0	3
9月	48	2,371	29	1	11	0	0	1	6
10月	48	1,600	34	1	7	0	0	1	5
11月	23	696	14	0	1	0	0	1	7
12月	4	144	1	0	2	0	0	0	1
1月	3	49	3	0	0	0	0	0	0
2月	4	113	3	0	0	0	0	0	1
3月	4	68	4	0	0	0	0	0	0
合計	254	9,365	186	2	28	1	1	4	32

はっけん広場

はっけん広場は、「目で感じよう、ココロでふれよう、手ではっけんしよう」をキャッチフレーズに、子どもから大人までホンモノに触れて何かを発見できる場となるよう設置しています。化石にさわる、アイヌ民族の文化を体験するなどの「はっけんキット」が配置されていたり、期間とテーマを定めて年間数回、気軽に参加できる「はっけんイベント」を開催しています。

また、はっけん広場には解説員が配置され、来館者の希望に応じて道具の使い方や技術のレクチャーを行っています。平成27年度の利用者数は34,561名でした。

はっけんプログラム

当館のスタッフ（学芸員または解説員）の進行のもと、参加者が実際のアンモナイトに触って観察したり、アイヌ民族の衣装を着る体験をとおして、それらの特徴を学んだり、はっけんできるプログラムを実施しています（事前申込）。

平成27年度はっけんプログラム(134件、7,216名)

	件数	人数	プログラム別実施回数					
			クラス数	①ヒグマ	②アンモナイト	③アイヌ	④縄文	⑤くらし
4月	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	4	69	5	0	0	2	3	0
6月	12	738	25	2	0	5	18	0
7月	15	532	21	7	2	8	2	2
8月	15	1,003	30	6	1	17	2	4
9月	52	3,122	103	3	1	68	19	12
10月	23	1,397	43	0	0	12	14	17
11月	11	312	14	3	0	2	4	5
12月	0	0	0	0	0	0	0	0
1月	1	8	1	1	0	0	0	0
2月	1	35	1	0	0	0	0	1
3月	0	0	0	0	0	0	0	0
計	134	7,216	243	22	4	114	62	41

はっけんイベント

一般来館者を対象として、土・日及び祝休日を中心に、簡単なものづくりが体験ができるイベントを実施しています。

平成27年度はっけんイベント参加者数(2,113名)

行事名	開催日	開催日数	参加者数
羊毛ふわふわボールをつくろう！	9月5日(土)～11月29日(日)の土曜日・日曜日・祝日開館日	32日間	1,444
しめ縄づくり	12月1日(火)～20日(日)、休館日を除く毎日	16日間	196
雪の結晶のしおりをつくろう！	1月9日(土)～3月27日(日)の土曜日・日曜日・祝日開館日	27日間	473

はっけんキット

来館者が自由に手にとって遊んだり体験する中で、自然の不思議や昔の知恵など、これまで気がつかなかったり、知らなかった何かを<はっけん>してもらうことを目的に、体験型教材「はっけんキット」を開発・改良しています。平成27年度のはっけんキットの使用者数は22,928名でした。



北海道の砂を観察する



鹿の角でつくった釣り針



着物を着る(大きな着物)



昔の道具ではかる①



毛皮にさわろう①～③



包んで しばって③

はっけんキット一覧 平成27(2015)年9月1日現在

【生き物に関するもの】

- ・毛皮にさわろう① ヒグマ
- ・毛皮にさわろう② エゾシカ
- ・毛皮にさわろう③ アザラシ
- ・ホネにさわろう① ヒグマの頭骨

【地学に関するもの】

- ・北海道の砂を観察する
- ・アンモナイト化石を観察する

【アイヌ文化に関するもの】

- ・ムックリを鳴らす
- ・いろいろな繊維にさわる
- ・着物を着る(小さな着物)
- ・着物を着る(大きな着物)
- ・刺繍を観察する
- ・アイヌ語カルタに挑戦!
- ・アイヌパズルに挑戦!
- ・背負い縄(タラ)で荷物を運ぶ
- ・背負い袋(サラニブ)を背負う
- ・サケ皮靴(模型)を組み立てる
- ・木彫りを観察する

【考古学に関するもの】

- ・縄文人のおしゃれ
- ・土器文様のいろいろ
- ・鹿の角でつくった釣り針

【生活文化に関するもの】

- ・昔の衣服を着る①-1「冬の女性の装いをしてみよう 角巻 雪げた」
- ・昔の衣服を着る①-2「冬の女性の装いをしてみよう お高祖ずきん 番傘」
- ・昔の衣服を着る②「お店屋さんになってみよう」
- ・昔の衣服を着る③「漁師さんになってみよう」
- ・昔の衣服を着る④「農家の人になってみよう」
- ・昔の道具ではかる①「杵でお米をはかってみよう」
- ・包んで しばって①「わらで卵を包んでみよう」
- ・包んで しばって②「経木でアサリを包んでみよう」
- ・包んで しばって③「風呂敷を使ってみよう」
- ・赤ちゃんのお世話①「おんぶをしてみよう」
- ・赤ちゃんのお世話②「おむつをあててみよう」
- ・なつかしおもちゃで遊ぼう①「あやとりおはじき パッチ」
- ・なつかしおもちゃで遊ぼう②「お手玉 こま わなげ」
- ・なつかしおもちゃで遊ぼう③「竹わり けん玉 だるまおとし」
- ・パズルで脳をきたえよう! 「万年ゲーム 清少納言知恵の板 ザイルトリック」
- ・みんなでカードゲームをしよう! 「かるた 家族あわせ 鳥さし」
- ・みんなでボードゲームをしよう! 「ダイヤモンドゲーム コピットゲーム 十六武蔵」
- ・すごろくで、もりあがろう! 「蝦夷土産道中寿五六 札幌区実業家案内双六」
- ・いろんな<せんい> 「この布は何からできているのかな?」
- ・ヒツジの毛にふれる 「ふわふわの毛をとかしてみよう!」

イベント

自発的に学習したり、博物館の多様な活動に興味を持ってもらうきっかけとなるような入門的なイベントからより専門的な講座まで、北海道の自然・歴史・文化に関わるイベントや講演会などをさまざまな形態で開催しています。

ちゃれんがワークショップ

大人から子どもまでを対象とした、「ものづくり講座」「古文書講座」「自然観察会」などの体験型のプログラムを行っています（事前申込制）。

平成27年度の「ちゃれんがワークショップ」(13件、774名)

開催日	行事名	担当・講師	参加者数
6月7日ほか	縄文土器をつくる(全2回) ※①6月7日、②6月21日に実施(各回参加者:①27名、②27名)	右代啓視・鈴木琢也	54名
6月13日	自然観察会① 落ち葉の下の小さな小さなカタツムリをさがそう	濱本真琴・扇谷真知子(自然ふれあい交流館)、堀繁久・水島未記	24名
7月4日	自然観察会② 水辺の生き物をさがそう	濱本真琴・扇谷真知子(自然ふれあい交流館)、堀繁久・水島未記	34名
7月12日	石器をつくる	本吉春雄(湧別川流域史研究会)、右代啓視・鈴木琢也	14名
9月26日	自然観察会④ ひっつき虫をくっつけよう	濱本真琴・扇谷真知子(自然ふれあい交流館)、堀繁久・水島未記・表溪太	13名
10月3日	アイヌ語「解説」講座	田村雅史・大谷洋一	11名
10月24日	自然観察会⑤ 冬越しする生き物をさがそう	濱本真琴・扇谷真知子(自然ふれあい交流館)、堀繁久・水島未記・表溪太	11名
12月6日	手漉き和紙でオリジナル年賀状をつくろう!	杉山智昭	40名
12月13日	アンモナイト折り紙で学ぶ 生物の「かたち」の不思議	水島未記・栗原憲一	48名
12月20日	博物館で新年祈願? 日本の画材で絵馬づくり	水島未記・三浦泰之・春木晶子	12名
1月17日ほか	古文書講座① はじめての古文書(全3回) ※①1月17日、②1月31日、③2月14日に実施(各回参加者:①89名、②87名、③87名)	東俊佑	263名
2月21日ほか	古文書講座② 古文書に親しもう(全3回) ※①2月21日、②3月6日、③3月20日に実施(各回参加者:①85名、②83名、③71名)	三浦泰之(第1,3回)・山田伸一(第2回)	239名
2月27日	自然観察会⑥ 動物の足あとをさがそう	濱本真琴・扇谷真知子(自然ふれあい交流館)、堀繁久・水島未記・表溪太	11名

ちゃれんが子どもクラブ

主に小学生とその家族を対象として、親子でものづくりや体験ができるプログラムを中心に実施しています（事前申込）。

平成27年度の「ちゃれんが子どもクラブ」(7件、202名)

開催日	行事名	担当・講師	参加者数
7月25日	文字で遊ぼう♪ 消しゴムはんこづくり	水島未記・三浦泰之・春木晶子	48名
8月1日	自然観察会③ 草原の王者・トノサマバッタをさがそう	濱本真琴・扇谷真知子(自然ふれあい交流館)、堀繁久・水島未記	63名
8月8日	重いモノを動かす道具	会田理人・山田伸一	37名
8月15日	植物のせんいで、糸を作ろう! 編んでみよう! どんなものができるかな?	大坂拓・出利葉浩司	12名
12月12日	冬休みスペシャル① アンモナイトを解剖しよう!	圓谷昂史・栗原憲一	20名
1月9日	冬休みスペシャル② いのりのしるし? 絵馬づくりに挑戦!	水島未記・三浦泰之・春木晶子	18名
1月16日	冬休みスペシャル③ アイヌ語であそぼう!	田村雅史・大谷洋一	4名

ちゃれんがりー講座

共通テーマを設定し、異なる分野の学芸員がそれぞれの専門分野からアプローチしていく連続講座を実施しています。

平成 27 年度の「ちゃれんがりー講座」(4 件、202 名)

開催日	行事名	担当・講師	参加者数
1月30日	北海道・北東アジアの自然と暮らし① 樺太アイヌの『畏』を徹底的に解剖しよう	出利薬浩司	46名
2月13日	北海道・北東アジアの自然と暮らし② サハリン・アムール地域の自然と先住民の植物利用	水島未記	48名
2月27日	北海道・北東アジアの自然と暮らし③ 北海道の<らしさ>を考える	池田貴夫	49名
3月5日	北海道・北東アジアの自然と暮らし④ 擦文文化の交易と自然の恵み	鈴木琢也	59名

講座・講演会

北海道博物館のスタッフや、国内外のさまざまな分野の研究者による研究発表、展示会や所蔵資料に関する講座・講演会・シンポジウムなどを実施しています。

平成 27 年度の「講座・講演会」(13 件、1,588 名)

開催日	種類	行事名	担当・講師	参加者数
7月11日	フォーラム	北海道博物館と地域の関わりーリニューアルした北海道博物館は高齢社会のなかで何ができるのかー	右代啓視・堀繁久・池田貴夫・水島未記・小川正人	83名
7月19日	講演会	人と鶴の関わりーの歴史	久井貴世(北海道大学大学院生)	41名
7月26日	講演会	国立歴史民俗博物館・北海道博物館共同講演会	内田順子(国立歴史民俗博物館)、川村清志(国立歴史民俗博物館)	48名
8月2日	ちゃれんが講座	明治初期の人と鳥ーカラスとキジと白鳥とー	山田伸一	27名
9月5日	特別講演会	ブザンソン美術考古博物館とアイヌ	エマニュエル・ギゴン(ブザンソン美術考古博物館)	99名
9月13日	講演会	解像の創造力ー夷酋列像を結ぶ二重焦点ー	春木晶子	170名
9月20日	講演会	夷酋列像とアイヌ文化	谷本晃久(北海道大学)	198名
10月4日	講演会	武士・画人・詩人 波響	井上研一郎(宮城学院女子大学)	155名
10月11日	シンポジウム	夷酋列像は何をうつすか	パネリスト／五十嵐聡美(北海道立帯広美術館)、川上淳(札幌大学)、津田命子(北海道大学アイヌ・先住民研究センター)、春木晶子	226名
11月3日	文化の日講演会	「江戸」を描いた画像史料の楽しみ方	久留島浩(国立歴史民俗博物館)	89名
11月28日	講演会	Acrosss Borders: アーティストトーク	石川直樹(冒険家・写真家)	92名
12月19日	ちゃれんが講座	アンモナイトとアオイガイ	栗原憲一・圓谷昂史	76名
3月13日	ちゃれんが講座	北海道の川下信仰について	舟山直治	82名

特別イベント

特別展の期間中や文化の日などにあわせて、外部講師も招きながら、講座、体験イベント、演奏会などを開催しています。

平成 27 年度の「特別イベント」(7 件、1,119 名)

開催日	行事名	担当・講師	場所	参加者数
4月18日	北海道博物館開館記念イベント 「ついに開館！ここが見どころ！北海道博物館」	石森秀三・三浦泰之・小川正人・池田貴夫・会田理人・水島未記・東俊佑	講堂	88名
7月5日	絵本になった北海道博物館を見てみよう！	北海道札幌平岸高等学校デザインアートコースのみなさん	総合展示室内(1F 交流ゾーン)	88名
7月22日	北海道の博物館まつり	北海道の各博物館の職員	記念ホール	391名

開催日	行事名	担当・講師	場所	参加者数
8月 9日ほか	映画上映会 昭和戦前期の北海道映像 一天皇家から 寄贈された戦前の北海道関係映画フィルムー(全3回)	①三浦泰之 ②会田理人・山際秀紀 ③三浦泰之・水島未記・小林孝二・ 小川正人	講堂	212名
※①8月9日、②8月16日、③8月23日に実施(各回参加者:①80名、②63名、③69名)				
11月 3日	アイヌ音楽ライブ	MAREWREW(マレウレウ)	記念ホール	232名
3月19日ほか	北海道博物館 特別企画バックヤードツアー	杉山智昭・山際秀紀	収蔵庫、資料受 入整理室ほか(記 念ホール集合)	62名
※①3月19日、②3月26日の午前と午後に分けて計4回実施(各回参加者:①30名、②32名)				
3月27日	神楽映画会	舟山直治	特別展示室	46名

その他のイベント

平成27年度の「その他のイベント」(5件、298名)

開催日	種類	行事名	担当・講師	場所	参加者数
4月11日	特別イベント	北海道博物館開館直前企画:館長×学芸員トーク 「オープン直前! まるごと北海道博物館」	石森秀三・堀繁久・ 小川正人	北海道庁赤れんが庁舎 2階1号会議室	114名
5月30日	赤れんが講座	赤れんが講座① 館長×学芸員トーク 「学芸員 おすすめの一点 ようこそ北海道博物館 へ」展 みどころ紹介	石森秀三・出利葉浩司	北海道庁赤れんが庁舎 2階1号会議室	13名
7月25日	赤れんが講座	赤れんが講座② 館長×学芸員トーク 「鶴」展 みどころ紹介	石森秀三・水島未記、 久井貴世氏(北海道大 学大学院生)	北海道庁赤れんが庁舎 2階1号会議室	29名
9月26日	赤れんが講座	赤れんが講座③ 館長×学芸員トーク 「夷酋列像」展のみどころ	石森秀三・春木晶子	北海道庁赤れんが庁舎 2階1号会議室	66名
1月 9日	赤れんが講座	赤れんが講座④ 館長×学芸員トーク 「北海道のアンモナイトとその魅力」展みどころ紹介	石森秀三・圓谷昂史・ 栗原憲一	北海道庁赤れんが庁舎 2階1号会議室	76名

5 学習・活動支援

道民の「知りたい」気持ちに応えるとともに、博物館や北海道の自然・歴史・文化の理解促進のための人材育成事業の一環として、利用者をはじめ、地域の博物館や学校教育などさまざまな活動に対する支援を行っています。

学校教育との連携

開拓記念館では、学校教育との連携の一環事業として、平成11(1999)年度から「とびだせ開拓記念館」として、近隣の小学校を対象に、学芸員の学校等への出張派遣事業を行ったり、教育委員会などによる教員の研修や、教員団体・学校等による自主的な研修活動について、レクチャーや体験学習方法の指導などの協力を行ってきました。平成22(2010)年度から平成26(2014)年度にかけては、北海道博物館の開設準備のため事業を中止しました。

北海道博物館においても、開拓記念館が実施してきた学校教育との連携事業は重要な事業となっています。そのため博物館を生涯学習や学校教育においてより効果的に活用して頂くため、地域の博物館や学校などのニーズ把握に努めながら、順次以下のような事業を再開できるよう準備をすすめています。

- ・ 出前講座または出前博物館
- ・ 教職員を対象とした研修
- ・ はっけんキットの貸出

授業・講習等への協力

平成27年度は上記以外の学校教育との連携として、以下のような授業・講習等への協力を行いました。

学校名	内容等	実施日
北海道札幌平岸高校	同校デザインアートコースの授業の中での、北海道博物館のデジタル絵本作	5月9日～7月5日
総合研究大学院大学	集中講義・公開講演会「メディアリテラシーを育む」の共催	7月25日
北海道教育大学札幌校	北海道教育大学札幌校 教職実践演習 への協力	12月11日

博物館実習・インターンシップの受入

博物館実習

年に1回、8月に20名を上限として博物館実習（館務実習）を実施しています。実質10日間の日程で、博物館の活動および学芸員の業務のうち、できるだけ多くの面を経験できるようプログラムを組んでいます。平成27年度は、8月中旬から下旬にかけて10日間実施しました。大学などと連携し、より効果的な実習（研修）プログラムを構築することを目標として掲げています。また、見学実習は随時受け入れています。

平成27年度の博物館実習生の受入(10名)

大学名	学部・学科名	学年	人数	専攻	備考
札幌市立大学	デザイン学部	4年	2名	メディアデザイン	
札幌大学	地域共創群	3年	2名	アイヌ文化	
札幌学院大学	人文学部	3年	1名	考古学	
北海道大学	生物資源科学科	4年	1名	昆虫学	
	文学研究科(大学院)	2年	2名	博物館学	留学生
岡山理科大学	工学部	4年	1名	生化学	
北翔大学	生涯学習システム学部	4年	1名	学習コーチング	

平成 27 年度の博物館実習の様子

【2 日目】生活文化研究グループによる実習



羊毛を使用した体験キット製作:準備と活用まで

【5 日目】アイヌ文化研究グループによる実習



アイヌ民具資料、文書資料の取扱い方と整理

平成 27 年度の見学実習の受入(6 件、80 名)

実施日	大学名等	学部・講座名	人数	内容
5月29日	北海道大学	文学研究科芸術学講座	20名	バックヤード見学、総合展示室観覧
7月4日	札幌大学	地域共創学群	13名	バックヤード見学、総合展示室観覧
7月11日	北翔大学	教育文化学部	7名	概要説明、バックヤード見学、総合展示室観覧
8月23日	北海道開拓の村	「博物館実習」履修学生	6名	学芸員による館内業務等のレクチャー(バックヤードと学芸員業務)
9月16日	札幌国際大学	現代文化学科	24名	概要説明、バックヤード見学、総合展示室自由見学
10月30日	北海道大学	「博物館実習」履修学生	10名	概要説明、バックヤード見学、総合展示室観覧

インターンシップ

中学・高校、大学のカリキュラムの一環として行われるインターンシップや職場体験等についても、積極的に受け入れています。

平成 27 年度のインターンシップの受入(5 件、14 名)

期 間	学 校 名	学 年	人 数	備 考
6月2日	小樽市立朝里中学校	2年	7名	
7月2日～5日(3日間)	北海道真狩高等学校	3年	1名	
8月13日	北海道大学公共政策大学院	1年	2名	本庁(文化・スポーツ課)の受入
	北海道大学文学部	3年		
8月18日～23日(6日間)	北海道エコ・動物自然専門学校	2年	1名	
8月27日	北海道教育大学函館校	3年	3名	本庁(文化・スポーツ課)の受入
	都留文科大学文学部	3年		
	北海道大学法学部	3年		

レファレンス対応

北海道の自然・歴史・文化に関する身近な相談の窓口として、質問や疑問、専門的な内容に関する相談に図書室や電話などで対応しています。そうしたレファレンス対応は、利用者との対話による情報交換の場となっています。専門的な内容を含む質問等はそれぞれの専門の学芸員が対応していますが、内容によってはより正確な情報をお伝えするため、資料等を調べた後に回答しています。

平成 27 年度の対応件数

写 真 提 供 件 数	132 件
レ フ ァ レ ン ス 件 数	280 件 (来館 216 件、非来館 64 件)
アンケート、その他の利用件数	12 件

図書室

図書室には閲覧スペース、図書カウンターを設置しています。閲覧スペースには、北海道の自然・歴史・文化に関する図書や各地の博物館の機関誌などを配架するとともに、当館で公開しているアイヌ文化関連の映像や音声などが視聴できるスペースや、企画展開催に合わせて、展示に関連する図書を配架するコーナーを設けています。

図書カウンターには、司書資格を有する職員が常駐し、北海道の自然・歴史・文化に関する質問や図書に関する問い合わせ、博物館の資料への質問などにも対応しています。利用は無料です。

平成 27 年度の図書室利用者

図書室利用者	8,317名
うち図書室のみの利用者	38名



閲覧スペース



図書カウンター

図書室の蔵書

当館の刊行物のほか、職員が研究に用いる図書資料（専門書・一般書）を所蔵しています。道内外の博物館、大学などの機関や、個人からの寄贈等による刊行物も収集しており、書店では流通しない貴重な図書資料も多くあります。これらの図書資料は、主に2つの書庫で管理され、その一部を図書室内の閲覧スペースに配架し、一般の来館者に利用していただいています。

区 分		数 量 (冊)
管理換	旧北海道開拓記念館蔵書	131,515
	旧アイヌ民族文化研究センター蔵書	19,561
単行本図書		85
雑誌		233
博物館関係出版物		648
総計		152,042

アイヌ関係資料の閲覧・視聴

閲覧スペースでは、アイヌ民族文化研究センターが公開している資料を閲覧することができます。閲覧・視聴できる資料は、旧アイヌ民族文化研究センター並びに、その機能を引き継いだ当館のアイヌ民族文化研究センターが、採録や受贈により収集した資料（「山田秀三文庫」「久保寺逸彦文庫」「職員採録資料」）のうち、公開の手続きを終えた音声・映像・文書・写真資料です。



アイヌ民族文化研究センター資料公開スペース

6 博物館ネットワーク

北海道内の中核的な博物館として、道内の博物館や資料館などとの連携をとおり、北海道の自然・歴史・文化の活用を実践し、道内博物館全体の水準の向上や活力の強化のためのネットワークづくりを構築していくことで、地域の活性化に貢献することを目的とした事業や活動を展開しています。

博物館ネットワーク(北海道博物館協会など外部組織との連携)

北海道の中核的な博物館としての役割を果たすための取組の一つとして、博物館同士のネットワークをより強固なものとするため、北海道博物館協会、日本博物館協会等、各種博物館団体と連携した活動を行っています。

北海道博物館協会

昭和36(1961)年に発足した道内博物館のネットワークであり、100を超える館園が加盟しています。博物館大会、ミュージアム・マネージメント研修会の開催、各種刊行物の発行などの事業を展開し、道内の博物館活動の推進に大きく寄与しています。当館では、前身の開拓記念館以来長年にわたって事務局の運営を担うとともに、協会の活動に関わっています。

平成27(2015)年7月10日、11日には、「第54回北海道博物館大会」が当館と開拓の村を会場として開催されました。11日には当館職員が講師を務めたミュージアム・マネージメント研修会が開催されました。

第54回北海道博物館大会(概要)

主 催	北海道博物館協会、日本博物館協会北海道支部	共 催	日本ミュージアム・マネージメント学会北海道支部
後 援	北海道教育委員会、公益財団法人日本博物館協会	協 力	一般財団法人北海道歴史文化財団、北海道博物館
大会内容	10日 北海道博物館協会総会、表彰式、特別報告、研究大会 (会場：北海道開拓の村ビジターセンター) ※研究大会テーマ「高齢社会のなかでミュージアムにできること」 11日 北海道博物館・見学、北海道の博物館まつり、ポスター発表 (これら2つの会場：当館記念ホール) ミュージアム・マネージメント研修会 (会場：当館講堂、参加者：79名) テーマ：北海道博物館と地域の関わり リニューアルした北海道博物館は高齢社会のなかで何ができるのかー		

平成27年度の職員の委嘱(兼務)

北海道博物館協会 会長	石森 秀三
北海道博物館協会 理事	舟山 直治
北海道博物館協会 事務局長	水島 未記
北海道博物館協会 事務局次長	池田 貴夫
北海道博物館協会 事務局員	三浦 泰之
北海道博物館協会 事務局員	添田 雄二
北海道博物館協会 事務局員	栗原 憲一

日本博物館協会

当館は博物館の全国組織である公益財団法人日本博物館協会とも連携し、また、同協会北海道支部の支部長館ともなっており、全国規模の組織と道内の博物館をつなぐ役割を果たしています。

平成27年度の職員の委嘱(兼務)

財団法人日本博物館協会 理事	石森 秀三
財団法人日本博物館協会 北海道支部長	石森 秀三

全国歴史民俗系博物館協議会

当館は歴史・民俗系博物館の全国ネットワーク組織である全国歴史民俗系博物館協議会に加盟し、北海道地域の幹事館として、全国と道内博物館をつなぐ中継館としての役割を担っています。

その他

- ・「津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト」(大津波プロジェクト)ワークショップ

日 時	12月4日	場 所	北海道博物館講堂501	参加者数	30名
主 催	津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会				
構 成	岩手県立博物館、陸前高田市立博物館、名古屋市博物館、福井県立歴史博物館、東京国立博物館、日本博物館協会、NPO 法人文化財保存支援機構				
大津波プロジェクトは、東日本大震災後の平成26(2014)年度に、「活動の記録」、「技術の共有と普及」、「活動に対する理解の醸成」を活動の目的に掲げて、岩手県立博物館を中心に結成された「津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会」が、文化庁の補助金を受けて、活動しているプロジェクトです。当館はこの事業のワークショップに北海道博物館協会と共に共催しました。					

北のミュージアム活性化実行委員会

文化庁の「平成 27 年度地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」の助成を受け、北のミュージアム活性化実行委員会を中心に、「広い北海道をつなぐ地域博物館共同事業」を実施しました。この事業の目的は、北海道全域の博物館が一体となって博物館の魅力を道民に発信し、地域の歴史や文化についての理解をうながすことで、地域活性化へとつながるシステムを構築することにあります。同年度の事業は、当館が中心となり、北海道博物館協会加盟館 116 館園の基本情報や施設写真を盛り込んだ「北海道の博物館マップ」を制作しました。また、当館で行われた北海道博物館協会の大会（7 月 11 日）にあわせ、各地域の博物館などの職員が各ブースで「ふれあい交流員」としてワークショップを行う「北海道の博物館まつり」（会場：当館記念ホール）を開催しました。



「北海道の博物館まつり」の会場のようす



博物館等職員によるワークショップ

周辺施設とのネットワーク

かるちやる net

平成 22（2010）年 2 月、野幌森林公園周辺の札幌市厚別区と江別市の文化施設が集まり、相互の協力・連携を密にするための協議会として「かるちやる net」（文化施設連絡協議会）が発足しました。参加施設は 10 施設で当館が事務局を担当し、各施設の広報・PR 活動や体験イベントなどを共同で開催しています。事業の実施に際しては、各施設における活動に加え、平成 21（2009）年 12 月に北海道とイオン北海道株の間で締結された包括連携協定（道の教育・文化施設の広報活動への協力・協働事業の実施）を活用し、より広い層への PR を行っています。

<参加施設>

- ・札幌市青少年科学館
- ・サンピアザ水族館
- ・北海道立埋蔵文化財センター
- ・北海道立図書館
- ・江別市郷土資料館
- ・江別市セラミックアートセンター
- ・北海道立教育研究所
- ・北海道開拓の村
- ・自然ふれあい交流館
- ・北海道博物館

平成 27 年度の実施内容

(1) 「てくてく、ぺったん！かるちやるスタンプラリー」かるちやる net(文化施設連絡協議会)スタンプラリー

日時	7 月 18 日～8 月 23 日	参加者数	587 名
場所	—		
<p>かるちやる net 加盟館（北海道立教育研究所を除く 9 館）で配布されている専用のスタンプラリーシートに、かるちやるスタンプラリー用のスタンプを押すスタンプラリーを実施しました。5 館分のスタンプを集めると記念品を贈呈し、さらに、9 館すべての館のスタンプを集めるとさらに記念品をもう 1 つ贈呈しました。</p>			

(2) 「発見・体験 文化の秋～遊ぼう！学ぼう！あつべつ・えべつ」

日 時	10月25日
参加者数	400名
場 所	サンピアザ光の広場（札幌市厚別区厚別中央2条5丁目）
厚別、江別地域にある文化施設の活動内容について、パネルや資料などの展示や体験イベントを通じて、参加機関の広報を行うアウトリーチ活動を行いました。	



イベントの様子

(3) 「かるちやるガーデン2015」

日 時	11月29日	参加者数	460名
場 所	Sapporo55 ビル内（札幌市中央区北5条西5丁目7）		
かるちやる net と北海道教育大学の協働による体験型広報イベントを実施しました。			

(4) 共通行事予定チラシの作成

かるちやる通信として、各施設の行事予定表をまとめたチラシを数ヶ月に1度発行しました。

かるちやる net 行事案内	4～5月号	2015年3月末
かるちやる net 行事案内	6～7月号	2015年5月末
かるちやる通信	8～9月号	2015年7月末
かるちやる通信	10～11月号	2015年9月末
かるちやる通信	1～3月号	2015年12月末

(5) 商業施設でのPR活動の実施

サンピアザ光の広場、イオン平岡店においてチラシラックを設置し、各施設のリーフレット、チラシ等を配布しました。

CISE ネットワーク

CISE ネットワークは、北海道大学総合博物館を中心に、札幌周辺地域の博物館・科学館・動物園・図書館等の教育施設が連携し、実物科学教育を推進することを目的としてつくられたネットワークです。教育プログラム・教材の開発・活用、イベントの主催、他組織主催イベントへの出展等の活動を行っています。当館は平成27（2015）年4月に総合博物館として北海道博物館が開館したことにより、自然史系・科学系の博物館等との連携を深めるため、平成27（2015）年度に正式メンバーとして加わりました。

・「CISE サイエンス・フェスティバル2016 in チ・カ・ホ ～生きものたちの北海道～」

日 時	2016年1月23日、24日
参加者数	23日：3,795人 24日：3,966人（計7,761人）
場 所	札幌駅前地下歩行空間
当館は「博物館で楽しむ！ 北海道の生き物ワールド」というブースを設置して、このイベントに参加しました。	



イベントの様子

外部イベントへの参画

サイエンスパーク

子どもたちが科学技術を身近に体験し学ぶ機会を提供し、豊かな北海道の未来を創る科学技術の振興を図ることを目的に、北海道と独立行政法人北海道総合研究機構の共催で開催され、民間企業等も参加しているイベントです。当館の前身である開拓記念館とアイヌ民族文化研究センターは毎年この事業に参画してきました。北海道博物館となってもこの取組を引き継ぎ、体験活動を通じた北海道の自然・歴史・文化に関する知識の普及や事業のPR活動を行っています。

主催	北海道・独立行政法人北海道総合研究機構
日時	8月5日
参加者数	530人
場所	札幌駅前地下歩行空間
当館は「ゴム製の貝類レプリカづくり」というブースを設置して、このイベントに参加しました。	



サイエンスパークの様子

カルチャーナイト

札幌市内の文化施設を夜間開放し、市民が地域の文化を楽しむイベントです。当館では、北海道の自然・歴史・文化に親しんでもらうことを目的に、赤れんが庁舎内「北海道博物館赤れんがサテライト」の夜間開放と解説活動を実施しています。

主催	NPO 法人カルチャーナイト北海道（カルチャーナイト実行委員会）
日時	7月17日
参加者数	110名
場所	北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）
「北海道博物館赤れんがサテライト」を夜間開放しました。	



カルチャーナイトの様子

教員のための博物館の日 in 札幌

「教員のための博物館の日」は、国立科学博物館によりはじめられた事業で、地域の学校の教員などに博物館利用のメリットや可能性を伝える事業です。

主催	一般財団法人北海道歴史文化財団、道央地区博物館等連絡協議会、独立行政法人国立科学博物館、公益財団法人日本博物館協会		
日時	8月4日	参加者数	30名
場所	北海道開拓の村ビジターセンター		
当館はこのイベントに参加・出展し、総合展示の見どころや学校団体向けの体験プログラムについて紹介しました。			

7 地域交流・社会貢献

道民や市民団体等が学びの場または学びの発表の場として博物館を活用する取組や、さまざまな博物館事業に参画しながら、主体的に活動を展開していく事業などを展開しています。

また、北海道とそれを取り巻く地域の自然・歴史・文化を学際的に調査研究する総合博物館として、研究成果を活かして広く社会に貢献するとともに、北海道の豊かな未来の実現にも貢献していくため、外部団体などの研修協力や各種委員の派遣などを行っています。

道民参加型組織

開拓記念館では、来館者により良く利用していただくために、さまざまなアイデアや意見をお寄せいただくことを目的として、平成17（2005）年度から「ミュージアム・メイト」制度を導入し（任期2年）、平成26（2014）年度まで実施してきました。

北海道博物館の開設にあたり、「北海道の地域住民と博物館をつなぐミュージアム・エージェント（世話人）育成事業」（平成25年度文化庁地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業）などをとおして、道民の博物館活動への参画のあり方、友の会等博物館支援組織のあり方についてミュージアム・メイトの方々と意見交換を実施してきました。

北海道博物館の開設とともに、「ミュージアム・メイト」制度は終了しましたが、開拓記念館の取組は新体制へ継承され、今後ボランティアや友の会といった道民参加型組織の創設に向けた取組を進めるため、平成27（2015）年度は先進地事例調査を実施しました。

日 程	派遣先
平成27年 11月28日～29日	「友の会サミット2015」（大阪市立自然史博物館）
平成28年 3月16日～18日	国立科学博物館コンパス、三重総合博物館、キッズプラザ大阪

道民協働・発信事業の展開

道民が発信者として博物館活動に参画する一つの機会として、当館の展示の一部を道民や各種団体などと協働で作成する取組を進めています。

北海道民のちゃれんが展示コーナー！（仮称）

道民参加型事業の導入に向けて、平成27年度は試行的に北海道の自然・歴史・文化を題材として活動している団体や研究会が所蔵する資料を展示するコーナーを当館の中2階にある休憩ラウンジ内に設置しました。

団 体 名	北海道化石会
資 料	同会所蔵のアンモナイト化石30点
期 間	平成28年（2016）1月29日～平成29年（2017）3月31日（予定）

今とこれからの創る

総合展示室2階にある第4テーマでは、北海道に住む同時代を生きる人々が各地で直面している課題に取り組み、北海道の現在と未来を創りつつある状況を伝えることを目的に、その活動を行っている人が主体的に展示に関わっていただくコーナーを設けています。

平成27年度の実施内容

展 示 内 容	執 筆 ・ 協 力 者
北海道南西沖地震を語りつなぐ ー奥尻島から	奥尻町教育委員会 稲垣森太さん（執筆）
25年を振り返る未来をたぐり寄せる者を	「とちかちエテケカンパの会」会事務局 芦澤満さん（執筆）
増えすぎたエゾシカの活用を模索する	高瀬季里子（札幌市）さん（展示協力）

他機関等との協力・連携

(1) 市民・他団体への協力

平成 27 年度の市民・他団体への協力(7 件)

種別	事業名	主催者・団体等	開催日	会場
共催	北海道博物館収蔵品—Pho っ to する写真展	爲岡進	5月15日～5月31日	アートホール東洲館
共催	文化財講演会	北海道文化財保護協会	6月6日	北海道博物館
共催	第11回夏こそ！雪プロセミナー in 北海道	北海道「雪」プロジェクト	7月25日	北海道博物館
共催	道新ぶんぶんクラブ 特別鑑賞会	北海道新聞社事業センター	9月11日、9月30日	北海道博物館
参加	ジオ・フェスティバル in Sapporo 2015	ジオ・フェスティバル in Sapporo 2015 実行委員会	10月3日	札幌市青少年科学館
共催	NHK 歴史セミナー 絵が語られるふるさと 北海道の歴史～夷酋列像が描かれるまで～	NHK 札幌放送局	10月17日～10月18日	北海道博物館
後援	厚真シンポジウム 遺跡が語るアイヌ文化の成立—11～14世紀の北海道と本州島—	厚真シンポジウム実行委員会	10月9日～10月11日	厚真町総合福祉センター、北海道博物館

(2) 学会及び研究会との交流

平成 27 年度の学会や研究会との交流(4 件)

種別	事業名	主催者・団体等	開催日	会場
共催	「地質の日」展示「札幌の過去に見る洪水・土砂災害」	「地質の日」展示実行委員会	4月28日～5月31日	札幌市資料館
共催	第30回日本植生史学会大会	日本植生史学会	11月6日～11月7日	北海道博物館
共催	平成27年度全日本博物館学会第3回博物館教育研究会	全日本博物館学会	2月20日	北海道博物館
共催	北海道自然史研究会 2015 年度大会	北海道自然史研究会	2月28日	北海道博物館

(3) 道内市町村等との連携

平成 27 年度の道内市町村との連携(5 件)

種別	市町村名	事業名	主催団体等	開催日	会場
共催	平取町	平取町二風谷アイヌ文化博物館第21回特別展「アイヌ民俗資料を解き明かす科学の力」	平取町二風谷アイヌ文化博物館	10月15日 ～12月15日	平取町二風谷 アイヌ文化博物館
共催	洞爺湖町、 様似町ほか	北海道ジオパークパネル展 in 札幌の 共催	空知総合振興局、胆振総合振興局、日高振興局、オホーツク総合振興局、十勝総合振興局、三笠ジオパーク推進協議会、洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会、アポイ岳ジオパーク推進協議会、白滝ジオパーク推進協議会、とから鹿追ジオパーク推進協議会	2月24日 ～2月27日	札幌地下歩行空 間 北2条広場
参加	札幌市	生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク事業への参加	札幌市環境局	7月18日 ～9月30日	
参加	札幌市	札幌コンベンションセンター事業の「SORAこそだてフェスティバル 2015」への参加・出展	札幌コンベンションセンター	12月12日	札幌コンベンションセンター
加入	三笠市	三笠ジオパーク推進協議会正会員への加入	三笠ジオパーク推進協議会	4月24日(加入)	

※「いきものつながりクイズラリー2015」開催期間

(4) 外部団体等の研修への協力

平成 27 年度の外部団体への研修協力(5 件)

主催者	内容等	対応者・グループ	実施日	場所
ほっかいどう学(自然環境)の会	研修会「北海道博物館の自然展示について」	堀繁久	6月13日	当館講堂ほか
札幌市公園緑地協会 共同体滝野管理センター	「滝野の森クラブ」研修「北海道の樹木とその利用」	水島未記	10月31日	国営滝野すずらん丘陵公園(札幌市)
北海道立北方民族博物館 館解説員研修の受入れ	北海道立北方民族博物館解説員研修	道民サービスグループ 社会貢献グループ	12月1日	当館総合展示室、特別展示室、はっけん広場
札幌商工会議所	「札幌シティガイド検定」フォローアップ研修「札幌市民も知らない 札幌の自然」	水島未記	12月3日	当館講堂、総合展示室
専門図書館協議会	平成 27 年度専門図書館協議会北海道地区見学会	博物館基盤グループ 道民サービスグループ 社会貢献グループ	1月22日	当館収蔵庫、図書室、書庫、講堂

職員への委嘱

(1) 各種委員等

平成 27 年度の各種委員への就任(32 件)

所属研究グループ	氏名	委嘱内容等	期間
学芸部長	舟山直治	北海道教育庁 松前神楽調査委員会 調査委員	2014年6月17日～2017年6月16日
		小樽市文化財審議会 委員	2013年11月8日～2015年10月31日
		江差町歴史文化基本構想策定委員会 委員	2015年8月3日～2017年12月31日
		小樽市文化財審議会 委員	2015年11月18日～2017年10月31日
自然研究グループ	水島未記	公益財団法人北海道新聞野生生物基金 評議員	2014年4月1日～2016年3月31日
歴史研究グループ	右代啓視	江別市文化財保護委員会 委員	2014年8月1日～2016年7月31日
		平成 27 年度地域政策推進事業「北方領土遺産発掘・継承事業」の実施に係る、北方領土遺産調査検討会議 委員	2015年8月1日～2016年3月31日
		平成 28 年度国立民族学博物館文化資源プロジェクト 審査・審議	2016年2月5日～2016年3月31日
	三浦泰之	石狩市文化財保護審議会 委員	2014年5月1日～2016年4月30日
		北海道教育庁 松前神楽調査委員会 調査委員	2014年6月17日～2017年6月16日
		文化庁 アイヌ文化関係資料の買取評価員	2016年2月22日～2016年2月22日
生活文化研究グループ	池田貴夫	北海道教育庁 松前神楽調査委員会 調査委員	2014年6月17日～2017年6月16日
		平成 27 年度国立民族学博物館文化資源プロジェクトにかかる審査・審議 意見書作成	2015年1月6日～2016年3月31日
		会田理人 別海町史跡旧奥行臼通所整備検討委員会 委員	2014年7月1日～2016年3月31日
博物館研究グループ	堀 繁久	北海道希少野生動植物保護対策検討委員会 委員	2014年9月1日～2016年3月31日
		野幌自然環境モニタリング検討会 委員	2015年4月1日～2017年3月31日
		北海道新幹線環境影響評価事後調査アドバイザー (仮称)室蘭市環境科学館及び市立室蘭図書館の基本計画策定に係る整備検討委員会 委員	2015年4月1日～2016年3月31日 2015年8月1日～2015年12月31日
	栗原憲一	平成 27 年度プロポーザル型政策形成事業に係る政策形成チームメンバー	2015年7月7日～2016年3月31日
	小林孝二	小樽の歴史と自然を生かしたまちづくり景観審議会 委員	2014年8月1日～2016年7月31日
		江別市文化財保護委員会 委員	2014年8月1日～2016年7月31日

所属研究グループ	氏名	委嘱内容等	期間
アイヌ文化研究グループ	小川正人	国立のアイヌ文化博物館(仮称)展示ワーキング会議 委員	2015年 7月 27日～2016年 3月 31日
		平成27年度危機的な状況にある言語・方言に関する研究協議会 委員	2015年 8月 28日～2016年 3月 31日
		「平成27年度アイヌ語のアーカイブ作成支援事業」審査委員会委員、並びに「平成27年度アイヌ語の保存・継承に必要なアーカイブ化事業(アナログ音声資料のデジタル化)」に係る審査委員会 委員	2015年 12月 22日～2016年 3月 31日
甲地利恵	北海道立北方民族博物館資料収集評価委員会 委員	2015年 4月 1日～2017年 3月 31日	
遠藤志保	平成27年度口承文芸視聴覚資料作成事業編集委員	2015年 6月 5日～2016年 3月 31日	
大坂 拓	平成27年度口承文芸視聴覚資料作成事業編集委員	2015年 6月 5日～2016年 3月 31日	
出利葉浩司		国立のアイヌ文化博物館(仮称)展示ワーキング会議 委員	2015年 7月 27日～2016年 3月 31日
		アイヌの伝統的生活空間の再生事業検討会議 委員	2015年 7月 28日～2016年 3月 31日
		日本文化人類学会第26期評議員	2014年 4月 1日～2016年 3月 31日
		アイヌ文化賞等表彰者選考委員会 委員	2015年 11月 17日～2016年 3月 31日
		文化庁 アイヌ文化関係資料の買取評価員	2016年 2月 22日～2016年 2月 22日

(2) 非常勤講師

平成27年度の非常勤講師への就任(9件)

所属研究グループ	委嘱者	大学名	職名	講義内容	期間
歴史研究グループ	右代啓視	東海大学	非常勤講師	博物館展示論、博物館実習Ⅰ	2015年 4月 1日～2016年 3月 31日
	三浦泰之	札幌大学	非常勤講師	博物館展示論	2015年 9月 19日～2016年 3月 31日
自然研究グループ	添田雄二	北海道教育大学岩見沢校	非常勤講師	自然科学入門Ⅰ	2015年 4月 1日～9月 30日
生活文化研究グループ	池田貴夫	北海学園大学	非常勤講師	博物館実習Ⅲ	2015年 4月 1日～2016年 3月 31日
		札幌市立大学	非常勤講師	寒冷地生活支援看護学特論	2015年 9月 28日～2016年 3月 31日
アイヌ文化研究グループ	田村雅史	札幌大学	非常勤講師	アイヌ語Ⅱ	2015年 10月 16日～2016年 3月 31日
	出利葉浩司	北海学園大学	非常勤講師	博物館展示論	2015年 4月 1日～9月 30日
		北星学園大学	非常勤講師	北海道文化論Ⅰ	2015年 4月 1日～9月 30日
		放送大学	教材作成	博物館展示論	2015年 4月 1日～2016年 3月 31日

8 広報

当館の役割や事業、調査研究の成果や資料情報などを知っていただくため、マスメディアや印刷物、インターネットなどを活用した広報活動を行っています。そうした広報活動には、当館を利用するすべての人が自らの興味や関心によって楽しみながら学ぶための支援や、道民や一般企業などによる各種事業への参画や協働を促進し、地域に支えられる博物館づくりの裾を広げていくという側面もあります。

報道機関等への対応

新聞

平成27年度における新聞への掲載実績は67件でした。

北海道博物館のオープンや総合展示の紹介する記事や、第1回特別展「夷酋列像」の際には展示内容を紹介する記事が北海道新聞に数多く掲載されました。そのほか館長のインタビュー記事や、イベントに関する情報が「まんまる新聞」に定期的に掲載されるなどしました。

雑誌

平成27年度における雑誌への掲載実績は84件でした。

北海道の多様な生き物のつながりを展示している第5テーマ「生き物たちの北海道」を紹介する記事がJR北海道の機内誌『THE JR Hokkaido』6月号に掲載されたり、第1回特別展「夷酋列像」の展示内容を紹介する記事がAIR DO 機内誌『ラポラ』No.136に掲載されるなど、観光関係の雑誌に数多く掲載されました。

テレビ

平成27年度におけるテレビでの報道実績は43件でした。

開館時の4月から5月は、総合展示の見どころを紹介する報道が道内の各放送局を中心に多くありました。第1回特別展「夷酋列像」の際には、共催のNHK札幌放送局による報道や番組放送がありました。その他に、当館職員が出演した放送番組が8件ありました。

ラジオ

平成27年度におけるラジオでの報道実績は19件でした。

開館時の4月から5月は総合展示の見どころを紹介する放送が多くありました。また、当館の館長や職員が出演して北海道博物館や専門分野に関する話をする放送が7件ありました。

学術的な情報や知見の提供

平成27年度の学術的な情報や知見の提供(105件)

【学芸部長(2件)】

対応者	タイトル/内容	出典/番組名	社名等	種別
舟山直治	戦後70年北海道第7部明日へ6祭り	朝日新聞(2015年12月27日)	朝日新聞社	協力
舟山直治	しばれの浜で 北海道積丹町	小さな旅(2016年2月14日放送)	NHK	協力

【自然研究グループ(13件)】

対応者	タイトル/内容	出典/番組名	社名等	種別
水島未記	山田航のモノローグ紀行	北海道新聞(2015年4月7日夕刊)	北海道新聞社	協力
水島未記	学芸員が語る新展示の見どころ 生き物たちの北海道	北海道新聞(2015年4月21日)	北海道新聞社	寄稿
水島未記	新たな自然史展示の試み 北海道博物館 第5テーマ「生き物たちの北海道」	モーリー 39号(2015年6月)	北海道新聞野生生物基金	寄稿

対応者	タイトル/内容	出典/番組名	社名等	種別
水島未記	親と子サンデー「自由研究 調べ方、まとめ方」	北海道新聞(2015年7月19日)	北海道新聞社	協力
水島未記	「世界から見た北海道」を実感! 北海道博物館	モーリー 40号(2015年9月)	北海道新聞野生生物基金	寄稿
水島未記	石川直樹「北への旅 北からのまなざし」第1回	北海道新聞(2015年12月7日)	北海道新聞社	協力
添田雄二	70年に忠類で発掘の歯化石 ヤベオオツノヅカと判明	北海道新聞(2015年8月1日朝刊)	北海道新聞社	協力
添田雄二	絶滅巨大ヅカだった ヤベオオツノヅカ 道内最古12万年前	十勝毎日新聞(2015年8月1日)	十勝毎日新聞社	協力
添田雄二	ヤベオオツノヅカ 道東でナウマンゾウと共存	北海道新聞(2015年8月3日夕刊)	北海道新聞社	協力
添田雄二	1970年発掘の化石 古代シカの歯だった	朝日新聞(2015年8月15日朝刊)	朝日新聞社	協力
添田雄二	アンモナイト塗り絵ずり	北海道新聞(2015年12月21日夕刊)	北海道新聞社	協力
添田雄二	ゾウたちが生きた、境界の大地	カイ vol.30(2016年1月20日)	(株)ノーザンクロス	協力
圓谷昂史	宝さがし—アオイガイと出会う旅	ましま 85号(平成27年10月)	旅の文化研究所	寄稿

【歴史研究グループ(28件)】

対応者	タイトル/内容	出典/番組名	社名等	種別
右代啓視	「続縄文文化」があった	公明新聞(2015年7月3日)	公明党	協力
右代啓視	北方領土遺産調査検討委員会を設立	釧路新聞(2015年8月6日)	釧路新聞社	協力
右代啓視	北方領土遺産調査検討委員会発足	根室新聞(2015年8月6日)	根室新聞社	協力
右代啓視	北方領土遺産継承へ検討会議	毎日新聞(2015年8月6日)	毎日新聞社	協力
右代啓視	夷酋列像展 激動の蝦夷地体感	北海道新聞(2015年8月22日)	北海道新聞社	協力
右代啓視	夷酋列像 描かれた蝦夷地のイメージ	北海道新聞(2015年8月30日)	北海道新聞社	協力
右代啓視	夷酋列像展 仏から作品到着	北海道新聞(2015年9月3日)	北海道新聞社	協力
右代啓視	道博物館で夷酋列像展	北海道新聞(2015年9月6日)	北海道新聞社	協力
右代啓視	開館記念特別展「夷酋列像」	まんまる新聞(2015年9月11日)	(有)くらしの新聞社	協力
右代啓視	刻画発見で研究 道博物館と共同で	釧路新聞(2015年9月22日)	釧路新聞社	協力
右代啓視	古代岩面刻画共同筆統で一致	毎日新聞(2015年9月26日)	毎日新聞社	協力
右代啓視	日仏の信頼 里帰り実現 夷酋列像展の舞台裏	北海道新聞(2015年10月12日)	北海道新聞社	協力
右代啓視	「夷酋列像」展を首相夫人が鑑賞	北海道新聞(2015年10月15日)	北海道新聞社	協力
右代啓視	北の文化「夷酋列像がひらむ謎」	朝日新聞(2015年10月17日)	朝日新聞社	協力
右代啓視	夷酋列像をひもとく-北海道博物館でシンポジウム	北海道新聞(2015年10月22日)	北海道新聞社	協力
右代啓視	夷酋列像 見える華やかな渡来品	北海道新聞(2015年10月29日)	北海道新聞社	協力
山田伸一	#22 札幌 ～なぜ札幌が200万都市になった?～	プラタモリ(2015年11月7日放送)	NHK	協力
山田伸一	#23 小樽 ～観光地・小樽発展の秘密は「衰退」にあり?～	プラタモリ(2015年11月14日放送)	NHK	協力
三浦泰之	北海道の秋一番 ほっこり甘〜い! かぼちゃ物語	食彩の王国(2015年9月26日)	テレビ朝日	協力
三浦泰之	発見! 体感! 札幌を潤すサケの故郷 豊平川紀行	川紀行(2015年11月3日)	NHK BS プレミアム	協力
三浦泰之	来道170年記念蝦夷地への熱き重い②/地形描写 驚異の精度/「地理取調図」と「国郡附録図」	十勝毎日新聞(2015年12月1日)	十勝毎日新聞社	協力
三浦泰之	来道170年記念蝦夷地への熱き重い⑤/北海道に多大な功績/誕生200年まであと3年	十勝毎日新聞(2015年12月4日)	十勝毎日新聞社	協力
三浦泰之	「武四郎像」を語る/道博物館の三浦さん講演	十勝毎日新聞(2015年12月14日)	十勝毎日新聞社	協力
春木晶子	夷酋列像展 来月5日から北海道博物館	北海道新聞(2015年8月22日)	北海道新聞社	協力
春木晶子	「夷酋列像」一魅了する蝦夷イメージ	文化情報 352号(2015年9月1日)	北海道文化財保護協会	寄稿
寺林伸明	『戦後特集 争いから平和は生まれにくい 未来に残す70年前の真実』別視点から過去を見る 中国に空襲した日本	札幌啓成高校新聞(2015年7月22日)	札幌啓成高等学校 新聞局	協力
寺林伸明	1面・「戦後70年」・「加害行為 常設展示3割 戦争資料展示 85施設を本誌調査」、35面・「戦争展示 悩む現場 加害説明に「偏面的批判」	朝日新聞(2015年9月7日)	朝日新聞大阪本社	協力
寺林伸明	西田秀子「太平洋戦争下 犬、猫の毛皮献納運動の経緯と実態」(予定)	札幌市公文書館年報 第3号(2016年6月刊行 予定)	札幌市公文書館	協力

【生活文化研究グループ(33件)】

対応者	タイトル/内容	出典/番組名	社名等	種別
池田貴夫	奥尻島について	(2015年5月14日対応)	記者(社名不詳)	照会
池田貴夫	北海道の開拓について	(2015年5月17日対応)	記者(社名不詳)	照会
池田貴夫	北海道博物館第3テーマのサケの木漏れについて	(2015年5月21日対応)	記者(社名不詳)	照会
池田貴夫	北海道の道民性について	(2015年5月26日対応)	中国人民日報(北海道仲介)	協力
池田貴夫	北海道方言「よかったです」について	何コレ珍百景(2015年5月26日対応)	テレビ朝日	協力
池田貴夫	北海道弁をしゃべる自動販売機の開発のため	(2015年6月30日対応)	ダイドードリンコ	照会
池田貴夫	北海道独特の食生活について	おばあちゃんの知恵(2015年8月7日対応)	制作会社タイガープロダクション	協力
池田貴夫	和寒神社の神楽面について	(2015年10月1日対応)	記者(社名不詳)	照会
池田貴夫	観楓会について	(2015年10月16日対応)	北海道放送(HBC)	協力
池田貴夫	カーバイトランプについて	生活面 いずみ(2015年12月2日対応)	北海道新聞社	協力
池田貴夫	白石藩士族移住の際の庚午丸について	(2015年12月12日対応)	記者(社名不詳)	照会
池田貴夫	『北海道ルール』という本を書きたい	(2015年12月15日来館)	記者(社名不詳)	情報提供
池田貴夫	札幌のトリビアを教えてください	オントナ トリビア特集(2015年12月22日対応)	北海道新聞社	協力
池田貴夫	北海道に特徴的なおせち料理について(NHKのテレビ番組)	(2015年12月29日対応)	(株)千代田ラフト	協力
池田貴夫	札幌市がチョコレート消費率1位について	(2016年1月13日対応)	NHK札幌放送局リポーター	協力
池田貴夫	北海道はなぜ美人が多いのか(調査結果全国3位)	ひみつの県民SHOW(2016年1月21日対応)	(株)ハウフルス	協力
池田貴夫	節分の落花生撒きについて	めざましテレビ(2016年2月4日放送)	フジテレビ	協力
池田貴夫	開基80年の時の道民歌	(2016年2月18日対応)	北海道	照会
池田貴夫	小樽の潮まつりについて	(2016年3月15日対応)	北海道新聞社小樽支局	協力
池田貴夫	北海道方言とされる「ばやばや」について(テレビ番組)	(2016年3月17日対応)	(株)ザイオン	協力
会田理人	学芸員が語る新展示の見どころ⑤	北海道新聞(2015年4月20日夕刊)	北海道新聞社	協力
会田理人	樺太-北海道 戦時海底ケーブル 見方真っ二つ	東京新聞(2015年9月3日夕刊)	中日新聞東京本社	協力
会田理人	残された海底ケーブル 戦前に設置 ホタテ漁で「水揚げ」	信濃毎日新聞(2015年9月3日夕刊)	信濃毎日新聞社	協力
会田理人	戦後70年 樺太-北海道結ぶ海底ケーブル 北方の大動脈 ごみか遺産か	日本経済新聞(2015年9月14日夕刊)	日本経済新聞社	協力
会田理人	博物館展示のいま47 「森のちやれんが」北海道博物館(1)	歴博 195号(2016年3月20日発行)	国立歴史民俗博物館	寄稿
会田理人	博物館展示のいま48 「森のちやれんが」北海道博物館(2)	歴博 196号(2016年5月30日発行)	国立歴史民俗博物館	寄稿
会田理人	北海道総合計画第一次5ヵ年計画ポスターについて	北海道戦後70年「エネルギー苦闘と格闘の記録」(2015年9月15日放送)	NHK	協力
会田理人	北海道のお菓子作りの歴史について	ニュース シブ5時(2016年2月10日放送)	NHK	協力
会田理人	利尻のテングサと海女の出稼ぎ	ウェブサイト「集まれ! 北海道の学芸員」コラム1 レー「地域の遺産」(2015年11月8日)	北海道博物館協会学芸員 員部会	寄稿
青柳かつら	「知恵の蔵」の活動を冊子に:土別市朝日町地域活性の一例として配布	道北日報(2015年4月4日号)	道北日報社	協力
青柳かつら	地域創造の取り組み:土別市朝日町,旭川市東旭川町	FMさっぽろ村ラジオ「阪崎健治朗の『人の絆を創るために』」第458回(2015年6月8日)	FMさっぽろ村ラジオ	出演
青柳かつら	博物館の地域活動に関するアンケート結果:2015年9月6日実施	旭川兵村記念館友の会HP(ウェブ)	旭川兵村記念館友の会	寄稿
青柳かつら	博物館の地域活動に関するアンケート結果:2015年10月18日実施	旭川兵村記念館友の会HP(ウェブ)	旭川兵村記念館友の会	寄稿

【博物館研究グループ(13件)】

対応者	タイトル/内容	出典/番組名	社名等	種別
堀繁久	学芸員が語る新展示の見どころ①北と南の出会い	北海道新聞(2015年4月15日)	北海道新聞社	寄稿
堀繁久	【北の文化】北海道博物館開館に寄せて	朝日新聞(2015年4月18日)	朝日新聞社	寄稿
堀繁久	手前味噌 北海道博物館	まほら 84号(2015年7月)	旅の文化研究所	寄稿
杉山智昭	科学が解明 アイヌ民具の謎	北海道新聞(2015年11月14日)	北海道新聞社	協力
栗原憲一	浦幌産化石は最後のアンモナイト 北海道博物館が発表	北海道新聞(2015年11月21日朝刊)	北海道新聞社	協力
栗原憲一	恐竜絶滅期のアンモナイト	読売新聞(2015年11月23日朝刊)	読売新聞社	協力
栗原憲一	絶滅直前、6680万年まえの化石? 浦幌のアンモナイト /北海道	朝日新聞(2015年11月24日朝刊)	朝日新聞社	協力
栗原憲一	浦幌のアンモナイト、28日から公開 道博物館 札幌	十勝毎日新聞(2015年11月26日朝刊)	十勝毎日新聞社	協力
栗原憲一	アンモナイト「最後の姿」足寄でレプリカ展示	北海道新聞(2016年1月5日地方版)	北海道新聞社	協力
栗原憲一	“最後のアンモナイト”が北海道に!	子供の科学 2月号(2016年1月10日)	誠文堂新光社	協力
栗原憲一	アンモナイト 里帰り 6680万年前の化石 浦幌	十勝毎日新聞(2016年2月13日朝刊)	十勝毎日新聞社	協力
栗原憲一	アンモナイト化石、北海道博物館から戻る 浦幌町立博物館	北海道新聞(2016年2月19日地方版)	北海道新聞社	協力
村上孝一	道新中高生新聞 北の事始め 国産1号函館で製造 8 ストーブ	北海道新聞(2015年11月21日夕刊)	北海道新聞社	協力

【アイヌ文化研究グループ 16件)】

対応者	タイトル/内容	出典/番組名	社名等	種別
大坂拓	儀礼用の冠を復元する(1)	ウェブマガジン月刊シロロ1月号(2016年1月)	アイヌ民族博物館	寄稿
大坂拓	儀礼用の冠を復元する(2)	ウェブマガジン月刊シロロ2月号(2016年2月)	アイヌ民族博物館	寄稿
大坂拓	儀礼用の冠を復元する(3)	ウェブマガジン月刊シロロ3月号(2016年3月)	アイヌ民族博物館	寄稿
出利葉浩司	カウントダウンシンポジウム in 札幌 開拓に尽くした薩摩の志士たち 北海道と鹿児島との絆	北海道新聞(2015年12月22日朝刊)	北海道新聞社	協力
アイヌ民族 文化研究セ ンター	内 訳 Vol.39 アイヌの丸木舟 Vol.40 昔の住まいーカヤ葺きの家ー Vol.41 アイヌ民族の「鶴の舞」 Vol.42 小さな動物をとらえる仕掛 Vol.43 アイヌ民族の伝統的な衣服 Vol.44 「夷酋列像」を知っていますか? Vol.45 「夷酋列像」を知っていますか?(その2) Vol.46 「夷酋列像」を知っていますか?(その3) Vol.47 「夷酋列像」展が首都圏(千葉県佐倉市)で開催されます Vol.48 根室半島・ノッカマップの先祖供養 Vol.49 「夷酋列像」展とラッコの毛皮 Vol.50 「夷酋列像」展と「蝦夷錦」	北海道メールマガジン Do・Ryoku(動・力)	総合政策部広報広聴課	寄稿

広報誌の発行(ちゃれんがニュース)

講演会や講座などの各種普及行事、展示会の予告、館の動きなどの活動全般を定期的に発信することを目的に、年4回『森のちゃれんがニュース』を発行しています(平成27年度は3回)。道内外の博物館や教育機関、公共施設、研究機関などに送付しているほか、館内に配置して、来館者が自由に持ち帰ることができるようにしています。

巻号	発行日	内 容	執 筆 等
1号	2015年9月	おかげさまで5万人達成、もうすぐ10万人!	石森 秀三
		「北海道博物館 ちゃれんがサテライト」オープン	杉山 智昭
		北海道博物館の組織と職員	—
		アイヌ民族文化研究センター	小川 正人
		「はっけん広場」へようこそ	表 溪太
		行事のおしらせ/活動ダイアリー	—
2号	2015年12月	第2回企画テーマ展「鶴」展示制作秘話	表 溪太
		開館記念特別展 夷酋列像—蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界—	右代 啓視
		学芸職員が語る総合展示の見どころ① 「北東アジアの中の北海道」を体感! プロローグ	水島 未記
		学芸職員が語る総合展示の見どころ② 交流から見た「北海道120万年物語」	鈴木 琢也
		学芸職員が語る総合展示の見どころ③ ひとつの資料からみる「アイヌ文化の世界」	田村 雅史
		イベント紹介 アイヌ語“解説”講座	大谷 洋一
		行事のおしらせ/活動ダイアリー	—
3号	2016年3月	第3回企画テーマ展 「北海道のアンモナイトとその魅力」を振り返って	圓谷 昂史
		学芸職員が語る総合展示の見どころ④ 「北海道らしさの秘密」の秘密	池田 貴夫
		学芸職員が語る総合展示の見どころ⑤ 「いまとこれからを創る」を創る	山田 伸一
		学芸職員が語る総合展示の見どころ⑥ 生き物の世界を楽しく知ろう! 「生き物たちの北海道」	水島 未記
		施設 「図書室」へようこそ	櫻井 万里子
		イベント紹介 ちゃれんが子どもクラブ「アイヌ語であそぼう!」	田村 雅史
		行事のおしらせ/活動ダイアリー	—

ホームページ(URL: <http://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp>)

利用案内や総合展示の概略の紹介のほか、企画展やイベント情報などを提供しています。その他に、利用者の知的興味に応えるため、収蔵資料検索やほっかいどうアイヌ語アーカイブといった学びに関するページも設置しています。



ホームページのトップ画面

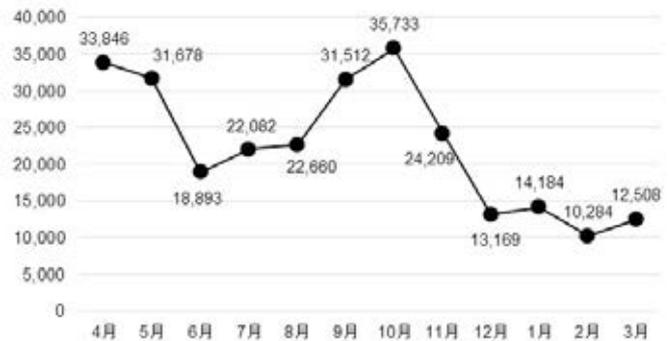


収蔵資料検索システム画面(検索条件:「美術」)

平成 27 年度のホームページアクセス件数

4月	33,846	11月	24,209
5月	31,678	12月	13,169
6月	18,893	1月	14,184
7月	22,082	2月	10,284
8月	22,660	3月	12,508
9月	31,512	合計	270,758
10月	35,733	月平均	22,563

アクセス数の推移



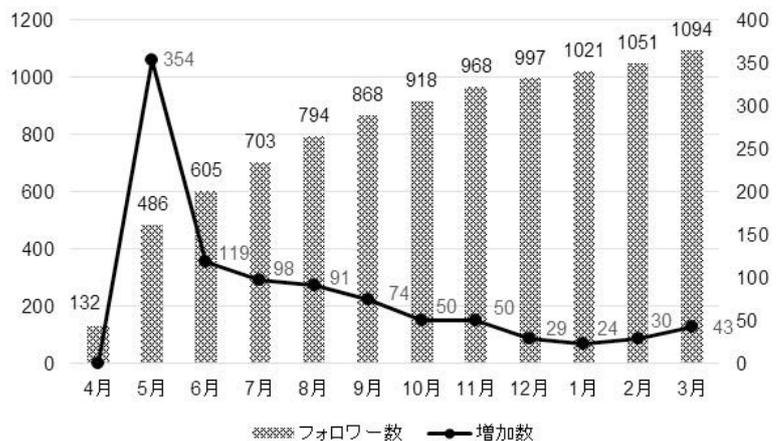
ソーシャルメディア

情報提供の迅速性と拡散性にすぐれたソーシャルメディアとして、ツイッターを通じた幅広い情報発信を行っています。

公式ツイッターアカウント: @Hokkaido_Museum

平成 27 年度のツイッターフォロワー数

4月	132	10月	918
5月	486	11月	968
6月	605	12月	997
7月	703	1月	1,021
8月	794	2月	1,051
9月	868	3月	1,094



出版活動

研究成果や博物館活動を社会に還元するため、さまざまな刊行物を作成しています。それらの出版物は、総合展示場の地下にある図書室に配置するとともに、国立国会図書館、全国の都道府県立図書館、北海道内の公共図書館などに寄贈しており、お近くの図書館でもご覧いただくことができます。また、展示解説書、ガイドブック、特別展図録など、出版物の一部は館内のミュージアムショップにて販売もしております。(品切れのものもございますので、お買い求めの際はお電話 (011-898-0456) にてご確認ください)。

平成 27 (2015) 年度に出版した刊行物

刊行物名称	発行日	頁数
北海道博物館研究紀要 第 1 号	2016 年 3 月	160
北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要 第 1 号	2016 年 3 月	228
夷酋列像 蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界 (開館記念特別展図録)	2015 年 9 月	196
北海道博物館ガイドブック	2015 年 4 月	63
ビジュアル北海道博物館 ※平成 27 年度文化庁「文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業」により作成	2016 年 3 月	119
アイヌ文化小冊子「ボン カンピソシ9 地名」 (第 4 刷)	2016 年 3 月	32
森のちゃれんがニュース 1~3 号 第 2 回~第 4 回の企画テーマ展パンフレット		

開館ポスター

開拓記念館と一般財団法人北海道開拓の村の職員で構成される北のミュージアム活性化実行委員会が文化庁の「平成 26 年度地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」の助成を受け、北海道博物館の開館の機運を喚起し、北海道博物館のイメージを広く発信するために、札幌市立大学デザイン学部の教員及び学生で構成された北海道企画デザイン研究会に依頼し、愛称・ロゴマーク入りの北海道博物館のイメージデザイン (ポスター) を作成しました。

このポスターは、北海道博物館第 1 回企画テーマ展「学芸員 おすすめの 1 点 ようこそ北海道博物館へ」のポスターとしても使用されました。



9 アイヌ民族文化研究センターの活動

旧アイヌ民族文化研究センターは、北海道の貴重な財産であるアイヌ文化について、伝承者の高齢化等が進むなか、道の責務として総合的・体系的な研究を行い、その成果の普及等を図りアイヌ民族文化の振興に寄与することを目的に、平成6（1994）年6月に設立されました。開設後は、「調査研究やその成果の普及事業」「情報収集及び提供事業」「研究支援事業」の3つの柱により事業を展開してきました。

北海道博物館においても、内部組織としてアイヌ民族文化研究センターを置き、アイヌ民族の歴史や有形・無形の文化に関するさまざまな事業の中心を担うことを主な業務としています。

アイヌ文化巡回展

旧アイヌ民族文化研究センターでは、寄贈を受けた貴重な資料である「山田秀三文庫」「久保寺逸彦文庫」の整理作業の成果を踏まえ、道内各地で「企画展」や「資料展」を開催してきました。

北海道博物館の開設初年度であった平成27（2015）年度は実施を見送りましたが、北海道の中核的博物館としてアイヌ文化の理解促進に資する役割を果たすためにも、平成28（2016）年度から、道内市町村等との協力のもと、地域的なバランスや開催地の要望を踏まえながら、「地名」や「物語」などを主なテーマとした「アイヌ文化巡回展」を再開する予定です。

資料の公開

アイヌ語、口承文芸、伝統的な生活や歴史的な出来事などについて、伝承者や体験者からの聞き取り等によって記録された資料や写真、録画などは、アイヌ文化の調査研究や継承にとって、たいへん貴重な資料です。一方で、これらの資料には、著作権やプライバシーなどに対する慎重な配慮が必要です。

当館では、このようなアイヌ文化に関する採録資料等については、まずその内容確認を行い、プライバシー情報の有無などを点検し、原則としてその資料の関係者（語り手等）と協議し、承諾を得てから公開することとしています。

公開する資料については、公開用の複製（公開用資料）を作成しています。公開用資料を作成することにより、もとの資料の保存を図るとともに、プライバシー等の事由により非公開とすることとした箇所を削除する等の処理を行い、関係者の権利が侵害される恐れがないようにしています。

現在のところ、公開用資料は、音声・映像資料についてはCD、DVD等で、文書資料や写真資料については紙焼きまたはデジタル画像データで作成しています。

種別		2012年度までに 公開準備を終えた点数		2013～15年度に 公開準備を終えた点数		累計 (2015年度末現在)	
		原資料	作成した 公開用資料	原資料	作成した 公開用資料	原資料	作成した 公開用資料
音声・映像 資料	当館（アイヌ民族文化研究センター）採録・複製資料（職員による採録など）	258	241	16	18	274	259
	山田秀三文庫	72	45	19	19	91	64
	久保寺逸彦文庫	77	112	0	0	77	112
	小計	407	398	35	37	442	435
文書資料	山田秀三文庫	81	—	21	—	102	—
	久保寺逸彦文庫	0	—	10	—	10	—
	小計	81	—	31	—	112	—
写真資料	久保寺逸彦文庫	483	—	0	—	483	—
合計		971	—	66	—	1037	—

[注] 文書資料及び写真資料は、公開用資料を作成していません。（閲覧等の利用には、紙焼き（プリントアウト）等を提供しています。）

平成 27 年度のアイヌ文化関連の資料閲覧(14 件)

文	書	音声・映像	民	具	計
0		1	15		16

ホームページによる情報提供

旧アイヌ民族文化研究センターでは、平成 13 (2001) 年度からインターネット上にホームページを開設し、事業のあらましや研究センターの出版物、公開している資料などを紹介するほか、アイヌ文化に関する連載記事などを通じた情報提供を行ってきました。

北海道博物館の開館後は、館のホームページの中にこれらのページを移行して運用しています。

ほっかいどうアイヌ語アーカイブ

旧アイヌ民族文化研究センターでは、平成 23 (2011) ～平成 24 (2012) 年度に、国 (内閣府) の交付金を受けて「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ事業」を実施し、寄贈を受けた「山田秀三文庫」「久保寺逸彦文庫」の音声資料の公開を進めました。また、インターネットを通してこれらの資料を検索し視聴することができる「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」を構築しました。

現在は当館のホームページ内に「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」を設け、研究センターが公開している音声資料などを検索し視聴することができます。また、アイヌ語や口承文芸、芸能などを初心者向けにわかりやすく紹介する「アイヌ語入門」のページも設けています。



アイヌ文化紹介小冊子の発行

旧アイヌ民族文化研究センターでは、国連の定めた「世界の先住民の国際 10 年」(平成 6 (1994) 年 12 月～平成 16 (2004) 年 12 月) の記念事業として、アイヌ文化に関する専門的な内容をわかりやすく親しみやすいかたちで紹介した小冊子『アイヌ文化紹介小冊子 ポン カンピソシ』を、毎年 1 冊ずつ発行しました。

北海道博物館においても、アイヌ文化に関する研究成果の普及や道民の学習等に資するために、引き続き『ポン カンピソシ』の活用を図っています。



学習・伝承活動の支援

市町村などの関係機関やアイヌ文化伝承活動団体などから寄せられる学習や伝承活動に対する専門的な知見からの助言や支援の依頼に応じています。アイヌ文化に関する情報提供や当館資料の照会は、日常的な電話により対応しています (図書室でのアイヌ文化関連のレファレンス件数 : 64 件)。

他機関、団体への学習・伝承支援件数(2 件)

対応日	依頼先	内容	対応者
2015 年 12 月 17 日	公益社団法人北海道アイヌ協会 (札幌市)	アイヌ文化情報発信のあり方について、アイヌの伝統芸能を中心とした方策に関する助言	甲地 利恵
2016 年 2 月 20 日	アイヌウタリ連絡会 (東京都)	アイヌ伝統芸能の学習・伝承活動に関する情報提供・助言	甲地 利恵

10 北海道開拓の村整備事業

昭和 58 (1983) 年 4 月に開村した野外博物館・北海道開拓の村の建設は、北海道百年記念事業の一環として計画されました。建設事業は、開拓記念館と、昭和 46 (1971) 年 4 月に設置された北海道野幌森林公園管理事務所（野幌森林公園事務所、野幌森林公園分室を経て平成 22 年度をもって廃止）とで推進され、開拓の村の歴史建造物の復元、および内部展示の作成は開拓記念館が中心となって進められました。このことから、北海道博物館の開設後も、建造物や内部展示の保存・管理は当館の重要な業務となっています。

歴史建造物の保存にあたっては、その文化財的価値を損なわないように極力当初からの材料を生かし、修復・修繕は限定的に行なうことを原則としており、この方針の基に屋根や外壁などを中心に毎年数棟ずつの修復工事を実施しています。しかし、野外展示であると同時に寒冷多雪地域であるという条件は、復元建造物の保存条件としては必ずしも条件がよいとは言えない環境であることから、加速度的に腐朽や劣化が進んでおり、この事への対応が大きな課題となっています。

建造物補修工事	平成 26 (2014) 年	開拓の村建造物旧ソーケシュオマバツ駅通所既舎補修工事 (2014 年 1 月 29 日～3 月 27 日)
	平成 27 (2015) 年	開拓の村建造物旧広瀬写真館補修工事 (2015 年 10 月 8 日～12 月 15 日)

11 館長、学芸・研究職員の紹介

石森 秀三 ISHIMORI Shuzo		職名	館長
		称号	国立民族学博物館名誉教授、総合研究大学院大学名誉教授
受賞	1986年、大平正芳記念賞	専門	博物館学・観光文明学
略歴	<p>【職歴】</p> <p>京都大学人文科学研究所研究員(1971) 国立民族学博物館第四研究部助手(1975) 国立民族学博物館第四研究部助教授(1985) 国立民族学博物館第四研究部教授(1996) 総合研究大学院大学文化科学研究科教授(1996) 国立民族学博物館先端民族学研究部教授(1998) 国立民族学博物館民族社会研究部長(2002) 国立民族学博物館博物館民族学研究部長(2003) 国立民族学博物館文化資源研究センター長(2004) 国立民族学博物館名誉教授(2006) 北海道大学観光学高等研究センター長(2006) 北海道大学観光学高等研究センター特別招聘教授(2013) 北海道開拓記念館長(2013) 北海道博物館長(2015)</p> <p>【社会活動】</p> <p>観光立国懇談会委員(内閣府)、文化審議会文化財分科会専門委員(文化庁)、文化審議会企画調査会会長(文化庁)、国土審議会北海道開発分科会専門委員(国土交通省)、地域資源活用促進事業委員会委員長(経済産業省)等</p>		
主な研究業績	<p>2011;『エコツアーリズムを学ぶ人のために』世界思想社(共編著) 2008;『大交流時代における観光創造』北海道大学(編著) 2000;『博物館経営・情報論』放送大学教育振興会(編著) 2000;『博物館資料論』放送大学教育振興会(編著) 1999;『南太平洋の文化遺産』千里文化財団(編著) 1999;『博物館概論:ミュージアムの多様な世界』放送大学教育振興会 1996;『観光の20世紀』ドメス出版(編著) 1985;『危機のコスモロジー:マイクロネシアの神々と人間』福武書店</p>		

舟山 直治 Naoji FUNAYAMA		職名	学芸部長
		学位	学士、1982年(酪農学園大学酪農学部農業経済学科)
		担当分野	民俗
所属学会	日本民俗学会、北海道・東北史研究会、北海道地域文化研究会		
研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道における生活文化の伝承に関する研究(大祓や松前神楽の伝承、曲物製作技術について調査研究) ・博物館活動に関する研究(生活文化関係資料の活用に向けたデータベースの整備と展示会企画について調査研究) ・日本海沿岸における歴史文化遺産に関する研究(江差町、小樽市における歴史文化遺産のあり方についての調査研究) 		
近年の主な業績	<p>2016;「加古川水系と由良川水系の川下、川裾、川濯信仰の伝承」『北海道博物館紀要』第1号 2015;「函館で調達されたカモカモという容器の製作技術について」『北方地域の人と環境の関係史研究報告』 2015;「北海道における大祓にかかわる祭神の特徴」『北海道開拓記念館研究紀要』第43号 2014;「積丹町余別における川下祭の伝承と兵庫県の祭祀状況」『北海道地域文化研究』第6号 2014;「神楽関係資料からみた移住者の祭神と神楽の伝承(一)」『北海道開拓記念館研究紀要』第42号</p>		

アイヌ民族文化研究センター

小川 正人 Masahito OGAWA	職 名	アイヌ民族文化研究センター長兼研究部長兼アイヌ文化研究グループ研究主幹
	学 位	博士(教育学)、1995年(北海道大学)
	担当分野	アイヌ史(教育史)
所 属 学 会	教育史学会、北海道・東北史研究会、日本教育学会	
研 究 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・近代北海道のアイヌ教育史に関する調査研究 ・近代アイヌ史研究に関する基礎的資料の収集・整理と提供 ・アイヌ史に関する研究情報の集積と提供 	
近年の主な業績	<p>2015;「函館と近代アイヌ教育史 —谷地頭にあったアイヌ学校の歴史—」『市立函館博物館研究紀要』第25号</p> <p>2014;「第二尋常小学校」の意味:近代北海道のアイヌ教育史における「別学」原則の実態『教育史・比較教育論考』第21号</p> <p>2013;「対雁学校」の歴史:北海道に強制移住させられた樺太アイヌの教育史『教育学研究』第80巻第3号</p> <p>2010;『『北東日報』『釧路新聞』掲載アイヌ関係記事(1901~1942年):目録と紹介 北海道立アイヌ民族文化研究センター調査研究報告書6』(編著)</p>	

自然研究グループ

水島 未記 Miki MIZUSHIMA	職名	学芸部社会貢献グループ兼自然研究グループ学芸主幹
	学位	修士、1993年(北海道大学大学院農学研究科農学専攻)
	担当分野	生物(植物)
所属学会	日本生態学会、種生物学会、日本セトロジー研究会	
研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・草本植物の生活史 ・動植物と人との相互作用 ・北海道における鯨類と人との関わり 	
近年の主な業績	2013;「ロシア・サハリン州におけるニヴフの植物利用 (4)」『北方地域の人と環境の関係史 2010-12 年度調査報告』(筆頭) 2011;「サハリンのニヴフにおける興味深い利用植物」『北海道開拓記念館研究紀要』(筆頭) 2011;「北海道の鯨骨製記念物」『日本とクジラ』日本とクジラ展実行委員会(福岡市博物館) 2011;「アイヌ民族と鯨」『日本とクジラ』日本とクジラ展実行委員会(福岡市博物館) 2010;「サハリン先住民の自然資源としての植物:利用植物一覧」『北方の資源をめぐる先住者と移住者の近現代史—北方文化共同研究報告—』	

添田 雄二 Yuji SOEDA	職名	学芸部博物館基盤グループ兼自然研究グループ学芸員
	学位	博士(理学)、2011年(鹿児島大学)
	担当分野	地学
所属学会	日本第四紀学会	
研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道における中～後期更新世以降のゾウ類についての研究 ・17世紀の寒冷期と巨大噴火津波がアイヌ民族に与えた影響についての研究 ・石狩低地帯北部地域を中心とした新生代の古環境復元 	
近年の主な業績	2013;「北海道のゾウ化石とその研究の到達点」『化石研究会会誌』45 pp.44-54(共著) 2012;「地中に残された先史時代以降の巨大津波痕跡—北海道・東北地方の研究例—」『北海道・東北史研究会』8 pp.8-17.	

表 溪太 Keita OMOTE	職名	学芸部博物館基盤グループ兼自然研究グループ学芸員
	学位	博士(理学)、2016年(北海道大学大学院理学院)
	担当分野	生物(動物)
所属学会	日本動物学会、日本鳥学会	
研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道の動物の系統地理学的研究 ・博物館標本の DNA 分析、安定同位体比分析を用いた生態学的研究 ・鳥類の羽毛、哺乳類毛等の形態による種同定法に関する研究 	
近年の主な業績	2015;「Recent fragmentation of the endangered Blakiston's fish owl (<i>Bubo blakistoni</i>) population on Hokkaido Island, northern Japan, revealed by mitochondrial DNA and microsatellite analyses」『Zoological Letters』1:16(筆頭) 2014;「Spatial and temporal variation at major histocompatibility complex class IIB genes in the endangered Blakiston's fish owl」『Zoological Letters』1:13(共著) 2013;「Limited phylogenetic distribution of a long tandem-repeat cluster in the mitochondrial control region in <i>Bubo</i> (Aves, Strigidae) and cluster variation in Blakiston's fish owl (<i>Bubo blakistoni</i>)」『Molecular Phylogenetics and Evolution』66:889-897(筆頭) 2012;「Temporal changes of genetic population structure and diversity in the endangered Blakiston's fish owl (<i>Bubo blakistoni</i>) on Hokkaido Island, Japan, revealed by microsatellite analysis」『Zoological Science』29:299-304(筆頭)	

圓谷 昂史 Takafumi EN'YA

職名	学芸部道民サービスグループ兼自然研究グループ研究職員
学位	修士、2014年(北海道教育大学大学院理科教育専修)
担当分野	地学

所属学会	古生物学会、日本貝類学会、漂着物学会、日本理科教育学会
研究課題	・北海道から産出する軟体動物化石からみた古環境復元 ・北海道沿岸の漂着物を用いた博物館における環境教育
近年の主な業績	2014;「北海道日本海沿岸の打ち上げ貝類から見た生物多様性と海洋環境」『北海道教育大学大学院修士論文』 2013;「Mass strandings of the common paper nautilus <i>Argonauta argo</i> along the coast of Yoichi Bay, Hokkaido, in the autumn of 2012」『Journal of Japan Driftological Society』. Vol.11 (共著) 2013;「北海道苫小牧沿岸への暖流系岩礁性巻貝レイシガイの漂着」『漂着物学会誌』第11巻 (筆頭) 2013;「苫小牧ふるさと海岸の漂着ゴミ 2008-2012ーとましんビーチコーミングの活動からー」『地学教育と科学運動』70号 (共著) 2012;「北海道余市町浜中海岸の打ち上げ貝類から見た季節変化と海洋環境」『漂着物学会誌』第10巻 (筆頭)

歴史研究グループ

右代 啓視 Hiroshi USHIRO	職 名	総務部企画グループ兼歴史研究グループ学芸主幹
	学 位	博士(歴史学)、2011年(駒澤大学大学院)
	担当分野	考古
所属学会	日本考古学協会、第四紀学会、北海道考古学会、チャン学会、北方島文化研究会	
研究課題	<ul style="list-style-type: none"> 千島列島における人類活動史の考古学的総合研究 先史文化の環境変化と文化形成の研究 北東アジアにおける要害遺跡の形成過程の研究 	
近年の主な業績	<p>2015;「北方四島の先史文化研究と博物館交流の基礎づくり(V)」『北海道開拓記念館研究紀要』第43号 pp. 37-66 (共著)</p> <p>2014;『新・千島紀行—発見された千島列島の先史文化—』函館市北方民族資料館 p.13</p> <p>2014;「北方四島の考古学」『中華文明の考古学』同成社 pp. 409-424</p> <p>2014;「オホーツク文化にシャマニズムを探る—オホーツク文化の信仰と儀礼—」『シャマニズムの淵源を探る』弘前学院大学地域総合文化研究所 pp.113-140</p> <p>2014;「北方四島の先史文化研究と博物館交流の基礎づくり(IV)」『北海道開拓記念館研究紀要』第42号 pp. 97-126 (共著)</p> <p>2013;「北方四島の先史文化研究と博物館交流の基礎づくり(III)」『北海道開拓記念館研究紀要』第41号 pp. 59-82 (共著)</p>	

山田 伸一 Shin'ichi YAMADA	職 名	学芸部博物館基盤グループ兼歴史研究グループ学芸主査
	学 位	修士、1996年(北海道大学大学院文学研究科)
	担当分野	歴史(近現代)
所属学会	日本史研究会、函館日ロ交流史研究会	
研究課題	<ul style="list-style-type: none"> 近現代の北海道およびその周辺地域における人間と自然環境の関係史 近現代のアイヌ政策史・アイヌ史 	
近年の主な業績	<p>2015;「平福百穂「アイヌ」の周辺」『北海道開拓記念館研究紀要』第43号</p> <p>2015;「明治初期北海道におけるシカの産業利用」『北方地域の人と環境の関係史研究報告』</p> <p>2011;『近代北海道とアイヌ民族—狩猟と土地問題—』北海道大学出版会</p> <p>2010;「開拓使による奥尻島へのシカ移入とその後」『北海道開拓記念館研究紀要』第38号</p>	

三浦 泰之 Yasuyuki MIURA

職名	総務部企画グループ兼歴史研究グループ学芸主査
学位	学士、1996年(京都大学文学部日本史学科)
担当分野	歴史(近世・近代)

所属学会	日本史研究会、北海道史研究協議会、松浦武四郎研究会
研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道内における「文書資料」「記録資料」の所在把握と活用に関する基礎的研究 ・近世・近代における北海道の文化史に関する基礎的研究 ・北海道記録映画史に関する基礎的研究 ・松浦武四郎の生涯と幕末・明治期の北海道及び日本社会に関する基礎的研究
近年の主な業績	<p>2014;「戦前・戦後の北海道を生きた撮影技師・栃木栄吉の生涯－北海道記録映画史序説－」『北海道開拓記念館研究紀要』第42号</p> <p>2014;「神奈川大学日本常民文化研究所蔵 林孫蔵家文書「松前町年寄詰所日記抜書」II」『余市水産博物館研究報告別冊』(共編)</p> <p>2013;「昭和戦前期の新聞写真－小樽新聞記者藤井伝一郎旧蔵写真群について－」『北海道開拓記念館研究紀要』第41号</p> <p>2011;「松浦武四郎研究序説－幕末維新时期における知識人ネットワークの諸相－」北海道出版企画センター制作(共編)</p> <p>2010;「芸能興行と地域社会－松前・蝦夷地を訪れた旅芸人の事例から」若尾政希ほか編『覚醒する地域意識』(江戸)の人と身分5 吉川弘文館</p>

鈴木 琢也 Takuya SUZUKI

職名	学芸部博物館基盤グループ兼歴史研究グループ学芸主査
学位	修士、2001年(福島大学大学院地域政策科学研究科)
担当分野	考古

所属学会	日本考古学協会、北海道考古学会、北方島文化研究会
研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・日本列島北部地域における古代・中世の文化集団移動に関する研究 ・日本列島北部地域における古代・中世の物流交易に関する研究 ・北方四島における先史文化の考古学的基礎研究
近年の主な業績	<p>2016;「平泉政権下の北方交易システムと北海道在地社会の変容」『歴史評論』第795号</p> <p>2016;「擦文文化の成立過程と秋田城交易」『北海道博物館研究紀要』第1号</p> <p>2012;「北海道における3～9世紀の土壌墓と末期古墳」『北方島文化研究』第10号 北海道出版企画センター</p> <p>2011;「北海道における7～9世紀の土器の特性と器種組成様式」『北海道開拓記念館研究紀要』第39号</p> <p>2011;「北日本における古代末期の交易ルート」榎森進・熊谷公男監修『古代中世の蝦夷世界』高志書院</p>

東 俊 佑 Shunsuke AZUMA

職 名	学芸部道民サービスグループ兼歴史研究グループ学芸主査
学 位	修士、2002年(東北学院大学大学院文学研究科アジア文化史専攻)
担当分野	歴史(中・近世)

所属学会	北海道・東北史研究会、満族史研究会、東北史学会、歴史学研究会、北海道史研究協議会、北方島文化研究会
研究課題	・北海道博物館所蔵の文書資料(近世文書)に関する研究 ・アムール川下流域～サハリンにおける諸民族の交易活動に関する研究 ・アイヌの交易活動と生活様式の変容に関する研究
近年の主な業績	2015;「クナシリ・メナシの戦いと『夷酋列像』」『夷酋列像 蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界』(北海道博物館特別展図録)「夷酋列像」展実行委員会・北海道新聞社 2015;「サハリン全島一周に挑んだ日本人―間宮林蔵から50年後の世界―」『環オホーツク』No.22(第22回環オホーツク海文化のつどい報告書) 2015;「近世蝦夷地交易品ノート(2)―和人からアイヌへの交易品について―」『北方地域の人と環境の関係史 研究報告』 2015;「アムール川下流域住民の交易活動に係る物質文化資料について―2014年度ボゴロツコエ、ブラワー調査報告―」『北海道開拓記念館研究紀要』第43号 2014;「村垣家所蔵の蝦夷地巡視関係卷子本について」『東京大学史料編纂所画像史料センター通信』第66号

春 木 晶 子 Shoko HARUKI

職 名	学芸部道民サービスグループ兼歴史研究グループ学芸員
学 位	修士、2011年(北海道大学大学院文学研究科)
担当分野	美術史

所属学会	美術史学会、北海道芸術学会
研究課題	・北海道に関わる絵(特に、江戸時代に「アイヌ」を描いた絵)の調査、研究 ・北海道の絵馬(特に、北海道に特有の画題の絵馬)の調査、研究
近年の主な業績	2016;「アイヌを描いた絵」北海道史研究協議会編『北海道史事典』北海道出版企画センター 2015;「『夷酋列像』―12人の「異容」と「威容」―」『夷酋列像 蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界』(北海道博物館特別展図録)「夷酋列像」展実行委員会・北海道新聞社 2015;「ヒーローの(諸)条件―「奇異」なる「英雄」である夷酋列像―」『北海道立北方民族博物館友の会・季刊誌 Arctic Circle』一般財団法人北方文化振興協会 2015;「市立函館博物館所蔵(アイヌ風俗絵馬)について」『市立函館博物館研究紀要』第25号 2015;「義経蝦夷渡伝説図をめぐる」『北海道開拓記念館研究紀要』第43号

寺 林 伸 明 Nobukaki TERABAYASHI

職 名	学芸部博物館基盤グループ兼歴史研究グループ学芸員
学 位	学士、1976年(明治大学文学部史学地理学科東洋史学専攻)
担当分野	歴史(近現代)

所属学会	歴史科学協議会、札幌郷土を掘る会
研究課題	・北海道鯨漁業の関わりから、漁場資本の銀行、北陸・東北からの出漁・漁夫出稼ぎについて ・北海道の軍事・戦争の関わりから、青少年「訓練」、「満州開拓」、朝鮮人「労務動員」について ・日本の博物館における明治以降の戦争関係史展示の現状と国際関係認識について
近年の主な業績	2013;『日中両国から見た「満州開拓」 体験・記憶・証言』御茶の水書房(共編、平成18～21年度科研費・基盤研究(B)海外・研究成果)

生活文化研究グループ

池田 貴夫 Takao IKEDA	職 名	学芸部道民サービスグループ兼生活研究グループ学芸主幹
	学 位	博士(学術)、2007年(名古屋大学)
	担当分野	民俗
所属学会	北海道・東北史研究会、日本民具学会、日本生活学会、美学芸術学会、日本民俗学会、日本文化人類学会	
研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会におけるモノの処分と霊魂感—博物館へのモノの寄附という行為の分析から— ・糞突き棒(仮称)の研究 ・冬季北海道における入浴と排世の民俗 	
近年の主な業績	2013;『なにこれ!? 北海道学』北海道新聞社 2013;「災害と民具研究—北海道南西沖地震後の奥尻島の20年を振り返りつつ—」『民具研究』第147号 2012;「サハリン残留朝鮮人の生活史—境遇としての悲劇、語られる自画像—」『生活学論叢』第20号 2011;「日本人において『雑魚』とは何か?—ウグイに対する認識の地域差・時代差をめぐって—」『比較文化研究』No.98	

山際 秀紀 Hideki YAMAGIWA	職 名	学芸部博物館基盤グループ兼生活研究グループ学芸主査
	学 位	修士、1994年(大谷大学大学院文学研究科)
	担当分野	産業史(農業)
所属学会	北海道産業考古学会	
研究課題	・戦前・戦中・戦後における道民生活の変遷に関する聞き書き調査	
近年の主な業績	2011;「北海道における水稲直播器の考案と使用方法に関する調査」『北海道産業考古学会会報 北の技術文化』第21号	

会田 理人 Masato AIDA	職 名	総務部企画グループ兼生活研究グループ学芸主査
	学 位	修士、2002年(北海道大学大学院文学研究科)
	担当分野	産業史(漁業)
所属学会	日本民具学会、北海道大学東洋史談話会、北海道産業考古学会	
研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・戦前・戦中・戦後における道民生活の変遷に関する聞き書き調査 ・北海道における海女出稼ぎ漁と磯まわり漁業の関係史研究 ・日本の昆布文化と道内生産地の経済社会の相互連関に関する研究 	
近年の主な業績	2015;「日本領南樺太の実業団野球大会」『北方地域の人と環境の関係史研究報告』 2013;「大正期利尻島のアワビ移植事業」『北海道開拓記念館研究紀要』第41号 2012;「昭和戦前期の樺太におけるコンブ漁」『北海道開拓記念館研究紀要』第40号 2011;「テングサ採りの海女の出稼ぎ—三重県志摩地方から北海道利尻・礼文島へ—」『北海道開拓記念館研究紀要』第39号 2011;「富山県高岡地方の鉄釜製造技術調査報告」『北海道開拓記念館研究紀要』第39号	

青柳 かつら Katsura AOYAGI

職 名	学芸部社会貢献グループ兼生活研究グループ学芸主査
学 位	博士(環境学)、2011年(筑波大学大学院生命環境科学研究科)
担当分野	産業史(林業)

所属学会	日本森林学会、林業経済学会
研究課題	・高齢者と協働するナレッジ活用型地域資源学習プログラムの開発 ・戦前・戦中・戦後における道民生活の変遷に関する聞き書き調査 ・寒冷地の自然と適応に関する研究
近年の主な業績	2016;「高齢者と協働するナレッジ活用型地域資源学習プログラムの開発－2015年北海道と2003年全国の博物館 園対象高齢者プログラムアンケート調査結果の比較から－」『北海道博物館研究紀要』第1号 2016;「地域学習の拠点としての博物館の現状と課題:道内博物館対象高齢者プログラムアンケート調査結果から」 『第127回日本森林学会大会学術講演集』 2015;「地域博物館を核とした高齢者と協働する地域学習活動の効果と課題:土別市朝日町の事例」『第54回北海道博物館協会研究大会資料(発表要旨集)』 2015;「住民協働による森林利用技術の映像記録と活用:土別市朝日町の事例」『北方地域の人と環境の関係史研究 報告』 2013;「マサチューセッツ州ランド・トラスト活動の現場をたずねて」『北方地域の人と環境の関係史 2010-12年度調 査報告書』

尾曲 香織 Kaori OMAGARI

職 名	学芸部道民サービスグループ兼生活研究グループ学芸員
学 位	修士、2013年(筑波大学大学院人文社会科学研究科)
担当分野	民俗

所属学会	日本民俗学会、現代民俗学会、日本民具学会、歴史人類学会、女性民俗学研究会
研究課題	・戦前・戦中・戦後における道民生活の変遷に関する聞き書き調査
近年の主な業績	2016;「新生活運動とある女性の葛藤－生活の合理化と地域から求められる役割－」『筑波大学地域研究』第37号 筑波大学人文社会科学研究科国際地域研究専攻 2015;「人生儀礼」「空間と住まい」ほか『常陸大津の御船祭 総合調査報告書』北茨城市教育委員会 2015;「地域における共有物とその利用－共有膳碗を中心として－」ほか『牡鹿半島の民俗と地域社会－これまでの 記憶とこれからの可能性について－』筑波大学民俗学研究室 2014;「節句人形の保管と処分に関する民俗学的研究－静岡県のテンジンサンを事例として－(上)(下)」『史境』第 67号・第68号 歴史人類学会 2014;「地蔵講」「出産・生育」「婚姻」ほか『山ノ荘の民俗・日枝神社の流鏝馬祭』土浦市立博物館

博物館研究グループ

堀 繁 久 Shigehisa HORI	職 名	学芸部博物館基盤グループ兼博物館研究グループ学芸主幹
	学 位	学士、1985年(琉球大学理学部生物学科)
	担当分野	博物館学、生物
所 属 学 会	日本昆虫学会、日本甲虫学会、日本蛾類学会、日本環境動物学会	
研 究 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・日本および北海道周辺の昆虫相の解明とその変遷 ・市民と協働による野幌森林公園の生物インベントリーの解明 	
近年の主な業績	2015;『昆虫図鑑 北海道の蝶と蛾』北海道新聞社(共著) 2015;「北海道博物館の新しい自然展示 生き物たちの北海道」『博物館研究』平成27年10月号 2013;「野幌森林公園で確認されたアライグマによる在来両生類の捕食」『北海道爬虫両棲類研究報告』1(共著) 2011;「昆虫から見た北海道の生物多様性」『北海道の自然』48 2010;北海道開拓記念館第66回特別展「どんぐりコロコロ」シナリオチーフ	

杉 山 智 昭 Tomoaki SUGIYAMA	職 名	学芸部道民サービスグループ兼博物館研究グループ学芸主査
	学 位	修士、1997年(弘前大学大学院理学研究科生物学専攻)
	担当分野	文化財保存科学
所 属 学 会	文化財保存修復学会、日本文化財科学会、The International Biodeterioration Biodegradation Society	
研 究 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財の劣化に関する研究 ・文化財の保存環境に関する研究 ・文化財の科学分析 	
近年の主な業績	2015;「寒冷地における歴史的木造建築物の保存にむけて -旧開拓使工業局庁舎を例に-」『平成27年度文化財保存修復研究センター紀要』 2015;「Deterioration and degradation diagnosis for the preventive conservation of historical wooden buildings in a cold region」『東アジア文化遺産保存シンポジウム in 奈良発表要旨集』「2015 東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in 奈良」組織委員会 2015;「アイヌ民族文化財の X 線 CT による現況調査(I)」『北海道開拓記念館紀要』第43号 2015;「ボストン美術館におけるコレクションの保存修復活動について」『北方地域の人と環境の関係史研究報告』 2014;「アイヌ民族資料の保存修復にむけた X 線 CT の利用」『シンポジウム 文化財調査における X 線 CT の活用要旨集』科学研究費・基礎研究(C)「縄文文化の漆櫛の製作技術を復元するための研究」	

櫻 井 万 里 子 Mariko SAKURAI	職 名	学芸部社会貢献グループ兼博物館研究グループ主査
	学 位	学士、1997年(藤女子大学文学部国文学科)
	担当分野	図書館学

栗原 憲一 Ken'ichi KURIHARA	職名	学芸部社会貢献グループ兼博物館研究グループ学芸員
	学位	博士(理学)、2006年(早稲田大学)
	担当分野	博物館学、地学
所属学会	日本古生物学会、日本地球惑星科学連合、日本展示学会、全日本博物館学会、日本サイエンスコミュニケーション協会	
研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道産白亜紀アンモナイト類の産地データベースの作成と博物館資料の学術的活用に関する研究 ・北海道ののぞましい博物館のあり方に関する市民意識調査に関する研究 ・博物館教育プログラムと教材キット開発に関する研究 ・博物館と地域資源活用型プログラム(ジオパーク)との関わりに関する研究 	
近年の主な業績	<p>2015;「三笠ジオパーク」『シリーズ大地の公園 北海道・東北のジオパーク』古今書院</p> <p>2015;「故平野弘道教授の業績概要および平野研究室化石コレクションの移管について」『早稲田大学総合・教育学術院 学術研究(自然科学編)』第63号 pp.1-18(共著)</p> <p>2014;「なぜ、アンモナイトは世界中から産出するのか」『理科教室5月号』pp.70-71</p> <p>2014;「砂岩における炭素安定同位体比検出の最適な分析手法の検討」『三笠市立博物館紀要』第18号 pp.9-26(共著)</p> <p>2013;「北海道十勝郡浦幌町に分布する根室層群川流布累層中の白亜紀/古第三紀境界」『浦幌町立博物館紀要』第13号 pp.25-30</p> <p>2013;「ウェブサイトを利用した道内博物館活動の広報と学芸員ネットワーク強化の試み」『博物館研究』第48巻 24-27(筆頭)</p>	

小林 孝二 Koji KOBAYASHI	職名	総務部企画グループ兼博物館研究グループ学芸員
	学位	博士(工学)、2008年(北海道工業大学)
	担当分野	建築
所属学会	日本建築学会、日本民俗建築学会	
研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道におけるアイヌ文化成立以前の建築活動に関する基礎的研究 ・積雪寒冷地における歴史的建造物の保存・活用に関する研究 ・北海道建築史の総合化に関する研究 	
近年の主な業績	<p>2015;「先史住居の建築工程・工作方法に関する考察 馬場脩「樺太アイヌ穴居家屋「トイチセ」について」に記載された堅穴居住経験者からの聞き取り内容の可視化と復元事例の検討」『北方地域の人と環境の関係史研究報告』</p> <p>2013;「北海道建築協会機関誌『北海道建築』に見る寒地住宅研究の動向」『北方地域の人と環境の関係史 2011-12年度調査報告』</p> <p>2011;「北海道近代住宅史の再検討」『北方の資源をめぐる先住者と移住者の近現代史—北方文化共同研究報告—』</p> <p>2010;『アイヌの建築文化再考—近世絵画と発掘跡からみたチセの原像』北海道出版企画センター</p>	

村上 孝一 Kouichi MURAKAMI	職名	学芸部博物館基盤グループ兼博物館研究グループ学芸員
	学位	学士、1978年(北海道工業大学建築工学科)
	担当分野	建築
所属学会	日本建築学会、日本民俗建築学会	
研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・野外博物館北海道開拓の村復元建造物の保存・修復に関する研究 ・北海道の住生活文化に関する研究 	
近年の主な業績	<p>2016;「加古川水系と由良川水系の川下、川裾、川濯信仰の伝承」『北海道博物館研究紀要』第1号(共著)</p> <p>2015;「北方四島の先史文化研究と博物館交流の基礎づくり(V)」『北海道開拓記念館研究紀要』第43号(共著)</p> <p>2014;「北方四島の先史文化研究と博物館交流の基礎づくり(IV)」『北海道開拓記念館研究紀要』第42号(共著)</p> <p>2013;「北方四島の先史文化研究と博物館交流の基礎づくり(III)」『北海道開拓記念館研究紀要』第41号(共著)</p> <p>2013;「厚沢部町から収集した神楽関係資料」『北海道開拓記念館研究紀要』第41号(共著)</p>	

アイヌ文化研究グループ

甲 地 利 恵 Rie KÔCHI

職 名	学芸部社会貢献グループ兼アイヌ文化研究グループ研究主査
学 位	修士(教育学)、1988年(東京学芸大学大学院教育学研究科音楽教育専攻音楽学講座)
担当分野	アイヌ文化(音楽)

所 属 学 会	東洋音楽学会、日本民俗音楽学会、北海道民族学会
研 究 課 題	・北海道内の各地域に伝承されるアイヌ音楽についての調査研究 ・アイヌの歌謡の旋律構造と歌唱形式に関する調査研究
近年の主な業績	2015;「アイヌ音楽における歌唱スタイルの多様性の検討に向けた試みー平取地方の「cupka wa kamuy ran」録音資料の比較をとおしてー」『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第21号 2014;「The polyphonic elements in the monophonic singing styles of traditional Ainu music」 R.Tsurtsmia・J.Jordania 編『The Sixth International Symposium on Traditional Polyphony (24-28 September 2012 Tbilisi, Georgia) Proceedings』 International Research Center for Traditional Polyphony of Tbilisi Vano Sarajishvili Tbilisi State Conservatoire 2012;「On the polyphonic singing styles in Ainu traditional music and some recent changes」 R.Tsurtsmia・J.Jordania 編『The Fifth International Symposium on Traditional Polyphony (4-8 October 2010 Tbilisi, Georgia) Proceedings』 International Research Center for Traditional Polyphony of Tbilisi Vano Sarajishvili Tbilisi State Conservatoire 2012;「伝統的なアイヌ音楽のモノフォニーの歌唱形式におけるポリフォニー的要素」『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第18号 2010;「魔祓いの儀式、および魔祓いに関連する歌や踊りについての聴き取り: 北海道立アイヌ民族文化研究センター採録音声資料より」『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第16号

大 谷 洋 一 Yoh'ichi OOTANI

職 名	学芸部社会貢献グループ兼アイヌ文化研究グループ研究職員
学 位	
担当分野	アイヌ文学

所 属 学 会	日本口承文芸学会、北海道民族学会
研 究 課 題	・アイヌ口承文芸「和人の散文説話」資料に関する調査研究 ・アイヌ語原文による口承文芸資料の情報収集と調査研究
近年の主な業績	2016;「アイヌ口承文芸「散文説話」ー河童に助けられた男の物語ー」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第1号 pp.57-77 2015;「カムイの散文説話ー白キツネ兄弟の物語ー」『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第21号 pp.27-44 2014;「カムイからの意思伝達のあり方についてー北海道アイヌの散文説話を中心にー」『口承文芸研究』第37号 pp.114-126 日本口承文芸学会 2011;「和人の散文説話ー継母から殺されかけた姉を救った妹ー」『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第17号 pp.19-89

田村 雅史 Masashi TAMURA

職名	総務部企画グループ兼アイヌ文化研究グループ研究職員
学位	博士(文学)、2011年(千葉大学大学院社会文化科学研究科)
担当分野	アイヌ語

所属学会	日本語学会
研究課題	・北海道東部地域のアイヌ語資料に関する基礎的調査
近年の主な業績	2014;「アイヌ語白糠方言における tek の用法」『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 20 号 2012;『富水慶一採録 四宅ヤエの伝承 韻文編 2(CD 付)』『四宅ヤエの伝承』刊行会(編集・執筆) 2011;「アイヌ語研究史から見たアイヌ語教室」『ことばと社会』第 13 号 三元社 2011;『富水慶一採録 四宅ヤエの伝承 韻文編 1(CD 付)』『四宅ヤエの伝承』刊行会(編集・執筆) 2010;「アイヌ語白糠方言の助動詞 ci」『千葉大学ユーラシア言語文化論集』第 12 号 千葉大学ユーラシア言語文化論講座

遠藤 志保 Shiho ENDO

職名	学芸部博物館基盤グループ兼アイヌ文化研究グループ研究職員
学位	修士、2007年(千葉大学大学院文学研究科)
担当分野	アイヌ文学

所属学会	日本口承文芸学会
研究課題	・鍋沢元蔵氏筆録資料をテキストとした、アイヌ英雄叙事詩に関する研究
近年の主な業績	2015;「アイヌ英雄叙事詩におけるカムイという語の一用法」『口承文芸研究』第 38 号 日本口承文芸学会 2015;「アイヌ韻文学における接続句」アンナ・ブガエワ、長崎郁編『アイヌ語研究の諸問題』北海道出版企画センター 2014;「アイヌ英雄叙事詩における敵対者の復活—なぜ「童子たち」は一度しか現れないのか—」『千葉大学ユーラシア言語文化論集』第 16 号 千葉大学ユーラシア言語文化論講座 2014;「アイヌ英雄叙事詩における結末—同一ストーリーにおける揺れを中心に—」『口承文芸研究』第 37 号 日本口承文芸学会 2014;「アイヌ英雄叙事詩における登場人物の名称」中川裕・編『千葉大学人文社会科学研究所研究プロジェクト報告書 アイヌ語の文献学的研究(1)』千葉大学人文社会科学研究所

大坂 拓 Taku OSAKA

職名	学芸部道民サービスグループ兼アイヌ文化研究グループ研究職員
学位	修士、2008年(明治大学)
担当分野	アイヌ文化(生活技術)

所属学会	日本考古学協会、考古学研究会、北海道考古学会
研究課題	・アイヌの物質文化に関する基礎的研究 ・物質文化から見た噴火湾アイヌの近現代史 ・北海道博物館所蔵資料に関する基礎情報の集積
近年の主な業績	2016;「北海道アイヌの儀礼用冠について—北海道大学植物園・博物館所蔵資料の検討—」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 1 号 2016;「北海道乙部町伝世の木綿衣ほか—平成 27 年度新収蔵資料の紹介—」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 1 号 2012;「垂柳式土器の蓋と恵山式土器の蓋—弥生中期本州島東北部における蓋形土器の一系譜—」『靫』第 8 号 2012;「第 4 章第 3 節 本州島東北部における初期弥生土器の成立過程」『江豚沢 I』江豚沢遺跡調査グループ 2011;「後北式土器拡散開始期における集団移動の様相」『北海道考古学』第 46 号

出利 葉 浩 司 Koji DERIHA

職 名	学芸部道民サービスグループ兼アイヌ文化研究グループ学芸員
学 位	学士、1978年(北海道大学文学部日本史学科)
担当分野	アイヌ文化(民具)

所 属 学 会	日本文化人類学会、北海道民族学会、American Anthropological Association
研 究 課 題	・博物館民族資料の収集、収蔵、展示にかかわる調査研究 ・『いわゆるチェルカーン型の罌で、なにを獲ったのだろうか?』
近年の主な業績	2015;「アイヌ物質文化はどのような視点から研究されてきたのだろうか」『国立民族学博物館調査報告 132』 2015;「北米の博物館展示からみた自然史展示の方向性」『北方地域の人と環境の関係史研究報告』 2014;「Trade and the Paradigm Shift in Research on Inu Hunting Practices」M. Hudson et.al eds『Beyond Ainu Studies』 Univ of Hawaii Press 2014;「スター、パチェラーそしてセントルイスに行ったアイヌの人びとをめぐる北海道でのできごと」『北海道開拓記念館研究紀要』第42号

Ⅲ 北海道博物館の運営

1 施設及び周辺環境の整備

道民と共に歩み、愛される博物館として豊かな時間と空間を提供しつづけるために、関係機関と連携を図りながら周辺環境の整備や利用者の安全確保に努めると共に、グランドホールなどの館内施設の活用を図っています。

関係機関との連携

北海道博物館、北海道開拓の村、野幌森林公園自然ふれあい交流館及び道立自然公園野幌森林公園の一体的かつ効果的な管理・運営に努めていくため、関係機関との一層の連携を進めています。

(1) 道立自然公園野幌森林公園管理運営協議会

この協議会は、道立自然公園野幌森林公園の関係機関相互の情報交換や連絡調整を図り地域内の合意形成を行うとともに、道立自然公園における保護と利用促進に必要な施策を実施することで、実情に応じた保護・利用形態を創出することを目的として、平成13(2001)年4月6日に設置されたものです。

構成 (平成27年4月時点)

石狩森林管理署、北海道空知総合振興局森林室、札幌市、北広島市、江別市、北海道博物館(事務局)

平成27年度の実施内容

実施日	内容
2015年 4月 15日	運営協議会の開催(事業実施報告、事業計画の策定など)
2015年 5月 26日	野幌森林公園の一斉清掃(クリーンクリーン野幌)の実施(春季)
11月 6日	野幌森林公園の一斉清掃(クリーンクリーン野幌)の実施(秋季)

(2) 野幌森林公園林野火災予消防対策会議

この会議は、野幌森林公園における林野火災の予防及び消火に万全を期すため、関係機関との連絡調整をはじめ、公園区域内のパトロールや林野火災予防のための普及啓発活動を実施することを目的に設置されています。

会議に参加している機関 (平成27年4月時点)

野幌森林愛護組合、一般財団法人北海道歴史文化財団、公益財団法人北海道埋蔵文化財センター、石狩森林管理署、空知総合振興局、札幌市、江別市、北広島市、北海道博物館(事務局)など

平成27年度の実施内容

実施日	内容
2015年 4月 15日	対策会議の開催 <議題>・平成26年林野火災発生状況 ・平成27年度野幌森林公園林野火災予消防対策実施要領案について
4月 15日	江別市林野火災予消防対策協議会への出席

施設管理

当館は昭和46(1971)年に竣工した北海道開拓記念館の施設を利用しており、それ以来数度にわたり施設改修や設備の補修を実施してきました。平成27(2015)年の開館に際して、多目的トイレの新設、収蔵庫電子ロックシステムの導入など、大規模な施設改修を行いました。開館後は、来館者の安全を確保し、より利用者の利便性の向上を図るため、全職員を対象にした避難誘導や消防訓練の強化に努めるとともに、館内設備の補修や周辺環境の整備に取り組んでいます。

平成 27 年度の訓練等(2 件)

実施日	内容		
2015 年 4 月 9 日	自衛消防班ごとの担当任務の確認 消化器による初期消火訓練	避難経路・消防設備等の確認	火災を想定した避難誘導訓練
2016 年 3 月 3 日	石狩地区林野火災予消防対策会議への出席		

平成 27 年度の設備および周辺環境の整備(3 件)

実施日又は期間	内容		
2015 年 4 月 1 日	開拓の村との分岐地点から博物館前広場付近へのバス停移設		
2015 年 4 月 1 日	野幌森林公園の案内板の設置 (館内)		
2016 年 3 月 7 日～18 日	2 階から屋上階への階段手すり高上工事		

指定管理者業務

指定管理者は以下のような責任の分担により、施設や設備の維持管理などを行っています。

項目	区分	内 容	道	指定管理者	
施設 の 管 理 運 営	利用提供業務	・利用窓口（利用の受付、案内、承認、制限、取消し）、苦情対応、利用指導等 ・駐車場における利用の承認、利用指導、苦情対応 ・特別展示室の貸室事業等の実施		◎	
	利用料金の収受	利用料金の決定、収受、減免	○	◎	
	博物館事業	(資料収集) ・北海道の歴史、文化、自然等に関する資料を収集 (資料の保存) ・北海道の歴史、文化、自然等に関する資料を保存管理 (資料の展示) ・展示及び特別展示の企画運営・解説 (調査研究) ・北海道の歴史、文化、自然等に関する資料等の調査研究 ・調査研究に伴う紀要、調査報告書等の発行等 (教育普及事業の実施) ・講演会、体験学習会等の開催による学習の場の提供等 ・体験学習室の運営 (案内書等の作成配布) ・展示物に関する案内書、解説書等の作成及び配布 (記念ホール等の使用) ・使用の受付、承認、制限又は取消及び付随業務 (特別観覧) ・資料の特別観覧の受付、承認、指示及び付随業務 (模写品等の刊行) ・資料の模写品等の刊行等の受付、承認 (資料の貸出) ・資料の貸出の受付、承認	◎		
	利用促進業務	パンフレット、ポスター、営業等による広報活動 インターネット・広報紙等による情報提供事業 利用者満足度調査の実施、結果の公表	○報道発表 ◎ ◎	◎ ○ ◎	
	事故処理等	事故発生時の応急処置、道・警察等への連絡等	◎	◎	
	災害時対応	災害発生時の応急処置、道・警察等への連絡等	◎	◎	
	利用者の利便性向上等に資する業務	利用者の理解・利用の促進に資する行催事又は事業等の実施 食堂、売店等の設置による飲食物等の販売提供		◎ ◎	
	施設設備等の維持管理	植物等管理	敷地内芝生・樹木等の管理		◎
		施設の保守点検	設備等の法定点検、供与物品の管理、管理施設及び備品等の修繕・更新、消耗資材の交換等	○	◎
		衛生管理	日常清掃、特別清掃、ゴミ処理		◎
警備業務		警備業務（敷地内巡回点検等を含む）		◎	
除排雪		管理用道路、記念塔前ロータリー、百年記念広場区の遊歩道、業務用駐車場、記念塔前駐車場（博物館側）、博物館前庭等の除雪		◎	
展示施設の管理		・総合展示室の展示の保守業務（映像展示機器等の保守業務を含む）		◎	
有害駆除		・博物館建物内の防虫防鼠 ・記念施設地区内の蜂、カラスの巣等駆除		◎	
備品等の管理		調査研究業務に係る研究備品等の維持、管理、更新等 調査研究業務以外に係る施設及び備品等の維持、管理、更新等	◎	◎ ◎	
安全確保	施設利用者の安全確保		◎		
その他	指定管理業務に伴う財務、契約、記録管理等		◎		

※「北海道立総合博物館指定管理者公募要項」(平成 26 年 10 月)より抜粋

博物館資源の活用

展示会の関連イベントなどに際して、関係機関や団体と連携し、グランドホールや記念ホールなどの大規模空間を活用した企画を実施したり、オリジナルグッズの販売など行っています。

(1) 施設の活用

施設	実施日又は期間	内容	主催・企画者
記念ホール	2015年 4月 17日	北海道博物館開館記念式典	北海道博物館
	2015年 7月 11日	北海道の博物館まつり	北のミュージアム活性化実行委員会
	2015年 8月 29日	地方版クールジャパン推進会議	内閣官房
	2015年 9月 4日	特別展 「夷酋列像」 開会式典	北海道博物館
	2015年 11月 3日	アイス音楽ライブ	北海道博物館
グランドホール	2016年 11月 27日	北海道・アルバータ州姉妹提携35周年記念「Across Borders : 石川直樹写真展」オープニングセレモニー	北海道、カナダアルバータ州政府在日事務所
	2015年 9月 4日 ～11月 8日	特別展 「夷酋列像」に関連する映像モニター設置	NHK札幌

(2) オリジナルグッズ

区分	グッズ名		
総合展示関連 (9品)	付箋	定規	コットンバッグ
	メモ帳	鉛筆2本セット	木札ストラップ
	消しゴム	珪藻コースター	B5ノート
特別展関連のグッズ (6点) ※開催期間限定	ポストカード (バラ、セット)	マグネット	マグカップ
	付箋	不織布バッグ	クリアファイル



総合展示関連グッズの一部



特別展関連グッズの一部 (開催期間限定)

※オリジナルグッズは、当館入口のミュージアム・カフェ (指定管理者運営 ☎011-898-0466) で行っています。

2 北海道立総合博物館協議会

北海道立総合博物館条例に基づき、北海道立総合博物館の事業を円滑かつ適正に行うため、知事の附属機関として、「北海道立総合博物館協議会」及び「アイヌ民族文化研究センター専門部会」を設置しています。平成27年度の開催期日・協議事項は次のとおりです。

北海道立総合博物館協議会

第1回	日 時	平成27年8月4日(火) 14:00~17:10
	場 所	北海道博物館 記念ホール
	議 題	(1) 会長および副会長の選出 (2) 北海道立総合博物館協議会運営要綱(案)について (3) 北海道博物館基本的運営方針について (4) 北海道博物館中期目標・計画について (5) 北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会の設置について (6) 北海道博物館評価実施のあり方について(諮問) (7) 今後のスケジュールについて (8) その他
第2回	日 時	平成28年3月23日(水) 10:00~12:00
	場 所	北海道庁別館庁舎9階 第1研修室
	議 題	(1) 北海道博物館の評価方法のあり方について(答申) (2) 平成27年度事業実績報告(業務実績に関する内部評価報告) (3) その他

委員(任期:平成27年8月1日~平成29年7月31日)

氏 名	現 職(2016年7月現在)
宇佐美 暢子	前株式会社エフエム北海道 代表取締役社長
大原 昌宏	北海道大学総合博物館 副館長
加藤 忠 (副会長)	公益社団法人北海道アイヌ協会 理事長
児島 恭子	札幌学院大学 教授
佐々木 亨 (会長)	北海道大学大学院文学研究科 教授
竹垣 吉彦	イオン北海道株式会社 取締役兼執行役員管理本部長
本田 優子	札幌大学 副学長

北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会

第1回	日 時	平成27年11月10日(火) 13:30~15:05
	場 所	北海道庁本庁舎 7階共用B会議室
	議 題	(1) 北海道立総合博物館協議会の説明 (2) アイヌ民族文化研究センターの事業計画 (3) 今後のスケジュール(案) (4) 意見交換・情報交換

委員（任期：平成27年11月1日～平成29年10月31日）

氏名	現職(2016年7月現在)
大島 稔	小樽商科大学特任教授
加藤 忠 (部会長)	公益社団法人北海道アイヌ協会 理事長
児島 恭子	札幌学院大学 教授
酒井 奈々子	帯広カムイトウウポポ保存会会長
澤田 一憲	公益社団法人北海道アイヌ協会 理事 / 苫小牧アイヌ協会会長
関根 真紀	平取アイヌ文化保存会理事

北海道立総合博物館協議会評価作業部会

平成27(2015)年8月に開催された第1回の北海道立総合博物館協議会(以下、協議会)において、知事から協議会に対して「北海道博物館の評価方法のあり方について」の諮問がありました。この諮問について具体的な内容を検討するために、会長を中心とする「評価作業部会」が協議会内に設置されました。

評価作業部会の構成

氏名	所屬
佐々木 亨	協議会 会長
竹垣 吉彦	協議会 委員
大原 昌宏	協議会 委員
吉田 公伸	事務局 副館長
北 敏文	事務局 総務部長兼主幹
舟山 直治	事務局 学芸部長
小川 正人	事務局 アイヌ民族文化研究センター長
右代 啓視	事務局 総務部企画グループ学芸主幹
会田 理人	事務局 総務部企画グループ学芸主査
田村 雅史	事務局 総務部企画グループ研究職員

【第1回】平成27(2015)年10月14日(水)

評価作業部会からの要望書に従い、「北海道博物館基本計画」、「北海道博物館基本的運営方針」、「中期目標・計画(第1期)」、「平成27年度年度計画」の整合性の説明、北海道博物館各種事業方針の説明と確認、館のPDCAの考え方の説明などを事務局から行いました。

【第2回】平成27(2015)年12月1日(火)

第1回目の作業部会で要望があった次の点について当館の考え方などを説明した後、内部評価及び外部評価についての確認や意見交換が行われました。

- ① 博物館および北海道のガバナンス
- ② 館内のガバナンス
- ③ 目標管理体制
- ④ 5ヵ年計画のプライオリティ
- ⑤ 評価を実施するにあたってのTOR (Terms of Reference)

※ TOR (Terms of Reference) : 調査実施者への委託事項を記した書類。評価の範囲と方向性(具体的には、何を評価するのか、なぜ評価するのかといった点)を発注者として明確にすることがら。

【第3回】平成28(2016)年1月27日(水)

博物館の内部評価を実施するための実施要領(案)・内部評価委員会設置要項(案)、外部評価を実施するための外部評価実施要領(案)などについての協議が行われました。

【第4回】平成28(2016)年3月2日(水)

これまでの検討・議論を整理した「北海道博物館の評価方法のあり方について」の答申(案)の内容について最終確認が行われました。

3 評価制度

概要

道は、平成20(2008)年に北海道文化審議会に対して「北海道における博物館のあり方と開拓記念館の役割」について諮問し、その答申を受け平成22(2010)年9月に「北海道博物館基本計画」(以下、基本計画)を策定しました。「基本計画」の中で「博物館運営の評価」について、「(前略)運営が適切に行われているか否かを的確に検証し、改善に努める。」ことが示されました。これを受け、平成27(2015)年8月に開催された第1回の北海道立総合博物館協議会において、知事から協議会に対して「北海道博物館の評価方法のあり方について」の諮問が行われました。評価方法のあり方については、会長を中心とする「評価作業部会」を設け、これに協議会委員2名が加わり、具体的な答申内容を検討することが承認されました。この評価作業部会は4回開催され、平成28(2016)年3月に開催された第2回の協議会で答申案が承認され、知事に提出されました。答申書の主な項目は以下のとおりです。

- ・ 北海道博物館(以下「博物館」という)の評価については、博物館による「内部評価」に加え、第三者による「外部評価」が必要である。(答申書第1項目)
- ・ 博物館が実施する「内部評価」は、博物館の基本的運営方針及び中期目標・計画に基づいて評価項目を設定し、評価判定を行う。(答申書第2項目)
- ・ 第三者による博物館の「外部評価」は、北海道立総合博物館協議会が実施する。
また、北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会は、外部評価のための基礎的な意見交換の役割を担うこととする。(答申書第4項目)
- ・ 「道民参加型組織」を立ち上げ、外部としての意見聴取・交換の機能を充実させるため、館長の諮問に応える組織をつくるのが望ましい。(答申書第6項目)

平成27年度の「内部評価」は、平成28(2016)年1月27日の「評価作業部会」で試行的に実施することの了承を得て、実施しました。今後、協議会による外部点検をとおして毎年度実施する「内部評価」の改善を図り、平成29(2017)年度には協議会による中間期の「外部評価」が実施され、中期目標・計画の最終年度にあたる平成31(2019)年度には5年間の事業内容についての「外部評価」を実施することが予定されています。

内部評価

項目別評価

各グループが実施した事業に関する点検作業の結果に基づいて、年度計画の項目ごとに、各グループの主幹、学芸主幹及び研究主幹が年度事業の実績ならびに達成状況や課題を記述するとともに、評価基準により評価を行っています。

総括評価

項目別評価の結果に基づいて、博物館が設置した「北海道博物館内部評価委員会」において、全体及び特記事項について記述式により以下の評価項目についての評価を行っています。

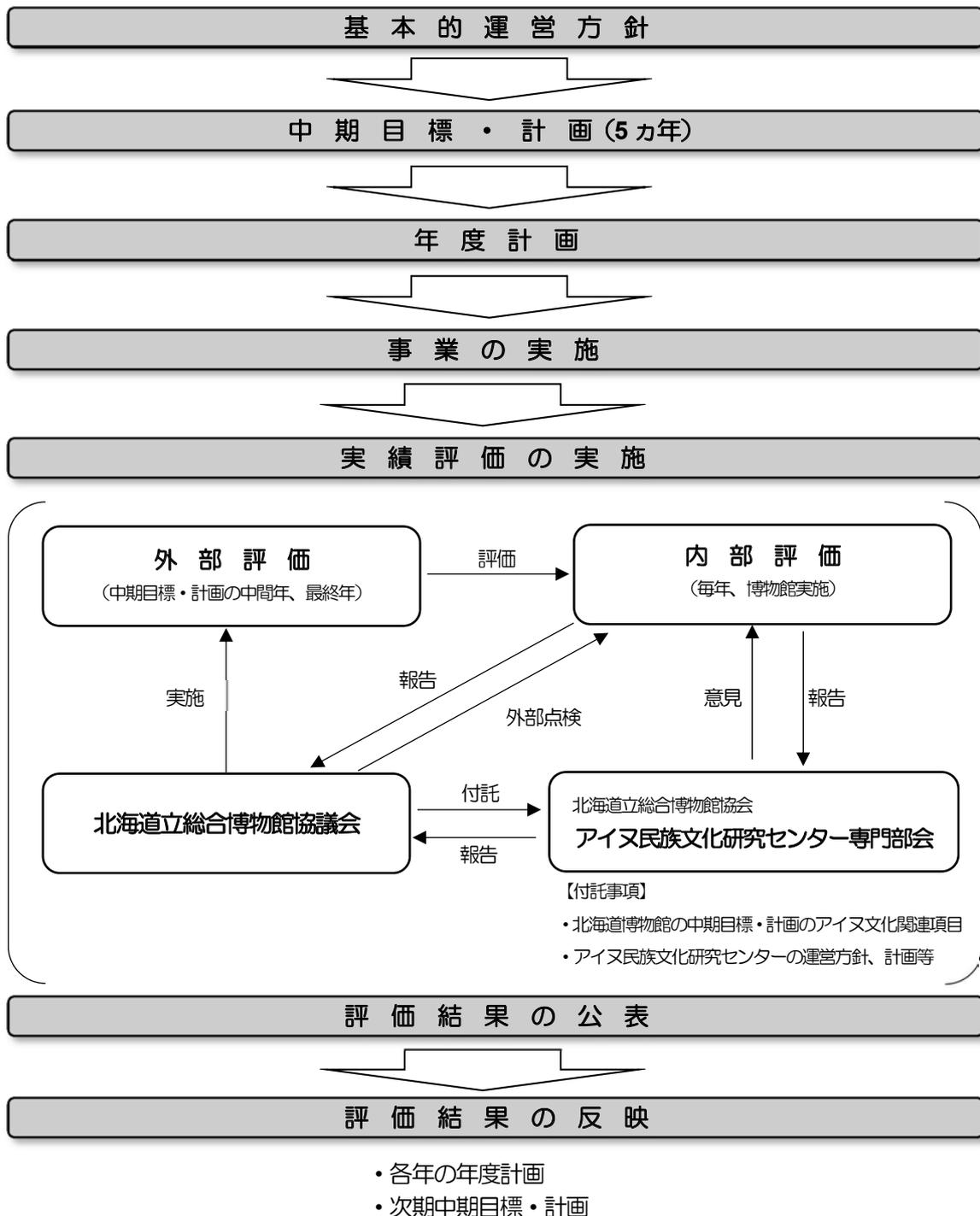
- | 評価項目 | |
|------|--------------------------------------|
| | (1) 博物館活動の基盤となる、展示、調査研究等を推進させる措置 |
| | (2) 道民が特色ある地域文化の創造や地域活性化の拠点とするための措置 |
| | (3) 利用者の視点に立った博物館づくりへの措置 |
| | (4) 道民との連携、協働する博物館づくりへの措置 |
| | (5) 北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献する措置 |
| | (6) 道民の知的興味に応える博物館づくりへの措置 |
| | (7) 研究成果を活かし、北海道の豊かな未来の実現に向けた措置 |
| | (8) アイヌ文化の振興に寄与すると共に多文化共生社会の実現に向けた措置 |
| | (9) 各々の措置を実施するために必要なガバナンス体制の確立に向けた措置 |

外部評価

協議会により、博物館の中期目標・計画期間の中間年度及び終了年度に中期目標・計画の達成状況に関する外部評価が実施されます。

- 評価項目
- (1) 内部評価の結果に対する評価
 - (2) 内部評価の方法に対する評価
 - (3) 各年度の事業計画に対する評価
 - (4) 目標管理体制に対する評価
 - (5) ガバナンスに対する評価

アイヌ民族文化研究センター専門部会は、アイヌ民族文化研究センターの事業計画やその実績に関して基礎的な意見交換を行い、その結果を外部評価の資料として提出します。



4 利用者調査

道民と共に歩み、愛される博物館を目指し、利用者からの意見・評価を幅広く集め、今後の展示の企画や教育普及事業、広報活動といった博物館活動や運営の改善に活かすため、アンケートによる利用者調査を実施しています。本年度は5回実施しました。実施時期と結果は以下のとおりです。

	期間	観覧者数	アンケート回答数			
			回答率	総数	男性	女性
№1 総合展示	2015年 4 月 18 日 ～ 5 月 31 日	42,239	0.7%	309	173	136
№2 北海道博物館開館記念特別展 夷酋列像	2015年 9 月 5 日 ～ 11 月 8 日	51,046	3.0%	1,512	669	843
№3 第2回企画テーマ展 鶴	2015年 6 月 27 日 ～ 8 月 16 日	15,091	1.7%	263	120	143
№4 北海道・アルバータ姉妹提携35周年記念事業 Across Borders : 石川直樹写真展	2015年 11 月 28 日 ～ 2016年 1 月 17 日	6,071				
第3回企画テーマ展 北海道のアンモナイトとその魅力	2015年 11 月 28 日 ～ 2016年 1 月 17 日	4,930	1.1%	118	54	64
№5 第4回企画テーマ展 神様おねがい!	2016年 2 月 27 日 ～ 4 月 10 日	5,324	1.6%	87	47	35
総合展示(上記の1項目として実施)	2016年 2 月 27 日 ～ 4 月 10 日	5,975	1.0%	60		
	計	130,676	1.8%	2,349	1,063	1,221

■ 年代

	10代未満	10代	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65～69歳	70代	80代以上	総計
№1 総合展示	35	54	21	33	46	43	19	26	23	9	309
№2 北海道博物館開館記念特別展 夷酋列像	65	81	53	97	175	227	193	251	307	70	1,519
№3 第2回企画テーマ展 鶴	47	65	33	20	29	25	14	12	13	9	267
№4 北海道・アルバータ姉妹提携35周年記念事業 Across Borders : 石川直樹写真展											
第3回企画テーマ展 北海道のアンモナイトとその魅力	12	13	15	19	23	16	5	9	7	1	120
№5 第4回企画テーマ展 神様おねがい!	9	14	3	8	15	8	6	9	12	0	84
	計	168	227	125	177	288	319	237	307	362	2,299

■ 住まい

	札幌市内	江別市	北広島市	恵庭市	千歳市	石狩市	その他道内	道外	国外
№1 総合展示	188	31	6	5	3	5	45	15	6
№2 北海道博物館開館記念特別展 夷酋列像	937	99	31	19	16	16	333	64	1
№3 第2回企画テーマ展 鶴	147	25	11	0	7	0	45	20	2
№4 北海道・アルバータ姉妹提携35周年記念事業 Across Borders : 石川直樹写真展									
第3回企画テーマ展 北海道のアンモナイトとその魅力	88	6	1	4	1	1	13	7	2
№5 第4回企画テーマ展 神様おねがい!	48	12	3	1	2	1	12	5	0
	計	1,408	173	52	29	29	448	111	11

■ 同伴者

		ひとりで	友人・仲間	カップル	夫婦	家族・親子で	学校で	その他
№1	総合展示	74	24	6	50	134	13	7
№2	北海道博物館開館記念特別展 夷曾列像	5	192	27	443	416	15	41
№3	第2回企画テーマ展 鶴	37	40	7	31	113	20	13
№4	北海道・アルパータ姉妹提携35周年記念事業 Across Broders:石川直樹写真展	36	11	5	11	53	3	2
	第3回企画テーマ展 北海道のアンモナイトとその魅力							
№5	第4回企画テーマ展 神様おねがい!	31	8	0	14	29	0	1
計		183	275	45	549	745	51	64

■ 情報源

		複数回答可												
		新聞	雑誌	テレビ	ラジオ	ポスター	ちらし	友人・知人の 口コミ	友人・知人の SNA	当館の HP	当館の イベント	赤れんが庁舎 展示	来館して	その他
№1	総合展示	117	14	106	9	134	35	34	9	31	4	4		40
№2	北海道博物館開館記念特別展 夷曾列像	974	17	215	3	54	43	68	13	19	9	2		87
№3	第2回企画テーマ展 鶴	28	6	27	5	25	28	42	5	23	47	3		75
№4	北海道・アルパータ姉妹提携35周年記念事業 Across Broders:石川直樹写真展	14	0	2	2	17	19	12	1	15	5	2	24	16
	第3回企画テーマ展 北海道のアンモナイトとその魅力	13	0	1	1	4	7	4	3	7	1	0	38	11
№5	第4回企画テーマ展 神様おねがい!	14	1	4	1	22	14	4	1	10	14	2		17
計		1,160	38	355	21	256	146	164	32	105	80	13	62	246

■ 利用者満足度

		満足度	内訳			
			たいへん満足	満足	不満足	たいへん不満
№1	総合展示 2015年4月18日～5月31日	86.6%	126	114	25	12
№5	総合展示 2016年2月27日～4月10日	95.0%	23	34	2	1
№2	北海道博物館開館記念特別展 夷曾列像	81.2%	493	676	209	61
№3	第2回企画テーマ展 鶴	96.1%	139	108	4	6
№4	北海道・アルパータ姉妹提携35周年記念事業 Across Broders:石川直樹写真展	97.3%	54	53	2	1
	第3回企画テーマ展 北海道のアンモナイトとその魅力	88.9%	24	40	6	2
№5	第4回企画テーマ展 神様おねがい!	91.6%	20	56	5	2
計		85.3%	879	1,081	253	85

5 職員の資質向上

職員の派遣研修

平成27年度の派遣研修（4件、10名）

研修名	主催	研修内容	期間	場所	氏名
平成27年度ミュージアム IPM研修（基礎編）	九州国立博物館	IPM（総合的有害生物管理）を進めるために必要な専門的な知識や技術に関する基礎的な講義と実習	9月9日～11日	九州国立博物館 （福岡県太宰府市）	山際 秀紀
国宝・重要文化財（美術工芸品）防災・防犯対策研修会	文化庁	文化財の防災・防犯対策及び実務内容に関する専門的な知識の研修	11月6日	旧文化庁庁舎 （東京都千代田区）	堀 繁久 山際 秀紀
大津波プロジェクト 第2回 ワークショップー北海道博物館会場ー	津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会	被災文化財の保存修復技術（安定化処理方法）についての講義と実習	12月4日	北海道博物館	山際 秀紀 杉山 智昭 遠藤 志保 春木 晶子
平成27年度全日本博物館学会第3回博物館教育研究会	全日本博物館学会	北海道博物館の総合展示を素材に課題と可能性を探る講演とワークショップ	2月20日	北海道博物館	堀 繁久 水島 未記 栗原 憲一

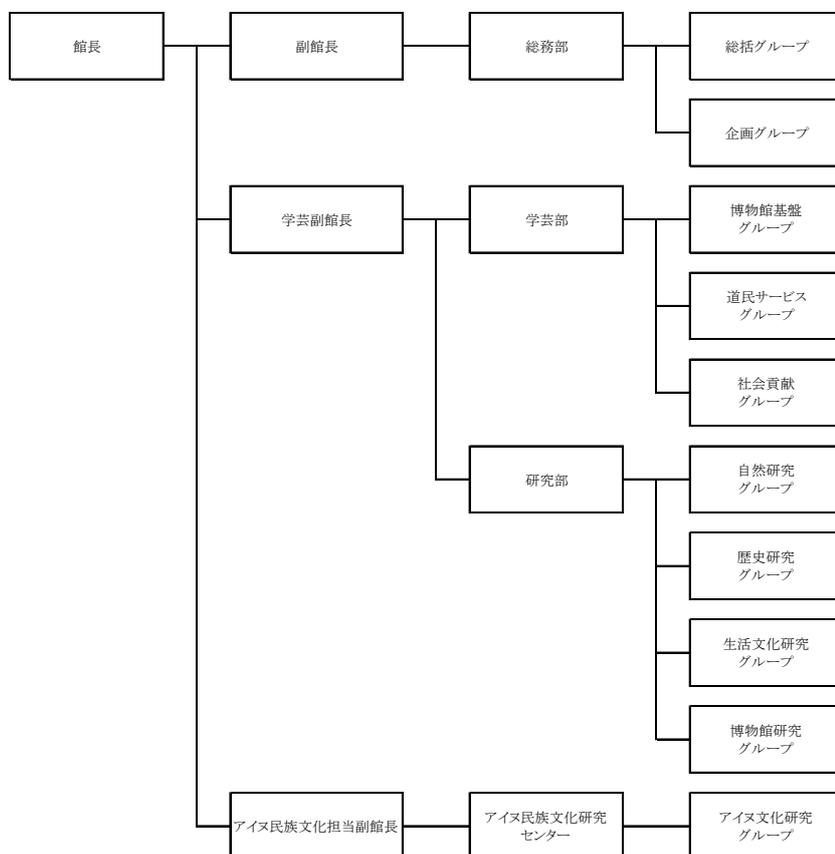
6 組織・職員名簿

歴代館長

初代 石森秀三

平成27(2015)年 4月 1日 ～

組織



現員（平成27(2015)年4月1日現在）

所属	区分	常勤		非常勤		合計
		行政職	研究職	特別職	一般職	
館長				1		1
副館長		1				1
学芸副館長			欠			0
アイヌ民族文化担当副館長				1		1
部長		1	2(1)			3(1)
総括グループ		7(1)				7(1)
企画グループ			5			5
博物館基盤グループ			9			9
道民サービスグループ			7			7
社会貢献グループ		1	5			6
自然研究グループ			(4)			(4)
歴史研究グループ			(7)			(7)
生活文化研究グループ			(4)			(4)
博物館研究グループ		(1)	(5)			(6)
アイヌ文化研究グループ			(7)	2		2(7)
解説員					14	14
合計		10(2)	28(28)	4	14	56(30)

※ ()は、兼務数で外数。

職員名簿（平成27(2015)年4月1日現在）

北海道博物館	学芸主査 山田 伸一	学芸員（兼） 表 溪太	研究職員（兼） 遠藤 志保
館長（非常勤） 石森 秀三	学芸員 添田 雄二	歴史研究グループ	研究職員（兼） 大坂 拓
副館長 関下 祐二	学芸員 春木 晶子	学芸主幹（兼） 右代 啓視	学芸員（兼） 出利葉浩司
学芸副館長 欠	研究職員 遠藤 志保	学芸主査（兼） 山田 伸一	研究職員（非常勤） 佐々木利和
アイヌ民族文化担当副館長（非常勤） 中村 亘	学芸員 寺林 伸明	学芸主査（兼） 三浦 泰之	研究職員（非常勤） 奥田 統己
総務部	学芸員 村上 孝一	学芸主査（兼） 鈴木 琢也	解説員
総務部長 北 敏文	道民サービスグループ	学芸主査（兼） 東 俊佑	主事（非常勤） 青木 朱美
総括グループ	学芸主幹（GL） 池田 貴夫	学芸員（兼） 春木 晶子	主事（非常勤） 麻生 典子
主幹（GL）（兼） 北 敏文	学芸主査 東 俊佑	学芸員（兼） 寺林 伸明	主事（非常勤） 斉藤 智子
主幹（兼） 川田 宣人	学芸主査 杉山 智昭	生活文化研究グループ	主事（非常勤） 越田 雅子
主査 中野 淑行	研究職員 圓谷 昂史	学芸主幹（兼） 池田 貴夫	主事（非常勤） 埴見 裕子
主査 山口 拓磨	研究職員 大坂 拓	学芸主査（兼） 山際 秀紀	主事（非常勤） 福島奈緒子
主査 藤本 剛	学芸員 表 溪太	学芸主査（兼） 会田 理人	主事（非常勤） 堀 泰子
主査 今 聡人	学芸員 出利葉浩司	学芸員（兼） 青柳かつら	主事（非常勤） 山田日登美
主任 西尾 千秋	社会貢献グループ	博物館研究グループ	主事（非常勤） 浅井 雅世
主任 徳本 彩	学芸主幹（GL） 水島 未記	学芸主幹（兼） 堀 繁久	主事（非常勤） 工津 尋美
企画グループ	研究主査 甲地 利恵	学芸主査（兼） 杉山 智昭	主事（非常勤） 折館 里佳
学芸主幹（GL） 右代 啓視	学芸主査 欠	学芸員（兼） 栗原 憲一	主事（非常勤） 今村ゆみ子
学芸主査 三浦 泰之	研究職員 大谷 洋一	学芸員（兼） 小林 孝二	主事（非常勤） 久保田幸恵
学芸主査 会田 理人	学芸員 青柳かつら	学芸員（兼） 村上 孝一	主事（非常勤） 川村 昌江
研究職員 田村 雅史	学芸員 栗原 憲一	主任（兼） 櫻井万里子	
学芸員 小林 孝二	主任 櫻井万里子	アイヌ民族文化研究センター	人事異動
学芸部	研究部	アイヌ民族文化研究センター長 小川 正人	新任（6月1日付）
学芸部長 舟山 直治	研究部長（兼） 小川 正人	アイヌ文化研究グループ	副館長 吉田 公伸
博物館基盤グループ	自然研究グループ	研究主幹（兼） 小川 正人	転出（5月31日付）
学芸主幹（GL） 堀 繁久	学芸主幹（兼） 水島 未記	研究主査（兼） 甲地 利恵	主幹（兼） 川田 宣人
学芸主査 山際 秀紀	学芸員（兼） 添田 雄二	研究職員（兼） 大谷 洋一	主査 山口 拓磨
学芸主査 鈴木 琢也	研究職員（兼） 圓谷 昂史	研究職員（兼） 田村 雅史	

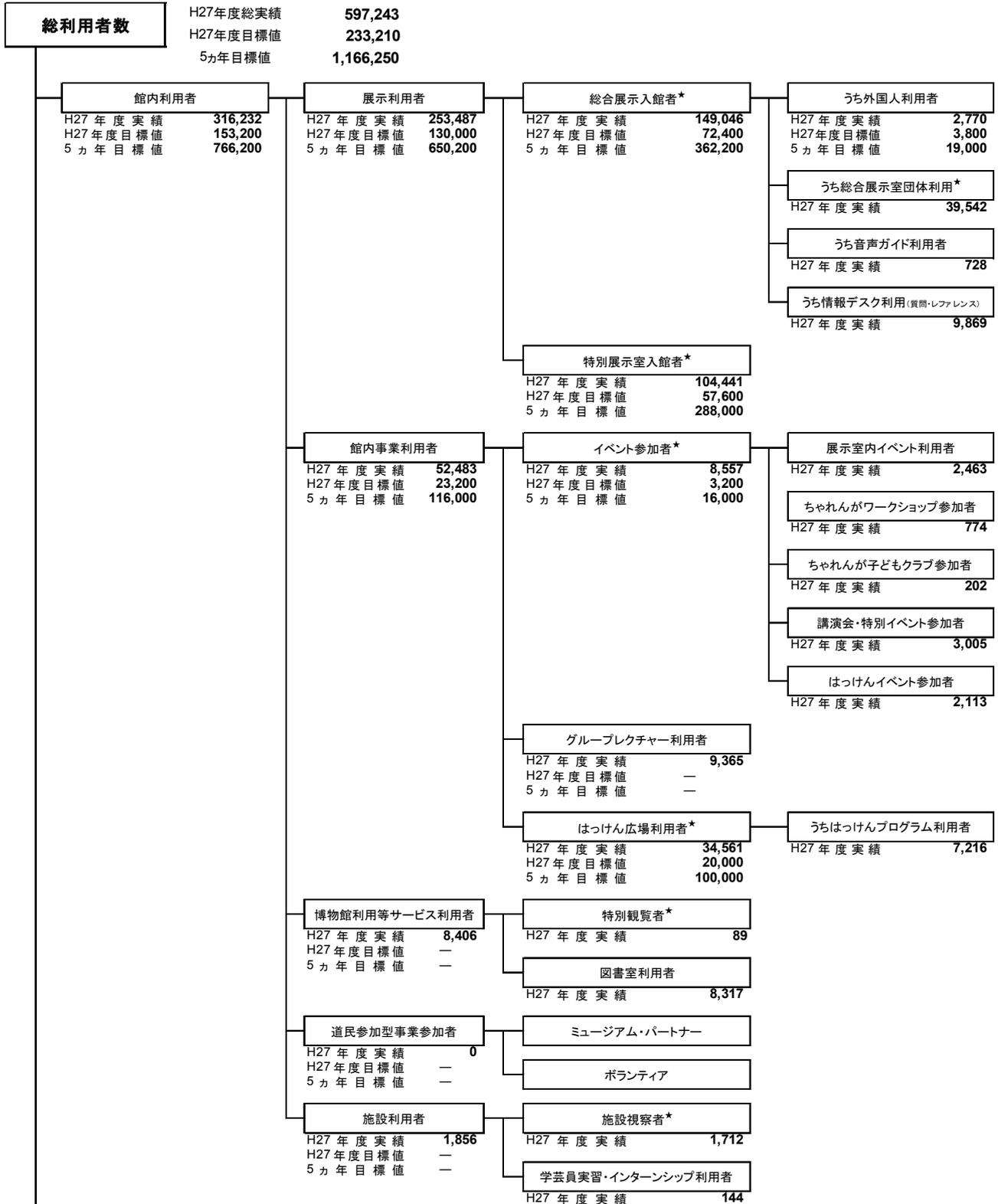
グループ	主な事務分掌又は研究分野
総務部	
総括グループ	館の庶務、職員の人事・服務・研修・福利厚生、職員の給与・手当、館の予算・経理・決算、庁中管理、公有財産・物品、式典、指定管理、自然公園法、道立自然公園条例など
企画グループ	館業務の総合的企画及び連絡調整、利用者ニーズの把握、自己点検評価、博物館協議会の運営、北海道開拓の村の整備・修繕計画など
学芸部	
博物館基盤グループ	資料、展示及び調査研究に係る業務の企画、調整など
道民サービスグループ	教育普及事業、利用者サービス及び広報に係る業務の企画、調整など
社会貢献グループ	博物館交流、情報発信及び研究成果の活用に係る業務の企画、調整など
研究部	
自然研究グループ	自然史系分野（地学、生物学）
歴史研究グループ	歴史系分野（考古学、歴史学、美術史学）
生活文化研究グループ	生活文化系分野（産業学、生活学）
博物館研究グループ	博物館学系分野（展示学、博物館教育学、保存科学、資料管理学、図書館学）
アイヌ民族文化研究センター	
アイヌ文化研究グループ	アイヌ文化系分野（言語、歴史、芸能、民具・伝統的生活技術）

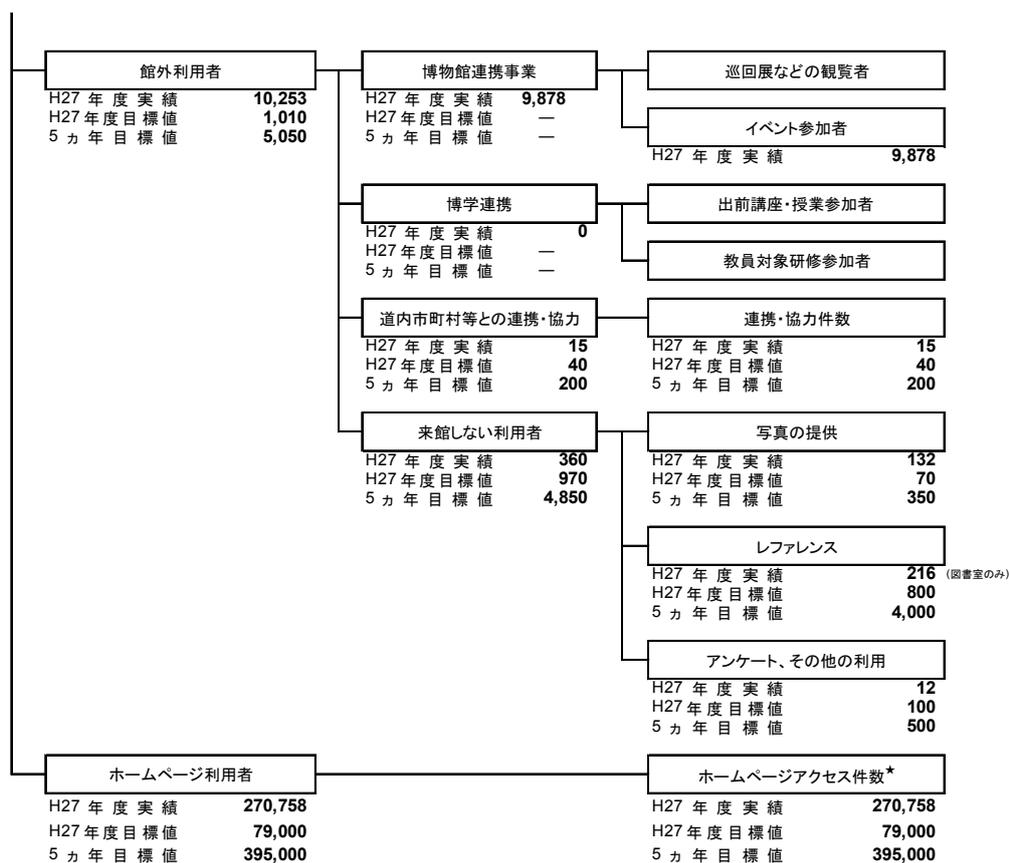
7 利用者数

博物館の総利用者数

※用語・記号について

- ・平成27年度目標値 平成27年度の年度計画における目標値です。
- ・5ヵ年目標値 「北海道博物館中期目標・計画(第1期)平成27年度～平成31年度」における目標値です。
- ・★(星印) 「月別利用者数の推移」を別添掲載している項目であることを示しています。





月別利用者数の推移

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
総合展示室	2015	13,112	29,127	13,184	14,637	16,918	22,403	17,739	9,291	2,897	3,246	2,672	3,820	149,046
特別展示室	2015	7,448	14,899	3,036	7,834	5,763	15,751	23,841	12,605	4,792	4,518	523	3,431	104,441
はっけん広場	2015	2,859	6,034	3,408	2,788	4,451	5,295	3,234	2,126	1,062	1,420	710	1,174	34,561
講演・講座等	2015	303	429	146	970	536	1,351	1,129	1,263	502	662	514	752	8,557
資料閲覧	2015	1	7	5	12	8	4	8	10	8	6	7	13	89
総合展示室団体利用	2015	43	2,580	5,316	5,400	4,510	10,460	7,334	2,013	629	478	414	365	39,542
視察者	2015	80	229	128	96	160	297	258	174	120	49	83	38	1,712
小計	2015	23,846	53,305	25,223	31,737	32,346	55,561	53,543	27,482	10,010	10,379	4,923	9,593	337,948
赤れんがサテライト	2015	34,912	51,234	47,160	63,936	75,961	54,518	52,190	36,430	40,399	42,822	60,625	50,032	610,219
ホームページ	2015	33,846	31,678	18,893	22,082	22,660	31,512	35,733	24,209	13,169	14,184	10,284	12,508	270,758
総計	2015	92,604	136,217	91,276	117,755	130,967	141,591	141,466	88,121	63,578	67,385	75,832	72,133	1,218,925

※ この表は、前出の「博物館の利用者数」のうち「★」が付いた項目と赤れんがサテライトについての月別利用者数の推移をまとめたものです。

IV 資 料

統合した2つの組織の主な実績

北海道開拓記念館 来館者数

年 度	開拓記念館			備 考
	有料	無料・免除	計	
昭和46年 1971	262,436	53,783	316,219	4月15日 開拓記念館開館
昭和47年 1972	243,124	69,467	312,591	
昭和48年 1973	212,961	83,279	296,240	
昭和49年 1974	201,601	104,969	306,570	
昭和50年 1975	192,812	114,124	306,936	
昭和51年 1976	185,770	120,522	306,292	
昭和52年 1977	168,202	121,522	289,724	
昭和53年 1978	173,642	126,993	300,635	
昭和54年 1979	164,527	130,561	295,088	
昭和55年 1980	156,696	125,667	282,363	館:料金改定
昭和56年 1981	138,181	117,545	255,726	
昭和57年 1982	129,124	113,584	242,708	
昭和58年 1983	123,139	112,645	235,784	4月16日 開拓の村開村
昭和59年 1984	103,141	101,559	204,700	館:料金改定
昭和60年 1985	108,338	92,996	201,334	
昭和61年 1986	89,565	83,113	172,678	
昭和62年 1987	97,508	84,323	181,831	
昭和63年 1988	84,161	78,048	162,209	村:料金改定
平成元年 1989	82,045	69,048	151,093	
平成 2年 1990	76,305	60,014	136,319	
平成 3年 1991	60,930	55,843	116,773	館:展示改訂休館(11月4日～4月14日)
平成 4年 1992	79,267	62,769	142,036	館・村:料金改定、館:常設展示改訂
平成 5年 1993	64,997	55,855	120,852	
平成 6年 1994	53,259	52,120	105,379	
平成 7年 1995	64,838	56,378	121,216	
平成 8年 1996	32,269	66,235	98,504	小中高生無料化
平成 9年 1997	31,013	59,089	90,102	村:消費税分改定
平成10年 1998	21,278	52,577	73,855	館:耐震工事休館(11月4日～3月31日)
平成11年 1999	24,171	51,727	75,898	
平成12年 2000	22,635	48,195	70,830	
平成13年 2001	20,104	47,047	67,151	
平成14年 2002	18,942	45,857	64,799	
平成15年 2003	17,178	38,215	55,393	
平成16年 2004	15,024	38,197	53,221	料金改定・高校生有料化、村:利用料金制度開始
平成17年 2005	11,990	39,049	51,039	館:アスベスト工事休館(11月8日～12月28日)
平成18年 2006	11,901	36,137	48,038	村:指定管理者制度導入
平成19年 2007	12,068	29,314	41,382	
平成20年 2008	10,357	29,443	39,800	館:料金改定、村:据置
平成21年 2009	14,181	53,708	67,889	
平成22年 2010	20,378	61,564	81,942	館:指定管理者制度導入
平成23年 2011	39,150	58,955	98,105	
平成24年 2012	38,210	58,567	96,777	
平成25年 2013	13,757	29,665	43,422	館:改修工事による休館(11月4日～3月31日)
平成26年 2014				館:改修工事による休館(1年間)
平成27年 2015				館:北海道博物館開館(4月18日～)
計	3,639,208	3,002,036	6,641,244	

北海道開拓記念館 特別展開催一覧

回数	名称	期間	日数	入場者数
第1回	北海道百年記念事業展	1971(昭和46)年 4月15日～6月30日	77	—
第2回	北の生活展	1971(昭和46)年 8月1日～8月30日	26	18,439
第3回	アンモナイト展	1971(昭和46)年 10月1日～10月30日	27	14,827
第4回	北方民族展	1972(昭和47)年 1月20日～2月29日	38	7,111
第5回	北海道地図今昔展	1972(昭和47)年 6月1日～6月30日	25	11,489
第6回	津軽海峡と青函トンネル展	1972(昭和47)年 8月5日～9月24日	44	23,132
第7回	農業のあゆみ展	1972(昭和47)年 10月10日～11月30日	45	5,194
第8回	屯田兵	1973(昭和48)年 6月16日～8月20日	57	63,501
第9回	ニシン魚労	1973(昭和48)年 9月11日～10月31日	43	30,359
第10回	サッポロあるがまま	1974(昭和49)年 2月1日～3月31日	50	7,604
第11回	縄文文化	1974(昭和49)年 6月15日～8月15日	53	59,554
第12回	炭鉱	1974(昭和49)年 9月5日～10月27日	45	50,920
第13回	北海道やきもの展	1975(昭和50)年 6月1日～7月13日	38	60,023
第14回	昭和20年	1975(昭和50)年 8月15日～10月15日	53	70,333
第15回	ヒグマ	1976(昭和51)年 7月20日～8月31日	37	54,517
第16回	山に生きる	1977(昭和52)年 7月20日～8月31日	37	46,762
第17回	北海道に象がいたころ	1978(昭和53)年 7月16日～8月27日	37	47,433
第18回	教科書と子どもたち	1979(昭和54)年 7月21日～9月16日	50	56,849
第19回	北の職人	1980(昭和55)年 7月1日～9月7日	50	64,134
第20回	雪と氷と人間	1981(昭和56)年 7月4日～9月6日	56	53,455
第21回	野幌丘陵	1982(昭和57)年 7月4日～9月5日	58	48,730
第22回	幕末の北辺	1983(昭和58)年 6月15日～7月15日	27	33,599
第23回	発掘された北の文化	1983(昭和58)年 8月2日～10月2日	53	52,219
第24回	明治維新と北海道開拓	1984(昭和59)年 6月1日～7月10日	34	38,525
第25回	アイヌの装い	1984(昭和59)年 9月1日～11月30日	75	38,593
第26回	津軽こぎんと南部菱ざし	1985(昭和60)年 6月1日～7月21日	44	41,608
第27回	北海道一億年	1985(昭和60)年 8月1日～9月29日	51	42,561
第28回	秋田の民俗	1986(昭和61)年 5月1日～7月6日	58	61,817
第29回	離島	1986(昭和61)年 7月20日～9月30日	62	33,890
第30回	日本海	1987(昭和62)年 7月4日～8月31日	50	20,041
第31回	岩手の風土と伝統産業	1987(昭和62)年 9月10日～11月8日	51	20,955
第32回	山形の民俗	1988(昭和63)年 4月30日～6月30日	53	34,717
第33回	北欧・トナカイ遊牧民の工芸	1988(昭和63)年 7月9日～9月18日	62	52,621
第34回	北への視角	1988(昭和63)年 10月1日～12月4日	54	12,952
第35回	海を渡った武士団	1989(平成元年) 5月2日～7月28日	76	57,930
第36回	集治藍	1989(平成元年) 9月1日～11月5日	57	45,182
第37回	北に生きた会津武士と農民	1990(平成2年) 5月1日～8月5日	84	49,061
第38回	北方民族資料展	1990(平成2年) 8月10日～11月4日	74	36,767
第39回	アルバータ州先住民族の文化	1993(平成5年) 7月28日～9月23日	50	24,289
第40回	ロシア極東諸民族の歴史と文化	1994(平成6年) 8月2日～9月20日	43	20,125
第41回	ライマンコレクション	1995(平成7年) 8月29日～11月3日	60	24,840
第42回	山丹貿易と蝦夷錦	1996(平成8年) 6月1日～7月28日	49	19,670
第43回	黒竜江省の恐竜化石と歴代文化物展	1996(平成8年) 10月22日～12月8日	41	4,984
第44回	クビナガリュウからステラーカイギュウ	1997(平成9年) 7月11日～8月31日	44	13,411
第45回	北の古代史をさぐる 擦文文化	1997(平成9年) 10月4日～11月30日	48	9,867
第46回	雪と寒さと文化	1998(平成10年) 7月1日～8月30日	53	13,286
第47回	うるし文化	1998(平成10年) 9月18日～11月3日	48	16,555
第48回	新弥生紀行-北の森から南の海へ-	1999(平成11年) 5月19日～7月7日	50	14,637
第49回	恐竜とアンモナイトの世界	2000(平成12年) 5月26日～8月13日	67	19,314
第50回	先史文化と木の利用-遺跡からのメッセージ	2000(平成12年) 9月14日～11月5日	45	17,330
第51回	ヤマがあゆんだ近代-炭鉱遺産とこれから-	2001(平成13年) 6月15日～8月15日	52	11,703
第52回	知られざる中世の北海道-チャシと館の謎にせまる-	2001(平成13年) 9月7日～11月4日	50	16,277
第53回	海を渡ったアイヌの工芸-英国人医師マンローのコレクションから-	2002(平成14年) 4月26日～6月9日	39	14,552
第54回	描かれた北海道-18・19世紀の絵画が伝えた北のイメージ-	2002(平成14年) 7月12日～8月27日	39	7,300
第55回	洞窟遺跡を残した縄文の人びと	2002(平成14年) 9月13日～11月3日	44	16,680
第56回	北・貝・道-海と陸の人びと-	2003(平成15年) 6月27日～8月27日	37	7,873
第57回	北海道の基層文化をさぐる-北から南から-	2003(平成15年) 9月13日～11月3日	45	16,152
第58回	松浦武四郎 時代と人びと	2004(平成16年) 4月28日～6月13日	41	6,708
第59回	北海道の民俗芸能-舞う・囃す・競う-	2004(平成16年) 8月27日～11月3日	59	20,286
第60回	ロシア民族学博物館アイヌ資料展-ロシアが見た島国の人びと	2005(平成17年) 4月22日～6月19日	51	8,601
第61回	HORSE-北海道の馬文化-	2006(平成18年) 4月28日～6月25日	51	7,582
第62回	北の縄文-美の世界-	2006(平成18年) 10月27日～12月3日	32	3,351
第63回	鯨	2007(平成19年) 7月20日～10月8日	70	17,740
第64回	古代北方世界に生きた人々-交流と交易-	2008(平成20年) 9月12日～11月3日	46	13,808
第65回	北海道化石展!	2009(平成21年) 7月3日～10月4日	79	17,126
第66回	どんぐりコロコロ	2010(平成22年) 8月6日～11月3日	77	19,537
第67回	伊勢神宮と北海道	2011(平成23年) 6月3日～7月10日	33	4,506
第68回	千島・樺太・北海道 アイヌのくらし-ドイツコレクションを中心に-	2011(平成23年) 8月5日～9月25日	45	12,933
第69回	北の土偶 縄文の折りと心	2011(平成23年) 3月6日～5月13日	61	38,831
第69回	アンモナイト展	2012(平成24年) 7月3日～10月8日	81	20,533

北海道立アイヌ民族文化研究センター 利用実績

年度	来館者				閲覧資料点数	研究センター 刊行物転載	レファレンス	ホームペー ジ閲覧者数	備 考
	資料閲覧	レファレンス	その他	計					
平成 6 1994	16	29	106	151			129		開設6月1日。10月まで来訪者記録未作成。
平成 7 1995	39	37	347	423		1	182		
平成 8 1996	12	30	295	337		1	169		
平成 9 1997	28	30	234	292		0	182		
平成10 1998	43	41	273	357		1	179		
平成11 1999	41	41	312	394		2	172		
平成12 2000	34	15	233	282		4	122		
平成13 2001	67	33	227	327		3	132		ホームページ平成13年9月開設。当初は閲覧者記録未作成。
平成14 2002	62	29	173	264		0	124	7,575	
平成15 2003	143	29	192	364		2	138	21,382	
平成16 2004	202	32	148	382		3	153	29,569	
平成17 2005	154	29	202	385		2	157	23,878	
平成18 2006	127	28	179	334		1	153	15,469	
平成19 2007	130	21	199	350		1	124	18,421	
平成20 2008	109	34	158	301		1	126	19,226	
平成21 2009	105	42	206	353	124	3	174	17,390	閲覧・視聴資料点数は平成21年度から集計。
平成22 2010	85	44	256	385	29	6	144	13,096	
平成23 2011	74	22	321	417	48	19	106	13,087	
平成24 2012	122	16	338	476	87	1	86	14,540	
平成25 2013	120	23	315	458	71	3	84	14,030	
平成26 2014	134	10	265	409		4	79	14,305	閲覧資料点数は平成27年度末の時点で未確定。
計	1,847	615	4,979	7,441	359	58	2,915	221,968	

北海道立アイヌ民族文化研究センター 企画展示一覧

No.	名称	開催地	会場	期間	観覧者数
1	パラートシ・アイヌコレクション展 共催：ハンガリー国立博物館、北海道開拓記念館、帯広百年記念館	ハンガリー・ブダペスト市	ハンガリー国立民族学博物館	1996（平成9）年 8月24日～10月2日	
		札幌市	北海道開拓記念館	1997（平成9）年 1月16日～2月9日	
		帯広市	帯広百年記念館	1997（平成9）年 3月1日～3月16日	
2	アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 共催：北海道立文学館、(財)北海道文学館	札幌市	北海道立道立文学館	2004（平成16）年 10月30日～11月28日	2,047
3	アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2005・旭川 共催：旭川市博物館	旭川市	旭川市博物館	2005（平成17）年 7月2日～8月21日	5,904
4	アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2006・釧路/十勝 共催：釧路市立博物館、帯広百年記念館	釧路市	釧路市立博物館	2006（平成18）年 9月2日～9月24日	1,658
		帯広市	帯広百年記念館	2006（平成18）年 9月30日～10月15日	751
5	アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2007・胆振/日高 共催：苫小牧市博物館、苫小牧市中央図書館、室蘭市教育委員会、伊達市教育委員会 ミニ展示共催：(財)アイヌ民族博物館、平取町教育委員会、日高町教育委員会	苫小牧市	苫小牧市中央図書館	2007（平成19）年 9月2日～9月22日	491
		室蘭市	室蘭市文化センター	2007（平成19）年 9月27日～10月8日	352
		伊達市	だて歴史の杜カルチャーセンター	2007（平成19）年 10月11日～10月14日	115
		白老町【ミニ展示】	アイヌ民族博物館	2007（平成19）年 8月18日～9月17日	23,392
		平取町【ミニ展示】	平取町立二風谷アイヌ文化博物館	2007（平成19）年 8月31日～9月30日	3,859
6	アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2008・渡島/檜山/津軽海峡 共催：市立函館博物館	函館市	市立函館博物館	2008（平成20）年 10月9日～11月16日	1,519
		函館市【ミニ展示】	函館市中央図書館	2008（平成20）年 10月7日～10月18日	23,879
7	語り、継ぐ。―アイヌ口承文芸の世界― 共催：北海道立文学館、(財)北海道文学館 特別協力：北海道大学アイヌ・先住民研究センター	札幌市	北海道立文学館	2009（平成21）年 5月30日～7月20日	2,205
8	〔道庁ロビー展〕アイヌ語地名を歩く―山田秀三文庫の資料から―	札幌市	北海道庁本庁舎1F道民ロビーB	2009（平成21）年 9月7日～9月11日	約550
9	アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2010・小樽/せたな 共催：小樽市総合博物館、せたな町教育委員会	小樽市	小樽市総合博物館運河館	2010（平成22）年 8月21日～10月3日	3,863
		せたな町	せたな町情報センター	2010（平成22）年 9月11日～9月26日	372
10	アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2011・稚内 共催：稚内市教育委員会	稚内市	稚内市立図書館	2011（平成23）年 9月16日～10月16日	3,945
11	アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2011・名寄 共催：名寄市北国博物館	名寄市	名寄市北国博物館	2011（平成23）年 11月19日～12月25日	684
12	アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2012・夏 斜里/知床 共催：斜里町立知床博物館	斜里町	斜里町立知床博物館	2012（平成24）年 7月7日～8月26日	3,782
13	アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2013・冬 網走/オホーツク 共催：北海道立北方民族博物館	網走市	北海道立北方民族博物館	2013（平成25）年 2月2日～4月7日	2,877
14	アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2013・夏 根室 共催：根室市教育委員会	根室市	根室市図書館	2013（平成25）年 6月29日～8月4日	2,084
15	〔資料展〕久保寺逸彦・アイヌ文学研究の足跡 共催：北海道大学アイヌ・先住民研究センター	札幌市	北海道大学アイヌ・先住民研究センター	2014（平成26）年 3月10日～3月23日	156
16	アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から― 2014・おびら 共催：小平町教育委員会	小平町	小平町文化交流センター	2014（平成26）年 7月15日～8月17日	1,023
17	〔登別市郷土資料館特別展〕山田秀三とアイヌ語地名 共催：登別市教育委員会	登別市	登別市郷土資料館	2014（平成26）年 11月26日 ～2015（平成27）年 1月25日	471

北海道博物館基本的運営方針 一北海道博物館の目指す方向一

昭和 46 年に設置された開拓記念館は、総合的な歴史博物館として、開館から 40 年以上にわたり、北海道の歴史と先人の遺産を後世に伝える役割を果たしてきたが、アイヌ文化をはじめとする北海道固有の歴史や文化に対する関心が高まるとともに、道民の学習ニーズの多様化など、開拓記念館や道内の博物館を取り巻く社会情勢の大きな変化への対応が求められることとなった。

こうした状況の中、「北海道における博物館のあり方と開拓記念館の役割」に関する北海道文化審議会の答申を踏まえ、平成 22 年 9 月に「北海道博物館基本計画」を策定し、「博物館としての基本的な機能の充実」、「北海道における総合的な博物館」、「道内博物館の中核となる施設」の 3 つを柱とする北海道博物館の設置を目指すこととした。この中で、「アイヌ文化を保存・伝承し未来に活かす博物館」としてアイヌ文化に関する調査研究等の機能を充実することとし、そのため、アイヌ文化に関する専門的な調査研究等を行いアイヌ文化の継承と振興に寄与することを目的として平成 6 年に設置されたアイヌ民族文化研究センターとの統合の方向性を明記した。

こうして平成 27 年 4 月 1 日、開拓記念館とアイヌ民族文化研究センターとの統合により、新たに北海道の自然・歴史・文化を広く扱う総合博物館として『北海道博物館』を開設した。

本方針は、「北海道博物館基本計画」を踏まえ、北海道博物館が果たすべき社会的使命を明文化するとともに、今後の博物館活動の指針として策定した。

I 北海道博物館の使命

- 北海道のすべての人、生き物、大地と海が生み出し、残し託してくれた、北海道ならではの自然・歴史・文化に関わる遺産を、わたしたちの大切な宝ものとして未来へとつなぎ、語り伝えることをとおして、道民が北海道を知り、誇りを確認する場であり続けます。
- 野幌森林公園という豊かな自然環境のなか、訪れた方々に北海道の自然・歴史・文化を総合的に体感していただくとともに、知的発見、癒やしとくつろぎ、世代を超えた語り合いや出会いを、おもてなしの心で提供し、道民に愛される博物館であり続けます。
- 北海道の中核的博物館として、道内の博物館等との連携により、北海道再発見のための知のネットワークを築き上げるとともに、北海道の自然・歴史・文化に関する身近な相談窓口として、道民の「知りたい」という気持ちに応えます。

- 北海道の自然・歴史・文化に関する総合的な研究機関として、北海道の国際化・文化力の向上や、持続可能な調和社会の構築をめざして、積極的なビジョンの立案・提言に努め、道民の豊かな暮らしづくりと北海道の未来づくりに貢献します。

II 基本方針

1 北海道立の総合博物館として、備えるべき基本的な機能を検証し、その充実を図ります

- (1) 総合博物館として、活動の基本となる収集保存、展示、教育普及、調査研究などの機能を高め、北海道ならではの自然・歴史・文化に関わる遺産を最大限に活かし、質の高い活動を展開する博物館づくりを推進します。
- (2) 道民が、充実した博物館資源を活かして、自らのアイデンティティを確かめ、過去に学び未来を展望することができるとともに、さまざまな情報や人材などが連携するネットワークを活かして、特色ある地域文化の創造や地域活性化の拠点とすることができる博物館づくりを推進します。

2 道民と共に歩み、愛される博物館として、豊かな時間と空間を提供します

- (1) さまざまな人びとが繰り返し訪れ、親しまれる「わかりやすく、おもしろく、ためになる」博物館をめざし、利用者の視点に立った、創意工夫に満ちた博物館づくりを推進します。
- (2) 博物館のさまざまな活動に、道民が利用者としてだけでなく、協働者、ときには発信者として多面的に参画する機会を創出することによって、博物館活動をより豊かにし、道民と連携、協働する博物館づくりを推進します。

3 北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献します

- (1) 北海道の中核的博物館として、地域の博物館等とのネットワークを強固なものとし、共同研究、事業連携、情報共有、資料の相互活用、人材育成等を積極的に推進することにより、地域の活性化に貢献します。
- (2) 博物館ネットワークを活かし、情報の発信力を高めるとともに、レファレンス機能を強化し、道民の知的興味に応える博物館づくりを推進します。

4 専門的・総合的な研究を行う博物館として、北海道の未来に貢献します

- (1) 北海道とそれを取り巻く地域の自然・歴史・文化を学際的に調査研究する総合博物館として、その研究成果を活かして北海道の豊かな未来の実現に貢献します。
- (2) アイヌの歴史や有形・無形の文化に関する専門的な研究組織を有する世界で唯一の総合博物館として、その研究成果を活かし、普及に努め、アイヌ文化の振興に寄与するとともに、多文化共生社会の実現に貢献します。

III 中期目標・計画の策定及び点検・評価の実施

北海道博物館が社会的使命を果たすため、基本方針を踏まえ、資料の収集保存、展示、教育普及、調査研究などの博物館活動の実施に関する中期的な目標・計画を別に策定し、これを公表するとともに、本方針及び中期目標・計画に基づいた運営がなされることを確保し、その事業の水準の向上を図るため、その運営状況について、点検及び評価を行います。

北海道博物館中期目標・計画（第1期） 平成27年度～平成31年度

重点項目

第1期中期目標・計画（平成27年度～平成31年度）については、基本的運営方針に基づき、次の3つの柱を重点項目として進める。

- ① 総合博物館かつ中核的博物館としての基本的な機能の充実や社会貢献など、信頼の確保に向けた取組を進める。
- ② 総合展示の入替えやイベントの充実など、来館者が繰り返し訪れるための魅力ある取組を進める。
- ③ 道民の興味を喚起させる展示、イベント、広報の充実など、これまで博物館を利用しなかった道民が北海道博物館を訪れるための誘導力のある取組を進める。

1 資料の収集・保存

(1) 資料の収集

- ア 資料収集方針に基づき、自然・歴史・文化に関わる後世に残すべき遺産を適切に収集する。
- イ 収集した資料については、速やかに調査し、適切に整理・分類・登録する。
- ウ 一括で寄贈を受けた貴重なコレクションについては、広く公表するとともに、展示や研究などでより多くの道民及び関連機関が活用できるように、資料群の全体像と個々の資料の基本情報を記した目録を刊行する。

(2) 収蔵機能の強化

- ア 収蔵資料データベースの適正な運用により、資料の受入れ、出納やコンディショニング情報を一元的に管理する体制を強化するとともに、利用者への資料情報の提供に役立つ。
- イ 東日本大震災時の教訓を活かし、災害発生時の被災資料の受入れや保存処理などに対応できる機能と体制を整備する。
- ウ 市町村合併など地域社会の急激な変動による資料の散逸などの課題に対し、北海道の中核的博物館として、北海道の自然・歴史・文化遺産を保存・継承するためのプロジェクトを推進し、その受け皿としての収蔵スペースの確保について検討を進める。

(3) 資料保存環境の維持

貴重な公共の財産を預かる立場から、温湿度管理、薬剤だけに頼らない方法による虫菌害防除対策（IPM）、災害対策などを徹底し、適切な資料保存環境の維持に努める。

(4) 収蔵資料の利用への対応

収蔵資料の特別観覧や刊行物などへの使用、道内外の博物館などへの貸出しに積極的に対応し、より多くの人びとが北海道博物館の収蔵資料を利用する機会を創出する。

2 展示

(1) 総合展示室の運営

ア 最新の研究成果を反映した総合展示の定期的な入替えにより、来るたびに違う、飽きない展示を演出するとともに、年齢、母語、障がいの有無などを問わず、すべて

の方にわかりやすく、楽しめる展示空間を提供する。

イ 総合展示の展示資料について、道民及び関連機関に知らせるため、その全体像と個々の資料の基本情報を記した目録を刊行する。

ウ 総合展示のメンテナンスに努める。

総合展示室の利用者数（うち外国人利用者数）の目標値は、次のとおりとする。

設定内容	目標値（5年間）
総合展示室利用者数	362,000人
うち外国人利用者数	19,000人

(2) 企画展示の開催

- ア 他の博物館や民間企業との連携・協働、全国規模の巡回展の誘致により、より魅力的な企画展示を実現する。
- イ 道民の研究成果や創作活動の発表など、道民参加型の企画展示を導入し、道民との連携促進を図る。
- ウ 北海道博物館独自の研究成果を積極的に反映した企画展示を開催する。

特別展示室の利用者数の目標値は、次のとおりとする。

設定内容	目標値（5年間）
特別展示室利用者数	288,000人

3 調査研究

(1) 調査研究の推進

ア 北海道の自然・歴史・文化に関する有形・無形の遺産に関する調査研究を推進し、その成果を総合展示や企画展示、教育普及事業に反映させることにより、道民が自らを知り、誇りやアイデンティティを確認する機会の提供につなげる。

イ 道民と連携した基礎的な調査研究を実施するとともに、道民の自主的な研究活動・研究発表の場を設ける。

ウ 外部研究機関や外部研究者と連携しながら、学際的な研究プロジェクトを推進する。

エ 北東アジア諸地域をはじめ、北海道と友好関係にある地域、地理的・歴史的につながりのある地域、類似点のある地域の博物館や研究機関との交流及び共同研究を推進する。

オ 館内での研修会、館外での長期研修への派遣などを実施し、職員の研究資質の向上を図る。

(2) アイヌ文化に関わる調査研究の重点化

- ア 北海道の総合博物館としてアイヌ文化の継承と理解促進に資するため、アイヌ民族の言語・口承文芸、芸能、民具・生活技術などの有形・無形の文化と、それらの理解に欠かさない歴史について、重点的に調査研究を進める。
- イ 関係機関や研究者、伝承活動関係者などとの連携により、道内各地のアイヌ文化に関する資料の所在調査を進め、整理・保存作業を行う。
- ウ 調査研究などを通じて収集した未公開の資料や研究情報については、その公開を進め、アイヌ文化の継承、学習、研究などに広く活用できるよう整備を進める。
- エ 調査研究などの成果をひろく伝えるため、研究紀要の発行や講演会・講座などの開催とともに、総合展示の充実や企画展示の実施などを進め、アイヌ文化に関する理解促進の取組を一層強化する。

4 北海道開拓の村の整備

- ア 北海道開拓の村に移築・復元されている歴史的建造物群を、北海道の貴重な財産として後世に伝える取組を進める。
- イ 建造物内の展示の充実に取り組む。

5 教育普及事業

(1) 魅力あるイベントの充実

- ア 総合展示室や「はっけん広場」で気軽に参加できるイベント、子ども向けのイベント、入門的な体験型イベントなど、来館者のニーズに対応した多彩で魅力のある行事を実施する。
 - イ 調査研究の成果を活用した、北海道の自然・歴史・文化をより深く知ることができる行事を実施する。
 - ウ 学校団体をはじめとした各種団体による利用を促進するために、グループを対象としたレクチャーや「はっけん広場」での「はっけんプログラム」など、団体向けのプログラムを実施する。
 - エ 「ミュージアムフェスティバル」や「バックヤードツアー」など、博物館活動そのものに対する理解を深めてもらうための行事を実施する。
 - オ イベントやプログラムの充実にあたっては、特にアイヌ文化や北海道の自然に関する事業を重点的に強化する。
- イベントの参加者数の目標値は、次のとおりとする。

設定内容	目標値(5年間)
イベント参加者数	16,000人

(2) 教材の充実

情報・通信技術を活用した機器（ICT機器）による多言語解説、ワークブックや解説書、さわれる資料や五感を刺激する資料・装置など、あらゆる利用者に対応した総合展示・企画展示の理解を促す教材の充実に努める。

(3) はっけん広場の運営

- ア 「はっけん広場」の活動を充実させ、新たな発見を利用者に促すとともに、利用者同士、利用者とスタッフの交流の輪を育む。
 - イ 学校現場など、利用者の声も反映させながら、「はっけんキット」や「はっけんプログラム」の改良や開発、「はっけんイベント」の充実に努める。
 - ウ 博物館利用促進の一環として、学校など、館外への「はっけんキット」の貸出しを推進する。
- はっけん広場利用者数の目標値は、次のとおりとする。

設定内容	目標値(5年間)
はっけん広場利用者数	100,000人

6 ミュージアムエデュケーター機能の強化

- ア 一般来館者や学校団体がより効果的に学び、気づき、発見できる環境を整えるため、博物館の教育普及活動に必要な、職員の専門的知識及び技能の向上を図る。
- イ 道内の博物館、教育委員会、学校、各種団体などと連携し、より効果的な北海道博物館の利用を促進するための取組を進める。

7 道民参加型組織の整備

- ア ボランティア活動の導入、道民の自主的なサークル活動の支援、北海道博物館を支援する組織の創設などにより、博物館活動への道民参加を促進し、道民との連携を強化する。
- イ ミュージアムショップ、カフェなどの利用者サービス、有料イベントの企画・運営、外部資金の受入れと活用など、北海道博物館の各種活動に協働参画する支援組織の整備に取り組む。

8 施設及び周辺環境の整備

(1) 館内施設の整備と活用

- ア 休憩スペース、キッズ・コーナー、ミュージアムショップ、カフェなど、アメニティ設備を充実させるとともに、オリジナルグッズの提案・開発により、博物館としての魅力アップにつなげる。
- イ 記念ホール、講堂、グランドホールなどの一層の活用を図る。

(2) 周辺環境の整備

- ア 公共交通機関でのアクセス、野幌森林公園内施設相互のアクセスの利便性向上に向けた取組を進める。
- イ 野幌森林公園の景観やイメージとの調和に配慮し、トータルデザインに基づいて公園や園内各施設のサインの統一化を図る。
- ウ 野幌森林公園内の散策路、北海道博物館屋上スカイビューなどにおける野外展示の実現に向けた取組を進める。

(3) 野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進

北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館の連携を強化し、公園内の一体的かつ効果的な運営に努め、利用者の利便性と満足度の向上を図る。

9 広報

(1) 広報活動の強化

ア 道民の博物館への関心を広げ、利用を促進していくため、あらゆる広報媒体を活用するとともに、職員全員が積極的な広報活動を展開する。

イ 愛称「森のちゃれんが」とロゴマークを積極的に広報媒体やサインなどに活用することで、北海道博物館のブランドイメージの向上に役立てる。

ホームページのアクセス数の目標値は、次のとおりとする。

設定内容	目標値(5年間)
ホームページのアクセス数(トップページ)	395,000件

(2) 赤れんが庁舎の活用及び他機関との連携

ア 赤れんが庁舎(北海道庁旧本庁舎)を北海道博物館のサテライト空間として活用し、来訪者を北海道博物館に誘導する展示を実現するとともに、情報発信機能の強化に努める。

イ 他機関との連携事業に積極的に参画し、利用者と直に接する広報活動を展開する。

10 評価制度の活用と利用者ニーズの把握

ア 毎年度の事業実績について、あらかじめ評価項目を定め、館としての自己点検評価を行い、その結果を公表し、改善すべき点については、速やかに対処する。

イ オーディエンス・リサーチ(利用者調査)を実施し、その結果を分析し、公表するとともに、改善すべき点については、速やかに対処する。

ウ 自己点検評価と利用者調査をふまえ、博物館協議会による外部評価を行い、その結果を公表することを通じて、より良い博物館づくりへとつなげる。

利用者の満足度の目標値は、次のとおりとする。

設定内容	目標値(5年間)
利用者満足度	70パーセント

11 博物館ネットワーク

(1) 各種博物館団体との連携

ア 日本博物館協会、全国歴史民俗系博物館協議会などとの連携により、全国博物館の最新動向に関する情報を入手し、道内の加盟館へと伝える一方、北海道からの要望をとりまとめるなど、北海道と全国の博物館をつなぐ役割を果たす。

イ 北海道博物館協会との連携により、地域ブロック別や館種別組織の活動を積極的に支援するなど、中核的博物館としての役割を果たし、北海道の博物館活動の活性化につなげる。

(2) 博物館交流の促進

ア 地域の博物館、図書館、教育委員会などと連携し、共同研究、共同事業などを通じて地域との協働・交流を促進させ、北海道再発見のための知のネットワークづくりへとつなげる。

イ 北海道博物館や道内各地において、道内の博物館職員を対象に、博物館学系の知識や技術を普及する研修会を実施する。

ウ 地域の博物館や学校などのニーズに応じ、一般、学生、教員などを対象にした出前講座を実施する。

道内市町村等との連携・協力件数の目標値は、次のとおりとする。

設定内容	目標値(5年間)
道内市町村等との連携・協力件数	200件

12 情報発信

(1) アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信

ア アイヌ文化に関する資料及び学術情報を一元的に集約し、そのデータベース化を進める。

イ これらの成果については、さまざまな媒体や機会を通じた提供を進め、北海道博物館がアイヌ文化の継承、学習、研究にとっての情報センターとしての役割も果たすことができるよう、そのための機能の充実を図る。

(2) ICTなどを活用した情報発信機能の強化

ア 北海道博物館及び道内博物館の収蔵資料、図書、刊行物に関するデータを整備し、ICTを活用した、関係機関とのより効果的なネットワークを構築する。

イ ICTなどを活用した多様な媒体により、北海道博物館及び道内博物館の諸情報を道民が利用しやすい形で発信する。

(3) 道民の「知りたい」気持ちへの支援

ア 北海道の自然・歴史・文化に関わる図書、博物館刊行物、視聴覚資料などを収集し、図書室の充実を図る。

イ 収蔵資料、図書、視聴覚資料などの閲覧スペースを整備し、閲覧・複写などの各種サービスを充実させる。

ウ 北海道の自然・歴史・文化に関わる道民の身近な相談窓口として、利用者からのアクセスツールを整備し、レファレンスや学習支援の機能を強化する。

来館しない利用者による利用件数の目標値は、次のとおりとする。

設定内容	目標値(5年間)
写真の提供件数	350件
レファレンス件数	4,000件
アンケート、その他の利用件数	500件

13 人材育成機能の強化

(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ

ア 博物館実習生やインターンシップを積極的に受け入れるとともに、大学などと連携し、より効果的な実習(研修)プログラムを構築する。

イ 教員を目指す学生が博物館の活用方法について学ぶ機会を創出するため、大学などと連携し、授業や研修の講師として当館の職員を積極的に派遣する。

(2) 外来研究員の受入

外部研究者や大学院生などを受け入れ、当館資料を活用した北海道の自然・歴史・文化に関する研究の機会を提供する。

(3) 派遣研修

外部機関が開催する博物館学系研修会や技術研修会に当館職員を参加させ、先端の知識と技術を集積する。

14 研究成果の発信と社会貢献

(1) 学術刊行物などの刊行

ア 研究成果を広く伝えるため、研究紀要や研究報告書などを刊行する。

イ 北海道の自然・歴史・文化の学習や理解促進のために、研究成果をわかりやすくまとめた冊子などを刊行する。

ウ 企画展示の開催に合わせて、来館者の理解を深め、学術的意義を広く知らせるために展示図録や解説用冊子を刊行する。

(2) 学会への発信

各種学会での発表や学術雑誌への投稿などにより、北海道博物館の研究成果を積極的に発信する。

(3) 職員の対外貢献

講演、各種委員への就任、共同研究への参画、出版物への寄稿、その他専門的知識の提供など、外部機関の活動に対して積極的に協力し、社会貢献に努める。

(4) 外部機関との事業連携

民間企業などを含めた外部機関と共同で行う事業を推進するとともに、外部機関の事業への協力・後援を積極的に行う。

(5) 道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献

ア 北海道の自然・歴史・文化を総合的に研究する機関として、北海道が抱える諸問題の解決に貢献する。

イ 道の総合計画「ほっかいどう未来創造プラン」などリンクし、道民の豊かな暮らしづくりと北海道の未来づくりへと結びつく研究を推進する。

ウ 多民族・多文化共生社会、人と自然との調和のとれた社会など、北海道であるからこそ率先して目指すべき社会のあり方についてのビジョンを提言する。

社会貢献の目標値は、次のとおりとする。

設定内容	目標値(5年間)
新聞・報道対応の件数	計 900 件
学会発表の件数	
学術雑誌等への寄稿の件数	
招待講演の件数	
各種委員・共同研究員等委嘱の件数その他の件数	

条例・規則など

1 北海道立総合博物館条例

平成26年10月14日条例第91号

第1章 設置及び管理

(設置)

第1条 北海道の歴史、文化、自然等に関する資料を総合的に収集し、保管し、展示し、並びにこれらに関する調査研究及びその成果の普及を行うことにより、道民の教養の向上及び文化の発展に寄与するため、北海道立総合博物館（以下「総合博物館」という。）を設置する。

(名称及び位置)

第2条 総合博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名称	位置
北海道立総合博物館	札幌市及び江別市

(総合博物館に置く施設)

第3条 総合博物館に、次に掲げる施設を置く。

- (1) 北海道博物館（以下「本館」という。）
- (2) 北海道開拓の村（以下「開拓の村」という。）
- (3) 野幌森林公園自然ふれあい交流館（以下「ふれあい交流館」という。）

(事業)

第4条 総合博物館は、次の表の左欄に掲げる施設の区分に応じ、同表の当該右欄に定める事業を行う。

1 本館	<p>ア 北海道の歴史、文化、自然等に関する資料を収集し、保管し、及び展示すること。</p> <p>イ 本館が収集し、保管し、又は展示する資料（以下「本館資料」という。）に関する専門的な調査研究を行うこと。</p> <p>ウ 本館資料の保管及び展示等に関する技術的な研究を行うこと。</p> <p>エ アイヌ民族文化に関する調査研究及びその成果の普及、情報の収集及び提供並びに研究の支援を行うこと。</p> <p>オ 北海道の歴史、文化、自然等に関する講演会、展示会等の催しを開催し、及び他のものが行うこれらの催しに協力すること。</p> <p>カ 特別展示室及びその附属設備を北海道の歴史、文化、自然等に関する講演会、展示会等の催しの利用に供すること。</p>
------	---

	<p>キ 本館資料に関し、案内書、解説書、目録、研究紀要等の作成及び配布並びに必要な、助言等を行うこと。説明、助言等を行うこと。</p> <p>ク 他の博物館等と連携し、及びこれらの研究活動等に協力すること。</p>
2 開拓の村	<p>ア 北海道の開拓の歴史を示す建造物等を保管し、及び展示すること。</p> <p>イ 北海道の開拓過程における生活様式、年中行事等に係る催しを開催し、及び他のものが行うこれらの催しに協力すること。</p> <p>ウ 開拓の村の展示物に関し、案内書、解説書等の作成及び配布並びに必要な説明、助言等を行うこと。</p>
3 ふれあい交流館	<p>ア 道立自然公園野幌森林公園の自然に関する資料を収集し、保管し、及び展示すること。</p> <p>イ ふれあい交流館が収集し、保管し、又は展示する資料（以下「交流館資料」という。）に関する調査研究を行うこと。</p> <p>ウ 交流館資料に関し、必要な説明、助言等を行うこと。</p> <p>エ 自然に関する情報提供を行うこと。</p> <p>オ 自然に関する講演会、講習会、研究会等を開催し、及び他のものが行うこれらの催しに協力すること。</p>

2 総合博物館は、前項の事業のほか、その設置の目的を達成するために必要な事業を行う。

(指定管理者による管理)

第5条 総合博物館の管理は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第3項の規定による指定を受けた法人その他の団体（以下「指定管理者」という。）に行わせるものとする。

(指定管理者が行う業務の範囲)

第6条 指定管理者が行う業務は、次のとおりとする。

- (1) 第4条第1項の表1の事項カ、2の事項及び3の事項に定める事業に関すること。
- (2) 第8条第1項、第12条第1項、第13条第2項及び第16条第2項の承認に関すること。
- (3) 施設及び設備（以下「施設等」という。）の維持管理に関すること。
- (4) その他知事が定める業務

(利用日及び利用時間)

第7条 総合博物館の利用日及び利用時間は、別表第1のとおりとする。

2 前項の規定にかかわらず、指定管理者は、総合博物館の管理運営上必要があるときその他特に必要があると認めるときは、知事の承認を得て、臨時に総合博物館の利用日又は利用時間を変更することができる。

(利用の承認)

第8条 本館若しくは開拓の村の施設等又は次に掲げる設備の利用(別表第2に掲げる場合に限る。)をしようとする者は、あらかじめ、指定管理者の承認を受けなければならない。

(1) 北海道百年記念塔前駐車場

(2) 北海道開拓の村前駐車場

2 指定管理者は、前項の承認をする場合において、総合博物館の管理運営上必要があると認めるときは、同項の承認に条件を付することができる。

(利用の承認の基準)

第9条 指定管理者は、前条第1項の承認を受けようとする者が次の各号のいずれかに該当するときは、同項の承認をしてはならない。

(1) 利用の目的が総合博物館の設置の目的に反するとき。

(2) 総合博物館の秩序を乱すおそれがあると認められるとき。

(3) 施設等を損傷するおそれがあるとき。

(4) その他総合博物館の管理運営上支障があると認められるとき。

(利用の承認の取消し等)

第10条 指定管理者は、第8条第1項の承認を受けた者(以下「利用者」という。)が次の各号のいずれかに該当するときは、同項の承認を取り消し、又はその利用を制限し、若しくは停止することができる。

(1) この条例若しくはこの条例に基づく規則又はこれらの規定に基づく処分に違反したとき。

(2) 虚偽の申請その他不正な手段により第8条第1項の承認を受けたとき。

(3) 第8条第2項の規定により付された条件に違反したとき。

2 指定管理者は、施設等の維持管理上その他公益上やむを得ない事態が発生したときは、第8条第1項の承認を取り消し、又はその条件を変更することができる。

(利用料金)

第11条 利用者は、その利用に係る料金(以下「利用料金」という。)を指定管理者に納めなければならない。

2 前項の規定により指定管理者に納められた利用料金は、指定管理者の収入とする。

3 利用料金の額は、別表第2に定める額の範囲内におい

て、指定管理者が知事の承認を受けて定める。これを変更しようとするときも、同様とする。

4 知事は、前項の承認をしたときは、その承認をした利用料金の額を告示しなければならない。

5 指定管理者は、既に収受した利用料金を還付しないものとする。ただし、指定管理者は、規則で定める基準に従い、利用料金の全部又は一部を還付することができる。

6 指定管理者は、規則で定める基準に従い、利用料金を減免することができる。

(開拓の村建物等の使用の承認等)

第12条 開拓の村建物等(開拓の村の建物(管理棟のホール、ビジターセンター、体験学習室及び食堂棟に限る。)及び当該建物の附属設備、展示されている建造物等(以下「展示建造物等」という。)並びに入口広場をいう。)を使用しようとする者は、あらかじめ、指定管理者の承認を受けなければならない。

2 指定管理者は、前項の承認をする場合において、総合博物館の管理運営上必要があると認めるときは、同項の承認に条件を付することができる。

3 第9条及び第10条の規定は、第1項の承認について準用する。この場合において、同条第1項第3号中「第8条第2項」とあるのは、「第12条第2項」と読み替えるものとする。

(特別観覧等の承認)

第13条 本館資料の閲覧、模写、模造、撮影及び複写(以下「特別観覧」という。)を行おうとする者は、あらかじめ、規則で定めるところにより、知事の承認を受けなければならない。

2 開拓の村の展示建造物等及び管理棟の模写、模造及び撮影並びに交流館資料の模写、模造、撮影及び複写(以下これらを「特別利用」という。)を業として又は学術研究のために行おうとする者は、あらかじめ、指定管理者の承認を受けなければならない。

(特別観覧等の方法等)

第14条 特別観覧は、職員の指示に従って行わなければならない。

2 知事は、特別観覧の承認を受けた者が前項の規定に違反したときは、その承認を取り消すことができる。

3 特別利用は、指定管理者の指示に従って行わなければならない。

4 指定管理者は、特別利用の承認を受けた者が前項の規定に違反したときは、その承認を取り消すことができる。

(模写品等の刊行等の承認)

第15条 本館資料、開拓の村の展示建造物等若しくは管理棟又は交流館資料を模写し、模造し、撮影し、又は複写したものを刊行し、若しくは複製し、又は研究発表等に使用しようとする者は、あらかじめ、規則で定めるところにより、知事の承認を受けなければならない。

(資料の貸出しの承認)

第16条 本館資料の貸出しを受けようとする者は、あらかじめ、規則で定めるところにより、知事の承認を受けなければならない。

2 交流館資料の貸出しを受けようとする者は、あらかじめ、指定管理者の承認を受けなければならない。

3 指定管理者は、前項の承認を受けようとする者が次の各号のいずれかに該当するときは、同項の承認をしてはならない。

(1) 交流館資料の使用の目的が総合博物館の設置の目的に反するとき。

(2) 交流館資料を損傷するおそれがあるとき。

(指定管理者の指示等)

第17条 指定管理者は、総合博物館の秩序の維持及び施設等の管理運営上必要があると認めるときは、利用者、第12条第1項の承認を受けた者及びふれあい交流館を利用する者に対しその利用若しくは使用に関し指示をし、又は利用中若しくは使用中の場所に従業員を立ち入らせ、利用若しくは使用の状況を調査させることができる。

(知事による管理)

第18条 第5条の規定にかかわらず、知事は、やむを得ない事情があると認めるときは、総合博物館の管理に係る業務を行うことができる。

2 前項の規定により知事が総合博物館の管理に係る業務を行う場合においては、第7条第2項中「指定管理者」とあるのは「知事」と、「ときは、知事の承認を得て」とあるのは「ときは」と、第8条から第10条まで(第9条及び第10条の規定を第12条第3項において準用する場合を含む。)、第12条第1項及び第2項、第13条第2項、第14条第3項及び第4項並びに第16条第2項及び第3項中「指定管理者」とあるのは「知事」と、第11条第1項中「その利用に係る料金(以下「利用料金」という。)」とあるのは「別表第2に定める額の範囲内において知事が定める額の使用料」と、「指定管理者」とあるのは「知事」と、同条第5項及び第6項中「指定管理者」とあるのは「知事」と、「利用料金」とあるのは「使用料」と、前条中「指定管理者」とあるのは「知事」と、「従業員」とあるのは「職員」とし、第11条第2項から第4項までの規定は、適用しない。

(規則への委任)

第19条 この章に定めるもののほか、総合博物館の管理に関し必要な事項は、規則で定める。

第2章 北海道立総合博物館協議会

(設置)

第20条 総合博物館の事業を円滑かつ適正に行うため、知事の附属機関として、北海道立総合博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(所掌事項)

第21条 協議会は、知事の諮問に応じ、総合博物館の事業に関する重要事項を調査審議する。

2 協議会は、前項に規定する事項に関し、知事に意見を述べることができる。

(組織)

第22条 協議会は、委員7人以内で組織する。

2 協議会に、特別の事項を調査審議させるため必要があるときは、特別委員を置くことができる。

(委員及び特別委員)

第23条 委員及び特別委員は、次に掲げる者のうちから、知事が任命する。

(1) 学識経験を有する者

(2) 博物館に関する知見を有する者

(3) アイヌ民族文化に関する知見を有する者

2 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

4 特別委員は、当該特別の事項に関する調査審議が終了したときは、解任されるものとする。

(会長及び副会長)

第24条 協議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員が互選する。

3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第25条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会は、委員の2分の1以上が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(専門部会)

第26条 協議会は、必要に応じ、専門部会を置くことができる。

2 専門部会は、協議会から付託された事項について調査審議するものとする。

3 専門部会に部会長を置き、会長が指名する委員がこれに当たる。

4 専門部会に属すべき委員及び特別委員は、会長が指名する。

(会長への委任)

第27条 この章に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、平成27年4月1日から施行する。
(北海道立アイヌ民族文化研究センター条例等の廃止)
- 2 次に掲げる条例は、廃止する。
 - (1) 北海道立アイヌ民族文化研究センター条例（平成6年北海道条例第4号）
 - (2) 北海道立開拓記念館条例（昭和46年北海道条例第4号）
(北海道立開拓記念館条例の廃止に伴う経過措置)
- 3 この条例の施行前に前項（第2号に係る部分に限る。）の規定による廃止前の北海道立開拓記念館条例（以下「旧条例」という。）第11条、第14条第2項又は第17条第2項の規定により指定管理者がした承認は、それぞれ、第12条第1項、第13条第2項又は第16条第2項の規定により指定管理者がした承認とみなす。
- 4 この条例の施行前に旧条例第14条第1項、第16条又は第17条第1項の規定により知事がした承認は、それぞれ、第13条第1項、第15条又は第16条第1項の規定により知事がした承認とみなす。
- 5 前2項に定めるもののほか、この条例の施行の日前に旧条例の規定により知事又は指定管理者に対してなされた承認の申請で、この条例の施行の際承認をするか否かの決定がなされていないものは、同日以後においては、この条例の相当規定に基づき知事又は指定管理者に対してなされた承認の申請とみなす。
(北海道個人情報保護条例及び北海道情報公開条例の一部改正)
- 6 次に掲げる条例の規定中「北海道立開拓記念館」を「北海道立総合博物館」に改める。
 - (1) 北海道個人情報保護条例（平成6年北海道条例第2号）第44条第2項
 - (2) 北海道情報公開条例（平成10年北海道条例第28号）第23条

別表第1（第7条関係）

区分	利用日	利用時間
本館、開拓の村及びふれあい交流館	1月4日から12月28日まで(月曜日(当該日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときは、休日に該当しない当該日の直後の日)を除く。)	午前9時30分から午後4時30分まで

北海道百年記念塔前駐車場及び北海道開拓の村前駐車場	4月1日から10月31日まで	午前9時から午後5時まで
---------------------------	----------------	--------------

別表第2（第8条、第11条関係）

1 本館に展示する資料を観覧する場合

(1) 常設展示を観覧する場合

区分	利用料金の上限額	
	個人	10人以上の団体
1 高等学校の生徒、大学の学生及びこれらに準ずる者	370円	1人につき 280円
2 1以外の者(学齢に達しない者、小学校の児童、中学校の生徒及びこれらに準ずる者を除く。)	1,000円	1人につき 850円

(2) 特別展示（本館が開催する特別展示に限る。 (3)

において同じ。)を観覧する場合

区分	利用料金の上限額	
	個人	10人以上の団体
1 小学校の児童、中学校の生徒及びこれらに準ずる者	180円	1人につき 130円
2 高等学校の生徒、大学の学生及びこれらに準ずる者	370円	1人につき 280円
3 1及び2以外の者(学齢に達しない者を除く。)	1,000円	1人につき 850円

(3) 常設展示及び特別展示を併せて観覧する場合

区分	利用料金の上限額	
	個人	10人以上の団体
1 小学校の児童、中学校の生徒及びこれらに準ずる者	180円	1人につき 130円
2 高等学校の生徒、大学の学生及びこれらに準ずる者	690円	1人につき 510円
3 1及び2以外の者(学齢に達しない者を除く。)	1,800円	1人につき 1,420円

- 2 本館において携帯用展示解説器を利用する場合
1回につき 280円

- 3 本館の特別展示室を利用する場合
1日につき 70,900円

4 開拓の村に入場する場合

区分		利用料金の上限額	
		個人	10人以上の団体
1 高等学校の生徒、大学の学生及びこれらに準ずる者	夏期	1,060円	1人につき 950円
	冬期	950円	1人につき 890円
2 1以外の者（学齢に達しない者、小学校の児童、中学校の生徒及びこれらに準ずる者を除く。）	夏期	1,440円	1人につき 1,180円
	冬期	1,180円	1人につき 950円

5 開拓の村の馬車鉄道又は馬そりを利用する場合

区分	利用料金の上限額
1 3歳以上15歳未満の者	1人1回につき 230円
2 15歳以上の者	1人1回につき 500円

6 北海道百年記念塔前駐車場又は北海道開拓の村前駐車場を利用する場合

区分	利用料金の上限額
バス	1回1日につき 620円
乗用車	1回1日につき 300円
自動二輪車（原動機付き自転車を含む。）	1回1日につき 200円

備考

- 1 4の表において、夏期とは4月1日から11月30日までとし、冬期とは12月1日から翌年3月31日までとする。
- 2 6の表において、貨物自動車の利用料金については、車体の大きさによって、バス又は乗用車の区分によるものとする。

2 北海道立総合博物館管理規則
平成26年10月14日規則第72号

(趣旨)

第1条 この規則は、北海道立総合博物館条例（平成26年北海道条例第91号。以下「条例」という。）第19条の規定に基づき、北海道立総合博物館（以下「総合博物館」という。）の管理に關し必要な事項を定めるものとする。

(入館の制限)

第2条 条例第5条に規定する指定管理者（以下「指定管理者」という。）は、総合博物館の秩序を乱すおそれがあると認められる者に対しては、入館を拒み、又は退館させることができる。

(入館者の遵守事項等)

第3条 入館者は、条例、この規則及び指定管理者の指示に従うほか、特に次の事項を遵守しなければならない。

- (1) 建物、附属設備又は条例第4条第1項の表に規定する本館資料（以下「本館資料」という。）、同表に規定する交流館資料（以下「交流館資料」という。）若しくは条例第12条第1項に規定する展示建造物等（以下「展示建造物等」という。）を汚し、若しくは損傷し、又はそれらのおそれのある行為をしないこと。
- (2) 他人に迷惑を及ぼし、又はそのおそれのある行為をしないこと。
- (3) 指定の場所以外で飲食し、又は喫煙しないこと。

2 指定管理者は、入館者が前項の規定に違反したことにより総合博物館の管理運営上支障があると認めたときは、当該入館者に対しては、総合博物館の利用を制限し、又は退館させることができる。

(利用料金の額の承認)

第4条 指定管理者は、条例第11条第3項の規定により利用料金の額について知事の承認を受けようとするときは、別記第1号様式の利用料金承認申請書を知事に提出しなければならない。

(利用料金の還付の基準)

第5条 条例第11条第5項ただし書の規則で定める基準は、次に掲げる場合について、同条第1項に規定する利用料金（以下「利用料金」という。）の全部又は一部を還付することができることとする。

- (1) 条例第8条第1項の承認を受けた者（以下「利用者」という。）の責めに帰することのできない事由によって利用が不可能になったと指定管理者が認めたとき。
- (2) 利用の開始日の前15日までに利用を中止する旨の申出があつて、指定管理者がこれについて相当の理由があると認めたとき。

- (3) 条例第10条第2項の規定により利用の承認を取り消したとき。
- (4) その他知事が特別の理由があると認めるとき。
(利用料金の減免の基準)

第6条 条例第11条第6項の規則で定める基準は、次のとおりとする。

- (1) 次に掲げる者については、利用料金（条例別表第2の1の事項及び4の事項に係るものに限る。）を免除することができることとする。
- ア 小学校の児童又は中学校若しくは中等教育学校の前期課程の生徒の引率者である教職員
- イ 土曜日又は国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）第2条に規定するこどもの日若しくは文化の日に利用する高等学校の生徒及びこれに準ずる者
- ウ 学校教育又は社会教育により利用する高等学校の生徒及びこれに準ずる者（10人以上で利用する場合に限る。）
- エ 特別支援学校の児童及び生徒並びにこれらの引率者
- オ 児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条第1項に規定する児童福祉施設に入所し、又は通園している少年及びその引率者
- カ 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定による身体障害者手帳の交付を受けている者及びその引率者
- キ 生活保護法（昭和25年法律第144号）による保護を受けている者
- ク 児童相談所、知的障害者更生相談所、精神保健福祉センター若しくは障害者職業センターの長又は精神保健指定医により知的障害者と判定された者及びその引率者
- ケ 精神保健福祉センターの長、精神保健指定医又は精神科を標ぼうする医師により精神障害者（知的障害者を除く。）と判定された者及びその引率者
- コ 老人福祉法（昭和38年法律第133号）第5条の3に規定する老人福祉施設に入所している者及びその引率者
- サ 65歳以上の者
- シ その他知事がアからサまでに掲げる者に準ずると認める者
- (2) 次のいずれかに該当する場合は、特別展示室の利用料金を免除することができることとする。
- ア 総合博物館と共同して開催する北海道の歴史、文化、自然等に関する講演会、展示会等の催しのために利用するとき。
- イ その他知事が必要と認めるとき。

- (3) 前2号に掲げるもののほか、知事が特別な理由があると認める場合は、利用料金を減免することができることとする。
(施設設備等の変更の禁止)

第7条 利用者又は条例第12条第1項の承認を受けた者は、本館の特別展示室及びその附属設備又は同項に規定する開拓の村建物等（以下「施設設備等」という。）の利用又は使用に際し、施設設備等に特別の設備をし、又は変更を加えてはならない。ただし、あらかじめ指定管理者の承認を受けたときは、この限りでない。

(原状回復の義務等)

第8条 利用者又は条例第12条第1項の承認を受けた者は、施設設備等の利用又は使用を終了したときは、施設設備等を原状に回復しなければならない。条例第10条（条例第12条第3項において準用する場合を含む。）の規定により利用若しくは使用の承認を取り消され、又は利用若しくは使用を制限され、若しくは停止されたときも、同様とする。

2 利用者又は条例第12条第1項の承認を受けた者が前項の義務を履行しないときは、指定管理者が代わって行い、その費用を当該利用者又は条例第12条第1項の承認を受けた者から徴収するものとする。

(特別観覧の承認)

第9条 条例第13条第1項に規定する特別観覧（以下「特別観覧」という。）の承認を受けようとする者は、別記第2号様式の特別観覧承認申請書を知事に提出しなければならない。

2 知事は、特別観覧を承認したときは、別記第3号様式の特別観覧承認書を交付するものとする。

(特別観覧等の時間)

第10条 特別観覧及び特別利用（条例第13条第2項に規定する特別利用をいう。以下同じ。）を行うことができる時間は、午前10時から午後4時までとする。

2 前項の規定にかかわらず、知事は、必要があると認めるときは、特別観覧の時間を変更することができる。

3 第1項の規定にかかわらず、指定管理者は、必要があると認めるときは、特別利用の時間を変更することができる。

(模写品等の刊行等の承認)

第11条 条例第15条の承認を受けようとする者は、別記第4号様式の模写品等刊行等承認申請書を知事に提出しなければならない。

2 知事は、条例第15条の承認をしたときは、別記第5号様式の模写品等刊行等承認書を交付するものとする。

(本館資料の貸出しの承認)

第12条 条例第16条第1項の承認を受けようとする者は、別記第6号様式の資料貸出承認申請書を知事に提出しなければならない。

2 知事は、前項の規定による申請があったときは、当該申請者が次のいずれかに該当する場合に限り、承認することができる。

- (1) 独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第2条第1項に規定する独立行政法人が設置する博物館及び美術館、博物館法（昭和26年法律第285号）第2条第1項に規定する博物館並びに同法第29条の規定による指定を受けた博物館に相当する施設の長
- (2) 社会教育法（昭和24年法律第207号）第21条に規定する公民館の長
- (3) 国立の図書館及び図書館法（昭和25年法律第118号）第2条第1項に規定する図書館の長
- (4) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第1条に規定する学校の長
- (5) その他知事が適当と認める者

3 知事は、条例第16条第1項の承認をしたときは、別記第7号様式の資料貸出承認書を交付するものとする。

（本館資料等の貸出期間）

第13条 本館資料及び交流館資料の貸出しをすることができる期間（以下「貸出期間」という。）は、60日以内とする。

2 前項の規定にかかわらず、知事は、特に必要があると認めるときは、本館資料の貸出期間を延長することができる。

3 第1項の規定にかかわらず、指定管理者は、特に必要があると認めるときは、交流館資料の貸出期間を延長することができる。

4 知事は、必要があると認めるときは、貸出期間中であっても、本館資料の返還を求めることができる。

5 指定管理者は、必要があると認めるときは、貸出期間中であっても、交流館資料の返還を求めることができる。

（本館資料等の滅失等の届出等）

第14条 本館資料の貸出しを受けた者は、当該本館資料を滅失し、又は損傷したときは、直ちにその旨を知事に届け出なければならない。

2 交流館資料の貸出しを受けた者は、当該交流館資料を滅失し、又は損傷したときは、直ちにその旨を指定管理者に届け出なければならない。

3 指定管理者は、前項の規定による届出があったときは、速やかにその旨を知事に報告しなければならない。

（利用に供しない本館資料）

第15条 知事は、個人若しくは法人その他の団体（国及び地方公共団体を除く。以下「法人等」という。）の秘密保持のため又は公益上の理由により、一定の期間利用に供することが不適当な情報（以下「個人の秘密等の情報」という。）が記録されている本館資料及び寄贈又は寄託に係る本館資料であって一定の期間利用に供しない旨の条件が付されているもの（以下「条件付き寄贈資

料」という。）については、特別観覧その他の利用（以下「特別観覧等」という。）に供しないものとする。

2 知事は、本館資料又は条件付き寄贈資料に個人の秘密等の情報とそれ以外の情報が記録されている場合において、当該個人の秘密等の情報とそれ以外の情報とを容易に、かつ、特別観覧等の趣旨が損なわれない程度に分離することができるときは、前項の規定にかかわらず、当該個人の秘密等の情報が記録されている部分を除いて、当該本館資料及び条件付き寄贈資料を特別観覧等に供することができる。この場合において、条件付き寄贈資料については、あらかじめその寄贈者又は寄託者の承諾を得るものとする。

3 知事は、公益上の必要その他相当の理由があり、かつ、個人又は法人等の権利利益を不当に侵害するおそれがないと認めるときは、第1項の規定にかかわらず、個人の秘密等の情報が記録されている本館資料又は条件付き寄贈資料を特別観覧等に供することができる。この場合において、条件付き寄贈資料については、あらかじめその寄贈者又は寄託者の承諾を得るものとする。

（本館資料の利用の制限）

第16条 知事は、本館資料の保存上支障が生ずると認められるときは、その利用を制限することができる。

（知事による管理）

第17条 条例第18条第1項の規定により知事が総合博物館の管理に係る業務を行う場合においては、第2条中「条例第5条に規定する指定管理者（以下「指定管理者」という。）」とあるのは「知事」と、第3条第1項中「指定管理者」とあるのは「職員」と、同条第2項中「指定管理者」とあるのは「知事」と、第5条中「同条第1項」とあるのは「条例第18条第2項の規定により読み替えられた条例第11条第1項」と、「利用料金」とあるのは「使用料」と、同条第1号及び第2号中「指定管理者」とあるのは「知事」と、第6条各号中「利用料金」とあるのは「使用料」と、第7条ただし書、第8条第2項、第10条第3項、第13条第3項及び第5項並びに第14条第2項中「指定管理者」とあるのは「知事」とし、同条第3項の規定は、適用しない。

附 則

（施行期日）

1 この規則は、平成27年4月1日から施行する。

（北海道立アイヌ民族文化研究センター条例施行規則等の廃止）

2 次に掲げる規則は、廃止する。

(1) 北海道立アイヌ民族文化研究センター条例施行規則（平成6年北海道規則第66号）

(2) 北海道立開拓記念館管理規則（昭和46年北海道規則第27号）

(経過措置)

- 3 この規則の施行前に前項（第1号に係る部分に限る。）の規定による廃止前の北海道立アイヌ民族文化研究センター条例施行規則（附則第5項において「旧施行規則」という。）第10条、第11条又は第12条ただし書の規定により北海道立アイヌ民族文化研究センターの所長（附則第5項において「所長」という。）がした承認又は許可は、条例の相当規定に基づき知事がした承認とみなす。
- 4 この規則の施行前に附則第2項（第2号に係る部分に限る。）の規定による廃止前の北海道立開拓記念館管理規則（以下「旧管理規則」という。）第6条ただし書の規定により指定管理者がした承認は、第7条ただし書の規定により指定管理者がした承認とみなす。
- 5 前2項に定めるもののほか、この規則の施行の日前に旧施行規則又は旧管理規則の規定により所長又は知事若しくは指定管理者に対してなされた承認又は許可の申請で、この規則の施行の際承認又は許可をするか否かの決定がなされていないものは、同日以後においては、この規則の相当規定に基づき知事又は指定管理者に対してなされた承認の申請とみなす。

別記第1号様式

（第4条関係）

別記第2号様式

（第9条関係）

別記第3号様式

（第9条関係）

別記第4号様式

（第11条関係）

別記第5号様式

（第11条関係）

別記第6号様式

（第12条関係）

別記第7号様式

（第12条関係）

文書様式(北海道立総合博物館管理規則に定める様式)

別記第1号様式(第4条関係)

年 月 日		
北海道知事 様		
主たる事務所の所在地 指定管理者の名称 代表者の氏名		
印		
利用料金承認申請書		
北海道立総合博物館の利用料金の額を次のとおり定めることについて承認を受けたいので、北海道立総合博物館条例第11条第3項の規定により、申請します。		
区 分	利用料金の額(円)	備 考

(日本工業規格A4)

別記第2号様式(第9条関係)

年 月 日		
北海道知事 様		
申請者 住 所 職 業 氏 名 電話番号		
特別観覧承認申請書		
次のとおり北海道博物館資料の特別観覧の承認を受けたいので、北海道立総合博物館条例第13条第1項の規定により、申請します。		
資 料 品 名	点 数	備 考
観 覧 日	年 月 日	
観覧方法	閲覧 模写 模造 撮影 複写	
観覧目的		

(日本工業規格A4)

別記第3号様式(第9条関係)

年 月 日		
(申請者) 様		
北海道知事 印		
特別観覧承認書		
年 月 日申請の北海道博物館資料の特別観覧を次のとおり承認します。		
資 料 品 名	点 数	備 考
観 覧 日	年 月 日	
観覧方法	閲覧 模写 模造 撮影 複写	
観覧目的		
注意		
1 北海道立総合博物館条例及び北海道立総合博物館管理規則の規定を遵守すること。		
2 北海道博物館資料、施設、設備その他の物件を損傷し、又は滅失したときは、これを原形に復し、又はその損害を賠償しなければならないこと。		

(日本工業規格A4)

別記第4号様式(第11条関係)

その1

年 月 日		
北海道知事 様		
申請者 住 所 職 業 氏 名 電話番号		
模写品等刊行等承認申請書		
次のとおり(北海道博物館資料 野幌森林公園自然ふれあい交流館資料)の(模写 模造 撮影 複写)品の(刊行 複製 使用)の承認を受けたいので、北海道立総合博物館条例第15条の規定により、申請します。		
使用目的		
資 料 名		
作 品 名		
製 作 数		
価 額	有料	円 無料
製作予定 年 月 日	年 月 日	

(日本工業規格A4)

別記第4号様式（第11条関係）
その2

年 月 日	
北海道知事 様	
申請者	住 所
氏 名	職 業
電話番号	印
模写品等刊行等承認申請書	
次のとおり（北海道開拓の村の展示建造物等 北海道開拓の村の管理棟）の（模写 模造 撮影 複写）品の（刊行 複製 使用）の承認を受けたいので、北海道立総合博物館条例第15条の規定により、申請します。	
使用目的	
建物等の名称	
作品名	
製作数	
価 額	有料 円 無料
製作予定 年 月 日	年 月 日

（日本工業規格 A 4）

別記第5号様式（第11条関係）

年 月 日	
（申請者） 様	
北海道知事 印	
模写品等刊行等承認書	
年 月 日申請の模写品等の（刊行 複製 使用）を次のとおり承認します。	
使用目的	
資料名又は 建物等の名称	
作品名	
製作数	
価 額	有料 円 無料
製作予定 年 月 日	年 月 日

注意

- 1 上記使用目的以外に使用しないこと。
- 2 使用に際しては、北海道立総合博物館所有の旨を明記すること。
- 3 刊行物、複製品、発表作品等2点を北海道に寄贈すること。

（日本工業規格 A 4）

別記第6号様式（第12条関係）

年 月 日	
北海道知事 様	
申請者	機 関 名
代表者名	所 在 地
印	
資料貸出承認申請書	
次のとおり北海道博物館資料の貸出しを受けたいので、北海道立総合博物館条例第16条第1項の規定により、申請します。	
使用目的	
使用場所	
貸出期間	年 月 日から 年 月 日まで
資料品目 及び数量	

（日本工業規格 A 4）

別記第7号様式（第12条関係）

年 月 日	
（申請者） 様	
北海道知事 印	
資料貸出承認書	
年 月 日申請の北海道博物館資料の貸出しについて、次のとおり承認します。	
使用目的	
使用場所	
貸出期間	年 月 日から 年 月 日まで
資料品目 及び数量	

注意 貸出しを受けた資料を上記の使用目的以外の目的に供し、又は上記の使用場所以外の場所で利用してはならないこと。

（日本工業規格 A 4）

利用案内

1 見学案内

〔開館時間〕

5～9月：9:30～17:00 10～4月：9:30～16:30

※閉館時間の30分前までにお入りください。

〔休館日〕

毎週月曜日（祝日・振替休日の場合は直後の平日）、年末年始（12月29日～1月3日）

※このほか臨時休館する場合があります。詳しくは、ウェブサイトなどでご確認ください。

〔観覧料〕

(1) 総合展示室の観覧料

区 分	大学生・高校生	一 般
個 人	300 円	600 円
10名以上の団体料金	200 円	500 円

※中学生以下、65歳以上の方は無料です。入館の際に年齢のわかるもの（生徒手帳、健康保険証、運転免許証など）をご提示ください。

※障害のある方は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください。

※高校生は、土曜日・5月5日（こどもの日）・11月3日（文化の日）に利用する場合、並びに学校教育又は社会教育を目的として利用する10名以上の団体の場合は無料となります。

※その他、北海道博物館と北海道開拓の村の共通チケットや年間パスポートなど、お得なチケットもあります。

(2) 特別展示室の観覧料

- ・特別展では、別途定める観覧料が必要となります。
- ・その他、無料で見学できる企画テーマ展、蔵出し展なども開催します。

〔観覧料の免除〕

(1) 次に掲げる事項に該当する方は、それらを証明するものをご提示いただくと、観覧料が免除されます。事前申請が必要な場合がありますので、あらかじめウェブサイトを確認するか、電話でお問い合わせください。

- ・小学校の児童又は中学校若しくは中等教育学校の前期課程の生徒の引率者である教職員
- ・土曜日又はこどもの日若しくは文化の日を利用する高等学校の生徒及びこれに準ずる方
- ・学校教育又は社会教育により利用する高等学校の生徒及びこれに準ずる方（10人以上で利用する場合に限る。）
- ・特別支援学校の児童及び生徒並びにこれらの引率者
- ・児童福祉法に規定する児童福祉施設に入所し、又は通園している少年及びその引率者
- ・身体障害者福祉法の規定による身体障害者手帳の交付を受けている方及びその引率者
- ・生活保護法による保護を受けている方
- ・児童相談所、知的障害者更生相談所、精神保健福祉センター若しくは障害者職業センターの長又は精神保健指定医により知的障害者と判定された方及びその引率者
- ・精神保健福祉センターの長、精神保健指定医又は精神科を標ぼうする医師により精神障害者（知的障害者を除く。）と判定された方及びその引率者
- ・老人福祉法に規定する老人福祉施設に入所している方及びその引率者
- ・65歳以上の方
- ・その他知事が上記に掲げる方に準ずると認める方

(2) (1)以外の人で、知事が特別な理由があると認める場合は、観覧料が免除されます。事前申請が必要な場合がありますので、あらかじめウェブサイトを確認するか、電話でお問い合わせください。

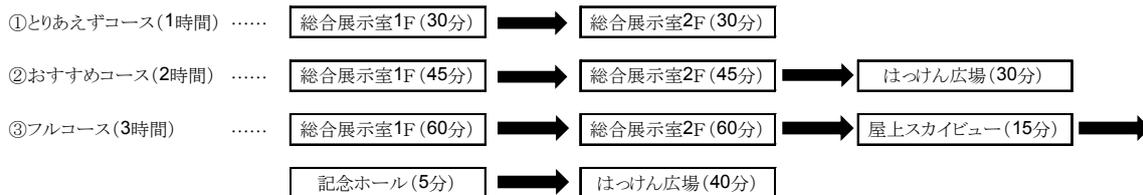
〔お客さまへの注意事項〕

お客さまにおいては、係員の指示に従うほか、特に次のような秩序を乱す行為は禁じられています。

- ・建物、附属施設又は展示資料を汚し、若しくは損傷し、又はそれらのおそれのある行為
- ・他人に迷惑を及ぼし、又はそのおそれのある行為
- ・指定の場所以外で飲食し、又は喫煙すること

【おすすめ見学コースおよび所要時間】

どこからでも自由に見学できますが、所要時間の目安としては、次のおすすめ見学コースが参考になります。



※特別展示室も見学すると、さらに30～60分かかります。

※「屋上スカイビュー」(不定期開催、10:00～16:00)は、冬季及び雨天や強風などの場合は、開放を中止します。

2 図書室の利用

図書室をご利用されるお客さまは、総合展示の観覧なしで利用いただけます。

【利用の手続き】

- ① 1階総合案内で「図書室利用者証」と「図書室利用票」をお受け取りください。
- ② 「図書室利用者証」を着用し、1階総合展示室入口からお入りください。
(利用者証を着用しないと総合展示室の観覧料がかかりますので、ご注意ください。)
- ③ 図書室に着いたら、スタッフに「図書室利用票」をご提示のうえ、ご利用ください。

【お帰りの際】

- ① 図書室のカウンターのスタッフに「図書室利用票」をお渡しください。
- ② 総合展示室内を通過して1階展示室入口から出て、1階総合案内で「図書室利用者証」をご返却ください。

【利用時間】

開館時間と同じです。

3 収蔵資料のご利用

【資料の特別観覧】

資料の閲覧、模写、模造、撮影又は複写を行いたい場合は、事前に電話にてお問い合わせ・ご相談のうえ、「特別観覧承認申請書」を提出してください。特別観覧の時間は午前10時から午後4時までです。

【模写品等のご利用】

資料を模写・模造・撮影し、又は複写したもの(模写品等と総称)を刊行し、若しくは複製し、又は研究発表などに使用する場合は、事前に電話にてお問い合わせ・ご相談のうえ、「模写品等刊行等承認申請書」を出してください。

【資料の貸出】

資料の貸出を受ける場合は、事前に電話にてお問い合わせ・ご相談のうえ、「資料貸出承認申請書」を提出してください。貸出期間は60日間以内ですが、知事が特に必要と認めるときは、延長することができます。

※ 資料貸出を受けることができる方は、次のとおりです。

博物館法及び独立行政法人通則法に規定する博物館及び博物館相当施設の長、社会教育法に規定する公民館の長、国立の図書館及び図書館法に規定する図書館の長、学校教育法に規定する学校の長、その他知事が適当と認める場合。

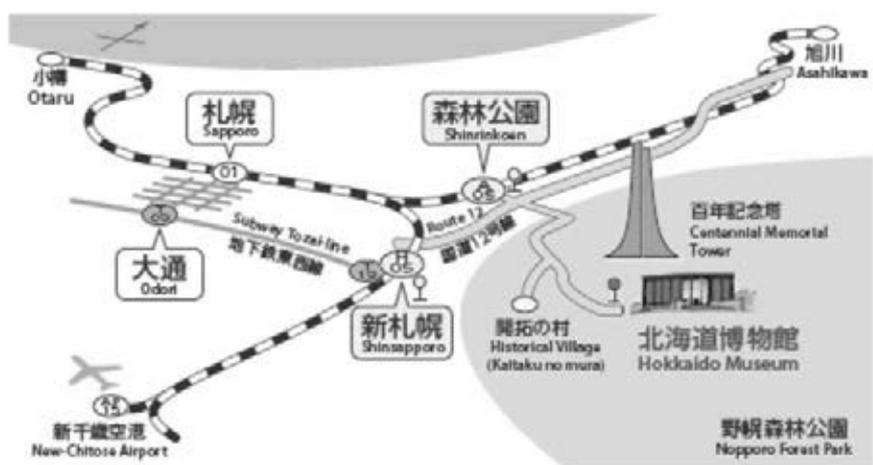
4 交通案内

【バスをご利用の場合】

- (1) 新札幌駅から バスターミナル・のりば⑩(北レーン)
 - ・ ジェイ・アール北海道バス 新22「開拓の村」行きに乗車し、「北海道博物館」で下車。
- (2) 森林公園駅から 東口のりば
 - ・ 新札幌駅から上記のバスが森林公園駅に寄ります。
※北海道博物館まで徒歩20～25分かかります。
- (3) 大麻・江別方面から
 - ・ ジェイ・アール北海道バス・夕鉄バス新札幌方面行きに乗車し、「厚別東小学校前」で下車(バス停から徒歩15分)。

【タクシーをご利用の場合】

新札幌駅から 約10分



【北海道博物館ウェブサイト】

<http://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp>

【Twitter】

https://twitter.com/Hokkaido_Museum

【各種の問い合わせ・申し込みは下記まで】

- ① ご利用に関する問い合わせ、学校以外の団体でのご利用、図書室のご利用に関することは
電話:011-898-0466 FAX:011-897-1865
- ② 学校団体の予約、イベントの申し込みは
電話:011-898-0500(学校団体受付・行事申込み専用ダイヤル) FAX:011-898-0590
- ③ その他に関することは
電話:011-898-0456(総務部総括グループ) FAX:011-898-2657

北海道博物館の開館 準備に関わる事業



別 添 資 料 目 次

1	設置までのうごき	
1.1	「北海道博物館基本計画」の策定	(2)
1.2	北海道ミュージアム推進事業(平成 22 年度)	(4)
1.3	北海道博物館設置推進事業(平成 23 年度)	(5)
1.4	「北海道博物館実施計画」の策定(平成 24 年度)	(7)
1.5	北海道博物館基本的運営方針等の策定(平成 26 年度)	(8)
2	北海道博物館設立に向けた組織統合の取り組み	
2.1	平成 21 年度北海道ミュージアム(仮称)基本計画検討委員会による組織統合の検討	(9)
2.2	平成 22 年度北海道基本計画策定に向けた組織統合の検討	(9)
2.3	平成 23 年度北海道博物館設置プラン検討における組織統合の検討	(10)
2.4	平成 24 年度北海道博物館実施計画における組織統合の検討	(11)
2.5	平成 25 年度展示改修工事における組織体制の検討	(11)
2.6	平成 26 年度基本的運営方針と組織体制の検討	(12)
3	施設改修及び展示改修	
3.1	北海道博物館施設改修事業	(13)
3.2	北海道博物館展示改修事業	(18)
4	関連資料	
4.1	リニューアル予告展示会「北海道開拓記念館から北海道博物館へ」	(31)
4.2	事業予算	(33)
4.3	北海道博物館開設準備に係る委員会等	(34)
4.4	設置までの主な動き	(35)
4.5	施設工事と展示施工の記録	(36)
4.6	歴代館長・所長、組織変遷	(38)
4.7	北海道開拓記念館と北海道立アイヌ民族文化研究センターの歩み	(46)

北海道博物館の開館準備に関わる事業

1 設置までのうごき

1.1 「北海道博物館基本計画」の策定

1. 知事公約「北海道ミュージアム」について

平成19(2007)年3月、高橋はるみ知事の2期目の公約である「新生北海道・第II章」に、北海道ミュージアムという概念が盛り込まれました。

◎知事公約(抜粋)

アイヌ文化を次代に継承し、その営みを広く普及するため、イオルの再生や、開拓記念館のリニューアルによる北海道ミュージアムの設置に取り組みます。

北海道ミュージアムは、アイヌ文化を次代に継承し、その営みを広く普及することを目的とし、開拓記念館のリニューアルという手段によって設置を目指す概念です。

2. 北海道文化審議会への諮問・答申について

北海道ミュージアムの具体化に向け、平成20(2008)年5月に知事は、「北海道における博物館のあり方と北海道開拓記念館の役割について」北海道文化審議会に諮問しました。

これを受け、審議会では、博物館関係者のほかアイヌ民族関係者や研究者の意見を聴き、幅広い観点から検討を進める必要があるとの判断から、道内外の有識者10名からなる特別委員会を設置して検討を進め、平成21(2009)年8月に知事に対し、「開拓記念館の今後のあり方」として、「求められる役割」について、次のとおり答申しました。

◎答申第4章開拓記念館の今後のあり方「1 求められる役割」(全文)

(1) 博物館としての基本的役割

○ 充実した機能と質の高い博物館活動

博物館としての、資料の収集・保存、調査・研究、展示・教育普及にわたる機能を高め、道民の歴史的遺産を最大限に活かし、質の高い博物館活動を展開していくことが求められている。

○ わかりやすく、おもしろく、ためになる博物館づくり

多くの人々が度々訪れる親しまれる博物館を目指し、博物館の活動成果が、わかりやすく、おもしろく、ためになるように、利用者の視点に立った創意工夫に満ちた博物館づくりが求められている。

○ 文化創造と地域活性化のための博物館づくり

道民が自らのアイデンティティを確かめ、過去に学び未来を展望するとともに、様々な情報や人材などが連携するネットワークを活用して、特色ある地域文化の創造や、しっかりとした地域社会を形成できるような、拠点と位置づけられる博物館づくりが求められている。

○ 参加・協働の博物館づくり

博物館のさまざまな活動に、道民が利用者としてだけでなく、協働者、またときには発信者として多面的に参画する機会を創出することによって、博物館活動をより豊かにし、道民と連携、協働する博物館づくりが求められている。

(2) 北海道における総合的な博物館としての役割

○ 自然、環境を含む未来に向けた人間史の博物館

開拓記念館は、北海道全体の中核的な博物館として、自然や環境も含めて研究・展示を行う、未来に向けた人間史の博物館を目指すべきである。そのためには、自然史部門の充実や現代に係る展示の充実などを検討していく必要がある。

○ アイヌ文化を保存・伝承し未来に活かす博物館

アイヌ文化を北海道史の重要な一部と位置づけ、広く北東アジアの南北・東西交流の中で捉え直すことによって、明治以降の北海道開拓に片寄りがちだった見方を改めるとともに、日本列島弧北部周辺、とりわけ北海道に先住するアイヌ民族の文化を尊重し、未来に活かす観点から、展示の改訂、充実などを検討する必要がある。

(3) 道内博物館の中核施設としての役割

開拓記念館は、道内博物館の中核的な博物館として、地域の博物館とのネットワークのもと、地域の単館では限界のある各種活動を補完あるいは支援する役割が求められている。

このような活動は、道内博物館全体の水準の向上や活力の強化に繋がり、ひいては地域の活性化にも資する。

ネットワークを構成する、人（人材）、モノ（収蔵資料）、情報という3分野において今後次のとおり充実強化する必要がある。取り組みに当たっては、永続的に機能する仕組みを構築していくことが重要である。

なお、これらの活動は、現在開拓記念館が事務局を担う北海道博物館協会¹や（財）日本博物館協会²との連携や役割分担を行いながら実施していくことが適切であり、特に開拓記念館が道内博物館の中核的機能を担うことを踏まえれば、北海道の博物館の中核としてこれまで以上に積極的な取り組みが期待される。

○ 人

現在までも、開拓記念館は、人材育成の面では研修、調査研究の面では共同研究、教育普及の面では体験学習教材の開発などにより、道内博物館と連携してきたが、今後は、地域ニーズも踏まえながら、これらをさらに充実強化していくことが必要である。

また、今後は、学校との連携はもちろん教育普及を一層強化するため、ミュージアムエデュケーター育成機能を充実する必要がある。

○ モノ

現状においても、開拓記念館収蔵資料を活用した、各地域での移動博物館の開催や、資料の貸し出し、展示協力などを行っているが、今後は、こうした活動を一層充実していく必要がある。また、保存科学研究をはじめとした小規模な博物館では果たせない機能を充実することによって、道内博物館の中核的機能を担うことができる。

なお、町村合併などを契機に、地域の貴重な歴史資料が散逸するおそれがあり、これらの情報を把握確認するとともに、資料の評価や収蔵先の情報提供などとおして地域の博物館活動の助言者となることを期待されている。

○ 情報

現状においても情報の共有や相互利用に努めているが、今後は道内博物館の収蔵資料情報や催事情報、更には研究成果情報の共有や共同利用の充実に向け、インターネットを活用した利便性の高い情報収集・整備・発信体制を構築する必要があり、情報処理能力の格段の強化を検討する必要がある。

¹ 北海道博物館協会：道内の博物館・美術館・科学館・動物園・植物園などが加盟する任意団体。会員博物館相互の情報交換や連絡・提携のほか、博物館種別毎の3つの専門部会、4つの地区ブロック連絡協議会毎に研修会等を実施。加盟館数 128 館（H21.3.31 現在）。

²（財）日本博物館協会：博物館における学習の向上に関する調査研究、情報提供、博物館に関する出版物の刊行等の事業とおして、博物館全体の発展を支える団体としての役割を果たしている。全国 10 支部で構成され、北海道支部の事務局は開拓記念館が担当。

3. 北海道博物館基本計画

平成 21（2009）年 8 月に北海道文化審議会から出された答申を受けて、道は 11 月に庁内に「北海道ミュージアム（仮称）基本計画検討委員会」を設置しました。検討委員会は、北海道文化審議会の答申や開拓記念館の考え方や要望を整理した「北海道開拓記念館のリニューアルに向けて」などを踏まえ、平成 22（2010）年 4 月に「北海道博物館（仮称）基本計画」素案を取りまとめました。この後、パブリックコメントを実施し、これを取りまとめ反映させた「北海道博物館基本計画～北海道開拓記念館のリニューアルから北海道ミュージアムへ～」（以下、「基本計画」という。）を平成 22（2010）年 9 月に策定しました。

「基本計画」には、アイヌ文化など北海道固有の歴史文化等に対する関心の高まりや、道民ニーズの変化と来館者数の減少、厳しさを増す道内博物館の活動といった開拓記念館をめぐる情勢の変化に応じるため、次のような 3 つの理念を基本とする「北海道博物館」の設置が明記されました。

◎ 「基本計画」の「序章」に明記された3つの理念（全文）

- ◇ 日本列島の北辺にあって、北東アジアとの歴史的なつながりを有し、“雄大な自然”、“豊かな環境”、“アイヌ民族の先住の地”といった北海道の特性を存分に活かした博物館をめざす。
- ◇ 北海道に先住するアイヌ民族とその文化を尊重するとともに、開拓に携わった先人の努力に敬意と感謝を表す考えを基本とし、道民の成り立ちが多様であることを充分考慮しながら、自然や環境の保全を含む持続可能な未来に向けた人間史の博物館をめざす。
- ◇ 地域の博物館との堅固なネットワークづくりを基盤に、道内にある博物館全体の水準の向上や活力の強化を誘導し得る中核的博物館をめざす。

また、設置にあたって (1) 博物館としての基本的な機能の充実、(2) 北海道における総合的な博物館、(3) 道内博物館の中核となる施設」といった3つの基本方針を設定し、それぞれの発揮すべき機能などを明らかにした上で、展示改訂や教育普及の充実、ネットワークの再構築、施設の改善などのプランが明記され、計画的に事業を推進する方針が示されました。さらに、アイヌ文化への関心の高まりによるさまざまなニーズに応じるために、調査研究や情報提供などの機能の充実を図ることが明記され、平成6(1994)年に設置されたアイヌ民族文化研究センターとの統合を検討することが示されました。

1.2 北海道ミュージアム推進事業(平成22年度)

平成22(2010)年度に道は、アイヌ文化等を含めた北海道の歴史を継承する総合的な博物館として、また道内博物館の中心的役割を果たすことができる「北海道ミュージアム」の実現に向け、「北海道ミュージアム推進事業」を北海道の特定重点事業として予算化し、開拓記念館において必要な事業を実施しました。この事業は、①「わかりやすくおもしろい総合的な博物館づくり」、②「道内の中心的博物館への転換」、③「博物館としての基本的機能の強化・充実」の3つを施策の柱とし、具体的に以下の事業を進めました。

1. ミュージアムメイトへの意見聴取

知事公約「北海道ミュージアム構想」を理解していただき、今後の博物館づくりのための発展的な意見をいただくことを目的に、議題ごとにミュージアムメイトとの意見交換を実施しました。

日時	議題	参加人数
5月15日	開拓記念館と「北海道ミュージアム構想」について	23名
6月12日	アイヌ文化をも含めた北海道の総合的博物館への転換	17名
7月3日	博物館活動に道民が参加できるシステムづくり	15名
8月7日	道民・利用者からみた博物館の利用・活動	15名
9月4日	まとめ	18名

2. 記念館利用者へのアンケート調査

9月から11月の期間に開拓記念館で開催した講演会・シンポジウムなどの参加者を対象に、上記の3つの施策に関連したアンケートを実施しました(回収総枚数307枚)。

3. 道内博物館関係者へのアンケート調査

地域の博物館とのネットワークづくりに向けた検討を目的に、道内博物館関係者に対するアンケートを実施しました。

日時	調査実施対象	場所	回収枚数
9月16日	北海道博物館協会学芸職員部会大会	釧路市立博物館	37名
10月21日	北海道博物館協会ミュージアム・マネジメント学会	江差町開陽丸青少年センター	28名

4. アイヌ文化充実のためのヒアリング調査

アイヌ文化の充実に向けたリニューアルプラン策定のため、平取町(平成23年1月)と白老町(平成23年2月)でアイヌ文化の関係者に対するヒアリング調査を実施しました。

5. リニューアルプラン策定のための情報収集

リニューアルプラン策定のための情報収集を目的に、平成23年1月と2月に開催された財団法人日本博物館協会主催の研修会に職員を派遣し、関連する博物館の調査を実施しました。

6. 収蔵機能強化プラン策定に向けた検討会

収蔵庫の増設、保存機能の強化を含めた施設改修プラン策定のため、博物館施設の収蔵資料（文化財）の保存科学を専門とする研究者に、開拓記念館の収蔵庫や資料保存環境を検証していただき、開拓記念館の職員との意見交換を行う検討会を開催しました（平成23年1月25～26日）。

検 証 者 三浦 定俊（当時）公益財団法人文化財虫害研究所理事長
日高 真吾（当時）国立民族学博物館准教授

- 検証者からの意見
- ・現在の収蔵状況は無理に詰め込み、空間に余裕がなく資料管理上危険で、収蔵環境も悪く、収蔵庫の増設あるいは新築が必要である。
 - ・収蔵資料の性質によって適切な収蔵環境を確保することが必要である。
 - ・湿温度の監視システム、資料管理上のセキュリティ等も将来に向けて整備して行く必要がある。

7. 博物館リニューアルプラン策定に向けた検討会

開拓記念館の館内配置、常設展示改訂を含めた北海道博物館リニューアルプラン策定のため、博物館の設置計画等の従事経験のある国立博物館の館長、アイヌ文化研究を専門とする研究者に、一般来館者の観覧に適した動線、収蔵や展示等の目的に則した開拓記念館内スペースを検証していただき、開拓記念館の職員との意見交換を行う検討会を開催しました（平成23年3月9～10日）。

検 証 者 平川 南（当時）国立歴史民俗博物館館長
佐々木 利和（当時）北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授

- 検証者からの意見
- ・展示改訂では基本コンセプトを明確に持つ必要がある。
 - ・常設展示場の中に、展示替えが可能な空間（副室）や体験学習が可能なコーナーを設置することで来館者を呼び込む工夫が重要。また、資料は絞り込みと歴史観をわかりやすくする必要がある。
 - ・展示ケース、照明、展示手法はもっと見る側に立った展示にする必要がある。

1.3 北海道博物館設置推進事業（平成23年度）

平成23（2011）年度に道は、開拓記念館のリニューアルによる「北海道博物館」設置に向けた取組を推進するため、昨年度に実施した「北海道ミュージアム推進事業」を踏まえた「北海道博物館設置推進事業」を北海道の特定重点事業として予算化し、開拓記念館において必要な事業を実施しました。具体的には、以下の事業を実施しました。

1. 構造・設備改修診断調査

開拓記念館の今日的なニーズに応える機能を満たしつつ、将来にわたって道民に愛される施設としていくため、建物、展示室、収蔵庫などについて、老朽化対策としての施設整備、展示改訂等の実効性確保のための建物強度等の調査を実施しました。調査は、株式会社札幌日総建に委託し、平成23年12月に「北海道開拓記念館構造・設備改修診断調査報告書」としてまとめられました（後述）。

2. 北海道博物館設置プラン検討委員会

「基本計画」に基づき、3つの基本方針「博物館としての基本的な機能の充実」、「北海道の総合的な博物館」、「道内博物館の中核となる施設」を目指すため、外部の専門的立場の方々から指導・助言をいただくことを目的とした「北海道博物館設置プラン検討委員会」を平成23（2011）年7月に設置しました。委員会では、開拓記念館内に設置された北海道博物館設置検討委員会が取りまとめた「北海道博物館設置プラン（案）」や「北海道博物館設置計画 個別プラン」などが提示され、内容が検討されました。平成23年度末には、北海道博物館設置プラン検討委員会から館長へ「基本計画」で示された基本的な考え方を展開する方向を総合的に示した「北海道博物館リニューアル検討報告書」が答申として提出されました。

(1) 委員会の職務

- ・北海道博物館設置に向けた総合的な検討

- ・ 展示改訂プラン策定の検討
- ・ 施設設備プラン策定の検討
- ・ ネットワーク再構築プラン策定の検討
- ・ 教育普及プラン策定の検討
- ・ 組織体制プラン策定の検討
- ・ その他、必要な事項

(2) 委員会の構成

委員長	山田 家正	小樽商科大学名誉教授、元北海道開拓記念館館長
副委員長	平川 南	国立歴史民俗博物館館長
委員	宇佐美 暢子	北海道新聞社取締役・事業局長
委員	氏家 等	一般財団法人北海道開拓の村専務理事
委員	佐々木 利和	北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授
委員	三輪 嘉六	九州国立博物館館長

※役職は平成23年当時のもの

(3) 開催経過及び各回の議事

【第1回】 平成23(2011)年8月23日

委員長・副委員長が選出され、「北海道博物館」に係るこれまでの検討経過、開設に向けたスケジュールなどが事務局（開拓記念館側）より報告されました。また、「展示改訂」「設備準備」など各プランの館側での検討状況が報告され、それについて議論が行われました。

【第2回】 平成23(2011)年12月21日

北海道博物館設置推進事業の1つとして開催したシンポジウム「北海道博物館と魅力ある地域づくり」（11月16日）が報告された後、各プランの検討状況が報告され、それについて議論が行われました。

【第3回】 平成24(2012)年3月13日

これまでの検討・議論を集約した「北海道博物館リニューアル検討報告書(案)」の内容について議論が行われました。また、「北海道博物館」の今後のあり方についても議論が行われました。

3. シンポジウム「北海道博物館と魅力ある地域づくり」開催

「北海道博物館」が地域づくりに果していく役割を、道民や研究者、博物館関係者とともに考えるため、シンポジウム「北海道博物館と魅力ある地域づくり」を開催しました。

日時	平成23(2011)年11月16日(水) 18:00～20:30	
会場	北海道鍼灸専門学校かでのホール(現かでの2・7かでのホール)	
参加者数	335人	
内容	○基調講演 「世界のなかの北海道と博物館の未来」 丹保 憲 二 地方独立行政法人北海道立総合研究機構理事長 ○シンポジウム 「北海道博物館と魅力ある地域づくり」 コーディネーター： 小林 孝 二 北海道開拓記念館学芸副館長 パネリスト： 佐々木 史郎 国立民族学博物館副館長 萬谷 宏之 文部科学省生涯学習政策局社会教育課企画官 村木 美幸 財団法人アイヌ民族博物館副館長 西谷 榮治 利尻町立博物館学芸課長	

※役職は平成23年当時のもの

1.4 「北海道博物館実施計画」の策定(平成 24 年度)

平成 23 (2011) 年度末に「北海道博物館設置プラン検討委員会」から答申を受けた「北海道博物館リニューアル検討報告書」の内容を踏まえ、平成 25 (2013) 年 3 月には環境生活部において「北海道博物館実施計画」を策定しました。「北海道博物館実施計画」は、「基本計画」の方針に基づき、北海道博物館の実現に向けて必要となる取組について、次のような具体的な展開方法を明らかにしたものです。

<p>I 展示改訂</p> <p>○常設展示の改訂</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年代毎のテーマ設定と展示コンセプトを踏まえた観覧者の関心を広げ深める展示 <ul style="list-style-type: none"> メインコンセプト ～ 北東アジアの中の北海道 サブコンセプト ～ 自然と人間との関わり ・アイヌ文化や北海道の自然・環境のコーナーを設置 ・「来るたびに違う」「飽きない」展示への変更 <p>○企画展示の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の博物館や民間企業、道民との連携等 ・特別展示室の面積拡大による全国規模の巡回展の誘致 <p>○「北海道の歴史ギャラリー」の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道博物館への誘導力のある展示へ ・道内博物館も含めた情報発信の強化 	<p>II 教育普及の充実</p> <p>○学習支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な学習支援教材や学習プログラムの開発と活用 ・体験学習の充実 ・教育普及事業の実施体制の強化 <p>○人材育成の取組強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学芸員等の育成 ・博物館の活用方法に関する教員等の理解の促進
<p>III ネットワークの再構築</p> <p>○博物館交流の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館技術の普及や共同研究等の推進 <p>○道民参加型活動の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動の導入促進 ・自主的なサークル活動の支援 ・ボランティアによる企画イベントの実施 ・博物館活動の支援組織の創設 <p>○ICTを活用した情報発信機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報基盤の構築、情報発信の強化 <p>○道民の学びの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設や設備の改善、支援体制の充実 	<p>IV 施設の改善</p> <p>○館内施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示室の安全確保や展示環境の改善 ・利用者の利便性やサービス向上を図る施設の整備 <p>○収蔵機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の保存環境の改善 ・資料の管理体制の強化 ・収蔵機能の強化 <p>○周辺環境の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー化やアクセスの改善 ・サイン整備 ・野外展示の検討
<p>V アイヌ文化の調査研究機能等の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ民族文化研究センターと開拓記念館を統合し、機能を一元化 ・北海道の総合博物館として、アイヌ文化の調査研究や展示等の充実 	
<p>VI その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○周辺施設との一体的な取組の推進 ○外部評価組織の設置 ○外部資金などの多様な収入の活用 ○名称変更に伴うPRの実施 ○博物館支援組織の整備 	

1.5 北海道博物館基本的運営方針等の策定(平成 26 年度)

1. 北海道博物館基本的運営方針と第 1 期中期目標・計画の策定

平成 22 (2010) 年 9 月に「基本計画」の策定以降、「基本計画」に基づいて北海道博物館の基本的な考え方の指針等が専門的な知見を有する外部の識者を含めた「北海道博物館設置プラン検討委員会」において検討され、開拓記念館の内部においても個別プランの検討が行われました。

平成 26 (2014) 年 4 月に設置された「北海道博物館基本的運営方針等検討会議」(以下、「検討会議」という。)は、検討経緯を踏まえ、北海道博物館の今後のあるべき姿を明確にするとともに、適切な博物館運営の確保に不可欠となる使命や中期目標等を検討するために設置されました。検討会議内には、実務的な事項について協議・調整を行うワーキンググループが設置されました。

検討会議やワーキンググループでは、「基本計画」に定める基本理念や基本方針のほか、博物館として発揮すべき 7 つの機能を踏まえた原案が作成され、平成 26 (2014) 年 10 月 30 日に北海道博物館が目指すべき方向性を示した「北海道博物館基本的運営方針—北海道博物館の目指す方向—」(以下、「基本的運営方針」という。)が策定されました。その後、「基本的運営方針」に定められた「使命」や「基本方針」を遂行するための活動目標を定めた「北海道博物館中期目標・計画(第 1 期)平成 27 年度～平成 31 年度」と「平成 27 年度北海道博物館年度計画」が策定されました。

2. その他の個別計画の策定

「基本的運営方針」などが検討会議等で議論され、具体的な実施内容を示す必要がある事業は、個別計画が策定されました。これらは「中期目標・計画」や「年度計画」の個別計画として位置づけられています。

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針(平成 26～31 年度)補訂版	道立アイヌ民族文化研究センターが平成 25 年度に策定した方針と「基本的運営方針」との整合性を図り、道のアイヌ文化の調査研究・普及などの一層の充実と強化を目的とし、関連事業の基本的な方針と進め方を示したものです。 *平成 27 年度の北海道立総合博物館アイヌ民族文化研究センター専門部会において承認
北海道博物館資料収集基本方針	研究・展示・保存の目的により収蔵する資料の調査及び収集に係る基本的な方針を示したものです。
北海道博物館調査研究推進方針	中期計画期間中に重点的に取り組むべき研究テーマを設定し、その成果をより一層、道民に還元していくため、戦略的に調査研究に取り組むための基本的な方針を示したものです。
北海道博物館企画展中期計画	平成 27 年度より 5 年間に実施する特別展及び企画テーマ展などについて、タイトルや展示概要、展示の実施体制などを整理し、企画展を実施するための計画を示したものです。
北海道博物館教育普及プラン	教育普及事業の基本方針及び展示解説や学習支援・レファレンス等の教育支援事業や「はっけん広場」を拠点とした体験学習事業に係る具体的な事業内容を示したものです。
平成 27 年度北海道博物館広報計画	広報業務全般に係る展開方向と事業ごとの実施方法などを示したものです。

3. 北海道博物館基本的運営方針等検討会議委員構成

氏名	所属	職名	備考
関下 祐二	北海道開拓記念館	副館長	座長
出利葉 浩司	北海道開拓記念館	学芸副館長(学芸部長)	
北 敏文	開拓記念館 総務部	部長	
村上 孝一	北海道開拓記念館 事業部	部長	
須具 行一	北海道立アイヌ民族文化研究センター	副所長	
小川 正人	北海道立アイヌ民族文化研究センター 研究課	研究主幹	
酒元 辰也	環境生活部 くらし安全局文化・スポーツ課	文化施設担当課長	
井之口 淳治	環境生活部 アイヌ政策推進室	参事	

2 北海道博物館設立に向けた組織統合の取り組み

2.1 平成 21 年度北海道ミュージアム(仮称)基本計画検討委員会による組織統合の検討

平成 21 (2009) 年 8 月の北海道文化審議会からの答申を踏まえて「北海道ミュージアム(仮称)基本計画」素案をまとめるため、道は 11 月に「北海道ミュージアム(仮称)基本計画検討委員会」を設置しました。

この検討委員会は、平成 21 年度内の 11 月 19 日、12 月 24 日、2 月 12 日に都合 3 回開催し、施設名称や登録博物館、博物館に求められる役割と発揮すべき機能、今後の進め方について検討しました。ここでは、答申に示されたアイヌ文化関係の研究機能のさらなる充実強化を図るため、開拓記念館とアイヌ民族文化研究センターとの統合についても議論されました。これは北海道ミュージアムの実現に向けて、アイヌの歴史・文化全般にわたる総合的な調査・研究体制等の確立による多角的でより効率的・効果的な研究や普及の促進などの観点から、機能の一元化に向けての統合を含めた所要の取り組みを進めることを素案策定のためのたたき台としたものです。

北海道ミュージアム(仮称)基本計画検討委員会の構成

氏名	所属	職名
城田 敏樹	総務部 総務課 ファシリティマネジメントグループ	主幹
毛利 薫	教育庁 生涯学習推進局 生涯学習課 社会教育グループ	主幹
浅川 泰	北海道立近代美術館 学芸部	部長
増本 弘次	環境生活部 総務課 企画調整グループ	主幹
清原 敬史	環境生活部 総務課 アイヌ施策推進グループ	主幹
近藤 隆	北海道立アイヌ民族文化研究センター	副所長
金谷 武雄	北海道開拓記念館 総務部	部長
小林 幸雄	北海道開拓記念館 学芸部	部長
寺林 伸明	北海道開拓記念館 事業部	部長
佐藤 均	環境生活部 生活局 道民活動文化振興課	参事
木林 正彦	環境生活部 生活局 道民活動文化振興課文化グループ	主幹

2.2 平成 22 年度北海道基本計画策定に向けた組織統合の検討

道は平成 22 (2010) 年 5 月に「北海道博物館基本計画」素案へのパブリックコメントの募集と並行して、アイヌ文化関係の研究機能の充実に向けて具体的な議論を進めるため、関係機関の実務者による意見交換を行いました。

この意見交換会は、6 月 18 日、7 月 16 日、8 月 20 日の計 3 回の予定で実施し、アイヌ文化研究の中核的役割を担う組織のあり方や、効率的な事業の実施体制を主要な論点に、開拓記念館とアイヌ民族文化研究センターとの統合の要否について検討しました。ここでは、調査・研究といった博物館の専門分野別の業務と、それを踏まえた展示・教育・普及など博物館活動を推進する業務を兼務する組織体制の適否についても議論されました。

意見交換会メンバー

氏名	所属	職名
小林 孝二	北海道開拓記念館 学芸部	部長
出利葉 浩司	北海道開拓記念館 総務部	主任学芸員
右代 啓視	北海道開拓記念館 総務部 企画調整課	課長
舟山 直治	北海道開拓記念館 学芸部	主任学芸員
村上 孝一	北海道開拓記念館 事業部	主任学芸員
古原 敏弘	北海道立アイヌ民族文化研究センター 研究課	研究主幹
小川 正人	北海道立アイヌ民族文化研究センター 研究課	研究課長
生島 輝久	環境生活部 アイヌ政策推進室	主幹

氏名	所属	職名
中村 英俊	環境生活部 アイヌ政策推進室	主査
沼田 祐司	環境生活部 くらし安全局 道民活動文化振興課	主幹
菊池 正人	環境生活部 くらし安全局 道民活動文化振興課	主査
高石 浩子	環境生活部 くらし安全局 道民活動文化振興課	主査

また、意見交換会では、収蔵など物理的スペースや欠員など人員配置等について、文化振興課と開拓記念館との間で課題の整理が必要となり、別枠の協議を9月9日と10月14日に行いました。さらに、「基本計画」の策定後の11月19日に最終的な意見交換を実施し、北海道博物館のアイヌ文化研究の充実強化の手段の1つとして、統合一元化を含めての効果検証と課題整理を進めることが確認されました。

一方、開拓記念館は、開拓記念館のリニューアルに向けて「基本計画」を具体化するため、平成22(2010)年10月に北海道博物館設置検討委員会を館内に設置しました。1月13日と3月29日に開催した委員会のなかで、6つの実施作業班(①展示改訂、②施設整備、③ネットワーク再構築、④教育普及、⑤組織体制整備、⑥名称変更)毎に、平成23年度の重点政策課題として予算要求するためのプラン策定を行いました。組織体制の整備にあたっては、学芸部長以上により、統合の利点を生かす工夫や、将来的な組織体制の方向性についても検討されました。また、長期的な視点から組織体制の強化を図るため、①定員の嵩上げなどを図る欠員補充型、②研究センターを現行組織にランチするセンター温存型のプラン案を示しました。

2.3 平成23年度北海道博物館設置プラン検討における組織統合の検討

「基本計画」をもとに設置プランを策定するため、個別プランのメニューの1つとして北海道博物館の組織体制のあり方について、外部委員で構成された北海道博物館設置プラン検討委員会(前掲、1.3)のなかで、アイヌ文化研究事業の充実強化をめざして、博物館活動を支える組織と職員の配置、連携の強化に向けた館内組織体制の整備の方向性について「基本計画」をもとに指導、助言を受けました(開催日:8月23日、12月21日、3月13日)。

『北海道博物館設置計画 個別プラン 【組織体制】(1)北海道博物館あり方検討事業』

北海道博物館基本計画		
要 点	抜 粋	頁
アイヌ文化研究機能の充実強化	現在、開拓記念館では、主に有形のアイヌ文化の調査・研究を行い、アイヌ民族文化研究センターでは、アイヌ民族の言語や芸能などの無形文化に関する研究を行っている。今後は、より総合的な調査研究を進めるため、相互活用が可能となるような体制を構築するなどアイヌ文化関係の研究機能のさらなる充実強化を図る。	p.8
アイヌ民族文化研究センターとの統合検討	これまで、開拓記念館及びアイヌ民族文化研究センターにおいて、それぞれ収集してきた情報、資料及び調査研究の成果について、より総合的に管理、相互利用を可能にし、加えて道内外の学術研究機関や博物館との連携を強化するためにも、アイヌ文化の調査研究の機能の充実を図ることとし、アイヌ民族文化研究センターとの統合を検討する。	p.13
組織のあり方検討 効率的な事業の実 施体制の検討	アイヌ民族文化研究センターが果たしてきた専門的調査研究・情報提供機能は引き続き維持していく必要があることから、今後、開拓記念館とアイヌ民族文化研究センターの機能を十分精査し、アイヌ文化研究の中核を担う組織のあり方や効率的な事業の実施体制について検討する。	p.14

ここでは、2つの組織の特徴と機能を精査し、より総合的な調査研究を進めるためにも相互活用が可能となるよう、効率的な事業の実施体制の構築を目指して課題を整理しました。組織体制のプラン策定にあたっては、これまで両組織がそれぞれ収集してきた情報、資料及び調査研究の成果について管理、活用し、かつアイヌ文化の調査研究の機能の充実を図るため、アイヌ民族文化研究センターとの統合を含めて検討されました(8月23日、12月21日、3月13日)。

一方、開拓記念館内では、北海道博物館設置プラン検討委員会の開催と並行して、北海道博物館設置検討委員会を7月6日、8月12日、9月9日に開催するとともに、北海道博物館の組織体制の整備として、①欠員補充型、②センター温存型-1としてホームポジションを北海道博物館におくもの、③センター温存型-2としてホームポジションを現行のままサテライト化するもの、といった3案についても検討しました。

2.4 平成 24 年度北海道博物館実施計画における組織統合の検討

道は、平成 24 (2012) 年 3 月に北海道博物館設置プラン検討委員会が答申した「北海道博物館リニューアル検討報告書」を受けて、北海道博物館の運営組織を成案化するための事前作業として実務担当者により組織のあり方に係る意見交換会を開きました。

北海道博物館のアイヌ研究組織のあり方に係る検討会議第 1 回実務担当者検討会の構成

氏名	所属	職名
木 林 正 彦	環境生活部 総務課	主幹
高 橋 錠 蔵	環境生活部 総務課	主査
堀 籠 正	環境生活部 アイヌ政策推進室	主幹
古 原 敏 弘	北海道立アイヌ民族文化研究センター 研究課	研究主幹
小 川 正 人	北海道立アイヌ民族文化研究センター 研究課	研究課長
小 林 孝 二	北海道開拓記念館	学芸副館長(学芸部長)
松 田 浩	北海道開拓記念館 総務部	部長
出 利 葉 浩 司	北海道開拓記念館 事業部	部長
村 上 孝 一	北海道開拓記念館 総務部	主任学芸員
舟 山 直 治	北海道開拓記念館 学芸部	主任学芸員
西 部 正 幸	環境部生活部 暮らし安全局文化・スポーツ課	文化施設担当課長
沼 田 祐 司	環境部生活部 暮らし安全局文化・スポーツ課	主幹
木 林 正 彦	環境部生活部 暮らし安全局文化・スポーツ課	主査

この意見交換会は、5 月から 10 月にかけて 3 回実施し、開拓記念館とアイヌ民族文化研究センターの機能を改めて精査し、統合の効率性と効果、外部の反応、人員構成の 3 つの観点から改めて課題を洗い出しました。具体的には、今後の博物館の事業を展開していく上で、①に現状で抱えている記念館、赤れんが庁舎、緑苑ビルといった施設をどう活用するのか、②にアイヌ民族文化研究センターが担ってきた調査研究機能を引き継いで、北海道博物館として充実強化するために、適切な組織体制はどのようなものがあるのか、③に部課などどのような組織体制とすべきかについて検討しました。また、これまでアイヌ民族文化研究センターが担ってきたアイヌ政策上の役割や機能を、北海道博物館が担えるのか検討されました。

この意見交換会の議論を踏まえながら、道は両組織が担ってきた資料の収集・保存、整理・公開、展示、教育普及、調査研究などの機能を一元化し、総合博物館としてアイヌ文化の調査研究機能の充実を図るため、平成 26 年度までに北海道博物館の設置を成案化する作業日程がまとめられました。

2.5 平成 25 年度展示改修工事における組織体制の検討

前年度に引き続き、実務担当者による意見交換会が平成 25 年 4 月 17 日、5 月 15 日、6 月 17 日に開催されました。

それと並行して開拓記念館では、平成 25 (2013) 年 4 月 26 日の定例部課長会議で開拓記念館とアイヌ民族文化研究センターとの統合の方向性を確認し、5 月 10 日には館長より開拓記念館リニューアルに向けての基本方針が示されました。そして、平成 27 年春の北海道博物館オープンをめざし、展示改修工事にあたって開拓記念館に整備室などは置かず、開拓記念館とアイヌ民族文化研究センターが連携して進めることを確認しました。一方、統合にあたって懸案であった事務・研究の執務スペース、資料・図書保管スペースの確保などの諸課題については、改修工事のなかで旧施設の役割や機能を再配置する方向で検討されました。

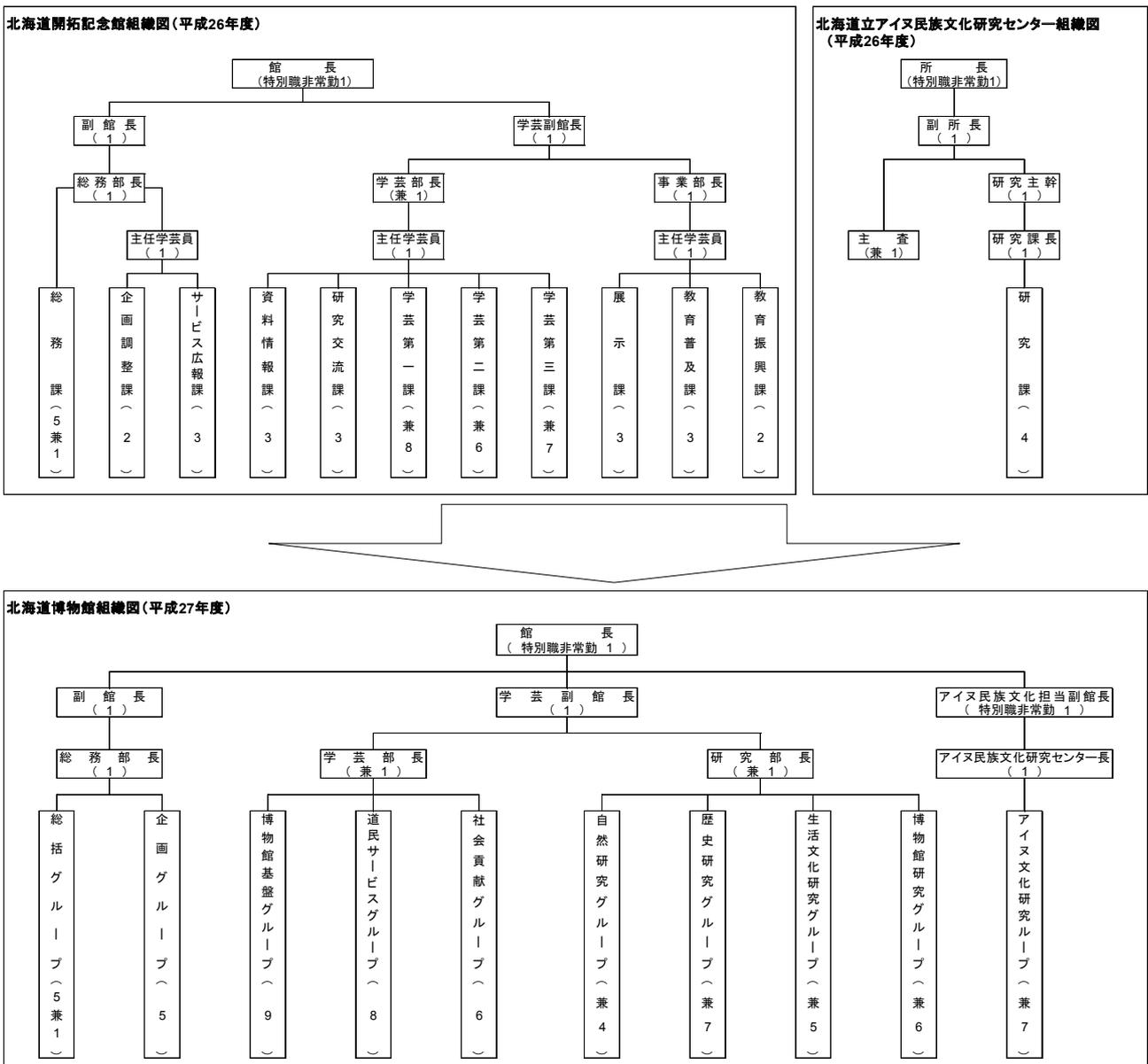
北海道博物館の組織は、アイヌ民族文化研究センターとの統合及び開拓記念館から北海道博物館へのリニューアル改修工事を踏まえるとともに、博物館の基盤となる部門とそれを支える調査研究部門が兼務する組織体制で検討されました。あわせて、北海道博物館の研究分野に対応させた職員補充についても検討が進みました。統合後の研究分野は、開拓記念館とアイヌ民族文化研究センターの研究分野を単純に合わせるのではなく、北海道博物館として必要な研究分野を新たに構築することを念頭において検討されました。組織機構については、総務部、学芸部、研究部の 3 部 9 グループ案、総務部、事業部、学芸部、アイヌ・北方文化研究部の 4 部 10 グループ案などが検討されました。

一方、開拓記念館では、世界に誇りうるアイヌ民族文化の展示を目指すとともに、中核的な博物館組織としての役割を果たせるよう組織の見直しを進め、平成 25 (2013) 年 9 月には地方独立行政法人化についても検討を行いました。

2.6 平成26年度基本的運営方針と組織体制の検討

平成26(2014)年4月に「北海道博物館基本的運営方針等検討会議」(前掲、1.5)が設置され、館の基本的運営方針や第1期中期目標・計画の検討が始まりました。北海道博物館の組織体制については、検討会議の中心議題であった北海道博物館として発揮すべき機能に対応させるとともに、開拓記念館の研究分野を改めて、博物館として推進すべき事業や研究テーマについて、道民ニーズや道政上の課題などを踏まえて運営可能な体制の検討が行われました。その結果、組織体制は大きく見直され、総合展示室の展示更新や企画展の実施、教育普及など博物館の基盤となる事業はもとより、博物館運営全般にわたって博物館評議会による評価を受けながら運営可能な組織体制案がまとまりました。

道の組織機構改正のなかで、近年のアイヌ文化への関心の高まりと、学習や研究の意欲が高まっていることから、アイヌ民族文化の調査研究機能の継承・充実に向けて、総務部、学芸部、研究部、アイヌ民族文化研究センターからなる3部1センター、10グループの組織体制の改正が行われ、平成27年4月を以て施行されました。



3 施設改修及び展示改修

北海道博物館の前身である開拓記念館は昭和46（1971）年に開館し、この間、数度にわたり施設改修を実施し、常設展示についても平成4（1992）年に改訂を行ってきました。開館以来44年、常設展示の改訂から23年となる平成27（2015）年春を目途に、平成22（2010）年に道が策定した「基本計画」に基づいて、施設の老朽化対策や社会情勢の変化への対応を目的として、施設改修及び展示改修を実施しました（総事業費約15億円）。

3.1 北海道博物館施設改修事業

1. 「基本計画」

平成20（2008）年5月に知事は、北海道文化審議会に対し、「北海道における博物館のあり方と開拓記念館の役割」について諮問し、平成21（2009）年8月に「開拓記念館の今後のあり方」として、求められる役割と発揮すべき機能について答申を受けました。特別展示室、収蔵庫、施設については、答申の第3章「開拓記念館における課題」の中で次のような課題が指摘されていました。

◎答申第3章「3 建築施設の改善」（抜粋）

昭和46年開館当時は全国の博物館モデルともなった施設であるが、収蔵庫（約2千㎡）や文献収蔵庫・図書室（約210㎡）はすでに飽和状態にあり、今後の資料収集や書籍の増加に対応できる収蔵スペースの確保が緊急の課題となっている。

特別展示室（約490㎡）についても通常の展示を構成する場合でもスペースが不足しており、体系的な特別展を企画したり、他館の企画展をそのまま受け入れることが困難であるなど、文化財資料等の機動的な展示に大きな制約を受ける状況にあり、スペースの拡大と設備の改善が課題となっている。

「基本計画」の第2章第4節「取組の方向」には、北海道博物館の発揮すべき7つの機能に対する具体的な取組が定められ、特別展示室については「(2) 展示改訂」の中で「展示内容の充実を図るため、特別展示室の適正配置と有効活用について検討する」（抜粋）ことが示されました。施設については「(4) 施設の改善」において次のような基本的考え方とともに、「(ア) 収蔵機能の確保」、「(イ) 利便性やサービスの向上」、「(ウ) 周辺施設の改善」といった項目についての今後の取組方針が示されました。

◎基本計画第2章第4節「(4) 施設の改善」（全文）

ア 基本的考え方

展示改訂と併せて、次の観点から館内の施設の再配置などについて検討する。

- ①資料の収集・保存・活用という博物館の基本機能を確保する。
- ②誰もが気軽に訪れることができ、また、集客力の向上につなげていくため、利便性やサービスの向上を図る。

イ 今後の取組方針

(ア) 収蔵機能の確保

- ・ 収蔵庫は、歴史や文化を物語る貴重な資料を、良好な状態で後世に伝えるために不可欠な施設であるが、収蔵庫（約2,000㎡）や文献収蔵庫・図書室（約210㎡）はすでに飽和状態にあり、今後の資料収集や書籍の増加に対応できる収蔵スペースの確保が緊急の課題となっている。このため、博物館の基本機能である資料の収集・保存・活用に支障をきたすことのないよう、各室の用途の見直しなどにより必要な収蔵スペースを確保するとともに、将来に亘って資料収集体制を確保するために、資料収集や保管のあり方を検討する。

(イ) 利便性・サービス向上

- ・ 来館者が、常設展示室では見ることができない貴重な収蔵資料を観覧するための閲覧室について、各室の用途の見直しなどにより必要なスペースの確保に配慮する。
- ・ 情報発信ブースを来館者が利用しやすい見学動線上に配置することを検討する。
- ・ 来館者に対するより一層のサービス向上を図り、博物館の魅力を高めるため、ミュージアムショップ、レストラン・喫茶空間の充実に努める。

(ウ) 周辺環境の改善

- ・ 誰もが気軽に訪れることができる博物館づくりに向け、また、野幌森林公園内に点在する施設などと相互に行き来しやすく、楽しく足を運んでもらえるよう、バリアフリー化や、利便性の向上、公園全体の魅力を高める方策を検討する。

2. 「北海道開拓記念館構造・設備改修診断調査報告書」(2011年12月)

改修・改訂にあたっては、「基本計画」を遂行するため、施設・設備の現状を把握するとともに、特に構造上改善が必要な点や社会情勢の変化や今日的なニーズに対応した設備設置が可能か否かといった実効性を確保するための調査が必要でした。調査は株式会社札幌日総建に委託され、平成23(2011)年11月には、今日的な博物館としての機能を満たしつつ、将来にわたってその機能を発揮し道民に愛される施設としていくための施設改修の方向性ととも「北海道開拓記念館構造・設備改修診断調査報告書」(以下、改修診断調査報告書)がまとめられました。「改修診断調査報告書」にまとめられた開拓記念館が抱えていた問題点のうち、施設・設備に関する概略は以下のとおりです。

ア) 来館者に対する利便性・サービスの向上

・団体利用者への配慮不足

施設の性格上、学校団体などの同時多人数の利用が見込まれる中で、利用が集中する出入り口付近のトイレが不足し、展示場内での移動も一方向のエスカレーターのみで支障を来している。

・来館者へのサービス・レファレンスの不足

体験学習室や情報サービス室など開館当初は国内博物館として画期的な施設であったが、規模・設備等が時代と共に陳腐化している。

・アメニティの不足

レストラン、ミュージアムショップ共に閉鎖され、自動販売機・受付前の簡易なミュージアムショップのみとなっている。

・屋上の活用

屋上には当初から設置されていた階段を使用する搭屋と、開館後に設置されたエレベーターを備え一部屋外を展望可能な搭屋があるが、屋上に出て周辺に展開する雄大な自然や札幌市街を眺望することが制限されている。

イ) 周辺環境の整備

・バリアフリーの欠如

建設当時の主流であった床面段差が多く生じるスキップフロア構成(障がい者・高齢者への配慮の不在)と観覧者に半ば強制を強いるワンウェイの展示観覧導線(展示場の移動手段は階段と2階への一方通行のエスカレーターのみ)が来館者への配慮を欠いている。

・外部アプローチのバリアフリー欠如

正面(南面)玄関へのアプローチ遊歩道は急勾配で高齢者・障がい者への配慮を欠いている。また北面入口へのアプローチは階段のみで、高齢者・障がい者への配慮を欠いている。

・外構

過去の施設改修は建物本体を中心に行われており、外構(前庭、石段、石積塀)の破損・老朽化が著しい。

ウ) 資料管理、収蔵機能

・資料収蔵環境

建設当時地下に収蔵庫を設ける事は適切な手法とされ、建設時に恒温恒湿収蔵庫と積層収蔵庫が追加の工事で増設されたが、地下壁体からの漏水、断熱の不備などにより、収蔵環境のコントロールが難しい状況となっている。

この増築した収蔵庫は、本館との取り合い部分に隙間が生じている。また、本館屋上の大量の雨水排水を増築した収蔵庫の屋上に直接放流しているため、湿潤状態が長く続き、漏水の危険性が高い。

・防災設備

収蔵庫、展示室、書庫などを含めて消火設備はほとんどがスプリンクラー・屋内消火栓であり、これらの消火設備が稼働した場合、資料保存の観点から大きな問題がある。また、人体への危険性が指摘されている二酸化炭素消火設備が一部に設置されている。

・資料搬入・搬出設備

北面地下の資料搬入・搬出ヤードは屋外開放型で、資料の開梱・梱包・清掃などのエリアなど資料整理部門が混在している。

エ)その他

・研究環境

研究室の数、規模、室内環境ともに不足、不良な状況であり、外部研究者のスペースが設置されていない。

また「改修診断調査報告」には、再整備にあたっての基本的項目、再整備にあたってのニーズといった観点から整備の方向性を整理し、次のような整備計画案が示されました。なお以下の表は「改修診断調査報告」から必要部分を抜粋して、再整理したものです。

改修番号	階	現状	改修案	改修内容	備考
[1]	B2~B1	恒温恒湿収蔵庫・収蔵庫	恒温恒湿収蔵庫・収蔵庫	断熱改修、内装改修、ガス消火改修、設備改修	<ul style="list-style-type: none"> ・湿気、カビなどによる資料の劣化を防ぐ ・二重壁内の内壁側及び最上階天井下に断熱材吹付 ・二重壁内に空調換気設備 ・スプリンクラー設備を窒素ガス消火設備に改修 ・収蔵資料の移動は含まず ・温湿度センサーの設置箇所が少ないため、計測値と実状の乖離あり
[2]	MB2F	給気用、排気用トレンチ	給気用、排気用トレンチ、ポンペ庫	漏水改修	<ul style="list-style-type: none"> ・トレンチ内外壁側の漏水改修 ・ポンペ庫の設置
[3]	B1	焼却炉室、一時収蔵庫	物品庫	壁の位置変更、内装改修、設備改修、耐震改修	<ul style="list-style-type: none"> ・物品庫の統合整理
[4]	B1	男子控室・ロッカー、女子控室・ロッカー	男子トイレ・休憩室、女子トイレ・休憩室	壁の位置変更、内装改修、設備改修	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレの位置整理 ・控室、ロッカー室の整理
[5]	B1	荷解室	荷解室	壁の位置変更、内装改修、ガス消火改修、設備改修	<ul style="list-style-type: none"> ・搬出入作業時における、菌類・虫などの被害を抑えるため ・スプリンクラー設備を窒素ガス消火設備に改修 ・燻蒸設備として、新ユニット及び冷凍殺虫機を設置
[6]	B1	工作室、生物考古研究室、薬品庫、トイレ、休憩室、浴室	整理・ならし・作業室	壁の位置変更、内装改修、ガス消火改修、設備改修、耐震改修	<ul style="list-style-type: none"> ・工作室等を統合し、隣接する大型収蔵庫前の作業室とする ・スプリンクラー設備を窒素ガス消火設備に改修
[7]	B1	収蔵庫、作業コーナー、資料カード室	大型収蔵庫	壁の位置変更、内装改修、断熱改修、ガス消火改修、設備改修、耐震改修	<ul style="list-style-type: none"> ・収容能力を向上させる ・スプリンクラー設備を窒素ガス消火設備に改修 ・収蔵設備の移動は含まず
[8]	MB1	体験学習室、準備室、解説員室、廊下、研究室、予備室、倉庫	事務室及び事務室廻り	事務室及び事務室廻りの諸室、館長室、応接室、副館長室	<ul style="list-style-type: none"> ・来館者の利便性向上のための体験学習室等位置変更に伴う移動
[9]	MB1	各研究室、文献資料収蔵室	研究室、外来研究室	壁の位置変更、内装改修、設備更新、耐震改修	<ul style="list-style-type: none"> ・研究室の整理統合 ・収蔵設備の移動は含まず
[10]	MB1	写場、暗室、荷解室、資料整理室	図書室書庫	壁の位置変更、階段床改修、内装改修、設備改修、耐震改修	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者レファレンスに使用するための図書資料をより使いやすくするための整備
[11]	MB1	情報サービス室・図書資料室	資料閲覧室	内装改修、設備改修	<ul style="list-style-type: none"> ・来館者の利便性向上のための資料閲覧室の整備
[12]	MB1	収蔵陳列室、ホール	文献収蔵庫	壁の位置変更、内装改修、ガス消火改修、設備改修	<ul style="list-style-type: none"> ・文献、図書資料の収蔵能力向上 ・階段位置の変更 ・スプリンクラー設備を窒素ガス消火設備に改修 ・収蔵設備の移動は含まず
[13]	MB1	ロッカールーム	倉庫	内装改修、設備改修	<ul style="list-style-type: none"> ・小動物、虫などの侵入のない倉庫として整備
[14]	MB1	講堂	講堂	内装改修、設備改修	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽施設の改修
[15]	MB1	通用口、警備室、廊下	通用口、警備室、廊下	内装改修、設備改修	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽施設の改修
[16]	MB1	トイレ	トイレ	内装改修、設備改修	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽施設の改修
[17]	MB1	研究室トイレ	来館者トイレ	内装改修、設備改修	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽施設の改修
[18]	MB1~PH	エレベーター	二方向出入エレベーター	壁改修、昇降機改修	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー化のための二方向出入エレベーター設置
[19]	1	常設展示室	常設展示室	昇降機械及び階段新設・改修、内装改修、ガス消火改修、設備改修	<ul style="list-style-type: none"> ・来館者の利便性向上のための下りエスカレーターの新設と上りエスカレーターのリニューアル ・バリアフリー化のためのエレベーター設置 ・エスカレーター設置に伴う階段移設 ・スプリンクラー設備を窒素ガス消火設備に改修 ・展示資料の移動は含まず
[20]	1	事務室及び事務室廻りの諸室、館長室、応接室、副館長室	体験学習、情報発信、ミュージアムショップ、カフェなど	壁の位置変更、内装改修、設備改修、耐震改修	<ul style="list-style-type: none"> ・来館者の利便性向上のため、常設展示室と同じ階で体験学習室等を利用できるようにする ・北側の展望を考慮し、カフェスペースを設置
[21]	1	トイレ、ロビー、事務所の一部	トイレ、ロビー、ホール	壁の位置変更、内装改修、設備改修	<ul style="list-style-type: none"> ・団体利用や車椅子使用者のためトイレ拡張
[22]	1	記念ホール	多目的ホール	壁の位置変更、内装改修	<ul style="list-style-type: none"> ・音響や照明の改善 ・バリアフリー化のための段差昇降機設置
[23]	1	ロッカースペース	待合スペース	壁の位置変更、内装改修	<ul style="list-style-type: none"> ・受付前待合スペースとして整備 ・バリアフリー化のための段差解消
[24]	1	受付	受付	内装改修、設備改修	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽施設の改修
[25]	1	常設展示室トイレ	常設展示室トイレ	内装改修、設備改修	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽施設の改修
[26]	1	会議室	ロッカー、授乳スペース	壁の位置変更、内装改修、設備改修	<ul style="list-style-type: none"> ・来館者の利便性向上のためロッカースペースや授乳スペースとして整備

改修番号	階	現状	改修案	改修内容	備考
[27]	MB1, 1	グランドホール、ホール、ロビー	グランドホール、ホール、ロビー	内装改修、設備改修	・老朽施設の改修
[28]	M2	食堂、食堂ロビー、厨房、食品庫、更衣室、トイレ	来館者用図書室、共用会議室、小講座講演会室、トイレ	壁の位置変更、内装改修、設備改修、耐震改修	・来館者の利便性向上のため図書、学習、会議、講演スペースを確保
[29]	2	常設展示室	常設展示室	昇降機械及び階段新設・改修、内装改修、ガス消火改修、設備改修	・来館者の利便性向上のための下りエスカレーターの新設と上りエスカレーターのリニューアル ・バリアフリー化のためのエレベーター設置 ・エスカレーター設置に伴う階段移設 ・スプリンクラー設備を窒素ガス消火設備に改修 ・展示資料の移動は含まず
[30]	2	特別展示室、制御室	特別展示室	壁の位置変更、断熱改修、内装改修、ガス消火改修、設備改修、耐震改修	・来館者の利便性向上のため常設展示室と一体となった整備 ・外壁側二重壁の内壁側に断熱材吹付 ・スプリンクラー設備を窒素ガス消火設備に改修 ・展示資料の移動は含まず
[31]	2	通路、ホール	通路、ホール	内装改修、設備改修	・老朽施設の改修 ・吹抜側手摺の改修
[32]	2	トイレ	トイレ	内装改修、設備改修	・老朽施設の改修
[33]	RF	出入り不可	屋上展示スペース	防水改修、展示スペース床改修、フェンス改修	・来館者の利便性向上のため屋上展示・展望施設設置に伴う屋上床面改修とフェンス設置
[34]	BIRF	収蔵庫屋根	収蔵庫屋根	防水改修、設備改修	・漏水による湿気、カビなどによる資料の劣化を防ぐ ・本体屋上からの雨水排水放流部に近接して、新たにルーフドレイン及び雨水管を設置
[35]	外	北側アプローチ階段	スロープ設置	バリアフリー改修	・北側来館者の利便性向上のためスロープ設置
[36]	外	正面アプローチ	正面アプローチ	外装改修	・老朽化の著しい袖壁石積、石積銘板、床、階段等の改修
[37]	外	外構遊歩道	外構遊歩道	バリアフリー改修	・遊歩道を拡幅し緩勾配とする等バリアフリー化
[38]	外	搬入スペース	搬入荷捌屋根	荷捌屋根新設	・荷捌きスペースが雨ざらしのための対応

3. 施設改修の実施(平成 25～平成 26 年)

施設改修にあたっては施設の増設を行わないことを前提に行われ、それに伴う条件のなかで優先順位が議論された結果、平成 21 (2009) 年の北海道文化審議会の答申や「改修診断調査報告」等で必要性が認識されながら実現が見送られた課題もあります。「改修診断調査報告」に沿って今回の施設改修工事の概要をまとめると以下のようになります。「改修診断調査報告」の整備計画案と実際の改修内容が一致しない場合もありますが、参考のため整備計画案の改修番号を付しました。

ア) 来館者に対する利便性・サービスの向上

対 応 区 分	内 容	整備計画案 改修番号
団体利用者への配慮不足	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレについては、1 階ロビーに隣接して男女のトイレを分離し、トイレ数を大幅に増設するとともに、多目的トイレも設置した。 ・展示場内・特別展示室横等などの既設トイレについても、設備の更新を行った。 ・展示場内については、大型のエレベーターを設置した。 	[16] [21] [19] [29]
来館者へのサービス・レファレンスの不足	<ul style="list-style-type: none"> ・体験学習室は、はっけん広場と名称を改称し、規模を拡大した。 ・展示場内にレファレンスカウンターを設けた。 ・図書閲覧室の拡大、情報サービスのためのカウンターを設けた。 	[8] [11]
アメニティの不足	<ul style="list-style-type: none"> ・グランドホールには軽食、土産品、書籍を扱う小規模なミュージアム・カフェを設けた。 ・レストラン、ミュージアムショップ共に閉鎖された状態のままであり、改修されていない。 	[27] [28]
屋上の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・祝日など日時を限って監視員を配置し、階段手すりや展望室の改修を行い、屋上の開放を行っている。 	[33]

イ) 周辺環境の整備

対 応 区 分	内 容	整備計画案 改修番号
バリアフリーの欠如	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 階グランドホールからロビーへの既設車いす用スロープは勾配がきつく、デザイン上も調和していないことから、撤去の上、デザインを考慮し、勾配がゆるやかなスロープを新たに設置した。 ・ 総合展示場については、新たに大型のエレベーターを設置した。 	[27] [18] [19] [29]
外部アプローチのバリアフリー欠如	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正面(南面)玄関の階段部分の破損部分を補修を行った。 	[36]
外構	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「北海道博物館」開設に当たっては、外構に関わる施設改修は実施していない。 	[36]

ウ) 資料管理、収蔵機能

対 応 区 分	内 容	整備計画案 改修番号
資料収蔵環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高温高湿収蔵庫は第 1 収蔵庫、積層収蔵庫は第 3 収蔵庫に名称を改称し、これらの収蔵庫は外壁の断熱改修を行った。 ・ 文献資料収蔵室等の配置を整備し、第 1、第 2 書庫を設置した。 ・ 収蔵陳列室を廃し、新たに第 4・5 収蔵庫を設置した。 	[1] [10] [12]
防災設備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合展示室、特別展示室、第 4・第 5 収蔵庫については、スプリンクラー消火設備を改め、ガス消火設備(フロンガス)を設置した。 	[12] [19] [29] [30]
資料搬入・搬出設備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料の開梱・梱包・清掃などのエリアなど資料整理部門については改修を行っていないが、各施設の運用について一定の整理を行った。 	[6]

エ) その他

対 応 区 分	内 容	整備計画案 改修番号
研究環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究室の再配置増設を行い、外来研究室を設置した。 	[9]

3.2 北海道博物館展示改修事業

1. 基本計画(平成 22 年度)

平成 20 (2008) 年 5 月に知事は、北海道文化審議会に対し、「北海道における博物館のあり方と開拓記念館の役割」について諮問し、平成 21 (2009) 年 8 月には、「開拓記念館の今後のあり方」として、求められる役割と発揮すべき機能について答申を受けました。答申の第 3 章「開拓記念館における課題」の「4 展示の改訂や充実」では、次のような点が課題として指摘されました。

◎答申第 3 章「4 展示の改訂や充実」(抜粋)

平成 4 年には、開館以来 20 年ぶりに常設展示を改訂したが現状では、現代や未来展望に関する展示が必ずしも来館者が求める規模水準となっていないこと、また、北海道史の重要な一部と位置付けられているアイヌ文化に関する展示の充実などを図ることが課題である。

また答申の第 4 章「開拓記念館の今後のあり方」の中の「2 発揮すべき機能」において、展示について次のような指摘を受けました。

◎答申第 4 章「(2)「展示」の観点から」(抜粋)

展示の基本姿勢として、「わかりやすく、おもしろく、ためになる」を意識していくことが重要である。そのためには、利用者意見を充分くみ取る必要があり、適切に意見を聴くシステムを構築するとともに、それを反映した展示改善の方策を工夫することが必要である。

答申の第 4 章「開拓記念館の今後のあり方」の中の「1 求められる役割」では、その 1 つとして「自然、環境を含む未来に向けた人間史の博物館」、「アイヌ文化を保存・伝承し未来に活かす博物館」というコンセプトを含んだ「北海道における総合的な博物館としての役割」を上げました(詳しくは「2. 北海道文化審議会への諮問・答申について」を参照のこと)。この指摘に対する展示改訂の取組として、道は平成 22 (2010) 年に策定した「基本計画」の第 2 章「4 取組の方向」の「(1) 展示改訂」で、次のような常設展示室の改訂に関する基本的な考えを示しました。

◎基本計画第 2 章第 4 節「ア 常設展示室 (ア) 基本的考え」(全文)

アイヌ文化を未来に活かす観点から、また、自然や環境を含む未来に向けた人間史の博物館づくりを進めるため、展示改訂を行う。

2. 常設展示改修素案の検討(平成 22～23 年度)

(1) 課題等の集約

文化審議会の答申の中で開拓記念館の課題が指摘されてはいましたが、平成 22 (2010) 年度に「北海道ミュージアム推進事業」においてミュージアムメイトへの意見聴取や外部の有識者による検証や意見交換をとおして、様々な角度から課題がリストアップされました。開拓記念館内に設置された北海道博物館設置検討委員会は、課題を整理しながら個別の事業ごとに具体的な内容の検討を行い、「北海道博物館設置計画 個別プラン」を取りまとめました。展示については、実施作業班・展示改訂班が中心となって開拓記念館の展示に関する現状と問題点が確認され、「基本計画」の内容とともに以下のように整理されました。

『北海道博物館設置計画 個別プラン 【展示改訂】(1) 常設展示改訂事業』

北海道博物館基本計画		
要 点	抜 粋	頁
アイヌ展示・自然環境を含む人間史展示の充実(展示改訂実施の必要)	アイヌの歴史や文化に関する展示の充実などが求められてきており、最新の研究成果に基づいた展示を検討する。	p.8
	アイヌ文化を未来に活かす観点から、また、自然や環境を含む未来に向けた人間史の博物館づくりを進めるため、展示改訂を行う。	p.10
導入部における通史展示の配置(縮小)とテーマ展示の採用	はじめに基本的な歴史の流れを表現し、かつ個別事項への導入部としての役割を果たすとともに、各主題毎に更新しやすい展示構成を検討する。	p.8
	古代から現代までの通史による現在の展示方法から、通史展示を縮小し、テーマ展示を主体とした展示方式へ変更する。	p.10

自由動線の採用	見学動線については、誘導型の流れを持つとともに、来館者の興味に応じた選択が可能となるよう配慮する。	p.8
	複数のテーマやコーナーを自由に出入りできる自由選択・自由見学動線型の展示についても検討する。	p.10
最新の研究成果の展示への反映	改訂にあたっては、研究成果が展示に速やかに反映できるように工夫する。	p.10
休憩スペースの確保	見学動線の整備にあたっては、来館者が休憩や集うことができる自由空間に配慮する。	p.10

《実施検討》

開拓記念館の現状と問題点	
<p>○現在の常設展示は、資料を時系列で順番に説明する通史展示。その性格上、資料を入れ替るだけでは簡単に改訂できない構造上の問題がある。</p> <p>○通史展示は歴史の流れを把握するには理解しやすい方式。しかし、動線が長すぎると、観覧者の興味を持続させにくく、疲労感のみが蓄積される構造になっている。</p> <p>○現在の展示ケース・什器類は、資料の大きさや形態に合わせて作成した固定式のもの。資料の入れ替えが困難であり、免震構造となっていないため、災害時の対策が課題となっている。</p> <p>○小学生がワークシートに記入する際に、展示ケースや休憩用のイスを占拠。学習用のスペースや設備が必要。</p> <p>○前改訂から20年が経過し、その間、学術的な進展や技術の発展がみられ、現展示が時代遅れとなっている。</p> <p>○現展示は、社会情勢の変化により、道民が展示に求める多様化したニーズに対応できていない。</p>	
北海道ミュージアム推進事業(H22年度)における検討	
<p>○自然と歴史文化を切り離さず、あらゆる時代において自然と人との関係を語っていくことで、自然史展示を充実させることが必要。(外)</p> <p>○常設展示の資料点数が多すぎるので、思い切って資料を減らし、観覧者に余裕を与えることが必要。(外)</p> <p>○資料の入れ替えができないのは、資料保存上問題。頻繁に展示替えをする方策を講じる必要がある。(外)</p> <p>○資料がなぜ置いてあるのか(展示しているのか)の説明が不親切であり、改善が必要。(外)</p> <p>○解説パネル等の文字が小さく、高齢者に不親切なので、文字を拡大するなど有効活用を図ることが必要。(外)</p> <p>○展示場が広く、迷路のようで疲れるので、動線を整備することは当然である。(外)</p> <p>○自然史の総合的展示(自然史～人類史)に重点を置いた展示をしてほしい。(M)</p> <p>○定期的に展示資料の入れ替えを行い、多くの収蔵品を公開してほしい。(M)</p> <p>○高齢者や子どもにとっては見学距離が長いので、展示室内に休憩コーナーが必要。(M)</p> <p>○解説・案内板に点字や音声ガイドをつける、文字を大きくするなど、高齢者、身障者に優しい環境を整備することが必要。(M)</p> <p>○子どもにもわかりやすい、楽しめる展示にしてほしい。(M)</p> <p>○来館者が自由に動線を選択できる展示動線が必要。(M)</p>	

※外＝外部の専門家 M＝ミュージアムメイト

(2)検討

平成22(2011)年10月に開拓記念館内に設置された北海道博物館設置検討委員会内の実施作業班・展示改訂班において、展示改訂に関わる次のような課題の検討が具体的に進められました。

- ・常設展示全体及び各パートのコンセプトと方針
- ・通史やテーマ展示のボリューム及び全体のバランス
- ・各展示で扱う範囲や必要な展示及び説明
- ・展示表現・技術、デザイン等
- ・休憩・学習・オリエンテーションのスペース

展示改訂班は10回の検討会議を開催し、平成23(2011)年3月には「北海道開拓記念館常設展示改訂素案」を取りまとめました。その素案は、平成23(2011)年7月に外部の専門的な立場の方々から指導や助言を受けるために設置された「北海道博物館設置プラン検討委員会」の第1回目の会議(8月)に開拓記念館側のプランの検討状況として報告されました。また同時期には、展示改訂班の業務のうち展示改訂に関わる具体的な作業を遂行するために、常設展示改訂プロジェクトグループが設置されるとともに、より詳細な内容を検討し、展示シナリオを作成するために、開拓記念館の全職員と道立アイヌ民族文化研究センターの研究職員(2名)からなる常設展示シナリオチームが設置されました。「北海道博物館設置プラン検討委員会」で頂いた指摘や課題については、展示改訂班・

プロジェクトグループ内で検討が重ねられ、平成 24 (2014) 年 3 月には「北海道博物館常設展示展示構成および空間配置イメージ図」がまとめられました。

【北海道博物館常設展示展示構成および空間配置イメージ図】

<p>1F 通史パート 北海道の歩み(仮)</p> <p>1 北海道島 ー北と南のであいー</p> <p>2 北の縄文世界</p> <p>3 北の古代文化</p> <p>4 蝦夷地のころ</p> <p>5 北海道開拓と近代化</p> <p>6 わたしたちの時代へ</p> <p>テーマ「自然」 生き物のつながりと循環(仮)</p> <p>1 森と海をつながりー北海道の自然環境ー</p> <p>2 本州・大陸とのつながり</p> <p>3 自然とヒトのつながり</p>	<p>2F テーマ「アイヌ」 アイヌ民族の歴史と文化(仮)</p> <p>1(導入)</p> <p>2 アイヌ民族の近代・現代</p> <p>3 アイヌ文化の世界</p> <p>テーマ「暮らし」 暮らし(仮)</p> <p>1 北海道の四季と暮らし</p> <p>2 トピック展示 ー北海道の暮らし再発見ー</p> <p>3 対話の部屋</p> <p>海と大地・人と技ー自然の恵みを活かすー(仮)</p> <p>テーマ「産業」 1 北海道産業のあゆみ</p> <p>2 分類展示【生産物編】磯漁の発展と商品生産</p> <p>3 分類展示【職人技術編】ブラウ職人の道具と技術</p> <p>※新展示公開以降の分類展示のテーマ案</p> <p>2' 分類展示【生産物編】農産物(豆、馬鈴薯、米)</p> <p>3' 分類展示【職人技術編】檜職人の道具と技術</p>
--	---

※添えられたイメージ図は割愛

(3)体制

実施作業班・展示改訂班 (平成 22 年 10 月～平成 23 年 8 月)

北海道博物館設置検討委員会・実施作業班内の展示改訂班(平成 22 (2010) 年 10 月 1 日設置)において、展示改訂の叩き台となる素案がまとめられました。

事業部長	寺林伸明
主任学芸員	村上孝一
展示課長	水島未記
学芸第一課長	堀繁久
学芸第二課長	池田貴夫
研究交流課長・学芸第三課長	山田伸一
展示課(事務局)	添田雄二
展示課(事務局)	田村将人

常設展示改訂プロジェクトグループ及びシナリオチーム (平成 23 年 8 月～平成 24 年 9 月)

北海道博物館設置検討委員会・実施作業班・展示改訂班の中に設置された常設展示改訂プロジェクトグループ(平成 23 (2011) 年 8 月 20 日設置)と暫定シナリオチームにおいて、シナリオチーム発足に向けた議論を行いました。事務局は展示施工まで一貫して開拓記念館展示課が担当し、各チームで随時会議をもったほか、全体調整のためのプロジェクトグループ会議を当年度内は 5～9 月の間に 13 回開催しました。

【暫定シナリオチームの構成】

総合チーフ(プロジェクトグループ委員長)	出利薬浩司
総合サブチーフ(プロジェクトグループ副委員長)	山田伸一

チーム名	検討内容	チーフ(プロジェクトグループ委員)	シナリオチームメンバー*
通史	通史パートの内容を検討し、展示シナリオを作成(先史～近現代の、各時代の歴史を扱う)	鈴木琢也(先史)、 三浦泰之(中近世)、 山田伸一(近現代、通史チーフ)	寺林伸明、右代啓視、添田雄二 東俊佑、山際晶子

アイヌ	テーマ「アイヌ」の内容を検討し、展示シナリオを作成 (アイヌ民族の歴史、物質文化、無形文化等を扱う)	田村将人	小林孝二、出利薬浩司、山田伸一、小川正人*、古原敏弘*
自然	テーマ「自然」の内容を検討し、展示シナリオを作成(動物、植物、地学、自然環境等を扱う)	堀繁久	水島未記、杉山智昭、添田雄二
くらし	テーマ「くらし」の内容を検討し、展示シナリオを作成 (各種生活文化等を扱う)	池田貴夫	小林孝二、舟山直治
産業	テーマ「産業」の内容を検討し、展示シナリオを作成(農林水産業を含めた各種産業等を扱う)	青柳かづら	村上孝一、山際秀紀、会田理人
導入空間	展示の導入空間の内容を検討し、展示シナリオを作成	(未定)	(未定)
展示基盤	展示デザイン・表現、手法・技術、バリアフリーとユニバーサル化、資料保存とのバランス等、展示全体の基盤となる要素(ハードウェア・ソフトウェア含む)について検討し、展示シナリオに反映	水島未記	杉山智昭、山際晶子

※「*」を付したのは、道立アイヌ民族文化研究センター職員

3. 基本設計(2012年度)

(1)事業の経過

平成24(2014)年度になり、環境生活部内で開拓記念館の展示改修は施設改修の一環として実施し、2年間をとおしての事業費は15億円程度を見込んで予算要求を行っていく方針が固まりました。6月には株式会社都市設計研究所が「平成24年度北海道開拓記念館改修実施設計委託業務」を受託し、そのなかで「常設展示場展示改修基本設計」の作成が始まりました。平成25(2013)年2月には「常設展示場展示改修基本設計」が完成しました(委託期間:平成24年6月13日～平成25年3月22日)。

(2)検討

開拓記念館内では6月から予定している「平成24年度北海道開拓記念館改修実施設計委託業務」のなかの「常設展示場展示改修基本設計」の業者との打合せに向けて、最大で5億円程度の予算で展示を改修するために、展示改訂班プロジェクトグループが昨年度末に取りまとめた「北海道博物館常設展示場構成および空間配置イメージ図」も含めた3つの案の検討が行われました。

6月に受託業者との協議が始まり、展示改訂の方向性について、通史展示を縮小し「自然」「くらし」「アイヌ文化」のテーマ展示を設ける案と、その考え方を汲み取りつつこれまでの通史展示を手直しする案の2案について議論が行われ、最終的には通史展示として基本設計が完成しました。

(3)体制

常設展示改修シナリオチーム (平成24年9月～平成25年3月)

受託業者との協議が始まり、通史展示で基本設計を作成していく段階になり、常設展示改修シナリオチーム設置要綱を策定し、シナリオチームが発足しました(平成24(2012)年9月26日)。開拓記念館の事業部長、事業部主任学芸員、事業部展示課が事務局として窓口になり、職員によるシナリオチームが受託業者と協議を重ねて、設計を進めました。各チームで随時会議をもったほか、シナリオチーム全体の調整をするために、総合チーフ、同サブチーフ、各チームチーフに事務局(事業部長・事業部主任学芸員・事業部展示課)を加えたチーフ会議を、平成24(2012)年度には9月～2月の間に5回、平成25(2013)年度には4～6月の間に8回開催しました。

【シナリオチームの構成】

総合チーフ	出利薬浩司
総合サブチーフ	山田伸一

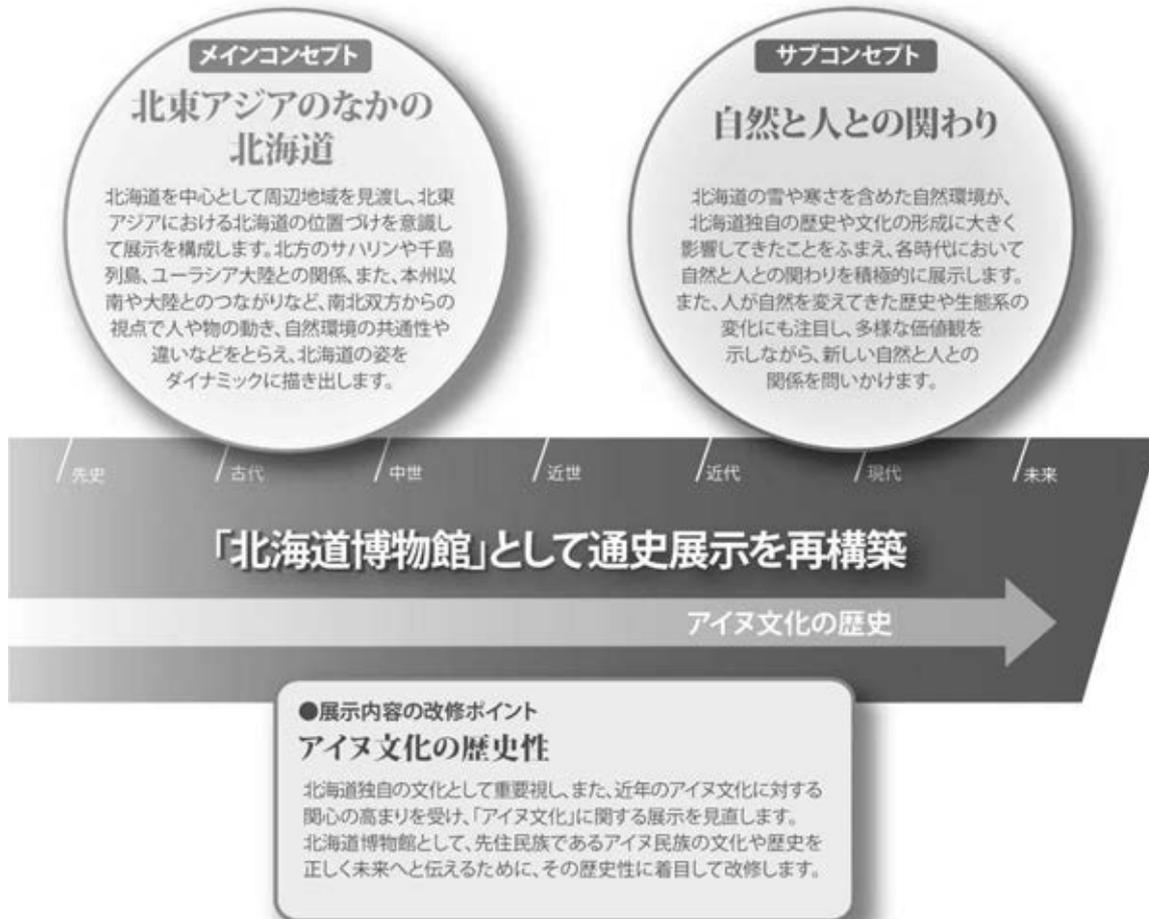
チーム名	検討内容	チーフ	シナリオチームメンバー
第1テーマ	第4紀に関する地史と、旧石器時代、縄文時代の内容を検討し、展示シナリオを作成	添田雄二	鈴木琢也、右代啓視
第2テーマ	続縄文時代、擦文時代、オホーツク文化の内容を検討し、展示シナリオを作成	鈴木琢也	右代啓視
第3テーマ	中世、近世の内容を検討し、展示シナリオを作成	東 俊佑	東俊佑、三浦泰之
第4テーマ	明治時代前半の内容を検討し、展示シナリオを作成	三浦泰之	池田貴夫、山田伸一
第5テーマ	明治時代後半から昭和戦前期(おもに20世紀前半)および、産業(農林水産業)資料、生活資料をテーマとした内容を検討し、展示シナリオを作成	池田貴夫	青柳かつら、山田伸一、山際秀紀、舟山直治、村上孝一、寺林伸明
第6テーマ	昭和戦後期(20世紀後半)の内容を検討し、展示シナリオを作成	会田理人	田村将人、山田伸一、水島未記、堀繁久、小林孝二、寺林伸明
アイヌ文化	アイヌ民族の歴史および文化に関する内容を検討し、各テーマでの展示シナリオを作成	田村将人	山田伸一、出利薬浩司、小林孝二、古原敏弘*(2013年3月まで)、小川正人*、甲地利恵*(同年4月より)
展示基盤	展示デザイン・表現、手法・技術、バリアフリーとユニバーサル化、資料保存とのバランス等、展示全体の基盤となる要素(ハードウェア・ソフトウェア含む)について検討し、展示シナリオに反映。合せて、導入空間の内容を検討し、展示シナリオを作成	水島未記	山際晶子、杉山智昭、出利薬浩司

※「*」を付したのは、道立アイヌ民族文化研究センター職員。

(4)概要

内容に関する基本的な考え方

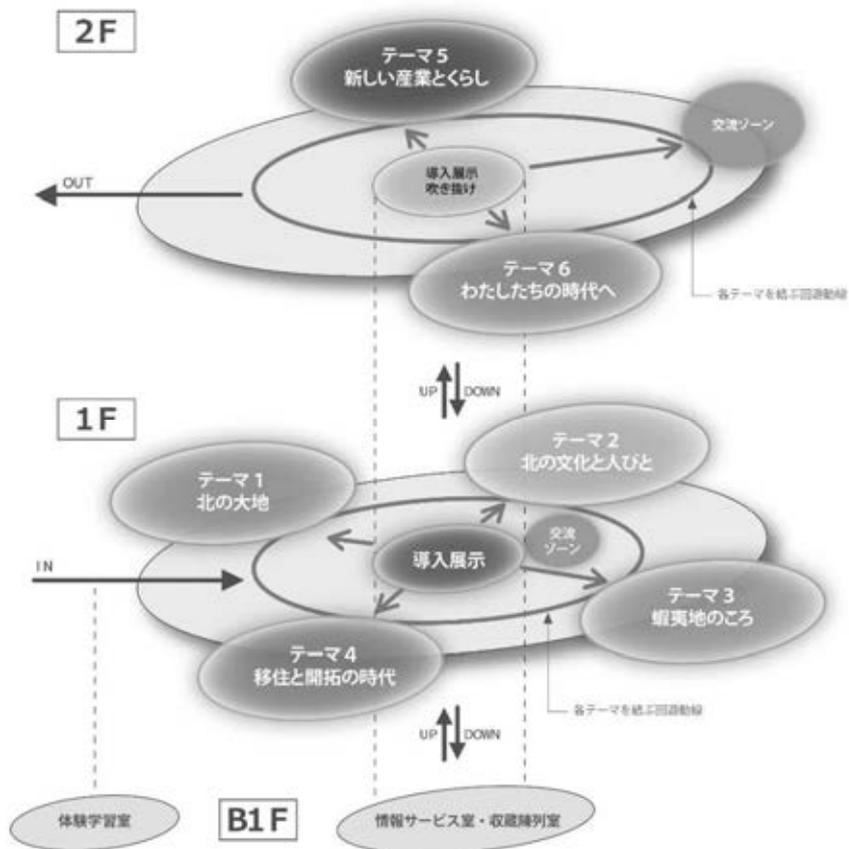
- ・ これまでと同様、時代に沿った展開を基本としながらも、「開拓」というひとつの事象にとらわれず、最新の調査・研究の成果を反映し、さらに現在、未来への視座も含め、より幅広い見地に立った通史展示を再構築する。
- ・ メインコンセプトを「北東アジアのなかの北海道」、サブコンセプトを「自然と人との関わり」とする。また、「アイヌ文化」に関する展示を重視し、その歴史性に着目して改訂をおこなう。
- ・ 各時代の最初に、それぞれの時代を象徴する資料を置く「指標展示」を設ける等、平坦な通史ではなくメリハリを付け、時代ごとのテーマ性を打ち出す展示を志向する。



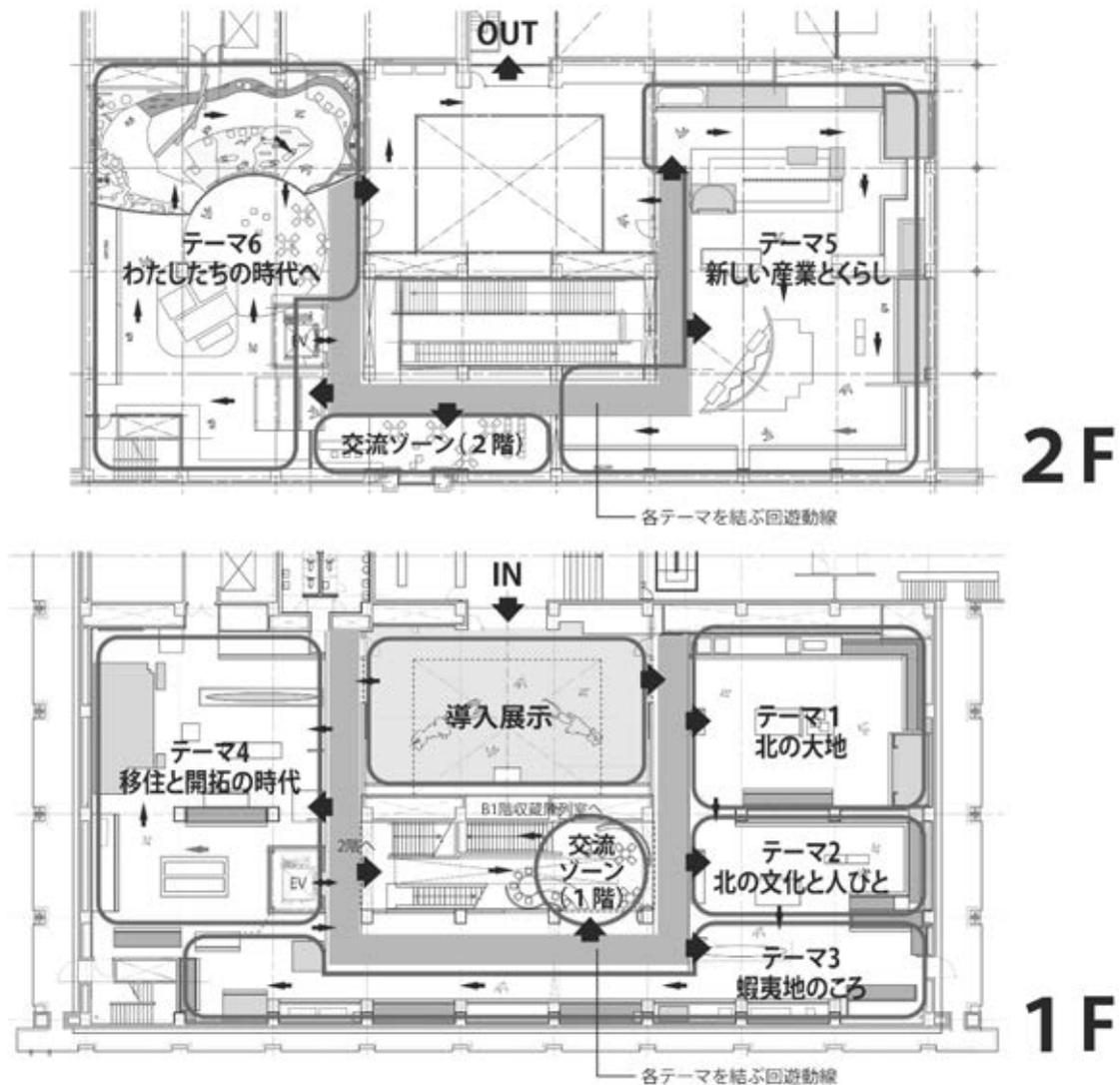
展示構成

導入展示	
来館者を迎える最初の展示であり、最後に2階吹き抜けから見下ろす場でもある、全体の基点となる空間	1 北と南が出会う場所
通史展示	
6つのテーマで構成し、北海道の歴史を第四紀から現在まで年代順にたどる	
テーマ1 北の大地 約120万年前(第四紀)～約2400年前(旧石器文化・縄文文化) 気候の変化とともに、北海道島の形成、南北からの動物や人の移動、人びとが定住を始めた時代を展示	0 指標展示 1 古地理の変遷 2 北海道島の形成 3 旧石器文化 4 縄文文化
テーマ2 北の文化と人びと 約2千数百年前(続縄文文化)～12世紀(擦文文化) 北海道独自の文化が成立し、本州やサハリン・千島・大陸との交流や交易を展開していた時代を展示	0 指標展示 1 続縄文文化 2 オホーツク文化 3 擦文文化

<p>テーマ3 蝦夷地のころ</p> <p>13世紀～19世紀中頃</p> <p>アイヌ民族を中心とする蝦夷地の文化が、本州や大陸との交易や、和人や外国の進出によって変容する時代を展示</p>	<p>0 指標展示</p> <p>1 蝦夷地の産物と交易</p> <p>2 北方交易のひろがり</p> <p>3 アイヌ民族と松前藩</p> <p>4 変容するアイヌ社会</p> <p>5 近代への序曲</p>
<p>テーマ4 移住と開拓の時代</p> <p>1869年(明治初期)～1910年頃(明治後期)</p> <p>開拓政策が押し進められ、移住者も増加、その影響を受けたアイヌ民族の動向など、「北海道」として内国化した時代を展示</p>	<p>0 指標展示</p> <p>1 開拓使から北海道庁へ</p> <p>2 海を渡ってきた人びと</p> <p>3 アイヌ文化の世界</p>
<p>テーマ5 新しい産業と暮らし</p> <p>1890年頃(明治中期)～1945年(昭和20年)</p> <p>開拓は道東や道北へ拡大し、大地は大きく変貌。豊富な資源を基に産業が発展し、多雪寒冷な地に適した生活が芽生えた時代を展示</p>	<p>0 指標展示</p> <p>1 産業の近代化</p> <p>2 北海道の自然と暮らし</p> <p>3 アイヌ民族の近代</p> <p>4 アジアの戦争と北海道</p>
<p>テーマ6 わたしたちの時代へ</p> <p>1945年(昭和20年)～現在</p> <p>戦後の復興～高度経済成長を経て豊かな暮らしを得た一方、人が自然に与えてきた影響を振り返り、未来への展望を展示</p>	<p>0 指標展示</p> <p>1 「戦後」のはじまり</p> <p>2 高度経済成長と暮らしの変化</p> <p>3 さまざまな発言</p> <p>4 北海道の自然</p> <p>5 今とこれからを創る</p>
交 流 ゾ ーン	
「休憩」「案内・情報提供」「交流」の3つの機能を柱に、利用者との対話の場やレクチャースペースとして活用	



展示配置図



改修の基本的な考え方

①自由度が高くゆとりがある動線計画

来館者の興味関心や、観覧時間の都合に合わせて柔軟に対応できるよう、観覧する順序を強制せず、自由に動線を選ぶことができるよう展示を配置する。展示資料や解説等を詰め込みすぎないように、展示のボリュームとスペースとのバランスを考慮し、体力的にも、気分的にも疲れることなく、ゆったりと楽しめる展示空間をつくる。

②感覚に訴える手法とデザイン

展示内容を理解できる基準を小学校4年生に設定し、子どもたちの関心を喚起するとともに、だれもが楽しみながら理解できる体験的な展示や五感に訴える手法を取り入れる。展示ストーリーに則ってメリハリのあるデザインを展開し、最後まで飽きずに観覧できる空間づくりを目指す。

③ユニバーサルデザインの導入

子どもからお年寄り、障害のある人など、だれもがストレスなく展示を楽しめるよう、通路幅の確保、観賞しにくい展示ケースの改修、休憩スペースの設置など、観覧環境の整備を図る。解説パネルの設置位置や文字サイズ、多言語表記、ルビ、情報の深度や言葉の選び方などを検討し、だれも見やすく、内容を理解できる展示となるよう計画する。

④展示替えしやすい什器設計

既存の展示ケースも展示替えやメンテナンスの容易な仕様に改修する。また、展示照明に LED を採用し、環境への負荷を軽減する。資料の入れ替えや情報の更新が容易な展示什器を採用し、研究成果の紹介や季節に応じた展示替えなど、変化のある展示によってリピーターを増やし、また、同一資料の長期公開を避け資料保存にも配慮する。

4. 実施設計(平成 25 年度)

(1)事業の経過

平成 25 (2013) 年 7 月、株式会社都市設計研究所が「北海道開拓記念館常設展示場展示改修実施設計」を受託し、「基本計画」に示された展示改訂の基本的な考え方をよりわかりやすく、明確に表現するために、「基本設計」で計画していた通史展示の抜本的な見直しを行いながら、平成 26 年 2 月に実施設計が完成しました (委託期間：平成 25 年 7 月 27 日～平成 26 年 2 月 28 日)。

(2)体制

常設展示改修シナリオチーム (平成 25 年 6 月～平成 27 年 3 月)

展示内容の抜本的な再検討を行うことになり、常設展示改修シナリオチーム設置要綱を改正し、組織を改編しました。アイヌ民族文化研究センターからは、このときから研究職員全員がメンバーとして参加しました (これまででは研究主幹、研究課長のみの参加)。

開拓記念館の事業部長、事業部主任学芸員、事業部展示課が事務局として窓口になり、職員によるシナリオチームが受託業者と協議を重ねて、設計を進めました。各チームでも随時会議をもったほか、全体調整をするために、総括責任者、副総括責任者、各チームチーフ (第 1、2 テーマはサブチーフも) に事務局 (事業部長、事業部主任学芸員、展示課) を加えたチーフ会議を、平成 25 (2013) 年度は 7～3 月の間に 17 回、平成 26 (2014) 年度は 4～2 月の間に 16 回開催しました。

総括責任者	石森秀三
副総括責任者	堀 繁久、小川正人*

チーム名	検討内容	チーフ	シナリオチームメンバー
第 1 テーマ	第 4 紀の地史から、おおよそ 1900 年頃までについて、時間軸を基本として展示シナリオを作成	三浦泰之	鈴木琢也(サブチーフ)、添田雄二、圓谷昂史、右代啓視、東 俊佑、山際晶子
第 2 テーマ	アイヌ民族の文化、およびアイヌ民族の近現代史を中心として、展示シナリオを作成	小川正人*	甲地利恵(サブチーフ)*、大谷洋一*、田村雅史*、出利葉浩司、山田伸一
第 3 テーマ	北海道に特徴的な産業と生活文化を中心として、展示シナリオを作成	池田貴夫	青柳かづら(サブチーフ)、山際秀紀、会田理人、村上孝一、舟山直治
第 4 テーマ	おおよそ 1900 年頃から現在までについて、時間軸を基本として展示シナリオを作成	会田理人	山田伸一、小林孝二、寺林伸明
第 5 テーマ	北海道の自然、および自然と人との関わりについて、展示シナリオを作成	水島未記	堀 繁久
展示基盤	展示デザイン・表現、手法・技術、バリアフリーとユニバーサル化、資料保存とのバランス等、展示全体の基盤となる要素について検討	東 俊佑	春木(山際)晶子、杉山智昭、水島未記、出利葉浩司、圓谷昂史
導入展示	導入展示について、展示シナリオを作成	水島未記	圓谷昂史、堀 繁久、小川正人*

※[*]を付したのは、道立アイヌ民族文化研究センター職員。

※「導入展示チーム」は、2013 年 12 月に常設展示改修シナリオチーム設置要綱を改正して新設。

(3)基本設計からの主な変更点

展 示

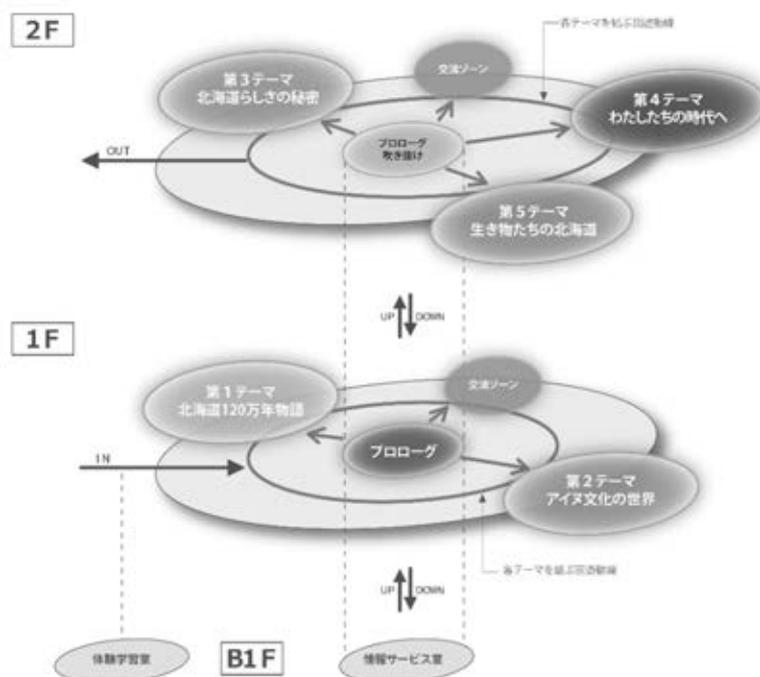
- ・ メインコンセプト及びサブコンセプト等に関しては基本設計を継承。
- ・ 基本設計で計画していた通史展示を抜本的に見直し、北海道の総合博物館として自然・歴史・文化を 5 つのテーマで物語る構成に変更。通史展示の要素を縮小し、近現代の北海道の生活文化と産業に焦点をあてたテーマ (第 3 テーマ)、アイヌ民族の伝統文化を主題とするテーマ (第 2 テーマ)、北海道の自然を主題とするテーマ (第 5 テーマ) を独立させる。
- ・ 基本設計で各テーマの冒頭に特徴的な資料配置を計画していた「指標展示」に関しては、シナリオチーフの会議で議論し、各テーマの冒頭に象徴的なサイン (グラフィック) を設けることで代替となる。
- ・ 改修して再利用する計画だった展示ケースのうち一部については、改めて実物の現状を精査した結果、再利用を見送り、新規に製作することとする。



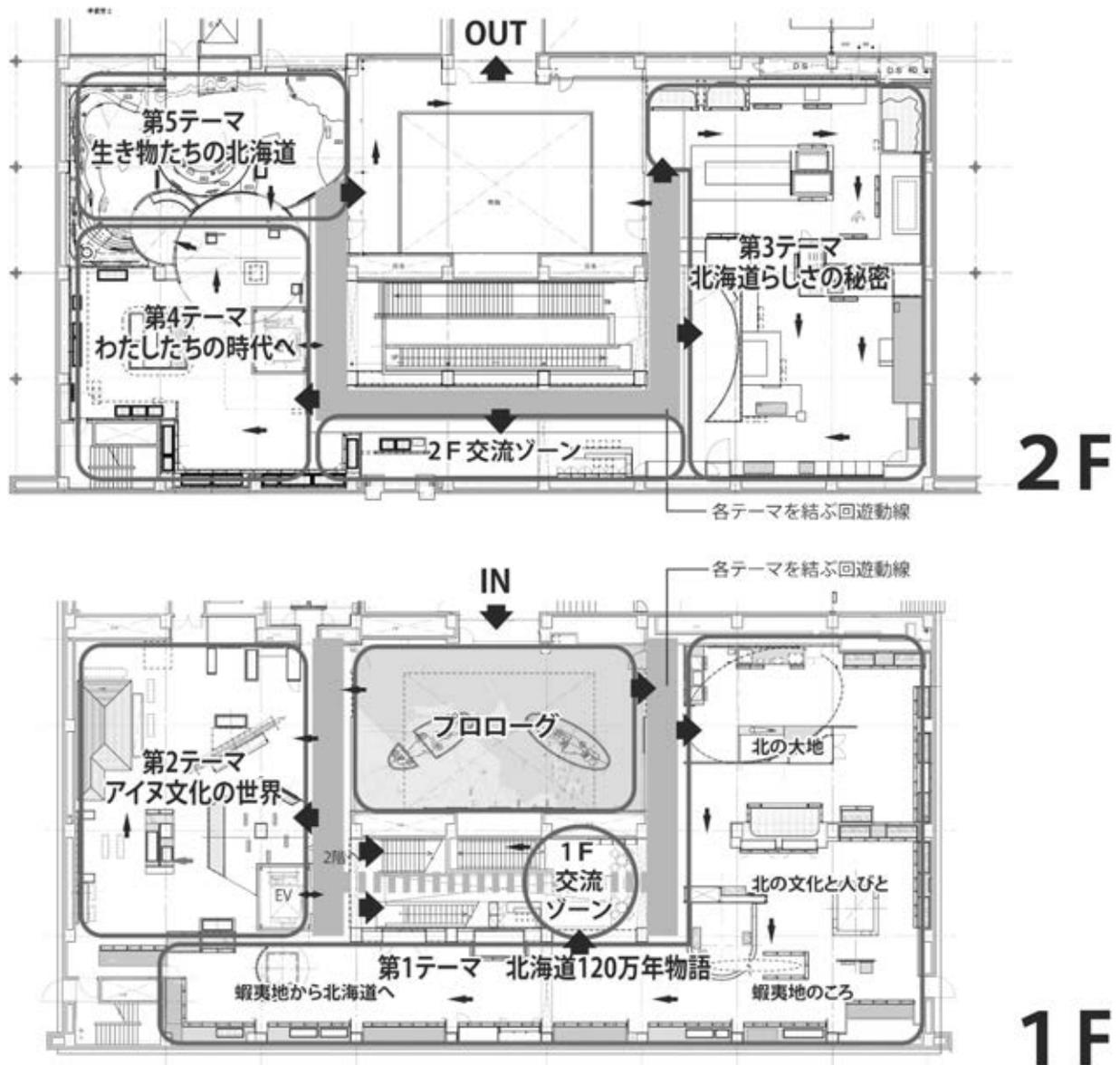
- ・ 展示場内階段上部に移設を計画していた壁画「開拓」については、サイズの精査や見やすさなどの再検討をした結果、2階交流ゾーン向かい側に設置することとする。

展示構成

導入展示	
北海道は日本の北端というイメージの転換を図り、さまざまな方向から多様な生き物や人・モノ・文化が往来してきた地であることを語る。	北と南の出会い
1 北海道 120 万年物語	
北海道という大地の始まりから、さまざまな文化とその担い手の時代をへて、多くの移民がやってくるまでの歴史を語る。	1 北の大地 2 北の文化と人びと 3 蝦夷地のころ 4 蝦夷地から北海道へ
2 アイヌ文化の世界	
北海道の先住民族であり、さまざまな文化を育んできたアイヌ民族。その伝統文化と近現代の歴史、そして現在(いま)のすがたを語る。	1 現在を知る 2 伝統を学ぶ 3 アイヌ語を聴く 4 歩みをたどる
3 北海道らしさの秘密	
多様な人びとにより築かれてきた近現代の北海道。そこにあらわれる「北海道らしさ」のわけを、「産業」と「暮らし」の視点から語る。	1 北海道の資源とともに 2 四季とともに 3 ア・ラ・カルト北海道
4 わたしたちの時代へ	
北海道が、戦争と開発・経済成長という大きな変化を経験する時代を、社会の動きと人びとの意識・時代との関わりから語る。	1 アジアの戦争と北海道 2 高度経済成長 3 今とこれからの創る
5 生き物たちの北海道	
北海道の多様な生き物たち。ヒトとの関わりもおりませながら、それを支える「つながり」を生き物の視点から語る。	1 ようこそ！生き物の世界へ 2 豊かな自然 3 身近な自然 4 北と南の生き物たち



展示配置図



空間・デザイン

基本設計の「改修の基本的な考え方」の項で記した4つの観点を維持しつつ、次の5項目に再整理し、具体的な展示設計を行った（以下、内容の記述は基本設計と同文の部分は省略）。

- ① 自由度が高くゆとりがある動線計画
- ② メリハリのある空間デザイン

展示テーマごとに個性のある空間をデザインし、来観者に展示テーマの切り替わりを意識させるとともに、最後まで飽きずに観覧できる空間づくりを目指す。学芸員や解説員と来観者が、あるいは来観者同士が交流できる場を確保し、対話が生まれ、体験が深まる空間をデザインする。

- ③ ユニバーサルデザインの導入
- ④ 展示替えしやすい什器設計
- ⑤ 子どもの興味を喚起する展示

一般的な「紹介」や「解説」にとどまらず、「問いかけ」で「考えさせる」手法や、だれもが楽しみながら理解できる体験的な展示、五感に訴える展示を取り入れる。

(4)その他

展示改修に先立って実施されていた施設改修において、工事中に発見される設備の老朽化や損傷などに対して対策を講じるため、機器や造作などの仕様変更、資料キャプション作成・設置は職員が行うなど、実施設計において様々なコスト軽減のための調整を行いました。

そうした中、アイヌ文化展示、子ども向け展示及び外国人向け展示解説の充実等について、庁内でその重要性についての特段の配慮があり、追加の予算配当がありました。これにより、子ども用体験展示（ハンズオンワゴン）、五感に訴える展示（しごと・くらしのサウンドクロック、どうぶつくたくたソファ、「どんぐりコロコロ」コースター）、多言語解説（多言語解説ボード、多言語音声解説音声コンテンツ）、アイヌ文化展示（アイヌ物語アニメーション、アイヌ語ブロック、北海道の地名来歴）を新たに設計に組み込みました。

5. 展示施工(平成 26 年度)

平成 26 (2014) 年 7 月、株式会社乃村工藝社が「北海道開拓記念館常設展示室等工事」及び「北海道開拓記念館常設展示室等工事付帯設備作成業務」を受託し、受託業者と協議を重ねて、実施設計を元に一部修正しながら展示工事を進め、平成 27 (2015) 年 3 月に業務完了しました（委託期間：平成 26 年 7 月 30 日～平成 27 年 3 月 27 日）。

平成26年度工事スケジュール(概略)

年度 年月日	2014												2015											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
項目	平成26年度																							
<全体工程>	内容確認～製作印刷作成～印刷承認												準備											
	施工計画												現場施工											
	注												調整・対応											
	入札												調整											
<1階常設展示室>	製作内容検討・取合い調整												展示準備工事											
フロア	機材検討・取合い調整												機材搬入・設置											
第17-マ 北海道120年物語	製作内容検討・取合い調整												機材搬入・設置											
製作	機材搬入・設置												機材搬入・設置											
映像装置 ※支給品	機材搬入・設置												機材搬入・設置											
第27-マ アイ3文化の世界	製作内容検討・取合い調整												機材搬入・設置											
製作	機材搬入・設置												機材搬入・設置											
映像装置	機材搬入・設置												機材搬入・設置											
1F交流ゾーン	製作内容検討・取合い調整												機材搬入・設置											
<2階常設展示室>	製作内容検討・取合い調整												機材搬入・設置											
第37-マ 北海道らしさの秘密	製作内容検討・取合い調整												機材搬入・設置											
製作	機材搬入・設置												機材搬入・設置											
映像装置 ※一部支給品	機材搬入・設置												機材搬入・設置											
第47-マ わがわたしたちの時代へ	製作内容検討・取合い調整												機材搬入・設置											
製作	機材搬入・設置												機材搬入・設置											
映像装置 ※一部支給品	機材搬入・設置												機材搬入・設置											
第57-マ 生き物たちの北海道	製作内容検討・取合い調整												機材搬入・設置											
製作	機材搬入・設置												機材搬入・設置											
映像装置	機材搬入・設置												機材搬入・設置											
2F交流ゾーン	製作内容検討・取合い調整												機材搬入・設置											
製作	機材搬入・設置												機材搬入・設置											
映像装置	機材搬入・設置												機材搬入・設置											
全部共通	機材搬入・設置												機材搬入・設置											
展示照明・電気設備	機材搬入・設置												機材搬入・設置											
共通設備	機材搬入・設置												機材搬入・設置											

4 関連資料

4.1 リニューアル予告展示会「北海道開拓記念館から北海道博物館へ」

平成 25 (2013) 年度から平成 26 (2014) 年度にかけて、開拓記念館と道内各地 (全 17 地域) の博物館等の施設で、北海道博物館の目指す姿やこれからの活動について広く道民に紹介することを目的としたリニューアル予告展示会「北海道開拓記念館から北海道博物館へ」を開催しました。この展示会では、新しい展示の概要がわかる写真パネルや主要展示資料などを展示して、北海道の自然・歴史・文化のエッセンスを紹介しました。巡回展の関連した事業として、学芸員による子ども向け体験学習講座や一般向けの専門的な講座を開催しました。

1. 北海道開拓記念館での展示会

名 称	リニューアル予告展示会「北海道開拓記念館から北海道博物館へ」
会 期 (開催日数)	2013 年 4 月 27 日 (土)～5 月 12 日 (日) (14 日間)
場 所	開拓記念館 特別展示室
観 覧 者 数	2,296 人
関 連 普 及 行 事	ギャラリートーク



2. 巡回展

名 称	リニューアル予告展示会「北海道開拓記念館から北海道博物館へ」		
会 期	平成 25 年度	2013 年 9 月～2014 年 2 月 (計 114 日間)	合計 282 日間
	平成 26 年度	2014 年 6 月～2015 年 1 月 (計 168 日間)	
観 覧 者 数	平成 25 年度	3,004 人	合計 7,868 人
	平成 26 年度	4,864 人	



平成 25 (2013) 年度

苫前町郷土資料館・考古資料館 9月7日～23日	子供向け講座	9月13日(金)	山際晶子・三浦泰之	文字であそぼう♪ 消しゴムハンコづくり
	一般向け講座	9月14日(日)	三浦泰之	はじめての古文書
小平町文化交流センター 10月1日～25日	子供向け講座	10月12日(土)	鈴木琢也・右代啓視	勾玉づくり
	一般向け講座	10月12日(土)	右代啓視	おびらの遺跡
礼文町郷土資料館 11月2日～17日	子供向け講座	11月9日(土)	小林孝二・舟山直治	体験しよう! 昭和のくらしの道具
	一般向け講座	11月9日(土)	舟山直治	語り合いましょ! 昭和のくらしの道具
名寄市北国博物館 11月29日～12月15日	子供向け講座	12月1日(日)	出利葉浩司	アイヌ民族の狩りとわな
	一般向け講座	11月30日(土)	田村雅史*	アイヌ語と口承文芸の世界ー北海道東部を中心にー
士別市生涯学習情報センターいぶき 12月25日～1月22日	子供向け講座	1月19日(日)	会田理人・青柳かつら	ガリ版でいんさつ屋さん
	一般向け講座	1月18日(土)	青柳かつら	北海道林業を支えた技術と道具
枝幸町オホーツクミュージアムえさし 2月1日～28日	子供向け講座	2月1日(土)	鈴木琢也・右代啓視	土偶づくり
	一般向け講座	2月1日(土)	右代啓視	北の土偶を考える

※「*」を付したのは、道立アイヌ民族文化研究センター職員。

平成 26 (2014) 年度

旧檜山爾志郡役所(江差町郷土資料館) 6月1日(日)～14日(土)	子供向け講座	6月14日(土)	水島未記・舟山直治	絵馬づくり
	一般向け講座	6月14日(土)	舟山直治	江差町伏木戸の川楯神社と若狭の水無月神社
知内町文化交流センター 6月20日(金)～7月3日(木)	子供向け講座	6月21日(土)	添田雄二	アンモナイトのレプリカづくり
	一般向け講座	6月21日(土)	添田雄二	アンモナイトの謎
ピリカ旧石器文化館 7月9日(水)～21日(月・祝)	子供向け講座	7月12日(土)	甲地利恵*	アイヌの楽器 ムックリを鳴らしてみよう
	一般向け講座	7月12日(土)	小川正人*	今金町とその周辺のアイヌ語地名を見る

奥尻町海洋研修センター	子供向け講座	8月10日(日)	麻生典子・山田伸一	アイヌの小さな袋、サラニブを作ろう
7月30日(水)～8月10日(日)	一般向け講座	8月10日(日)	山田伸一	奥尻島の鹿—どこから来てどこへ消えたのか—
広尾町海洋博物館	子供向け講座	8月23日(土)	右代啓視・鈴木琢也	土偶づくり
8月23日(土)～9月7日(日)	一般向け講座	8月23日(土)	右代啓視	北の土偶
帯広百年記念館	子供向け講座	9月28日(日)	池田貴夫・舟山直治	わらはムダにならず
9月13日(土)～28日(日)	一般向け講座	9月28日(日)	池田貴夫	北海道らしさの秘密
別海町郷土資料館	子供向け講座	10月12日(日)	出利葉浩司	よーく見てみよう！アイヌ文様
10月7日(火)～20日(月)	一般向け講座	10月12日(日)	田村雅史*	アイヌ語と口承文芸の世界—北海道東部を中心に—
足寄動物化石博物館	子供向け講座	(なし)	—	
10月29日(水)～11月10日(月)	一般向け講座	11月9日(日)	青柳かつら	北海道林業を支えた技術と道具
根室市総合文化会館	子供向け講座	11月22日(土)	会田理人・東俊佑	来年はヒツジ年 羊毛クラフトに挑戦！
11月15日(土)～30日(日)	一般向け講座	11月22日(土)	東俊佑	近世蝦夷地の古文書を読む
浦幌町立博物館	子供向け講座	12月7日(日)	右代啓視・鈴木琢也	土偶づくり
12月6日(土)～19日(金)	一般向け講座	12月6日(土)	右代啓視	北の土偶
釧路市立博物館	子供向け講座	1月18日(日)	山際晶子	絵馬づくりにチャレンジ
12月25日(木)～1月18日(日)	一般向け講座	(なし)	—	

※「*」を付したのは、道立アイヌ民族文化研究センター職員。

4.2 事業予算

施設の改修と展示の改訂は、展示改訂の基本計画を含んだ平成24(2012)年度の「北海道開拓記念館改修基本設計」(事業費2,838万円)から始まりました。その後、施設の改修は建設部が主導し、平成25(2013)年度に1期工事、平成26(2014)年度に2期工事という順で進められました。展示の改訂は、博物館が主導し、平成25年度に実施設計を行い、平成26年度にかけ順次改訂作業が進められました。

施設の改修と展示の改訂の設計委託、工事委託に必要な経費は、各年度ごとに予算措置されました。施設の改修と展示の改訂に係る2カ年の事業費とその項目ごとの内訳は以下のとおりです。

(単位：千円)

発注部	節科目	事業項目	平成25年度	平成26年度	合計
建設部	委託料	設計、監理	7,476	4,904	12,380
		展示制作	0	0	0
		運搬	0	0	0
	工事請負費	改修工事	510,752	191,506	702,258
発注部計			518,228	196,410	714,638
博物館 (記念館)	委託料	設計、監理	33,176	0	33,176
		展示制作	33,653	221,400	255,053
		運搬	10,134	9,936	20,070
	工事請負費	改修工事	122,515	236,520	359,035
発注部計			199,478	467,856	667,334
合計	委託料	設計、監理	40,652	4,904	45,556
		展示制作	33,653	221,400	255,053
		運搬	10,134	9,936	20,070
	工事請負費	改修工事	633,267	428,026	1,061,293
合計			717,706	664,266	1,381,972

4.3 北海道博物館開設に係る委員会等

1. 開拓記念館リニューアル検討委員会(開拓記念館内)

博物館機能の中にアイヌ文化の継承を盛り込みながら、開拓記念館のリニューアルによる「北海道ミュージアム」を推進するという知事公約の実現と推進に向けて道が策定する「北海道ミュージアム基本計画」に開拓記念館の考え方を整備して提供するため、館内に「開拓記念館リニューアル検討委員会」を平成21(2009)年9月に設置しました。同検討会は、展示改訂、教育支援・体験学習、収蔵庫整備、周辺環境整備、ネットワークの再構築といった点について検討会議を5回開催し、平成21年12月に館の考え方や要望を整理した「北海道開拓記念館のリニューアルに向けて」を取りまとめました。

2. 北海道博物館基本計画検討委員会(本庁内)

北海道文化審議会の答申を踏まえ、開拓記念館のリニューアルにより設置する北海道ミュージアム(仮称)に係る基本計画の策定に向けた検討を行うため、平成21(2009)年11月に庁内に「北海道ミュージアム(仮称)基本計画検討委員会」が設置されました。

検討委員会は、北海道文化審議会の答申や開拓記念館の考え方や要望を整理した「北海道開拓記念館のリニューアルに向けて」などを踏まえ、平成22(2010)年4月に「北海道博物館(仮称)基本計画」素案を取りまとめました。この後、パブリックコメントを実施し、これを取りまとめ反映させ、平成22(2010)年9月に「北海道博物館基本計画～北海道開拓記念館のリニューアルから北海道ミュージアムへ～」が策定されました。

3. 北海道博物館設置検討委員会(開拓記念館内)

平成22(2010)年9月に「基本計画」が決定したことに伴い「開拓記念館リニューアル検討委員会」を廃止して、「基本計画」に示された3つの基本方針(①博物館としての基本的な機能の充実、②北海道における総合的な博物館、③道内博物館の中核となる施設)に基づき、北海道博物館設置に向けて課題の検討を進め、具体的な実施計画の策定するため、同年10月に館内に「北海道博物館設置検討委員会」が設置されました。同検討委員会の委員長は館長があたり、調整班と実施作業班から構成されました。実施作業班には、「基本計画」に則して各プランの実施計画を策定するため、展示改訂班、施設整備班、ネットワーク再構築班、教育普及班、組織体制整備班、名称変更班、の6つの班が組織されました。

同委員会は平成22年から平成23年にかけて3回開催され、「北海道博物館設置プラン(案)」が検討されました。また開拓記念館の現状と問題点や、平成22(2010)年度に「北海道ミュージアム推進事業」で実施した内容(ミュージアムメイトへの意見聴取や外部の有識者による検証と意見交換)を整理した上で、個別の事業ごとに具体的な内容を取りまとめた「北海道博物館設置計画 個別プラン」などが館内で取りまとめられました。

4. 北海道博物館設置プラン検討委員会(外部委員会)

外部の専門的立場の方々から指導・助言をいただくため、「北海道博物館設置プラン検討委員会」を設置して、平成24(2012)年3月には「北海道博物館リニューアル検討報告書」として答申を受けました(前述)。

4.4 設置までの主なうごき

平成 19 (2007) 年	4 月 現職の高橋よるみ知事が北海道ミュージアムという概念を公約に掲げ、当選 (第 2 期) ◎知事公約抜粋 アイヌ文化を次代に継承し、その営みを広く普及するため、イオルの再生や、開拓記念館のリニューアルによる北海道ミュージアムの設置に取り組みます。
平成 20 (2008) 年	5 月 北海道知事、「北海道における博物館のあり方と北海道開拓記念館の役割について」北海道文化審議会に諮問 北海道文化審議会が「北海道における博物館のあり方と開拓記念館の役割検討特別委員会」を設置 6 月 「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」採択 (国会)
平成 21 (2009) 年	8 月 北海道文化審議会、「北海道における博物館のあり方と北海道開拓記念館の役割について」に知事に答申 9 月 開拓記念館内に「開拓記念館リニューアル検討委員会」を設置 11 月 環境生活部生活局道民活動文化振興課に「北海道ミュージアム (仮称) 基本計画検討委員会」設置
平成 22 (2010) 年	4 月 北海道ミュージアム (仮称) 基本計画検討委員会、「北海道博物館 (仮称) 基本計画」の素案を取りまとめ 「北海道ミュージアム推進事業」を北海道の特定重点事業として予算化 5 月 「北海道博物館基本計画 (仮称)」素案に対するパブリックコメント募集 (5 月 18 日～6 月 17 日) 9 月 パブリックコメントの意見の概要及び道の考え方を公表後、「北海道博物館基本計画」策定 10 月 「北海道博物館基本計画」の決定に伴い、「開拓記念館リニューアル検討委員会」を廃止し、「基本計画」に基づき、実施計画の策定や検討を進める「北海道博物館設置検討委員会」を開拓記念館内に設置
平成 23 (2011) 年	4 月 現職の高橋よるみ知事が「北海道博物館」設置を公約に掲げ、当選 (第 3 期) 「北海道博物館」設置に向けた取組を推進するため、「北海道博物館設置推進事業」を北海道の特定重点事業として予算化 7 月 外部の専門的立場の方々から指導・助言を受けることを目的とした「北海道博物館設置プラン検討委員会」を設置 8 月 開拓記念館の展示改訂、館内配置等の検討に必要な建物強度等の調査をするため「構造・設備改修診断調査・基本設計」を実施 (8～12 月 2,977 千円) 「北海道博物館設置検討委員会・実施作業班・展示改訂班」の常設展示改訂に関する具体的な作業を推進するため、常設展示改訂プロジェクトグループ及び常設展示シナリオチームを設置 (～平成 24 年 9 月)
平成 24 (2012) 年	3 月 北海道博物館設置プラン検討委員会が「北海道博物館リニューアル検討報告書」を北海道環境生活部長へ提出 6 月 リニューアルプランを踏まえた、バリアフリー化や消火設備の改良など、来館者の安全性・利便性を図るため、展示改修基本計画を含んだ施設改修実施設計を実施 (～平成 25 年 3 月 2,838 万円) 9 月 常設展示改修の実務作業を遂行するため、「常設展示改訂プロジェクトグループ及び常設展示シナリオチーム」を改組し、道立アイヌ民族文化研究センターの職員 2 名を加えた常設展示改修シナリオチームを設置
平成 25 (2013) 年	3 月 「北海道博物館リニューアル検討報告書」を内容を踏まえ、北海道環境生活部において「北海道博物館実施計画」を策定 6 月 「常設展示場展示改修実施設計」を作成するため、常設展示改修シナリオチームを道立アイヌ民族文化研究センターの全職員を加えて再編成 7 月 常設展示場展示改修実施設計を実施 (～平成 26 年 3 月 2,804 万円) 12 月 施設改修工事修正実施設計を実施 (～平成 26 年 3 月 68,967 万円)
平成 26 (2014) 年	4 月 北海道博物館の基本的な運営方針や新たに導入する博物館評価等を検討するため、館内に「北海道博物館基本的運営方針等検討会議」を設置 (～平成 27 年 3 月) 7 月 常設展示室等展示改修工事施工 (～平成 27 年 3 月 66,427 万円)
平成 27 (2015) 年	4 月 北海道立総合博物館発足 (1 日)、北海道博物館開館記念式典挙行 (17 日)、開館 (18 日)

4.5 施設工事と展示施工の記録



スロープ工事



エレベーター工事



特別展示室の改修工事



ウォールケースの仮組立



アイヌの家屋の移動



旧シンボル展示の撤収



壁画「開拓」の一時保管



複製品(ナマコ)



プロローグ・ナウマンゾウの演示



大たも演示(第3テーマ)



パブリカ演示(第4テーマ)



ネズミルカ演示(第5テーマ)

4.6 歴代館長・所長、組織変遷

開拓記念館歴代館長

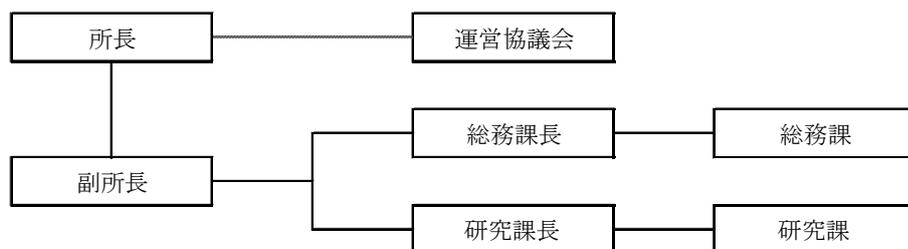
初代	犬飼 哲夫	1971年4月1日	～	1979年11月1日
第2代	高倉 新一郎	1981年1月10日	～	1986年3月31日
第3代	渡邊 左武郎	1986年4月1日	～	1994年3月31日
第4代	城戸崎 彰	1994年4月1日	～	1997年6月30日
第5代	吉田 和夫	1997年7月1日	～	2002年3月31日
第6代	山田 家正	2002年6月1日	～	2006年3月31日
第7代	河村 耕作	2006年4月1日	～	2007年4月30日
第8代	丹保 憲仁	2007年5月1日	～	2010年3月31日
第9代	堀 達也	2010年4月1日	～	2013年3月31日
第10代	石森 秀三	2013年4月1日	～	2015年3月31日

アイヌ民族文化研究センター歴代所長

初代	深澤 信夫	1994年6月1日	～	1995年10月31日
第2代	谷本 一之	1995年11月1日	～	2003年3月31日
第3代	杉本 堅治	2003年6月1日	～	2006年3月31日
第4代	泉川 睦雄	2006年4月1日	～	2012年3月31日
第5代	中村 亘	2012年4月1日	～	2015年3月31日

北海道立アイヌ民族文化研究センター組織変遷

平成6～21年度

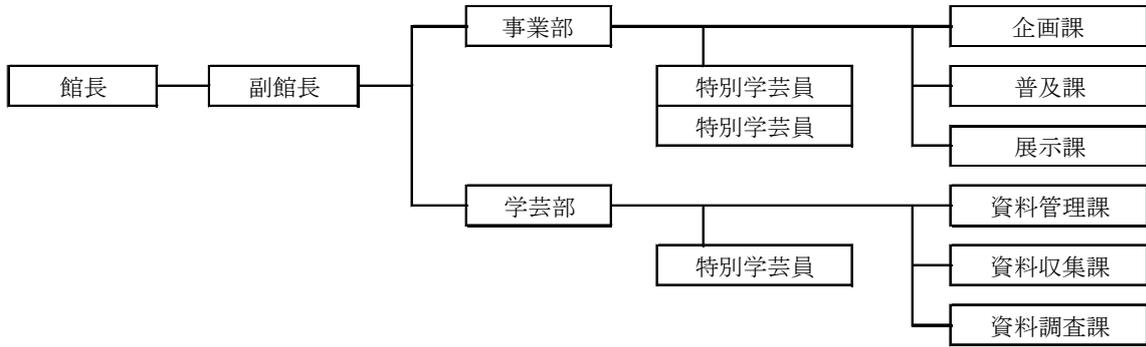


平成22～26年度

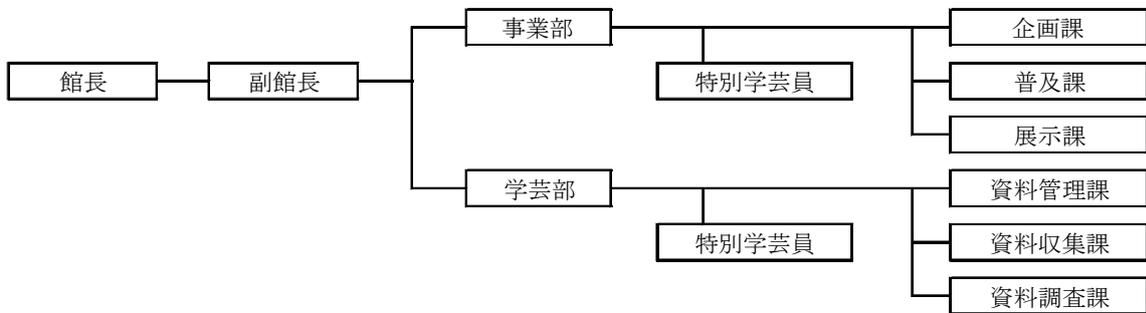


北海道開拓記念館組織変遷

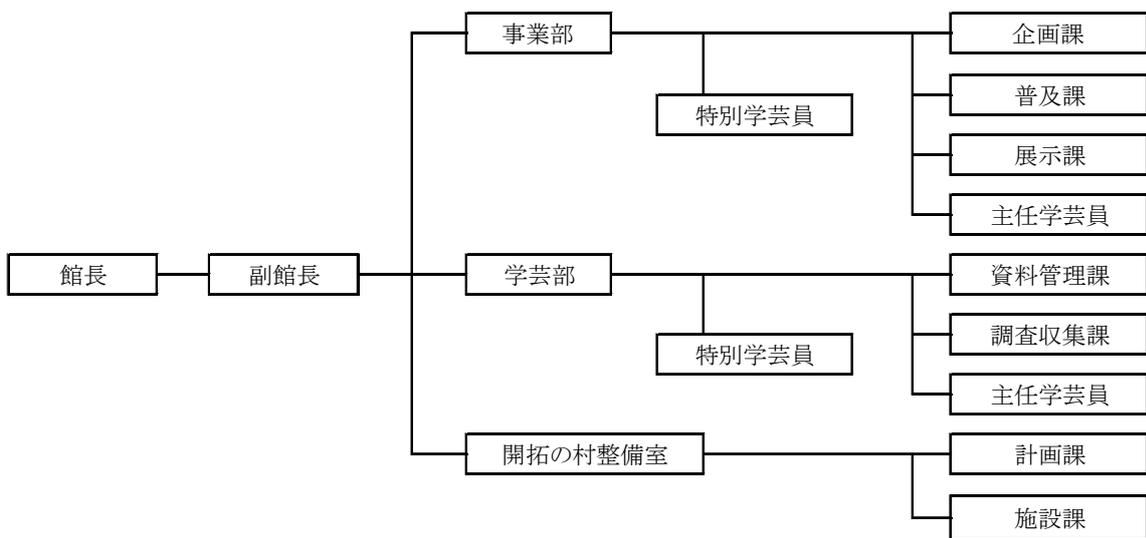
昭和 46、47 年度



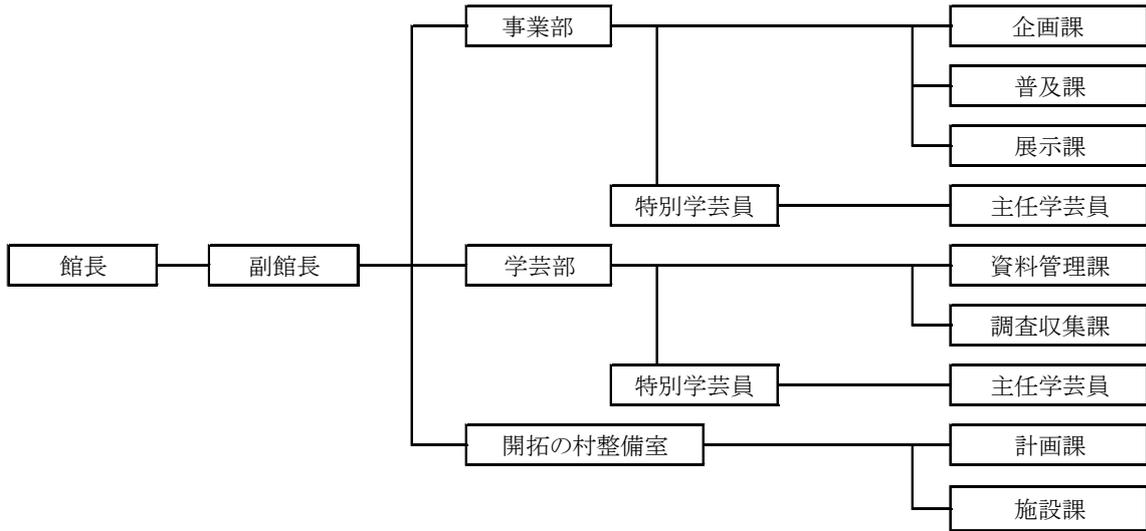
昭和 48～54 年度



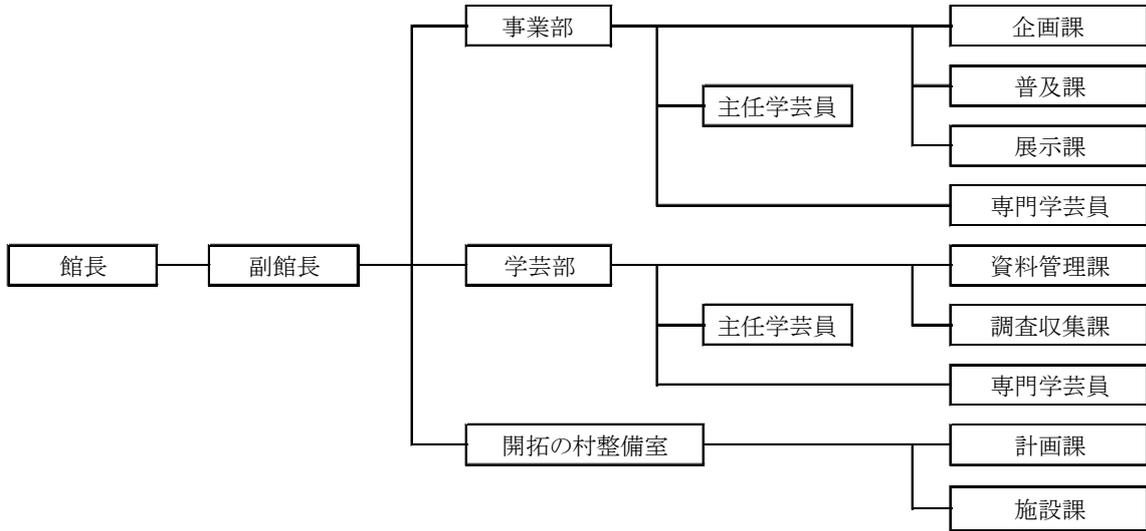
昭和 55～58 年度



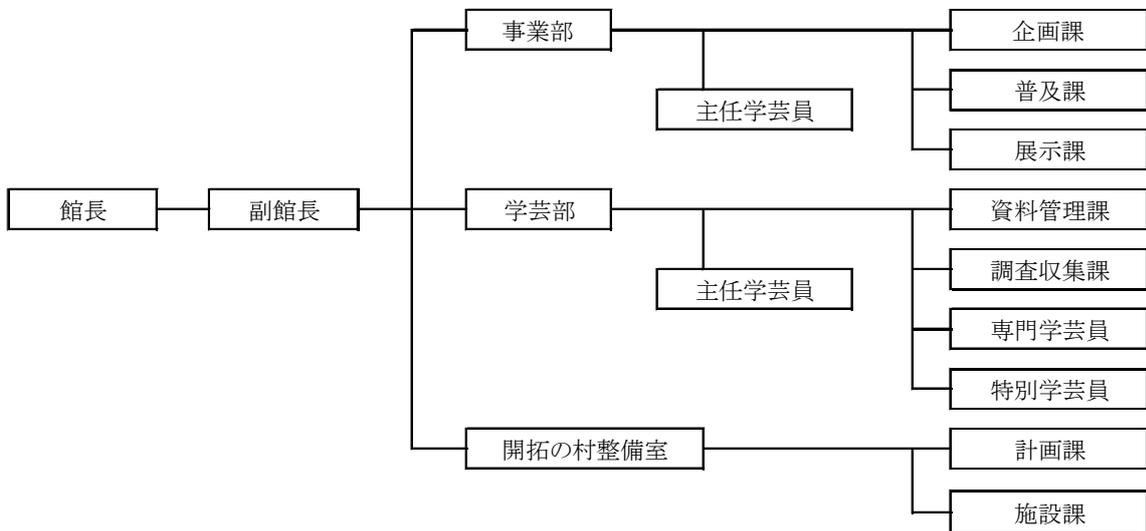
昭和 59～60 年度



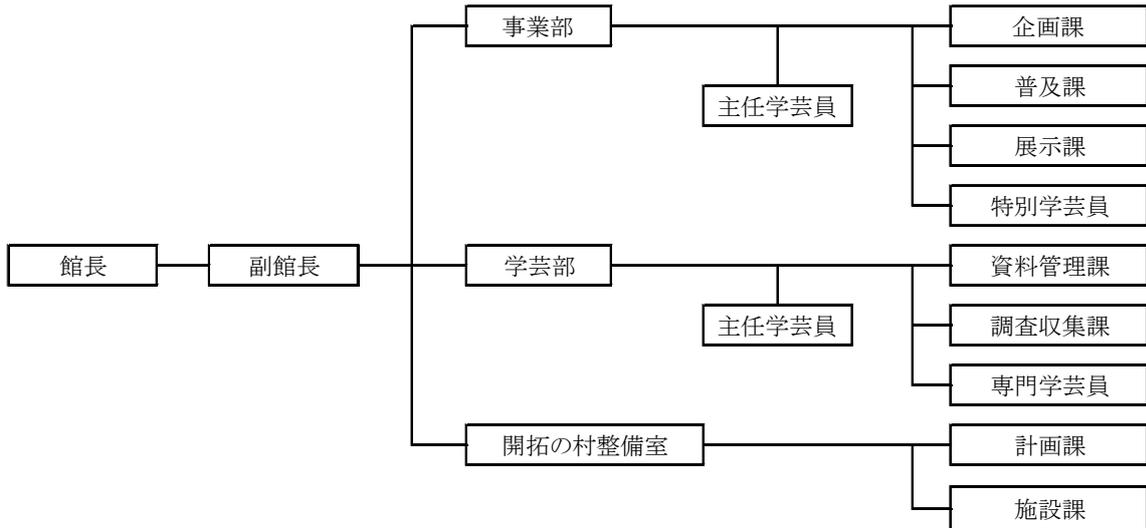
昭和 61～63 年度



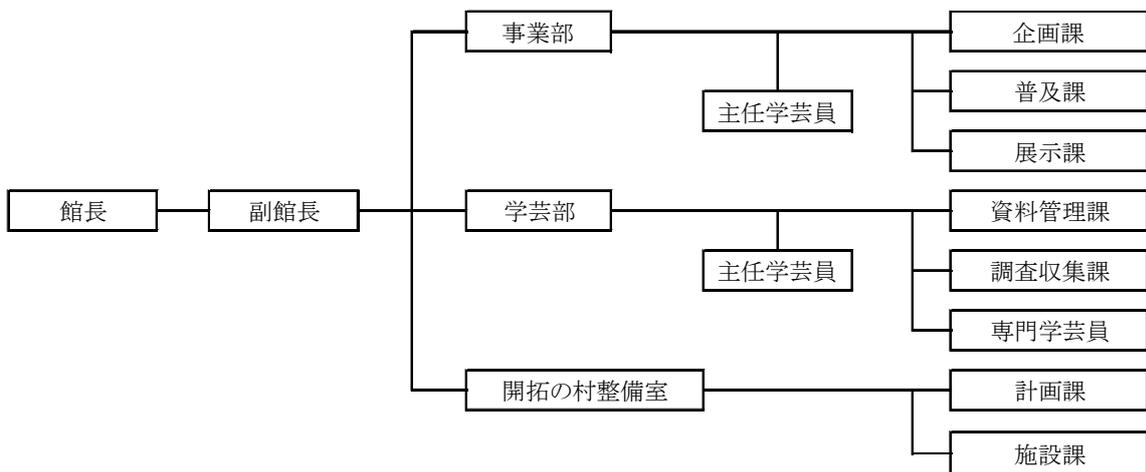
平成元年度



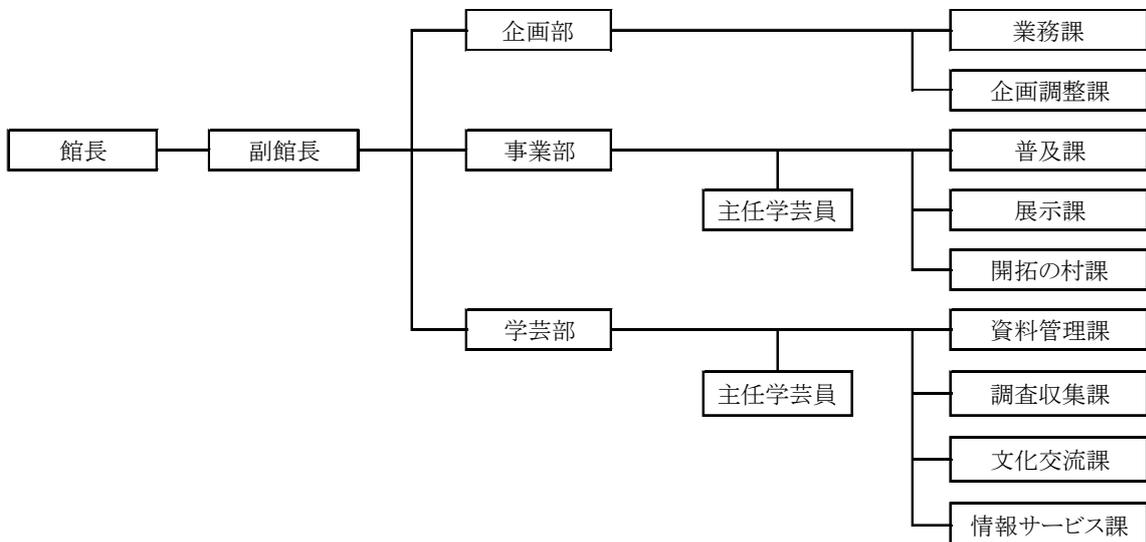
平成2年度



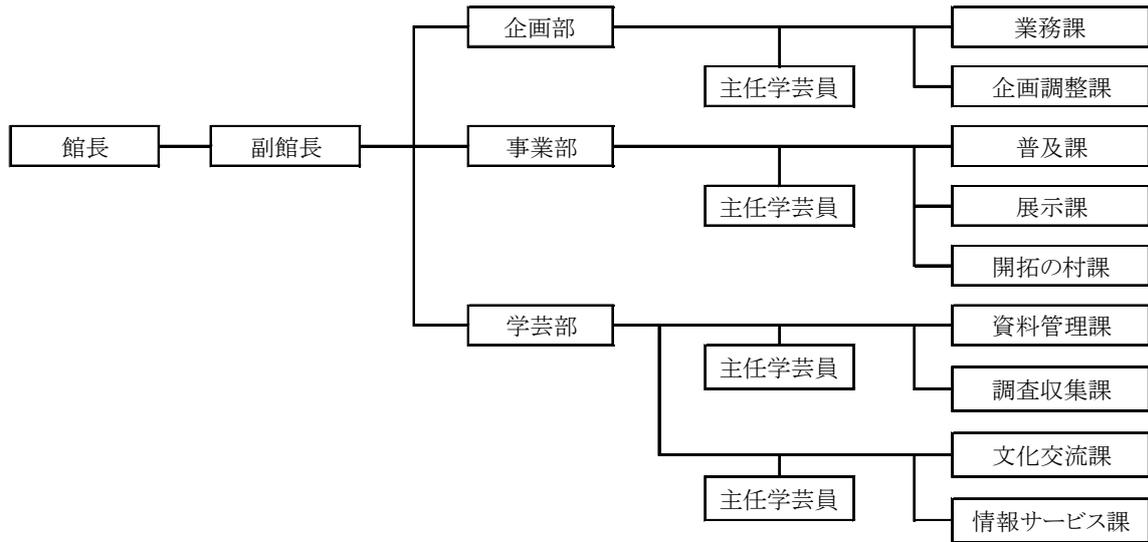
平成3年度



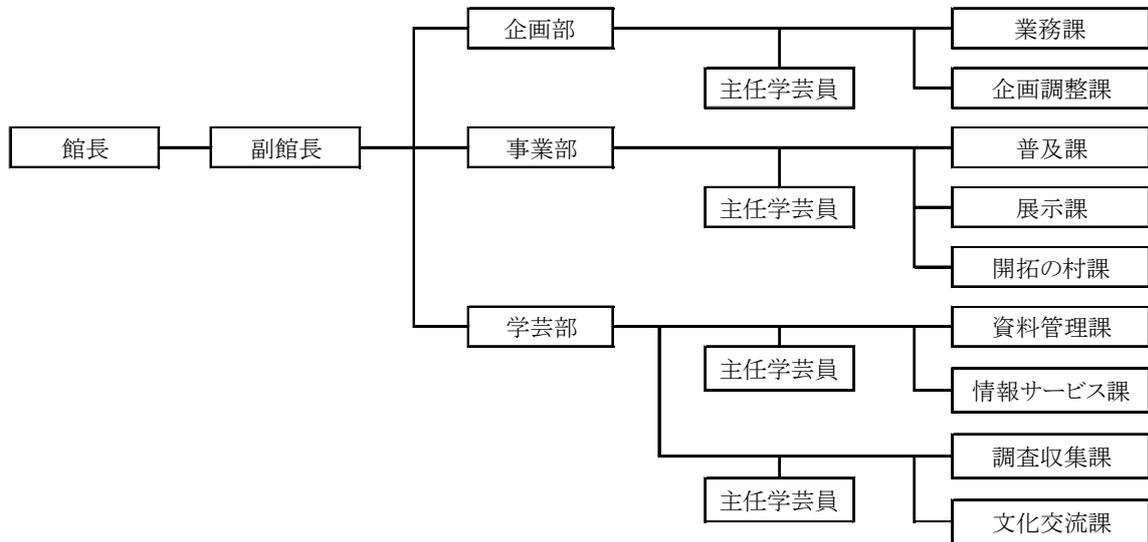
平成4~7年度



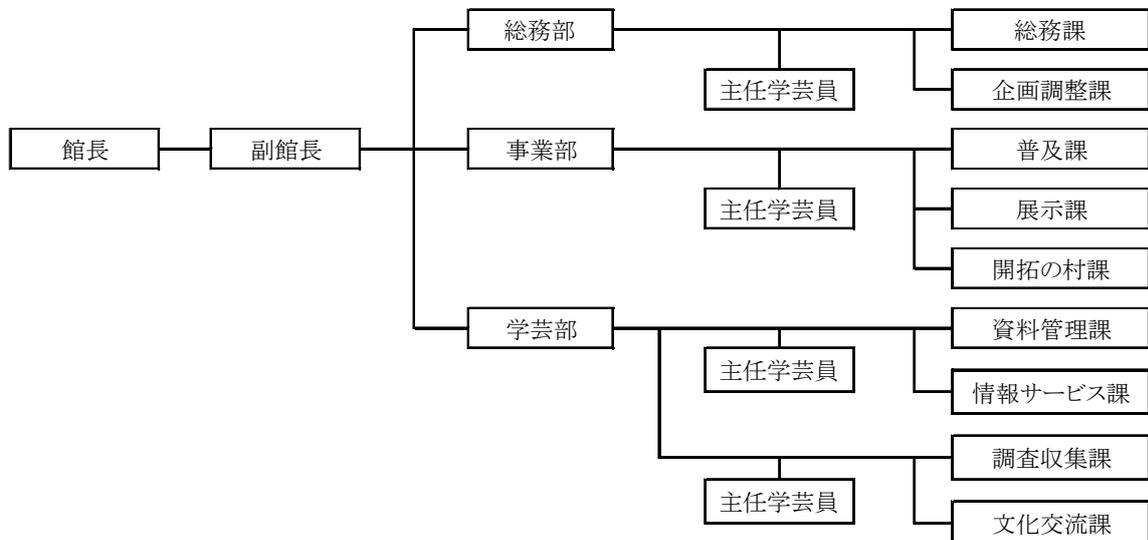
平成 8、9 年度



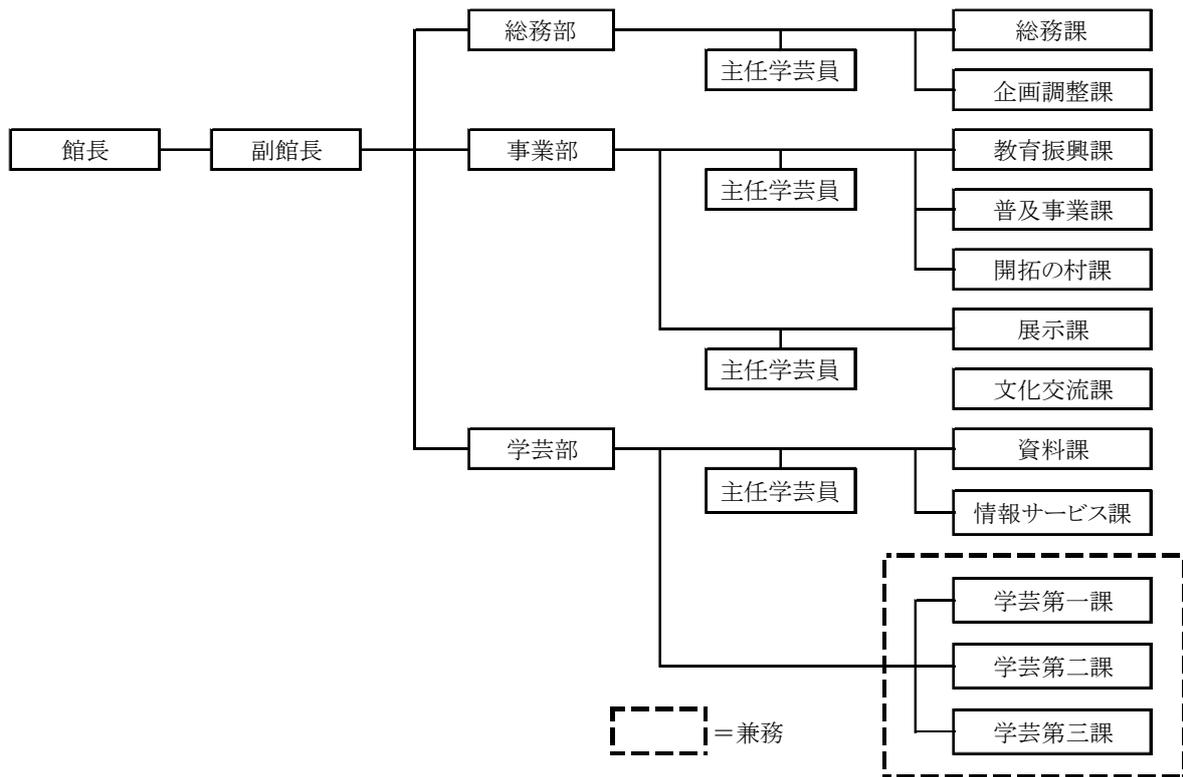
平成 10 年度



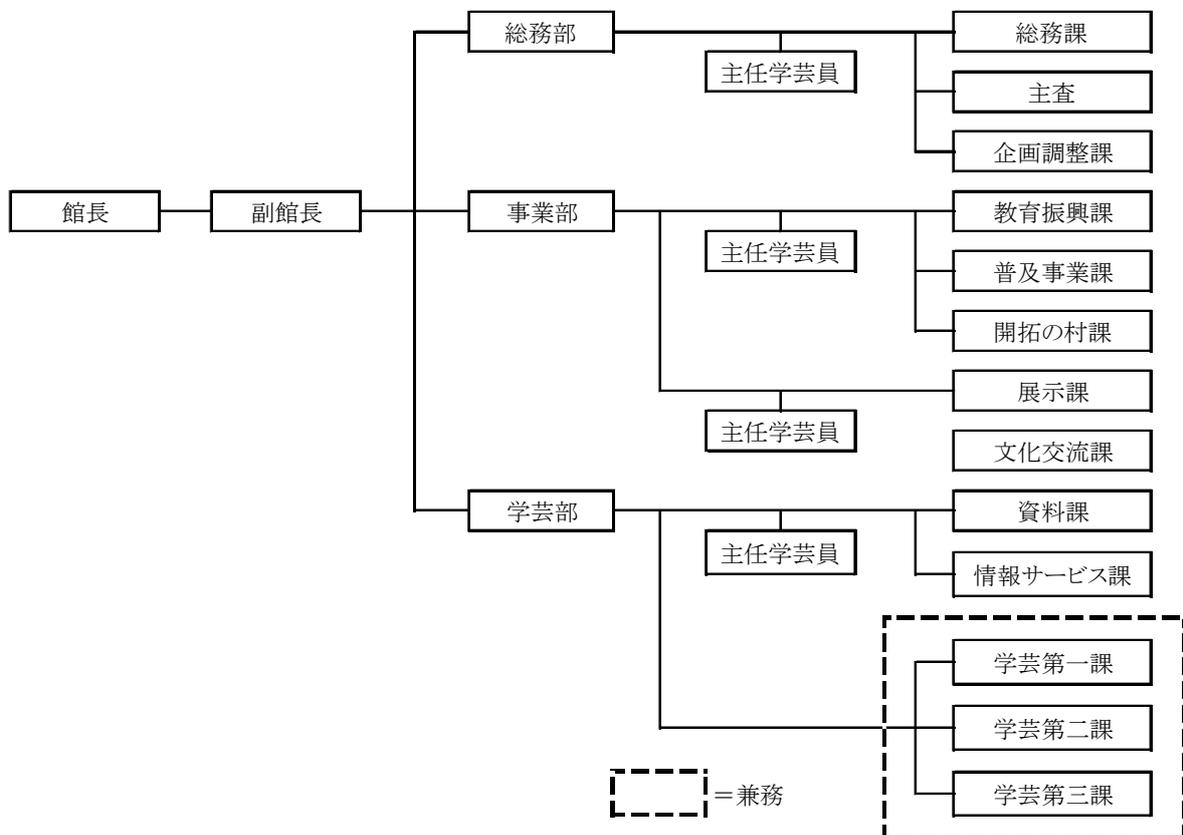
平成 11、12 年度



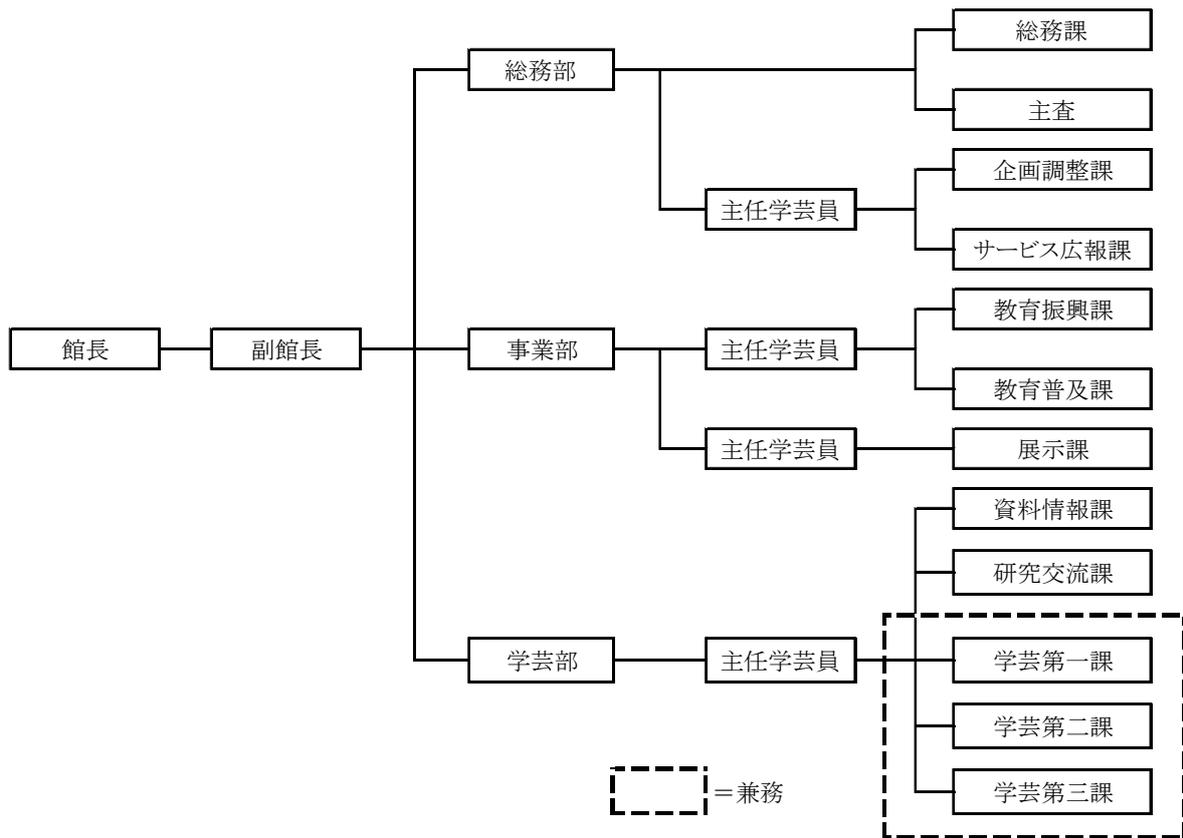
平成 13 年度



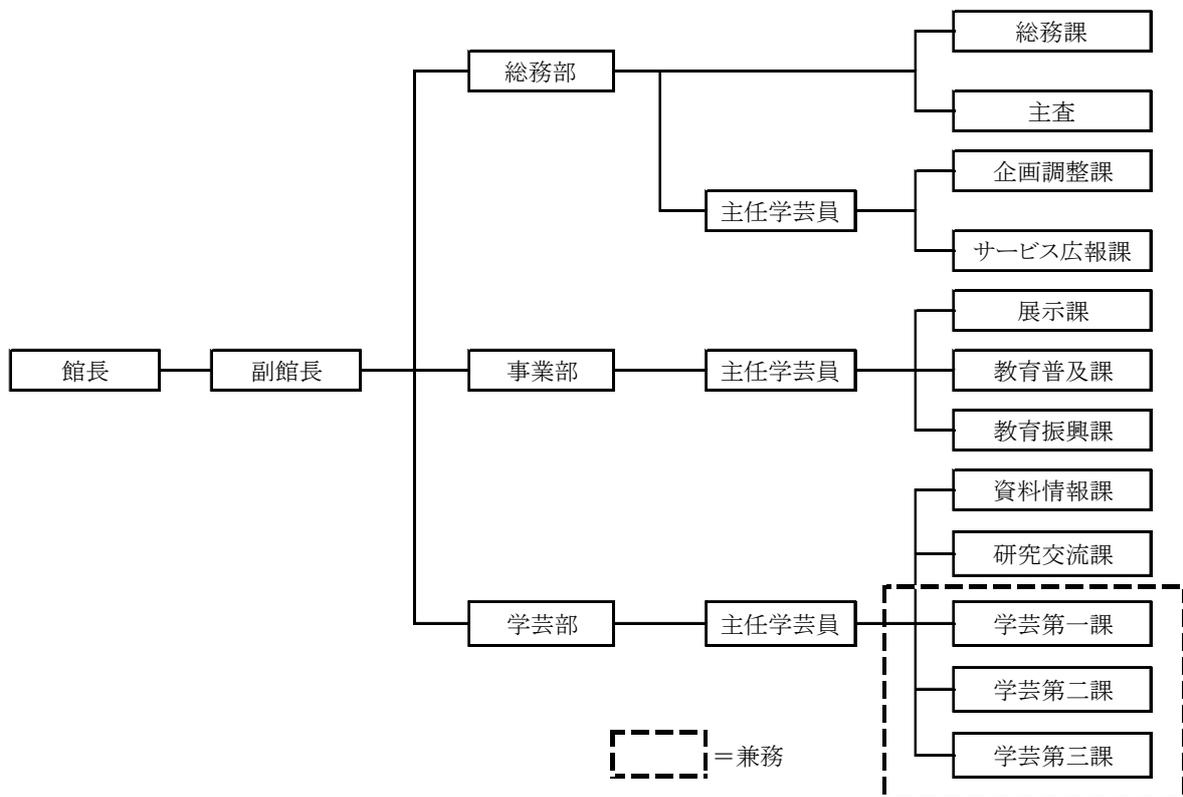
平成 14～17 年度



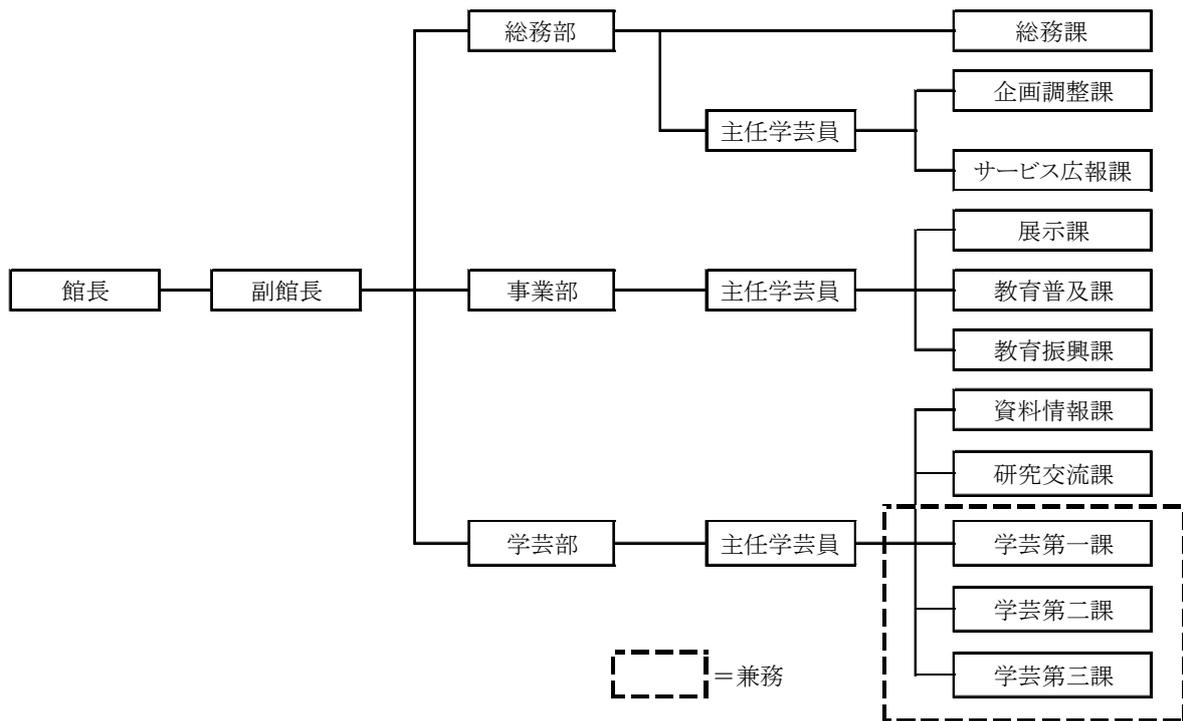
平成 18 年度



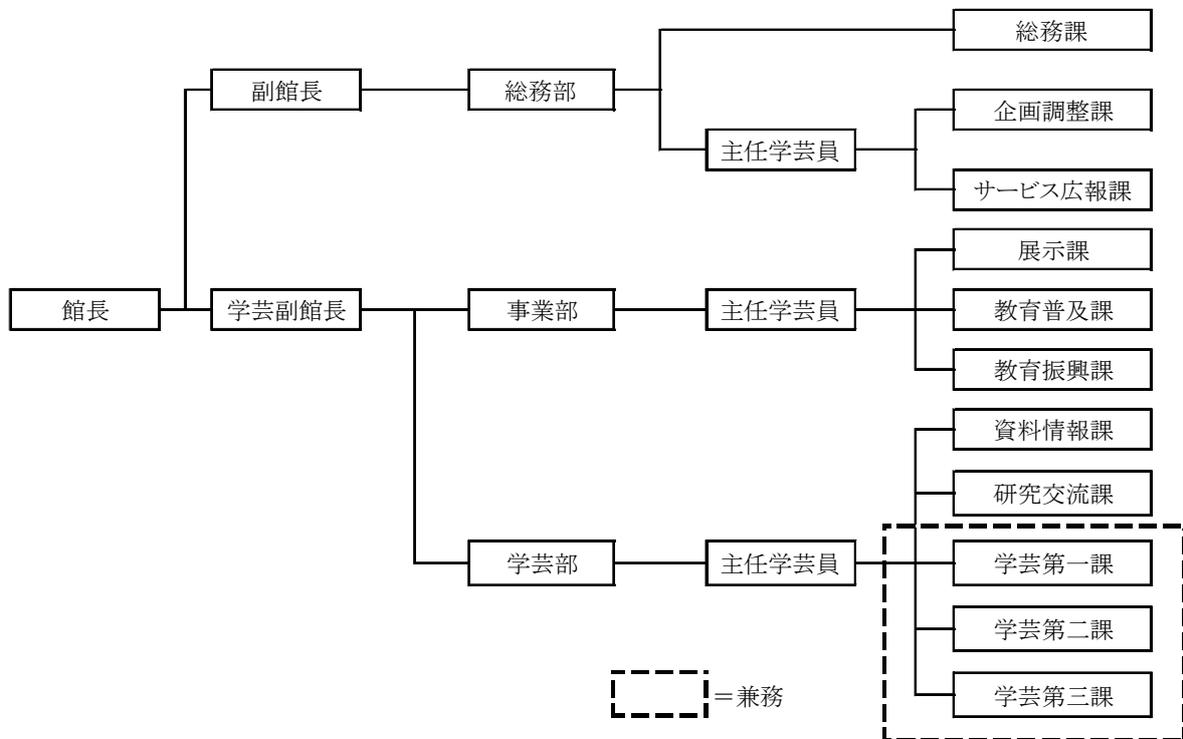
平成 19 年度



平成 20～22 年度



平成 23～26 年度



4.7 北海道開拓記念館と北海道立アイヌ民族文化研究センターの歩み

	北海道開拓記念館	道立アイヌ民族文化研究センター
昭和39(1964)年	開道百年記念事業協議会において開拓記念館の設置が決定	
昭和41(1966)年	3月 「北海道百年記念事業実施方針」の中で開拓記念館建設計画が明らかとなる	
昭和42(1967)年	9月 「開拓記念館構想試案」まとまる	
昭和43(1968)年	北海道開拓記念館開設協議会設置 5月 「開拓記念館資料収集基本方針」決定 11月 開拓記念館建設工事起工式挙行 12月 開設協議会展示計画専門部会設置	
昭和44(1969)年	9月 「北海道開拓記念館常設展示計画原案」まとまる 11月 「北海道開拓記念館業務計画案」まとまる 12月 開設協議会企画専門部会設置	
昭和45(1970)年	4月 北海道開拓記念館開設準備事務所開設	
昭和46(1971)年	9月 記念館第一期建築工事竣工 4月 北海道開拓記念館発足(条例・規則施行)し、事業部に企画・普及・展示の3課、学芸部に資料管理・資料収集・資料調査の3課を置く。開館記念式典挙行(14日)、開館(15日)	
昭和47(1972)年	7月 第10回北海道博物館大会を開拓記念館で開催 8月 野幌森林公園計画に野外博物館(開拓の村)設置を告示(4日) 9月 第20回全国博物館大会を開拓記念館ほかで開催 12月 「開拓の村建設基本構想案」まとまる	
昭和48(1973)年	5月 開拓の村建設協議会設置	
昭和49(1974)年	1月 「開拓の村基本計画書」まとまる	
昭和52(1977)年	開拓の村サブアプローチ道路造成 6月 開拓の村建設工事起工式挙行(1日) 9月 文部省科学研究費補助金交付対象機関に指定される 開拓の村に旧樋口家ほか2棟復元、管理用道路・市街地群道路・農村群道路造成	
昭和53(1978)年	6月 道立試験研究機関連絡協議会に加盟 8月 カナダ海外文化交流展「PEOPLE OF THE CEDAR」開催(～10月) 10月 開拓の村建築物収集協力員委嘱 開拓の村に旧開拓使工業局庁舎ほか2棟復元、連絡歩道造成	
昭和54(1979)年	4月 「開拓の村展示基本構想」まとまる 9月 「開拓の村基本構想」決定 開拓の村に旧信濃神社ほか2棟復元	
昭和55(1980)年	4月 常設展示第7テーマ「新しい北海道」を改訂、オープン(1日) 5月 館組織改正、事業部に企画・普及・展示の3課、学芸部に資料管理・調査収集の2課、開拓の村整備室に計画・施設の2課を置く(16日) 8月 北海道開拓記念館友の会発足(26日)	
昭和56(1981)年	開拓の村に旧松橋家ほか1棟復元、馬車鉄道車輛、軌道、車庫完成、連絡道橋梁工事竣工、「開拓大橋」と命名	
昭和57(1982)年	3月 「北海道開拓記念館10年のあゆみ」刊行 開拓の村に旧北海中学校ほか2棟復元、管理棟建築、旧南一条交番ほか8棟展示施工	
昭和58(1983)年	開拓の村に旧武岡商店ほか1棟復元、旧近藤染舗ほか2棟解体収集、旧開拓使工業局庁舎ほか3棟展示施工	
昭和59(1984)年	4月 開拓の村一般公開 開拓の村に旧恵迪寮ほか3棟復元、旧龍雲寺ほか1棟解体収集、旧北海中学校展示施工 1月 財団法人日本生命財団の出版助成を得て『北海道開拓記念館総合案内』を刊行	
昭和60(1985)年	7月 海外(カナダ)交流展「北海道・古代と現代」協力(～8月) 開拓の村、旧農商務省滝川種羊場機械庫再現、旧武井酒造店解体収集、旧武岡商店ほか8棟展示施工	
昭和61(1986)年	開拓の村に旧藤原車轆製作所ほか1棟再現、旧山本理髪店ほか3棟解体収集、旧島歌郵便局ほか2棟展示施工	
昭和62(1987)年	開拓の村に旧武井商店酒造部ほか1棟再現、旧渡辺商店ほか1棟解体収集、旧山本理髪店ほか3棟展示施工	
昭和63(1988)年	4月 NHK共催展「地球大紀行展」開催 開拓の村に旧菊田家農家住宅ほか2棟復元、旧藤原車轆製作所ほか1棟展示施工	
平成元(1989)年	常設展示改訂基本設計実施。開拓の村に旧渡辺商店ほか1棟復元	
平成2(1990)年	8月 展示会「ロシアの憂愁アントン・チェーホフ展」開催 開拓の村に旧広瀬写真館ほか2棟再現、旧渡辺商店ほか4棟展示施工。常設展示改訂実施設計実施 6月 「北の歴史・文化交流研究事業」(第1次)学術交流覚書調印(ノボロフスク州立郷土博物館・サハリ州立郷土博物館・ロシア科学アカデミー極東支部極東諸民族歴史・考古・民族学研究所)	

	北海道開拓記念館	道立アイヌ民族文化研究センター
平成 2(1990)年	10月 「北の歴史・文化交流研究事業」(第1次) 学術交流覚書調印(黒竜江省文物管理委員会)	
	12月 社団法人北海道開拓記念館・開拓の村文化振興会設立総会開催(22日)	
平成 3(1991)年	開拓の村当初計画 40棟の整備事業終了	
	7月 博物館移動展「北方民族資料展」を江差町と倶知安町で開催	3月 現職の横路孝弘知事が公約の中で「アイヌ民族文化研究センターの設置」を表明
	11月 常設展示全面改訂工事施工のため、11月4日～翌年3月31日臨時休館	7月 道庁内にアイヌ民族文化研究センター構想検討会議設置(～平成4(1992)年9月)
平成 4(1992)年	4月 館組織改正、開拓の村整備室を廃し、新しく企画部を設置。企画部に業務・企画調整の2課、事業部に普及・展示・開拓の村の3課、学芸部に資料管理・調査収集・文化交流・情報サービスの4課を置く(3部9課)。新常設展示オープン式典(15日)、一般公開(16日)	10月 「アイヌ文化の保存・研究」についての知事懇談会開催(～平成5(1993)年9月)
	8月 博物館移動展「子どもの四季」を鷹栖町と留萌市で開催 開拓の村に旧開拓使爾志通洋造家(白官舎)復元	12月 アイヌ文化研究者等からアイヌ語に関する知事への要望
平成 5(1993)年	6月 共催展「イヌイット・アート展」開催(～7月)	4月 道内外のアイヌ文化研究者等からの意見聴取(～8月)
	7月 博物館移動展「ヒグマ」を浦河町と池田町で開催	1月 アイヌ民族文化の研究方策懇話会開催(～2月)
	10月 第41回全国博物館大会を開拓記念館ほかで開催 開拓の村の旧開拓使爾志通洋造家(白官舎)展示施工	5月 アイヌ民族文化研究センター検討会議設置(～10月)
平成 6(1994)年	6月 博物館移動展「北海道化石紀行ークピナグリユウからマンモスゾウまでー」を釧路市と根室市で開催	2月 第1回定例道議会に「北海道立アイヌ民族文化研究センター設置条例」を提案、議決(～3月)
	10月 北海道ウタリ協会との共催展「ピリカ・ノカーアイヌの文様からみた民族の心ー」を開催	3月 「北海道立アイヌ民族文化研究センター条例」公布
平成 7(1995)年	5月 アルバータ州姉妹提携15周年記念特別展「アイヌ芸術と風俗」をカナダ・アルバータ州立博物館で開催(～8月)	5月 生活福祉部長から庁議でアイヌ民族文化研究センターの概要等を説明
	7月 博物館移動展「山丹交易」を網走市と稚内市で開催	6月 開設(札幌市中央区北1条西7丁目 プレスト1・7ビル 5階)、開所式・開設記念式典
	8月 中・地階給排水管工事(～3月)	7月 「山田秀三文庫」受贈
	9月 アルバータ州姉妹提携15周年記念特別展「アイヌ芸術と風俗」をカナダ・グレンボー博物館で開催(～11月)	9月 広報紙『アイヌ民族文化研究センターだより』1号発行
	10月 「北の文化交流史研究事業」(第2次) 学術交流協定調印(中国、ロシア)	3月 『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』1号発行
平成 8(1996)年	4月 北海道開拓記念館基本問題検討委員会発足	3月 アイヌ文化紹介小冊子『ボン カンピソシ』1冊目発行 『山田秀三文庫図書資料目録 北海道立アイヌ民族文化研究センター資料目録1』発行
	6月 博物館移動展「北海道のやきもの」を室蘭市と函館市で開催(～7月)	
	8月 「全国高等学校総合文化祭ー写真部門ー」当館で開催	
平成 9(1997)年	4月 日仏100年記念「アイヌ芸術展」フランス・ブザンソン市・北海道新聞社と共催	1月 「バラートシ・アイヌコレクション展」開催
	6月 博物館移動展「自然の恵みをもとめた古代人ー貝塚からみた北の文化ー」を千歳市と滝川市で開催	4月 音声・映像資料整理作業室、図書資料室設置
	7月 共催展「アイヌ工芸展ーサハリンアイヌの生活文化ー」を財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構と共同で開催	7月 「久保寺逸彦文庫」受贈
平成 10(1998)年	3月 開拓の村ビジターセンター(旧開拓使本庁舎)が竣工	
	7月 移動博物館「刻まれた大地ー地獄に見る幕末・明治の石狩川流域ー」を深川市、富良野市で開催	
	11月 耐震改修工事等のため休館(～3月)	
平成 11(1999)年	4月 館組織改正、企画部を総務部、業務課を総務課に改める	3月 『バラートシ パログ コレクション調査報告書』発行
	7月 移動博物館「アイヌの衣文化」を栗山町と余市町で開催	
	12月 特別展示室電気改修工事を行なう	
平成 12(2000)年	7月 移動博物館「北の職人」を名寄市、紋別市で開催 ホームページ開設	
	10月 「北方文化共同研究事業」(第3次) ロシア・サハリン州、カナダ・アルバータ州、中国・黒竜江省と調印(～12月)	

	北海道開拓記念館	道立アイヌ民族文化研究センター
平成 13(2001)年	4月 館組織改正、事業部に教育振興課、普及事業課、開拓の村課、展示課、文化交流課の5課、学芸部に資料課、情報サービス課、学芸第一課、学芸第二課、学芸第三課の5課を置く(3部12課) 6月 北海道庁赤レンガ庁舎内に「北海道の歴史ギャラリー 北海道開拓記念館」オープン 7月 移動博物館「ぼくらのまちをタイムトラベラー100年前といま、そして100年後」を利尻町、奥尻町、登別市で開催(～8月)	8月 道などが主催する、小学生を主な対象にした行事「試験研究機関おもしろ祭り」(現在は「サイエンスパーク」)に参加 9月 ホームページ開設
平成 14(2002)年	4月 ホームページリニューアル 6月 移動博物館「化石が語る1億年ヒストリークビナガリュウから人類まで」を小平町、中川町で開催(～7月)	
平成 15(2003)年	9月 移動博物館「北海道のうるし文化」を上ノ国町、南茅渚町で開催	4月 採録音声資料の公開開始
平成 16(2004)年	6月 移動博物館「刷って、伝える一印刷再発見」を清水町、日高町で開催(～7月)	4月 山田秀三文庫、久保寺逸彦文庫の公開開始(音声資料より開始) 9月 『北海道立アイヌ民族文化研究センター年報』刊行開始 10月 企画展「アイヌ語地名を歩くー山田秀三の地名研究からー」開催
平成 17(2005)年	1月 ミュージアムメイト制度発足(～2007年1月) 7月 移動博物館「北と南の動物たちー北海道周辺の生物分布とその境界ー」を羅臼町で開催 「北方文化共同研究事業」(第4次)ロシア・サハリン州と調印 9月 「北方文化共同研究事業」(第4次)カナダ・アルバータ州、中国・黒竜江省と調印 11月 アスベスト除去工事のため臨時休館(～12月)	3月 『北海道立アイヌ民族文化研究センター調査研究報告書1』発行
平成 18(2006)年	4月 館組織改正、総務部に総務課、企画調整課、サービス広報課の3課、事業部に展示課、教育普及課、教育振興課の3課、学芸部に資料情報課、研究交流課、学芸第一課、学芸第二課、学芸第三課の5課を置く(3部11課) 7月 移動博物館「暮らしのなかのストーブ」を釧路市で開催(～8月)	
平成 19(2007)年	4月 「第二期ミュージアムメイト」開始(～2009年3月) 移動博物館「カナディアン・ロッキーと大平原のくに」を網走市で開催(～6月)	
平成 20(2008)年	5月 北海道文化審議会が「北海道における博物館のあり方と開拓記念館の役割検討特別委員会」を設置、館内に「総合検討委員会」設置 6月 移動博物館「歴史再発見 日高の風」を様似町で開催(～7月)	
平成 21(2009)年	4月 「第三期ミュージアムメイト」開始(～2011年3月) 7月 移動博物館「謎の顔面刻画ーフゴッペ洞窟ー」を枝幸町で開催(～9月) 8月 北海道文化審議会が「北海道における博物館のあり方と開拓記念館の役割について」答申 9月 館内に「開拓記念館リニューアル検討委員会」設置 11月 環境生活部生活局道民活動文化振興課に「北海道ミュージアム(仮称)基本計画検討委員会」設置	3月 札幌市中央区北1条西7丁目プレスト1・7ビル5階から、同北3条西7丁目1番地緑苑ビル1階(北海道庁緑苑ビル庁舎)に移転 5月 道立文学館にて企画展「語り、継ぐ。ーアイヌ口承文芸の世界ー」を開催(道立文学館、財団法人北海道文学館共催、北海道大学アイヌ・先住民研究センター特別協力)
平成 22(2010)年	7月 北海道博物館協会50周年記念大会を開拓記念館で開催 9月 「北海道博物館基本計画」策定 10月 館内に「北海道博物館設置検討委員会」設置	
平成 23(2011)年	4月 「第四期ミュージアムメイト」開始(～2013年3月) 7月 「北海道博物館設置プラン検討委員会」設置	
平成 24(2012)年	3月 北海道開拓記念館40周年記念事業「北の土偶」開催(～5月) 北海道博物館設置プラン検討委員会より「北海道博物館リニューアル検討報告書」答申 6月 展示改修基本計画を含んだ施設改修実施競争実施(～2013年3月)	4月 北海道のメールマガジン「Do・Ryoku(動・力)」にアイヌ文化に関するコラム「アイヌ文化あれこれ」を連載 7月 「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」をホームページ上に開設
平成 25(2013)年	3月 「北海道博物館実施計画」策定 4月 「第五期ミュージアムメイト」開始(～2015年3月) 7月 常設展示場展示改修実施設計実施(～2014年3月) 11月 「北海道開拓記念館」閉館 12月 施設改修工事修正実施設計実施(～2014年3月)	
平成 26(2014)年	7月 常設展示室等展示改修工事施工(～2015年3月)	3月 資料展「久保寺逸彦・アイヌ文学研究の足跡」開催(北海道大学アイヌ・先住民研究センター共催)

北海道博物館要覧 2015

発行日 平成29年3月31日

編集・発行 北海道博物館

〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2

TEL (011) 898-0456 FAX (011) 898-2657

